2018年度　人間環境学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2021/6/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

基幹【A0307】行政学［山口　二郎］通年 1
基幹【A4031】簿記入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）［大下　勇二］通年 2
基幹【A4032】簿記入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）［大下　勇二］通年 3
基幹【A4033】簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）［大下　勇二］通年 4
政策【A9021】スポーツビジネス論Ⅰ［岩村　聡］春学期 5
政策【A9022】スポーツビジネス論Ⅱ［岩村　聡］秋学期 6
政策【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期 7
基幹【C2002】民事法Ⅰ［花立　文子］春学期 8
基幹【C2003】民事法Ⅱ［花立　文子］秋学期 9
基幹【C2004】国際法Ⅰ［岡松　暁子］春学期 10
基幹【C2005】国際法Ⅱ［岡松　暁子］秋学期 10
基幹【C2006】市民社会と政治［谷本　有美子］春学期 11
基幹【C2008】国際関係論［岡松　暁子］春学期 12
基幹【C2009】アメリカ法の基礎［永野　秀雄］春学期 12
基幹【C2010】地方自治論［谷本　有美子］秋学期 13
基幹【C2011】憲法の基礎［土屋　志穂］秋学期 14
基幹【C2012】刑法の基礎［渡辺　靖明］春学期 15
政策【C2013】環境法Ⅰ［横内　恵］春学期 16
政策【C2014】環境法Ⅱ［永野　秀雄］秋学期 16
政策【C2015】環境法Ⅲ［横内　恵］秋学期 17
政策【C2016】環境法Ⅳ［今井　康介］秋学期 17
政策【C2017】国際環境法［岡松　暁子］秋学期 18
政策【C2019】労働環境法［水野　圭子］春学期 19
政策【C2020】自治体環境政策論Ⅰ［小島　聡］春学期 20
政策【C2021】自治体環境政策論Ⅱ［小島　聡］秋学期 21
政策【C2023】アメリカ環境法［永野　秀雄］秋学期 23
政策【C2024】エネルギー政策論［菊地　昌廣］春学期 23
政策【C2025】地球環境政治論［横田　匡紀］春学期 24
基幹【C2100】ミクロ経済学Ⅰ［大瀧　雅之］春学期 25
基幹【C2101】ミクロ経済学Ⅱ［石原　秀彦］秋学期 26
基幹【C2102】マクロ経済学Ⅰ［大瀧　雅之］春学期 26
基幹【C2103】マクロ経済学Ⅱ［今　喜史］秋学期 27
基幹【C2104】現代企業論［長谷川　直哉］春学期 28
基幹【C2105】ビジネスヒストリー［長谷川　直哉］秋学期 28
基幹【C2106】経営学入門［金藤　正直］春学期 29
基幹【C2107】環境経営と会計［金藤　正直］秋学期 30
基幹【C2108】公共経済学［小田　圭一郎］春学期 31
政策【C2110】環境経済論Ⅰ［國則　守生］春学期 32
政策【C2111】環境経済論Ⅱ［國則　守生］秋学期 33
政策【C2112】環境経営論Ⅰ［金藤　正直］春学期 34
政策【C2113】環境経営論Ⅱ［金藤　正直］秋学期 35
政策【C2116】CSR 論Ⅰ［長谷川　直哉］春学期 36
政策【C2117】CSR 論Ⅱ［長谷川　直哉］秋学期 37
政策【C2118】国際環境政策Ⅰ［國則　守生］春学期 38
政策【C2119】国際環境政策Ⅱ［内山　勝久］秋学期 38
政策【C2122】国際経済協力論Ⅰ［武貞　稔彦］春学期 39
政策【C2123】国際経済協力論Ⅱ［武貞　稔彦］秋学期 40
政策【C2126】環境ビジネス論［竹ケ原　啓介］秋学期 41
基幹【C2127】平和学［山本　和也］春学期 42
政策【C2128】人間の安全保障［山本　和也］秋学期 43
政策【C2129】環境マネジメントスタディーズⅠ［池原　庸介］春学期 44
政策【C2130】環境マネジメントスタディーズⅡ［池原　庸介］秋学期 45
基幹【C2133】行政法Ⅰ［横内　恵］春学期 46

基幹【C2134】行政法Ⅱ［横内　恵］秋学期 47
基幹【C2200】現代社会論Ⅰ［田中　勉］春学期 47
基幹【C2201】現代社会論Ⅱ［田中　勉］春学期 48
基幹【C2202】現代社会論Ⅲ［田中　勉］秋学期 49
基幹【C2203】ＮＰＯ・ボランティア論［川崎　あや］秋学期 50
基幹【C2204】フィールド調査論［西城戸　誠］春学期 51
基幹【C2205】フィールド調査論［田中　勉］秋学期 52
基幹【C2207】社会統計論［藤本　隆史］春学期 53
基幹【C2208】ファシリテーション論［三田地　真実］秋学期 54
基幹【C2209】グローカル・コミュニケーション［ESTHER STOCKWELL］春学期 55
政策【C2210】地域形成論［小島　聡］秋学期 56
政策【C2212】地域福祉論［宮脇　文恵］春学期 57
政策【C2213】地域コモンズ論［山下　詠子］秋学期 58
政策【C2214】都市環境論Ⅰ［難波　匡甫］春学期 59
政策【C2215】都市環境論Ⅱ［難波　匡甫］秋学期 60
政策【C2216】都市デザイン論［田中　大助］春学期 61
政策【C2217】環境社会論Ⅰ［西城戸　誠］春学期 62
政策【C2218】環境社会論Ⅱ［西城戸　誠］秋学期 63
政策【C2219】環境社会論Ⅲ［西城戸　誠］秋学期 64
政策【C2220】労働環境論Ⅰ［長峰　登記夫］春学期 65
政策【C2221】労働環境論Ⅱ［長峰　登記夫］秋学期 66
政策【C2223】ＮＧＯ活動論［小野　行雄］秋学期 67
政策【C2225】ローカルスタディーズⅠ［舩戸　修一］秋学期 68
政策【C2226】ローカルスタディーズⅡ［後藤　純］秋学期 69
政策【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期 70
政策【C2228】科学技術社会論［詫間　直樹］秋学期 71
政策【C2229】社会開発論［新村　恵美］秋学期 72
政策【C2232】国際社会学［新藤　慶］秋学期 73
基幹【C2300】西欧近代批判の思想［越部　良一］春学期 74
基幹【C2301】仏教思想［高堂　晃壽］秋学期 75
基幹【C2302】日本詩歌の伝統［日原　傳］春学期 75
基幹【C2303】比較演劇論Ⅰ［平野井　ちえ子］春学期 76
政策【C2304】比較演劇論Ⅱ［平野井　ちえ子］秋学期 77
基幹【C2307】日本美術史論［豊田　和平］秋学期 78
基幹【C2308】西洋美術史論［板橋　美也］秋学期 79
基幹【C2312】日本環境史論Ⅰ［根崎　光男］秋学期 80
政策【C2313】日本環境史論Ⅱ［横濱　文孝　］春学期 81
基幹【C2314】ヨーロッパ環境史論Ⅰ［辻　英史］春学期 81
政策【C2315】ヨーロッパ環境史論Ⅱ［辻　英史］秋学期 82
基幹【C2316】環境人類学Ⅰ［高橋　五月］春学期 83
政策【C2317】環境人類学Ⅱ［高橋　五月］秋学期 84
政策【C2321】環境人類学Ⅲ［高橋　五月］秋学期 85
基幹【C2322】環境表象論Ⅰ［梶　裕史］春学期 86
政策【C2323】環境表象論Ⅱ［梶　裕史］秋学期 87
基幹【C2400】サイエンスカフェⅠ［石井　利典］春学期 88
基幹【C2402】サイエンスカフェⅢ［高田　雅之］春学期 89
基幹【C2406】エネルギー論Ⅰ［北川　徹哉］春学期 90
基幹【C2407】地球科学史Ⅰ［谷本　勉］春学期 91
基幹【C2408】地球科学史Ⅱ［谷本　勉］秋学期 91
基幹【C2409】環境健康論Ⅰ［朝比奈　茂］春学期 92
基幹【C2410】環境健康論Ⅱ［朝比奈　茂］秋学期 93
政策【C2413】自然環境政策論Ⅰ［高田　雅之］春学期 94
政策【C2414】自然環境政策論Ⅱ［高田　雅之］秋学期 95
政策【C2416】環境科学Ⅰ［藤倉　良］春学期 96
政策【C2417】環境科学Ⅱ［藤倉　良］秋学期 97
政策【C2418】環境科学Ⅲ［藤倉　良］春学期 98
政策【C2422】エネルギー論Ⅱ［北川　徹哉］秋学期 98

政策【C2423】大気と社会Ⅰ ［丸本　美紀］春学期 99
政策【C2424】大気と社会Ⅱ ［北川　徹哉］秋学期 100
基幹【C2429】サイエンスカフェⅣ ［渡邊　誠］春学期 101
基幹【C2430】環境モデル論Ⅰ ［渡邊　誠］春学期 102
基幹【C2431】環境モデル論Ⅱ ［渡邊　誠］秋学期 103
政策【C2433】自然環境論Ⅳ ［中井　達郎］秋学期 104
政策【C2500】公害防止管理論Ⅰ ［大岡　健三］春学期 105
政策【C2501】公害防止管理論Ⅱ ［大野　香代］秋学期 106
政策【C2502】廃棄物・リサイクル論［鏑木　儀郎］秋学期 107
政策【C2503】環境教育論［野田　恵］春学期 108
政策【C2504】キャリア入門［長峰　登記夫］春学期 109
政策【C2505】食と農の環境学Ⅰ ［西川　邦夫］春学期 110
政策【C2506】食と農の環境学Ⅱ ［舩戸　修一］秋学期 111
政策【C2507】食と農の環境学Ⅲ ［吉田　岳志 ］春学期 112
政策【C2554】アーティストと社会貢献［庄野　真代］春学期 113
政策【C2557】グローバルスタディーズⅠ ［吉田　秀美］春学期 114
政策【C2558】グローバルスタディーズⅡ ［吉田　秀美］秋学期 115
基幹【C2559】現代思想と人間Ⅰ ［竹本　研史］春学期 116
政策【C2560】現代思想と人間Ⅱ ［竹本　研史］秋学期 117
政策【C2563】キャリアチャレンジ［人間環境学部教員］ 118
フレッシュマン【C2600】人間環境学への招待［人間環境学部教員］春学期 118
フレッシュマン【C2602】人間環境学への招待［人間環境学部教員］春学期 119
フレッシュマン【C2700】基礎演習［人間環境学部教員］秋学期 120
スキルアップ【C2800】情報処理基礎［小林　信彦］春学期 121
スキルアップ【C2801】情報処理基礎［小林　信彦］秋学期 122
スキルアップ【C2802】情報処理基礎［今枝　佑輔］春学期 123
スキルアップ【C2803】情報処理基礎［今枝　佑輔］秋学期 124
スキルアップ【C2804】情報処理基礎［渡邊　誠］秋学期 125
スキルアップ【C2805】情報処理基礎［小林　信彦］秋学期 126
スキルアップ【C2806】情報処理基礎［小林　信彦］春学期 127
スキルアップ【C2809】統計とデータ分析［渡邊　誠］春学期 128
スキルアップ【C2810】情報処理基礎［今枝　佑輔］春学期 129
スキルアップ【C2811】情報処理基礎［今枝　佑輔］秋学期 130
スキルアップ【C2900】英語Ⅰ（スキルアップ科目）［平野井　ちえ子］春学期 131
スキルアップ【C2903】英語Ⅰ（スキルアップ科目）［板橋　美也］春学期 132
スキルアップ【C2909】英語Ⅱ（スキルアップ科目）［磯部　芳恵］秋学期 133
スキルアップ【C2915】英語Ⅲ（スキルアップ科目）［磯部　芳恵］春学期 133
スキルアップ【C2921】英語Ⅳ（スキルアップ科目）［磯部　芳恵］秋学期 134
スキルアップ【C2950】テーマ別英語 1（スキルアップ科目）［板橋　美也］春学期 134
スキルアップ【C2956】テーマ別英語 3（スキルアップ科目）［R．G．ジェイムズ］春学期 135
スキルアップ【C2959】テーマ別英語 4（スキルアップ科目）［R．G．ジェイムズ］秋学期 136
政策【C3000】研究会（A）［朝比奈　茂］年間授業 137
政策【C3003】研究会（A）［板橋　美也］年間授業 138
政策【C3004】研究会（A）［杉戸　信彦］年間授業 139
政策【C3005】研究会（A）［岡松　暁子］年間授業 140
政策【C3006】研究会（A）［梶　裕史］年間授業 141
政策【C3007】研究会（A）［北川　徹哉］年間授業 142
政策【C3009】研究会（A）［國則　守生］年間授業 143
政策【C3010】研究会（A）［小島　聡］年間授業 144
政策【C3011】研究会（A）［小島　聡］年間授業 145
政策【C3012】研究会（A）［ESTHER STOCKWELL］年間授業 146
政策【C3015】研究会（A）［武貞　稔彦］年間授業 147
政策【C3016】研究会（A）［田中　勉］年間授業 148
政策【C3017】研究会（A）［辻　英史］年間授業 149
政策【C3018】研究会（A）［永野　秀雄］年間授業 150
政策【C3019】研究会（A）［永野　秀雄］年間授業 151
政策【C3020】研究会（A）［長峰　登記夫］年間授業 152

政策【C3022】研究会（A）［西城戸　誠］年間授業 153
政策【C3023】研究会（A）［根崎　光男］年間授業 154
政策【C3024】研究会（A）［長谷川　直哉］年間授業 155
政策【C3025】研究会（A）［日原　傳］年間授業 156
政策【C3026】研究会（A）［平野井　ちえ子］年間授業 157
政策【C3027】研究会（A）［藤倉　良］年間授業 158
政策【C3028】研究会（A）［金藤　正直］年間授業 158
政策【C3029】研究会（A）［下井倉　ともみ］年間授業 159
政策【C3030】研究会（A）［児玉　ゆう子］年間授業 160
政策【C3031】研究会（A）［児玉　ゆう子］年間授業 161
政策【C3034】研究会（A）［渡邊　誠］年間授業 162
政策【C3035】研究会（A）［高田　雅之］年間授業 163
政策【C3037】研究会（B）　［岡松　暁子］春学期 164
政策【C3038】研究会（A）　［梶　裕史］年間授業 165
政策【C3039】研究会（B）　［北川　徹哉］年間授業 166
政策【C3040】研究会（B）　［ESTHER STOCKWELL］年間授業 167
政策【C3043】研究会（B）［武貞　稔彦］年間授業 168
政策【C3044/C3045】研究会（B）　［田中　勉］年間授業 169
政策【C3046】研究会（A）［谷本　勉］年間授業 170
政策【C3047】研究会（B）　［長峰　登記夫］年間授業 170
政策【C3048】研究会（B）　［根崎　光男］年間授業 171
政策【C3049】研究会（B）　［長谷川　直哉］年間授業 172
政策【C3052】研究会（A）　［高田　雅之］年間授業 173
政策【C3054】研究会（B）［永野　秀雄］春学期 174
政策【C3055】研究会（B）　［日原　傳］秋学期 175
政策【C3057】研究会（B）　［谷本　有美子］秋学期 175
政策【C3060】研究会（B）　［渡邊　誠］年間授業 176
政策【C3062】研究会（B）　［金藤　正直］年間授業 177
政策【C3063】研究会（A）［國則　守生］年間授業 178
政策【C3064】研究会（B）　［高橋　五月］年間授業 179
政策【C3065】研究会（B）［渡邊　誠］春学期 180
政策【C3066】研究会（B）［渡邊　誠］秋学期 181
政策【C3071】研究会（A）［高橋　五月］年間授業 181
政策【C3072】研究会（A）［竹本　研史］年間授業 182
政策【C3078】研究会（A）［西城戸　誠］年間授業 183
政策【C3080】研究会（B）［横内　恵］年間授業 184
政策【C3081】研究会（B）［横内　恵］年間授業 185
政策【C3130】研究会修了論文［人間環境学部教員］ 186
政策【C3150】コース修了論文［人間環境学部教員］ 187
政策【C3200】人間環境セミナー「持続可能な開発目標（SDGs）と私たち」［人間環境学部教員］春学期 187
政策【C3201】人間環境セミナー「グローバル人材の就職」［人間環境学部教員］秋学期 188
政策【C3204】人間環境セミナー「野鳥を通して考える人と社会の未来」［人間環境学部教員］秋学期 189
政策【C3300】フィールドスタディ［人間環境学部教員］ 190
SCOPE【C3500】Japanese Environmental Policy 1 ［藤倉　良］秋学期 191
SCOPE【C3502】Japanese Society and Sustainability 1 ［佐伯　英子］秋学期 192
SCOPE【C3503】Japanese Society and Sustainability 2 ［佐伯　英子］春学期 193
SCOPE【C3504】Japanese Society and Sustainability 3 ［佐伯　英子］春学期 194
SCOPE【C3505】Business and Sustainability in Japan 1 ［竹原　正篤］秋学期 194
SCOPE【C3506】Business and Sustainability in Japan 2 ［竹原　正篤］春学期 195
SCOPE【C3507】Bio-diversity and Nature Conservation in Japan ［高田　雅之］春学期 196
SCOPE【C3508】Social Development and Sustainability 1 ［松村　智雄］秋学期 197
SCOPE【C3509】Social Development and Sustainability 2 ［松村　智雄］春学期 198
SCOPE【C3510】Practice of Environmental Economics and Japan ［國則　守生］秋学期 199
SCOPE【C3512】Asian Societies and Japan ［松村　智雄］春学期 200
SCOPE【C3514】Subsistence, Resource Use and Sustainability ［傅　凱儀］春学期 201
SCOPE【C3515】Civil Society and NGOs ［小野　行雄］秋学期 202
SCOPE【C3551】Global Human Resources Management ［長峰　登記夫］秋学期 203

SCOPE【C3552】Business Communication ［竹原　正篤］春学期 204
SCOPE【C3554】Human and Environment ［高橋　五月］春学期 205
SCOPE【C3555】Area Studies ［松村　智雄］秋学期 206
SCOPE【C3601】Business and Society ［竹原　正篤］秋学期 207
SCOPE【C3602】Introduction to Energy and Resources ［北川　徹哉］春学期 208
SCOPE【C3604】International Society and Environmental Issues ［岡松　暁子］秋学期 208
SCOPE【C3650】Research Methods 1 ［佐伯　英子］秋学期 209
SCOPE【C3700/C3701】Field Workshop ［人間環境学部教員］ 210
SCOPE【C3750】Co-creative Workshop A Ⅰ ［竹原　正篤］秋学期 210
SCOPE【C3751】Co-creative Workshop A Ⅱ ［竹原　正篤］春学期 211
SCOPE【C3752】Co-creative Workshop B Ⅰ ［松村　智雄］秋学期 212
SCOPE【C3753】Co-creative Workshop B Ⅱ ［松村　智雄］春学期 213
SCOPE【C3806】SCOPE Seminar ［佐伯　英子］秋学期 214
SCOPE【C3807】SCOPE Seminar ［佐伯　英子］春学期 215
SCOPE【C3808】SCOPE Seminar ［竹原　正篤］秋学期 216
SCOPE【C3809】SCOPE Seminar ［竹原　正篤］春学期 217
SCOPE【C3810】SCOPE Seminar ［松村　智雄］秋学期 218
政策【C7150】開発教育［福田　紀子］春学期 219
政策【C7314】文化経営論［荒川　裕子］秋学期 221

POL200HA

行政学

山口　二郎

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**通年**　｜　曜日・時限：**水 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は政策行政系の科目である。
行政府の役割と活動について説明し、行政府を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。

【到達目標】
政府の役割と限界について的確に理解すること。
現代官僚制の役割と限界について的確に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
現代行政の構成要素、官僚組織、行政制度、政府体系、政策形成過程について講義を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ行政とは何か 1　リスクと行政	近現代におけるリスクの変容と政府活動の拡大
第 2 回	1　リスクと行政　続	グローバル化とリスクの変化及び行政活動の変質
第 3 回	2　政府の役割	政府と市場の比較にもとづく、政府の役割と限界についての説明
第 4 回	2　政府の役割　続	公共性の意義と政府の役割
第 5 回	3　行政の発展段階と行政概念の展開	民主化、産業化がもたらす行政活動の拡大 福祉国家と行政
第 6 回	Ⅱ　近代官僚制と行政 1　近代官僚制の成立とウェーバーの官僚制論	官僚制の概念の歴史的展開 マックス・ウェーバーの官僚制概念
第 7 回	1　近代官僚制の成立　続	官僚制と合理性 グローバル化と官僚制の変容
第 8 回	2　官僚制の構造と機能	官僚制における整理と病理、機能と逆機能
第 9 回	2　官僚制の構造と機能　続	官僚制における服従と自発、忠誠と反逆
第 10 回	3　行政責任と行政裁量	官僚制の裁量と民主的統制
第 11 回	3　行政責任と行政裁量　続	日本の行政における責任の概念と政策の失敗
第 12 回	4　官僚組織と現代社会	20 世紀文明としての官僚制 フォーディズムと官僚制組織
第 13 回	5　ポスト 311 の官僚制と行政	科学技術の発達と専門権力 民主政治と専門権力の関係
第 14 回	5　ポスト 311 の官僚制と行政　続	政策決定における個人と組織
第 15 回	5　ポスト 311 の官僚制と行政　続	日本官僚制における無責任体制 官僚制の「優越性」とは何か
第 16 回	Ⅲ　政策と行政 1　政策の概念	政策の定義
第 17 回	1　政策の概念　続	政策の類型化 政策類型と政策決定過程の対応
第 18 回	2　政策の循環	政治史システムと政策の循環 政策の連鎖 フィードバックの重要性
第 19 回	3　政策課題の形成	政策の守備範囲 作為と不作為をめぐる権力
第 20 回	3　政策課題の形成　続	行政需要とは何か 行政需要の充足と政策
第 21 回	4　政策の形成と作成	合理的政策作成モデル 多元的政策形成モデル
第 22 回	5　政策の選択	政策選択の合理化モデル 合理性の意義と限界
第 23 回	6　政策の実施	政策実施と官僚制の裁量 政策実施に対する市民的統制
第 24 回	7　政策の評価	政策評価の基準 政策評価の活用方法とその限界 官僚制と自己修正能力
第 25 回	Ⅳ　日本の行政の構造と動態 1　日本の統治機構と官僚制	日本における行政制度の歴史的展開 日本官僚制の歴史的特徴
第 26 回	2　議院内閣制と官僚制	議院内閣制における行政府 議院内閣制と政官関係
第 27 回	2　議院内閣制と官僚制　続	戦後日本における「官僚支配」の実態 政権交代と政治主導の意味
第 28 回	3　日本の社会経済システムと行政	日本における市場と官僚制 遅れてきた福祉国家と官僚制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を事前に読んでおく
講義で言及される政治、行政現象に関して、新聞、テレビ、雑誌等の報道をフォローする。
参考文献をなるべくたくさん読む

【テキスト（教科書）】
西尾勝　行政学　有斐閣

【参考書】
開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】
筆記試験による

【学生の意見等からの気づき】
現実に起こる行政にかかわる問題を取り上げ、適宜学生からの意見を求めて、双方向的な議論も行いたい。

MAN100FA

簿記入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）

大下　勇二

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**通年**　｜　曜日・時限：**木 5**
備考（履修条件等）：**※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「D1-2」と「D5」に関連が特に強く、「D1-1」に関連がかなりある。
また、人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連がある。

【授業の進め方と方法】
授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (資本)(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (資本)(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 5 回	簿記上の取引	取引 簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 7 回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、それの勘定口座への転記の作業を習得します。
第 9 回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算手続き (その 1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算手続き (その 1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算手続き (その 1)(3)	決算手続き (その 1)(1) および決算手続き (その 1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】
日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】
基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

MAN100FA

簿記入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）

大下　勇二

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**通年**　｜　曜日・時限：**木 5**
備考（履修条件等）：**※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「D1-2」と「D5」に関連が特に強く、「D1-1」に関連がかなりある。
また、人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連がある。

【授業の進め方と方法】
授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (資本)(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (資本)(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 5 回	簿記上の取引	取引 簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 7 回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、それの勘定口座への転記の作業を習得します。
第 9 回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算手続き (その 1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算手続き (その 1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算手続き (その 1)(3)	決算手続き (その 1)(1) および決算手続き (その 1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】
日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】
基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

MAN100FA

簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

大下　勇二

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**通年**　｜　曜日・時限：**木 5**
備考（履修条件等）：**※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「D1-2」と「D5」に関連が特に強く、「D1-1」に関連がかなりある。
また、人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連がある。

【授業の進め方と方法】
授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (資本)(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (資本)(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 5 回	簿記上の取引	取引 簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 7 回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、それの勘定口座への転記の作業を習得します。
第 9 回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算手続き (その 1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算手続き (その 1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算手続き (その 1)(3)	決算手続き (その 1)(1) および決算手続き (その 1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】
日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】
基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

HSS211LB

スポーツビジネス論Ⅰ

岩村　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるスポーツの意味や価値を、主にビジネスの側面から総合的に解説したい。オリンピックや、サッカー W 杯のような大きなイベントのメカニズムをはじめ、地域スポーツ振興、広告とスポーツの関係なども取り扱う。

【到達目標】
受講学生にとって、ビジネスとしてのスポーツを成立させている要因や、スポーツ団体の運営を支えるメカニズム、及び、今後のスポーツの展望について、体系的な知識の取得ができるように構成する。
スポーツがビジネスの考え方や手法を取り入れることで、運営基盤の強化など、良い側面が生まれると同時に、ゆきすぎた商業主義が弊害を生むこともある。その双方への理解が深まることを期待したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科： DP3、法学部政治学科： DP1、法学部国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP4、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科： DP4、社会学部： DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科： DP1、現代福祉学部臨床心理学科： DP1、デザイン工学部システムデザイン学科： DP4

【授業の進め方と方法】
スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	「見るスポーツ」と「するスポーツ」 スポーツの世界
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論 なぜスポーツが注目されるか
第 3 回	スポーツビジネス、スポーツマーケティングの実際	大型スポーツイベントのケーススタディ 展望や問題点
第 4 回	スポーツ団体の運営の仕組み	各種競技団体の実態や課題
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップ サッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ理論とスポーツ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート、フェンシング、ラグビーなどの競技の個別分析
第 10 回	テレビなどのメディアとスポーツ	放映権とスポーツ番組 権利ビジネス
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツビジネス	新しいメディアとスポーツ デジタルメディアとスポーツの振興の可能性
第 13 回	スポーツと消費者	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	歴史と現在 スポーツビジネスの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常から、スポーツのビジネス側面に関心を持つこと。
資金の調達や、クラブ運営の方法、広告の活用など。
試合結果だけではなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する情報や記事に目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第６版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【参考書】
仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第６版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【成績評価の方法と基準】
授業修了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度につき記載なし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。
授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。
受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論１」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】
受講者は、最新のスポーツビジネスの理論や知見を習得できる。
現在のスポーツ界が抱える課題の発見とその解決策を考案しながら、より深く、スポーツの状況を理解する。
一連のプレゼンテーション関連作業（企画書のまとめ方や、発表の仕方など）を通じ、発表スキルの習得の機会ともなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科： DP3、法学部政治学科： DP1、法学部国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP4、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科： DP4、社会学部： DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科： DP1、現代福祉学部臨床心理学科： DP1、デザイン工学部システムデザイン学科： DP4

【授業の進め方と方法】
スポーツ界の抱える課題（東京オリンピックの成功、知られていないスポーツの今後の振興、メディアの活用など）に関し、それぞれの問題点を探る。課題の解決に向けての戦略や手法を学びとる。
また、編成したグループごとに（全員がどこかのグループに所属）、選択した課題へのソリューションを発見し、考えをまとめて発表することを通じ、実践的な理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツビジネスの基本 スポーツを巡る課題の発見と設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ ④そのほか
第 2 回	課題の解説①	スポーツビジネスの課題の発見 チーム編成の方法（解説） チームの運営と役割分担をどう行うか
第 3 回	課題の解説②	メディアリレーション （スポーツをメディアの関係）
第 4 回	課題の解説③	スポンサーシップ （スポーツとスポンサーの関係）
第 5 回	課題の解説④ 発表グループ分け	チーム編成 リーダーや役割分担の決定 テーマの決定 議論の進め方
第 6 回	プレゼンテーションの仕方	課題の認識 発表のまとめ方 発表の仕方
第 7 回	グループ発表①	実際の発表（一講義時に、２から３グループ程度：以下同様） 質疑とコメント
第 8 回	グループ発表②	質疑とコメント
第 9 回	中間総括	スポーツを巡る課題の整理 プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第 10 回	グループ発表③	質疑とコメント
第 11 回	グループ発表④	質疑とコメント
第 12 回	プレゼンテーションの総括優秀チームの発表	課題の整理 発見点の整理と確認 コメント
第 13 回	スポーツビジネス理論に何ができるか	現状のスポーツの課題と対応理論
第 14 回	職業としてスポーツを選択することの可能性	スポーツに関わる職業 統計 スポーツに関わるライフプラン設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間以外に、個別のグループでの簡単な調整や準備が必要です。
受講登録人数にもよりますが、およそ、10 人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行うこととします。
グループには必ず参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第６版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【参考書】
仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第６版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義―スポーツはいかにして市場の商品となったか」創文企画

【成績評価の方法と基準】
授業修了時に回収するリアクションペーパー 30%、グループ活動の参加状況 30%、小テスト 20%、グループ発表 20%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度につき記載なし

ARSa400GA

地域協力・統合

大中　一彌

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させてください。まず、法学部なら、EU 法を中心とした第二次世界大戦後の統合プロセスに焦点をあてるやり方がありえます（「EU の政治と社会」）。経済学部なら、統一通貨ユーロを中心とした経済統合に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部では、食糧の問題として共通農業政策（CAP）を扱う授業もあるようです（「国際食糧需給論」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあると言えます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラーム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンスが含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとでの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明　※プリント「地域協力・統合　受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンら 17 世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、この授業について 90 分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。
・ほぼ隔週で小テストを実施します（2017 年度実績でいうと 7 回）。これは全員必須で、授業支援システム上で宿題の形で受験します。
・授業内報告をほぼ毎月 1 回募集します（2017 年度実績でいうと 3 回）。これは希望者のみで、授業支援システム上で課題を提出し、優秀者について授業内で報告してもらいます。

【テキスト（教科書）】
遠藤乾編『原典　ヨーロッパ統合史　史料と解説』名古屋大学出版会, 2008 年。

【参考書】
金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史―人物を通して見たあゆみ 』有斐閣、1996 年。
ジェラール・ノワリエル『フランスというるつぼ』法政大学出版局、2015 年。
エティエンヌ・バリバール『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社, 2006 年。

【成績評価の方法と基準】
・小テストの受験**【全員必須**。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施**】**45%
・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】
高校や大学 1 年時の学習との橋渡しを意識し、NHK の高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】
・パソコンかスマートフォンが必要。
・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
・「授業支援システム」＞「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
・Twitter 上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】
・シラバスを熟読してください。

LAW200HA

民事法Ⅰ

花立　文子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ:市民間の法律問題について，解決するための考え方と基礎知識の習得
目的・意義:市民間の契約においてトラブルが生じた場合に，当事者の話し合いで解決をはかることになるが，話し合いがうまくいかず第三者の仲裁や裁判で解決をはかることもある。このような場合の解決基準となるものとして民法という法律が規定されている。市民間のトラブルにおいて，民法の他，各種の法律がどのように役割を果たしているかを，社会における問題点とともに勉強する。その勉強を通じて，実践的に日常生活上のリスクを回避することに役立てたい。また，トラブルが生じたときには，法的思考により論理的に他者に説明することのできる力を要することから，法律的な考え方で問題を考えたい。

【到達目標】
到達目標: 市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度や基礎知識を習得し，自ら問題点を調べ法知識を用いてトラブル等を解決する能力及び法的な考え方の習得をめざす。さらには，問題解決に際して説得力ある主張ができるように，文章による表現力を身につけたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業 (講義形式)
　授業では，民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば，お金を貸したが返って来ない，貸した本を返してもらえない，買った物に傷があった，アルバイト代の遅配，等のトラブル問題である。これらは，普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また，自転車で人にぶつかって怪我をさせてしまった，ということもある。これは取引ではなく，市民間で生じたトラブルである。
　このように，トラブルには様々なものがあり，法律的に解決することが求められることがある。このような法律問題が，どのように解決されることになるのか，民法や民法関連法を用いて検討し，それを通じて法律的な考え方，法律の構造・全体像の理解を講義形式で深める。
授業の方法
(1) テーマごとに具体的な問題を通じて，法律条文や，裁判例，通常常識的に考えられている基本事項を理解し，市民間の法律問題の解決の仕方を考える。また問題の背景となる社会問題についても考える。さらに，授業の終わりには，リアクションペーパーを配布し，法律問題について考察したこと，また質問や感想等を書いていただく。質問については次回に回答し，理解を深めることとし，また関心を持っていただいたことを共有する。
(2) 授業では，六法を用いる。六法の見方，調べ方，条文の探し方や読み方等も勉強する。
(3) 授業では，適宜レジュメや資料を配布しそれに沿って授業を進める。
(4) 適宜各種資格試験に関係する点を指摘する。
(5) 話題となっているテーマを取り上げたり，関心の強いテーマを掘り下げたり，進度を確認することから，シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民事法上の問題と司法制度	授業の進め方や六法，成績評価について説明する。 その後，民事法とは何か，一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるかを概観する。
第 2 回	トラブルの解決基準となる法体系	問題解決に向け，どのように手続が進められるか，裁判制度 (民事) の全体像をみる。民事法，行政法，刑事法にもふれ，法の体系を概観する。
第 3 回	契約とは	最も生活に密着する契約とは何か。契約はいつどこでどのようにして成立するか。契約が成立したときの契約責任を概観する。
第 4 回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはだれか，いつ主体となるか等をみる。また，人の出生に関わる問題も，社会問題とあわせてみる。
第 5 回	人の権利義務消滅時期	民法上，人が有する権利義務が消滅する死亡について，社会の認識や科学の進歩によってその捉え方が変化していること，臓器移植等現代的な問題を含めて，人の死亡と法律との関係を概観する。
第 6 回	人の死亡と法律効果	民法上，主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる (死亡・認定死亡)。また，行方不明になった人の権利義務の行方についてもみる。
第 7 回	代理制度について	契約を通して権利を取得したいとしても，自ら契約を締結できない場合がある。このような場合にそなえた代理制度についてみる。
第 8 回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる (条件・期間・時効)
第 9 回	制限行為能力制度	未成年者等，契約締結に際して単独で契約を締結できない場合について考える。
第 10 回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として，物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第 11 回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として，保証，担保物権等がある。それらの方法を概観する。
第 12 回	契約において代理人が契約を締結し法律の効力を発生させる場合	病気等で必ずしも本人が契約を締結できない場合もある。その場合のために代理制度が規定されている。この制度を概観する。
第 13 回	夫婦の問題	法律上，夫婦とはどのようにして成立するのか，各々どのような義務を負うのか等，夫婦に関する問題をみる。また死亡した場合に，その財産がどのようになるのか，相続問題を考える
第 14 回	まとめとテスト	これまでの勉強を振り返り，全体の確認度をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】
六法

【参考書】
授業の際，必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　平常点 40 %，最終確認テスト 60 %で評価する。平常点は，リアクションペーパーに毎回法律問題についての考察，また疑問に思った点の検討，及び質問事項を記述し，また適宜課題を出しリポートを提出してもらうことで，授業への取組度を評価する (40 %)。最終確認テストでは，授業での法律問題の理解度を評価する (60 %)。平常点と最終確認テストで総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し，自ら考えられるようになると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また関心がもてると、難易度の高い問題でも取り組む意欲がわき，なかでも文章力が格段に上がるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

民事法Ⅱ

花立　文子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ:市民間の法律問題と法律知識の習得

【到達目標】
到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体像を理解する。法律制度を理解し, 自ら問題を法的に考え解決する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方
レジュメを配布し, 講義形式で行う。
概要
授業では, 契約を中心に市民間の法律問題を考える。そして, 具体的な問題を通して, 自ら考えて解決できる力を養う。内容は, 民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに, 関連する法律問題をみる。たとえば, 成年となる年齢とはどのような意味を有するのか, 成年となる年齢はどのようにして決められたのか, 今後変更の可能性はあるのか, 未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか, 未成年者の法律行為の問題, 成年の法律行為の問題等のように, テーマごとに検討する。その過程で, 法律の役割, 法律的な考え方等を習得していきたい。
市民間には, 様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるか, そのような法律問題をどのように解決すべきか, 民法や民法関連法も含めて考える。
授業の方法
(1) テーマごとに, 法律条文や, 裁判例, 通常常識的に考えられていること等から, 市民間の法律問題を, 社会問題として考える。また, 授業の終わりに考察したことを書いていただく。また, 質問や感想等を書いていただき, 次回に応えることで理解を深め, また関心を大切にしたい。
(2) 授業では, 六法を用いる。
(3) 授業では, 適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。
(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり, 社会問題となっているテーマを掘り下げたり, 進度をみることから, シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民事法の体系, 法体系の概観	まず, 授業の進め方, 六法, 成績評価等について説明する。 次に, 民事法の授業での対象，民事法とは何か，民事法の中の民法について，民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第 2 回	制限行為能力が契約を解消できる場合	判断能力が不十分な場合の契約について考える。
第 3 回	心裡留保, 通謀虚偽表示について	贈与契約および売買契約を無効にできる場合として, 民法 93 条の心理留保,94 条の通謀虚偽表示について考える。
第 4 回	錯誤無効, 詐欺強迫について	契約を錯誤により無効にできる場合 (95 条), 詐欺強迫にあい取消できる場合 (96 条) を考える。
第 5 回	裁判例を読む	これまでの法律知識と関連する裁判例を読み, 法律適用の具体例をみる。
第 6 回	契約の解除について	賃貸借を通じて，解除と解約告知についてみる。
第 7 回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら，悪質商法等の社会における問題点を考える。
第 8 回	消費貸借契約について	クレジットカードの仕組みを通じて，金銭消費貸借契約と利息について考える。
第 9 回	労働契約について	現代の多様な労働形態と，雇用契約，請負契約，および労働法の体系をみる。
第 10 回	和解契約について	自転車走行中の事故に関する事件を通じて示談することの意味を考え, 和解契約と不法行為責任について概観する。
第 11 回	委任契約について	具体的な近隣問題に関する判例を通して，法が近隣問題にどうかかわるのかを考え, 委任契約についても検討する。
第 12 回	忘れられる権利について	インターネット上の契約の成立時期,SNS の諸問題, 知的財産権について考える。
第 13 回	家族と法について	家族について考える。親族, 夫婦, 親子について, 法律上どのように規定しているかをみて, 家族について考える。
第 14 回	まとめと理解度テスト	これまでの理解度をはかるテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】
六法

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (適宜課題を出しリポートを提出してもらう。また, 毎回リアクションペーパーを配布し法律問題について考察したことを記述していただき，取組度をみる)(40 %), および最後に行なわれる確認テスト (60 %) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心がもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。また, リスク管理の重要性についても考えられるような内容にしたいと考えている。

【その他の重要事項】
リアクションペーパーに理解できない点等質問事項を記述していただくと, 次回授業時に反映することができますので, 活用してください。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

国際法Ⅰ

岡松　暁子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】
国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の概念、近代国際法の特色
第 3 回	法源（1）	条約、国際慣習法
第 4 回	法源（2）	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法［第 2 版］』有斐閣、2010 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選［第 2 版］』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様のやり方で行います。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW200HA

国際法Ⅱ

岡松　暁子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】
国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第 13 回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法［第 2 版］』有斐閣、2010 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選［第 2 版］』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進めます。

【その他の重要事項】
履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL200HA

市民社会と政治

谷本　有美子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では 1990 年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及び NPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の統治機構の伝統的な態様を理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策形成・決定に対する市民セクターの関与のあり方について、多元的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

【到達目標】
・市民社会が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ
・政治や行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、現代社会の事象を取り上げていきます。また、取り扱った内容に関連して適宜リアクションペーパーの提出を求めます。
前半は、日本における市民社会と政府・自治体との関係性について歴史的変化を学んだ上で、市民社会と政府・自治体・国際政治の各レベルにおける連携・緊張関係を示す具体的事例を取り上げ、政策形成過程への市民社会の関与の意義を検討していきます。
中盤では、2010 年代に行われた諸外国の国民投票や日本の自治体における住民投票の事例を取り上げて、政府・自治体の意思決定に関わる直接民主制の諸課題を検討し、市民社会と民主政治をめぐる問題に目を向けていきます。
終盤では、自治体レベルでの市民参加の実際を学びながら、間接民主制のもとでの有権者の参加のあり方を実践的に考えてます。
最後に市民社会の多様性を念頭に置きながら、政策形成への関与について多角的な側面からアプローチし、市民社会のガバナンスに関わる問題を考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	市民社会と政治をめぐる最近の事象を紹介し、民主主義の観点で認知していく
第 2 回	市民社会を表す概念の整理	講義で扱う「市民社会」「市民セクター」等の用語を理解する
第 3 回	市民セクターの活動と政府	戦後日本の歴史を踏まえつつ、市民社会と政府との関係形成の時代的特性を解説する
第 4 回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策展開に一定の影響をもたらした国内の事例を検討する
第 5 回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動する NGO の動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第 6 回	市民セクターと直接民主制	直接民主制の手段として、近年諸外国で行われた国民投票の例を題材にしながら、日本における国民投票の可能性と課題を考える
第 7 回	市民セクターと住民投票	近年の住民投票の運用事例から、市民社会の自治体政策への関与の可能性と諸課題を検討する
第 8 回	自治体レベルの「民意」と国政との関係	自治体レベルの「民意」と国政との相克関係を具体的事例から考える
第 9 回	市民参加のあゆみと市民社会の適応	1970 年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念と運用の実際を学ぶ
第 10 回	21 世紀の市民参加と自治体の政策形成	1990 年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と今後の可能性を考える
第 11 回	市民セクターの合意形成	討議性民主主義の観点で進められている市民参加の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成に関わる諸課題を検討する
第 12 回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の取り組みを学び、議会への市民の関わり方を考える
第 13 回	市民社会のガバナンスを考える (1)	社会的マイノリティや参加から排除されがちな人々の参加の機会や人権の問題について、社会的包摂の視点を踏まえて検討する
第 14 回	市民社会のガバナンスを考える (2)	寄付に対する税制優遇のしくみと市民の活動を支える資金の流れを概説した上で、市民社会への資金供給とガバナンスの問題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】
授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末の論述試験（80 %）に、授業内の小レポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

【その他の重要事項】
地方自治論、NPO・ボランティア論及び NGO 活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めることができます。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

POL100HA

国際関係論

岡松　暁子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会における平和の構築について考察する。

【到達目標】
国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第 2 回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第 3 回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第 4 回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第 5 回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第 6 回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第 7 回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第 8 回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第 9 回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第 10 回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第 11 回	貧困と開発	途上国問題
第 12 回	人権	国際人権保障の困難性
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第 14 回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で行った範囲をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

LAW200HA

アメリカ法の基礎

永野　秀雄

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】
学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第 2 回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第 3 回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第 4 回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第 5 回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第 6 回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第 7 回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第 8 回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第 9 回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第 10 回	法の下の平等（1）	人種差別の規制
第 11 回	法の下の平等（2）	男女差別等の規制
第 12 回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第 13 回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第 14 回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】
松井茂記『アメリカ憲法入門（第 7 版）』（有斐閣、2012 年）。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL200HA

地方自治論

谷本　有美子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2000 年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21 世紀の地方自治では、公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この講義では、受講生が自治体の主人公の「市民 (Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける。
・地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求めます。
前半の授業では、地方自治の成り立ちや歴史的変遷を知り、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その後、地方自治の基本的な制度・しくみについて解説した上で現場の運用事例等を紹介しながら、市民の視点で実践的に検討していきます。
後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係の問題も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。
それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要とされるシステムについて、運用の実際についての情報を提供しながら、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第 2 回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第 3 回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第 4 回	戦後地方自治の中央集権的な運用と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960 年代以降の都市自治体が手掛けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する
第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する
第 9 回	全国画一の政策と自治体の政策決定〜地方分権改革を踏まえて〜	対人サービスを中心とする福祉分野の政策を取り上げ、2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとでの、国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、実施主体となる基礎自治体の政策決定のあり方について検討する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 11 回	民に広がる公共サービスと自治体の役割	公共サービスの担い手が民へと拡大し、公民の役割分担が大きく変化する中で、自治体が果たすべき役割とは何かについて、子ども子育ての政策分野を題材に考えていく
第 12 回	平成の大合併と小規模町村	平成の大合併で市町村数は３分の１に減少し、合併の功罪にはさまざまな論議がある。ここでは合併を行わなかった小規模町村にも着目しながら、住民自治と行政サービス提供体制の問題から考察する
第 13 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努める
・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
・日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につける

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配布します。

【参考書】
・『ホーンブック　地方自治 (第 3 版)』（北樹出版，2014 年）
その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内の小レポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ビデオや新聞記事等を活用し、事例を紹介しながら具体的に考える機会を提供します。

【その他の重要事項】
・旧科目名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

憲法の基礎

土屋　志穂

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

【到達目標】
現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解する。
憲法とについて理解を深めることにより、「憲法問題」を理解し、社会問題を法的に分析する視点を持つ。
日本だけでなく、国際社会を広く意識して憲法や法律の視点で物事を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料を使用しながらの講義形式によるが、講義の中で積極的に発言を求める。
場合によっては、映像などを取り入れることもある。
シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。
憲法の条文を暗記する必要はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	法学はどのような学問か。
	日常生活と法	憲法はどのような法律か。
	憲法とは？	
第 2 回	憲法の基礎	憲法の定義
	日本国憲法の成り立ち	日本国憲法の成立過程
		日本国憲法の概要
第 3 回	天皇の国事行為	天皇と国民主権
	平和主義	日本国憲法と自衛隊
第 4 回	平和主義（続き）	自衛隊と国際社会
	統治機構①	権力の分立
		選挙と政党
第 5 回	統治機構②	立法権としての国会
第 6 回	統治機構③	行政権としての内閣
		裁判所
		裁判員制度
第 7 回	統治機構④	裁判所（続き）
		地方自治制度
第 8 回	統治機構⑤	地方自治制度（続き）
	基本的人権の尊重①	基本的人権概論
第 9 回	基本的人権の尊重②	人権に対する制約
		新しい人権（憲法に書かれていない人権の保障）
第 10 回	基本的人権の尊重③	平等権
		思想・良心の自由
		表現の自由
第 11 回	基本的人権の尊重④	表現の自由（続き）
		身体の自由
第 12 回	基本的人権の尊重⑤	身体の自由（続き）
		財産権
第 13 回	基本的人権の尊重⑥	社会権とは
		生存権
第 14 回	基本的人権の尊重⑦	教育・労働

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくこと。
（必要がある際には、授業のときに指示します）
資料として配布された新聞記事には必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
授業で配布する資料による。教科書の指定はしない。

【参考書】
芦部信喜『憲法【第６版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2016 年）
ポケット六法（有斐閣）などの六法。
その他授業の際に指示する。

【成績評価の方法と基準】
原則として、試験期間内の学期末試験による。（90 %）
その他リアクションペーパーと講義における発言を加味して、平常点として考慮する。（10 %）
ただし、学期中 2 回任意提出のレポート課題を課す。これについては提出があれば、それぞれ上限 10 点以内で加点要素とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度と同様に行う。
プリントが多くなってしまうため、整理に注意を払うように十分な注意喚起を行う。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
その他、映像機器を使用する可能性もある。
講義資料として配布したものは、授業支援システム上に随時アップロードする。

【その他の重要事項】
【関連する科目・分野】
行政法、国際法などの法律関連科目
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺　靖明

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。それでは、どのような行為がどのような原則及び要件の下で「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。この授業では、これについて具体的な事例を通じて考え、刑法の社会における意義と役割とを学びます。

【到達目標】
犯罪や刑罰制度に関する報道等に接したときに、被害者・遺族への純粋な同情・共感のみならず、加害者・犯罪者が犯罪をしてしまった理由・要因等にも思いを巡らせて、犯罪を減らし社会をより良くするには、刑罰が最適か、犯罪を減らすために他の手段がないかなどをより深く考えられるようになる。これがこの授業の最終目標です。
そのためには、法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割、刑罰の目的、刑法と他の法律との関係や刑法の一般原則及び犯罪の一般的及び個別的な成立要件等を理解する必要があり、この授業では主としてこれらの基礎知識を修得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとにレジュメを配布し、具体的事例について検討して、各テーマごとの理解をはかります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「刑法」とは何か？	刑法の形式的・実質的な意義や刑法（法律）と倫理・道徳との異同などを学ぶ。
第 2 回	「刑法」の一般原則とは？	罪刑法定主義・責任主義・最終手段性など、刑法の一般原則を学ぶ。
第 3 回	「刑罰」とは何か。	刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が刑罰を科すことが許されるのは何故かなどを学ぶ。
第 4 回	殺人罪・傷害罪（1）―構成要件・違法・責任	殺人罪・傷害罪の成否を通じて、犯罪の一般的成立要件の基礎を学ぶ。
第 5 回	殺人罪・傷害罪（2）―故意・過失、未遂、共犯	殺人罪・傷害罪の成否を通じて、犯罪の故意・過失、未遂、共犯の基礎を学ぶ
第 6 回	殺人罪・傷害罪（3）―「人」の始期・終期、「傷害」の意義	いつから殺人罪の対象となる「人」と認められるのか、人の「死」とは何を指すのか。「傷害」とはいかなる行為なのか。これらについて学ぶ。
第 7 回	自殺関与罪	刑法上の「被害者の同意」の意義と、自殺関与罪の基礎及び安楽死・尊厳死などについて学ぶ。
第 8 回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第 9 回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎を学ぶ。
第 10 回	名誉毀損罪・真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第 11 回	窃盗罪・強盗罪・詐欺罪・恐喝罪	財産に対する罪の共通原則及び財産移転罪の基礎を学ぶ。
第 12 回	横領罪・背任罪・器物損壊罪	財産移転罪以外の財産に対する罪の基礎を学ぶ。
第 13 回	放火罪・偽造罪	公共危険犯、取引の安全に対する罪の基礎を学ぶ。
第 14 回	賄賂罪	国家の作用に対する罪（汚職の罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布レジュメ等に基づく予習・復習をする。

【テキスト（教科書）】
なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】
特に指定はしません。お勧めの参考書は、授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、刑法の基礎知識を問う定期試験 80 %、レポート（宿題）等 20 %の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のアンケートでは、刑法について深く学ぶことができたという好評価があった一方で、レジュメがわかりやすく詳しいために、かえって「講義を聞かなくてもわかる。」という雰囲気になってクラス全体が集中力を欠いていた、という厳しい指摘もありました。そこで、今年度は、思い切ってレジュメの記載内容を簡略化し、講義への出席や聴講への意欲を高めたいと思います。また質問票などを適宜配布して、わからないところ、難しいところの解消に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムでは、本授業に関する連絡や、各回の終了した毎にその回のレジュメのアップなどをします。支援システムをこまめにチエックしてください。

【その他の重要事項】
「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目も併せて履修しておくと、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪について学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

環境法Ⅰ

横内　恵

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説します。

【到達目標】
本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメやスライドに沿って、教科書を参照しながら、講義形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第 2 回	環境法の基本的な考え方	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	環境法の手法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	わが国の環境法の歴史	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	環境基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	大気汚染防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	水質汚濁防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	土壌汚染対策法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	環境アセスメント	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	循環基本法・リサイクル法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	廃棄物処理法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	自然公園法	教科書等を用いて、国立公園の法制度について開設する
第 13 回	高レベル放射性廃棄物処理	最終処分場の立地先生について解説する
第 14 回	期末試験	授業内に期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に教科書の該当範囲を読んできてください。授業後は、レジュメとノートを読み返しながら教科書を熟読してください。

【テキスト（教科書）】
北村喜宣『環境法〔第 4 版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野　秀雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】
環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第 2 回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第 3 回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第 4 回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第 5 回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第 6 回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第 7 回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第 8 回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第 9 回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第 10 回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第 11 回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第 12 回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第 13 回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第 14 回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、 基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

環境法Ⅲ

横内　恵

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境アセスメント、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、環境リスクの各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指します。

【到達目標】
本講義は、「環境行政法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で、レジュメやスライドに沿って授業を進めます。各分野につき設問を用意し、レポート課題や授業中の質疑応答を通して、受講生自ら調べて考えて表現することを求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第 2 回	環境アセスメント（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第 3 回	環境アセスメント（2）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第 4 回	環境アセスメント（3）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第 5 回	環境アセスメント（4）	SEA 等、当該テーマの今後の課題について、諸外国と比較しながら解説する
第 6 回	廃棄物処理法（1）	教科書を用いて廃棄物処理法の概要を解説
第 7 回	廃棄物処理法（2）	産廃処理施設設置に際する環境アセスメントのあり方について解説する
第 8 回	廃棄物処理法（3）	産廃処理施設設置に際する地方自治体の事前協議と住民参加のあり方について解説する
第 9 回	高レベル放射性廃棄物（1）	高レベル放射性廃棄物処理について解説する
第 10 回	高レベル放射性廃棄物（2）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続について解説する
第 11 回	高レベル放射性廃棄物（3）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続についてドイツの手続と比較しながら課題を検討する
第 12 回	環境リスク制御法制（1）	環境リスク制御の法理論的問題について解説する
第 13 回	環境リスク制御法制（2）	環境リスク制御のあり方について、具体的な制度を題材として開設する
第 14 回	期末試験	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかりと読んで復習してください。

【テキスト（教科書）】
北村喜宣『環境法〔第 4 版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井　康介

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題について法律的なアプローチを行う場合、３つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチの独自性、特殊性、そしてその限界を扱います。
この授業で環境刑法の基礎、罰則の概要、現在の問題点等を学ぶことにより多角的な視点から環境問題を考えられるようになることが、最終的な目標です。

【到達目標】
例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、廃棄物処理法違反（不法投棄罪）なのは明らかですが、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ 夜中に、こっそりとゴミ処分場に忍び込み、処分場で処分されているものと同種のものを処分してくるのは、処分場という性格上問題がなさそうですが、なお廃棄物処理法違反なのでしょうか？
この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
特定の教科書を指定しないので、毎回配布物を配り、説明を行います。また多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。
今年度から、講義時間が 100 分になるため、昨年とは（一部）異なる内容を扱います。再履修者は注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 環境保護の手段としての刑法と環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明。環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのかについて説明します。
第 2 回	環境刑法の基礎理論①——刑罰の基本原則編——	環境刑法の前提となる刑法の基本原則（罪刑法定主義等）について学びます。
第 3 回	環境刑法の基礎理論②——基礎知識・歴史編——	日本の公害問題と我が国の環境問題の１つの転機となった公害国会を学びます。特に公害国会以前の法律状況、刑法学の議論状況を紹介します。
第 4 回	環境刑法の基礎理論③——最近の動向編——	公害国会以降の刑法学の状況について検討します。また環境法の体系化問題を検討します。その際、公害罪法についても、検討します。
第 5 回	空気・大気の保護について	大気汚染や空気の汚染に関する規制・罰則を紹介し、規制が導入された経緯を紹介します。また騒音や振動関連の規制を取り扱います。
第 6 回	水の保護について	水質汚濁、海洋汚染などの水に関連する規制・罰則を紹介し、検討します。
第 7 回	土の保護について	土壌汚染や農業用地の汚染についての規制・罰則を紹介し、検討します。
第 8 回	化学物質、原子力に関する規制など、小テスト	化学物質規制の歴史や、最近の原子力関連の規制を学びます。また小テストを行う予定です。
第 9 回	廃棄物処理法①	豊島事件や鹿沼事件などの廃棄物関連の事件を取り扱います。
第 10 回	廃棄物処理法②	何が廃棄物か、例えばおからは廃棄物か？ を検討します。無許可収集・運搬罪や無許可処分罪についても検討します。
第 11 回	廃棄物処理法③	不法投棄や不法焼却等、廃棄物処理法に規定されている自然犯的な罰則について検討します。
第 12 回	自然公園の保護、動物の保護	騒音や振動関連の規制、自然の保護や、動物の保護に関する規制と罰則を紹介・検討します。

第 13 回	環境刑法の保護法益、取り締まり、刑事訴訟、執行上の問題	環境刑法罰則が運用されている現状、運用される際の問題、執行現場の問題などを紹介します。環境刑法が保護しようとしているものは何か？ という点についても検討します。
第 14 回	総復習と小テスト	以前の授業の復習と終わらなかった問題を取り扱います。また 2018 年にニュースとなった環境事件を取り上げる予定です。授業時間の最後に小テストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法律的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。

【テキスト（教科書）】
指定なし。

【参考書】
北村喜宣『環境法 (有斐閣ストゥディア)』（有斐閣、2015 年）、1944 円がおすすめです。
さらに環境刑法の重要問題を取り上げた連載として、長井圓＝渡辺靖明「（隔月連載）環境刑法入門（全 10 回）」環境管理 52 巻 6 号（2016 年～）があります。
その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終の筆記試験は実施しません。授業内で行う 2 回の小テスト（選択式）（90%）及び平常点（10%）で評価します。場合によってはレポート（任意提出）も加味して、総合判断します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の受講生からの「テストが選択式で簡単すぎる」との指摘があったため。今年度はより難しい選択式のテストを出題する予定です。
また今年度も、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめしています。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

国際環境法

岡松　暁子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】
国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第 14 回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】
旧科目名称「国際環境法Ｉ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW300HA

労働環境法

水野　圭子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティーハラスメントなど人格権侵害への対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】
1．「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2．「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例ついての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。
3．その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4．「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
PowerPoint を用いながら講義を行う。労働環境について、学生である皆さんは明確なイメージを持ちにくいと思うので、ドキュメンタリーなどの映像資料を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、「労働環境法」に関する説明。	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第 2 回	法学の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。
第 3 回	労働環境を構築する労働法の仕組み	労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第 4 回	労働とその対価である賃金	労働の対価として得られるお金について、賃金支払いの法規制、賞与を支給される要件など働くうえで知っておくべき知識を確認する
第 5 回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	休憩・休息時間・休日・年次有給休暇など休むことについて
第 6 回	柔軟な労働時間制度について	変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制について。
第 7 回	労働安全衛生法（概要）	労働者の安全衛生の確保。産業医の問題点。
第 8 回	労働者災害補償保険法（1）（制度概要・業務災害）	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか
第 9 回	労働者災害補償保険法（2）（制度概要・業務災害）	過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について
第 10 回	少子化とワークライフバランス（1）	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について、就業率、労働時間、年収、賃金補償などの観点から検討する
第 11 回	少子化とワークライフバランス（2）	就業率の向上、労働時間の短縮はどのように行われてきたのか、海外の事例を含め検討する
第 12 回	新しい労働問題	近年問題となった労働問題について検討を行う。 マタニティハラスメントや障碍者雇用に対する合理的配慮など。
第 13 回	労働契約の始まり	就職活動、採用内々定、内定、本採用といった正社員として働くまでの労働契約とその問題について検討する
第 14 回	労働契約の終了・労働契約の承継	辞職、解雇やリストラといった労働契約の終了、労働契約の承継である企業組織変動ついて検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、教科書の該当する部分を熟読し、講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
高橋賢司『労働法講義』（中央経済社）
六法を用意すること。六法についてはガイダンスで説明する。

【参考書】
1．浜村彰ほか『ベーシック労働法』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
1．「試験」（80 %）
期末試験として 1 回実施。論述形式の問題を出題する。
2．「授業中に実施する確認問題」（20 %）
講義中に確認問題を出題する（1 回の講義で 1〜2 問程度）

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

【その他の重要事項】
講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

POL300HA

自治体環境政策論Ⅰ

小島　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体環境政策は、福祉政策や経済政策などと同様に、地域の「身近な政府」である自治体が担う公共政策の１つの領域である。しかし、現代の自治体の環境政策は極めて幅広い内容を有する。そして多様な環境政策の領域について、自治体には、地域のプロデューサーとして、市民、NPO、企業とともに、総合的な政策展開を図る責任と役割がある。
この講義では、第１に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念や公共政策の基本構造、政策過程について検討する。また総合的な地域空間づくりとプロデューサーとしての自治体について概観することで自治体環境政策の初期的なイメージをつくる。第２に、いくつかの個別領域と政策に関する制度・手法を取り上げ、自治体環境政策の姿により深く迫る。
第３に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の軌跡と政策の歴史的発展モデルについて、現代史への歴史社会学的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。
取り上げる個別政策領域としては、都市の緑化・緑地（農地）や河川の保全、ヒートアイランド対策、下水道や公園などの社会資本整備、廃棄物や公害などに関する環境規制、歴史的景観・都市景観の保全や創造である。
この授業の目的・意義は、学生が、「持続可能な地域社会」の構築に重要な役割を果たす自治体環境政策に関する基礎知識を身につけ、さらに政策型思考を身につけることで、アクティブに政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】
学生の到達目標は以下のとおりである。
・政策構造や政策過程に関する行政学・公共政策学などの基礎について理解する。
・自治体環境政策の軌跡から、現代史に対する視野を形成する。
・自治体環境政策の動向から、地域社会に関する感性や思考能力を身につける。
・自治体環境政策の知識の獲得を通して、ローカル・サステイナビリティコースや他のコースにおいて、地域社会に関する専門性を高める。
・様々な立場の社会人（市民・生活者、地域における公務従事者、NPO 関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念とその基本的構造について検討し、この講義の導入とする。
第 2 回	自治体環境政策の体系性と総合性	自治体の政策体系の構築と総合的な展開の意義について確認した上で、自治体環境政策に適用して検討する。
第 3 回	地域空間の形成と自治体環境政策	地域空間の形成について緑化・緑地（農地）保全、川づくり、都市景観などの視点で俯瞰的にシミュレーションしながら、自治体環境政策との関係性について概観する。
第 4 回	地域の総合プロデューサーとしての自治体	地域空間の形成に関する政策実践のケースとともに、地域の総合プロデューサーとしての自治体の政策的役割を検討する。
第 5 回	政策過程の循環モデルと「問題の定義」・「政策課題の設定」	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程の循環モデルを提示した上で、初期的ステージである「公共問題の構造化」と「政策課題の設定」について検討する。
第 6 回	自治体環境政策の「政策立案」と政策手段	政策過程における「政策立案」と政策手段について、自治体環境政策の特性をふまえて、政策選択における不確実性、市民などステークホルダーの参加、政策手段の複合（ポリシーミックス）などについて検討する。
第 7 回	自治体環境政策と法・計画・予算	自治体環境政策が、行政計画、条例などのローカル・ルール、予算など多様な表現形態をとることを確認しながら、自治体の環境基本計画や環境政策関連の条例の動向などに言及する。
第 8 回	21 世紀の都市問題としてのヒートアイランド問題の構造と自治体環境政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。
第 9 回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害などに関する自治体の環境政策を取り上げながら、地域社会をコントロールする環境規制について検討する。
第 10 回	自治体環境政策と社会資本整備	下水道や公園などの社会資本整備の側面から、自治体環境政策の動向について検討する。
第 11 回	自治体環境政策の軌跡と現代史	高度経済成長期から現代までの自治体環境政策の軌跡を、現代史の展開と並行させながら、政策の歴史的発展モデルについて検討する。
第 12 回	第１世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第１世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第 13 回	第２世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960 年代後半から 80 年代において、地域空間の質の重視を目的として登場した第２世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら歴史的町並み保全を中心として検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第 14 回	アーバンデザインと現代都市政策	第２世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて横浜をケースとして回顧しながら、現代都市政策の課題と展望について言及する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下の授業時間外の学習を行う。
・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
・ミニレポートを作成する。
・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努める。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】
・『分権時代の地方自治』三省堂、2007 年。
・『自治体環境行政の最前線〜持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009 年。
・『自治体環境行政法（第 7 版）』第一法規、2015 年。
・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012 年。
上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・自治体環境政策のみならず自治体や地域社会全般に関する知識や考え方を獲得する機会になるようです。
・全国の具体的な事例紹介は、自治体環境政策の具体的な理解には役立つようです。
・学生の思考が止まらないように、配布するレジュメや資料、パワーポイントなどの活用について改善を図っていきたいと思います。
・対話型授業をある程度取り入れていますが、できるかぎり、一方通行の知識伝達にならないように、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。
・授業の適切な進行スピードについて、提供する知識の内容や分量に留意しながら模索していきたいと思います。
・授業全体（14 回）の構成について、学生がより理解しやすい文脈・ストーリーになるように再考していきたいと思います。

【その他の重要事項】
・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目をあわせて履修することを推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体とその政策に関する知識や考え方は必須です。
・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自治体環境政策論Ⅰ」の各論として、「自治体環境政策論Ⅱ」では、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体環境政策と自治体の政策全体について総合的に検討する。
「自治体環境政策論Ⅰ」で提示する政策の歴史的発展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多次元化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった言い換えが可能である。
「自治体環境政策論Ⅱ」では、第１に、「持続可能性」の概念構成と政策規範性について説明した上で、「持続可能な地域社会」の社会像として、都市的地域と非都市的地域（農山村、漁村等）のそれぞれの持続可能性について概観する。第２に、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説と自治体環境政策の動向、多元的な主体による「協治」といえるマルチステークホルダー・プロセスにおける自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携、などについて検討する。
「グローカル」な自治体環境政策については、「自治体環境政策論Ⅰ」で述べた第１世代、第２世代に続く第３世代の政策として、地球環境問題に対応する自治体の政策動向を取り上げる。
第３に、「持続可能な地域社会」に向けた自治体の総合的な政策展開について、トリプル・ボトムラインといわれる「持続可能性」の包括性・統合性（環境、社会、経済）と「環境政策統合」の視点で検討する。
第４に、具体的な政策展開として、「持続可能な都市」に関する政策動向と課題、過疎地域の持続可能な発展政策の動向と課題、「循環型社会」構築に関する自治体環境政策について検討する。
　この授業の目的・意義は、学生が人間環境学部在籍中に、何度もふれるであろう「持続可能な地域社会」という言葉について、単なる政策シンボルとしてではなく、その意味を理解し、あるべき社会像をイメージしながら、アクティブに具体的な政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】
学生の到達目標は以下のとおりである。
・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策規範（政策原則）を理解する。
・「持続可能な地域社会」の構築のための自治体環境政策・自治体政策全般の動向と課題に関する知識を習得する。
・様々な立場の社会人（生活者・市民、地域における公務従事者、ＮＰＯ関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	台頭する政策シンボルとしての「持続可能な地域社会」と政策規範	この講義の導入として、様々なシーンで台頭してきた「持続可能な地域社会」という政策シンボルとともに、この言葉に結びつく政策規範としての「持続可能性・持続可能な発展」の概念構成について再検討する。
第 2 回	「持続可能な地域社会」の多様性と基本戦略としての都市の「変容」、過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という２つの方向性を提示する。
第 3 回	政策規範としての「グローカル」言説の再考	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第 4 回	「グローカル」な時代における第３世代の自治体環境政策	「グローカル」な時代において、地球環境問題（特に地球温暖化への「緩和策」と「適応策」など）に対応する第３世代の自治体環境政策について検討する。

第 5 回	地域分散型エネルギーシステムと自治体の政策イノベーション	東日本大震災とその後の再生エネルギー特別措置法を契機として、全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。
第 6 回	責任共有の政策論理と自治体の政策協調・政策連携	「環境ガバナンス」に大きくかかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、ＮＰＯなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第 7 回	持続可能性の多面的構成（トリプル・ボトムライン）と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	トリプル・ボトムラインといわれる持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第 8 回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第 9 回	「持続可能な都市」の提唱とトレンド	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱と動向、国内への政策波及について検討する。
第 10 回	「持続可能な都市」への政策実践	「持続可能な都市」に関する政策実践について、公共交通政策を中心として検討する。
第 11 回	長期的な都市の持続可能性リスクのシナリオとその回避	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害、人口減少社会における「縮小都市」などの長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討する。
第 12 回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域環境	過疎地域の持続可能な発展政策について、「内発的発展」の論理を再考しながら適用し、さらに地域環境資源を活用した先進ケースについて検討する。
第 13 回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域間連帯	過疎地域の持続可能な発展政策について、生態系サービスの考え方に基づく地域間連帯モデルを提示し、都市自治体との協力関係を強化していく方向性について展望する。
第 14 回	循環型社会への自治体の政策責任と「地域循環圏」	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任について理論的に整理した上で、自治体環境政策の動向と「地域循環圏」という政策原則について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下の授業時間外活動を行う。
・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
・ミニレポートを作成する。
・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】
・『分権時代の地方自治』三省堂、2007 年。
・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009 年。
・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012 年。
上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・全国の事例について、ほぼ毎回、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
・学生の思考が止まらないように、配布するレジュメや資料、パワーポイントなどの活用について改善を図っていきたいと思います。
・対話型授業をある程度取り入れていますが、講義内容の伝達とのバランスに留意しながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。
・授業の適切な進行スピードについて、提供する知識の内容や分量に留意しながら模索していきたいと思います。
・授業全体（14 回）の構成について、学生がより理解しやすい文脈・ストーリーになるように再考していきたいと思います。

【その他の重要事項】
・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体とその政策に関する知識や考え方は必須です。
・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させていますので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

アメリカ環境法

永野　秀雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】
社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境ＮＧＯの果たす役割
第 2 回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第 3 回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第 4 回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第 5 回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第 6 回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第 7 回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第 8 回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第 9 回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第 10 回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第 11 回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第 12 回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第 13 回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第 14 回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】
諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996 年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992 年）。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL300HA

エネルギー政策論

菊地　昌廣

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】
①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。
講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第 2 回	エネルギー消費と産業構造	GDP とエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第 3 回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第 4 回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第 5 回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第 6 回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第 7 回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。

第 8 回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。
第 10 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 11 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 12 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 13 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 14 回	講義内容のレビューと質日応答	これまでの講義内容をレビュー質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習することを求める。
エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

【テキスト（教科書）】
講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】
本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。
1）十市　勉（2005）『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
2）小池康郎（2011）『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
3）三浦隆利、他（2008）『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
4）藤原淳一郎（2010）『エネルギー法研究』（松岳社）
5）エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
6）その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】
平常点： 10 点
期末試験結果 90 点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】
自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】
事前に授業支援システムで配信する講義レジメのプリント

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

POL300HA

地球環境政治論

横田　匡紀

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？ 米国でのトランプ政権の誕生は環境政策にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ 地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。
　この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みやパリ協定、気候変動問題、トランプ政権などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】
・パリ協定、気候変動問題、トランプ政権などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、ＮＧＯ、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球環境政治論総論	地球環境政治とは何か
第 2 回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方：リアリズムとリベラリズム
第 3 回	地球環境政治へのアプローチ（2）	地球環境政治の見方：コンストラクティヴィズム
第 4 回	地球環境政治へのアプローチ（3）	グローバル・ガバナンスとは何か
第 5 回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第 6 回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第 7 回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター、国際政治と国内政治の連関
第 8 回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権（1）	アメリカの地球環境外交の基礎
第 9 回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権（2）	トランプ政権による影響、課題
第 10 回	地球環境政治のイシュー（1）	アジアと欧州における環境リージョナリズムの動向
第 11 回	地球環境政治のイシュー（2）	安全保障の緑化
第 12 回	パリ協定をめぐる国際関係（1）	全体像の把握
第 13 回	パリ協定をめぐる国際関係（2）	グローバル・ガバナンスからみた現状と課題
第 14 回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の各項目について理解できるようしておく。

【テキスト（教科書）】
佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第 3 版）』弘文堂、2018 年

【参考書】
亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010 年
亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015 年
新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015 年
古沢広祐・足立治郎・小野田真二編『ギガトン・ギャップ』オルタナ、2015 年
角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015 年
小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016 年
太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016 年
蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017 年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017 年
ナオミ・クライン『これがすべてを変える 上・下』岩波書店、2017 年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015 年
中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年
大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013 年
三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015 年
足立研幾『国際政治と規範』有信堂、2015 年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016 年
今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017 年
鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017 年

【成績評価の方法と基準】
中間レポートの提出を前提として、期末試験 90 %、平常点 10 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】
講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。
進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）・環境サイエンスコース

ECN200HA

ミクロ経済学 I

大瀧　雅之

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市場経済の機能を体系的に理解することが，講義の目的である．分権的・利己的な経済行動を前提としても，ある理想的な条件のもとでは，それが社会の成員全体の利益にかなうことがあることを理解する．さらにその上で，市場経済の限界を深く考える．

【到達目標】
需要曲線・供給曲線とその背後にある消費者行動・生産者行動について学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。まず個人の経済行動と企業の経済行動を，経済学がどのようにとらえているかを考える．そこから，右下がりの需要曲線・右上がりの供給曲線が導かれることを学ぶ．つぎにそうした市場取引の結果，個人及び企業がどれだけ得をするかを消費者余剰・生産者余剰という考え方に沿って理解し，利己的な経済行動を前提としても，経済が上手くいく場合（アダムスミスの見えざる手が成立する場合）があることを明らかにする．最後になぜ利己的な行動では経済が上手くいかない場合があるのかを理解し，その典型例として，地球温暖化問題に象徴される環境問題を経済学的に分析する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義による．随時関連資料を配布する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学とは何だろう（経済活動の自由はどこまで認められるか）
第 2 回	利己的な行動とは何か	アダムスミスの見えざる手を考える
第 3 回	市場とは何か	私的利害の調整の場としての市場
第 4 回	個人の経済行動を描写する（その１）	効用という考え方
第 5 回	個人の経済行動を描写する（その２）	予算制約とは何か
第 6 回	個人の経済行動を描写する（その３）	限界効用・需要曲線と消費者余剰
第 7 回	企業の経済行動を描写する（その１）	完全競争と費用という考え方
第 8 回	企業の経済行動を描写する（その２）	限界費用・供給曲線と生産者余剰
第 9 回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰１	消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第 10 回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰２	前回に続き、消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第 11 回	市場の働き（その１）	均衡という考え方
第 12 回	市場の働き（その２）	アダムスミスの見えざる手を理解する
第 13 回	市場の失敗（その１）	なぜ政府は存在するのか
第 14 回	市場の失敗（その２）	外部性という考え方を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
大瀧雅之　『アカデミックナビ　経済学』　勁草書房

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
最終回の講義で，講義内容と自ら講義で獲得したものを 4000 字以上でまとめたレポートを提出するのが義務である．それで成績を評価する (100 パーセント).

【学生の意見等からの気づき】
２０１５年度より担当。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

ミクロ経済学Ⅱ

石原　秀彦

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学Ⅰの学習内容を確認し，市場の規範的な分析の基礎である余剰分析を学んだ上で，環境問題に対する経済学の基本的なアプローチである外部性について学習する．さらに，企業理論の基礎を学び，企業の行動を左右するインセンティブについて学ぶ．

【到達目標】
余剰分析の基礎概念である消費者余剰，生産者余剰の意味を理解し，余剰分析によって異なる制度・政策の望ましさを比較できるようになる．経済活動に伴う外部性の定義に基づいて，環境問題の多くが，経済学的には外部不経済に伴う過剰生産・過剰消費の問題であることを理解する．経済学では，企業の基本的な行動原理として利潤最大化が仮定されることを確認したうえで，利潤最大化の具体的な条件である「限界収入＝限界費用」が様々な市場における企業行動を説明できることを理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義による．必要資料は随時配布する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロ経済学Ⅰの復習	需要・供給と市場均衡
第 2 回	余剰分析（1）	消費者余剰とは何か？
第 3 回	余剰分析（2）	競争市場の効率性
第 4 回	余剰分析の応用	課税の社会的費用
第 5 回	外部性（1）	外部性と市場の失敗
第 6 回	外部性（2）	外部性の当事者間による解決法
第 7 回	外部性（3）	外部性に対する公共政策
第 8 回	公共財と共有資源	「共有地の悲劇」とは？
第 9 回	生産費用の構造（1）	生産技術と費用
第 10 回	生産費用の構造（2）	様々な費用概念
第 11 回	完全競争市場（1）	企業の利潤最大化問題
第 12 回	完全競争市場（2）	短期均衡と長期均衡
第 13 回	独占	独占の死荷重とは？
第 14 回	問題演習・解説	講義内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜配布される練習問題を解くことで，講義内容を復習する．

【テキスト（教科書）】
配布資料を用いる

【参考書】
N. G. マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（マークシート方式．100 %）による．

【学生の意見等からの気づき】
用いる数学は数Ⅰの範囲までにとどめる．

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

マクロ経済学Ⅰ

大瀧　雅之

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1970 年代後半から 80 年代半ばまでの安定成長期を日本経済の繁栄期と規定し，そのころの平均的日本人がどんな生活をしていたかを活写する．そして受講生にわずか 40 年ばかりの間にどれほど生活様式が変化し，かつ現在が IT 技術の進歩により繁栄期から比べても，どれほど豊かになっているかを理解させる．プラザ合意を境に 1990 年代初頭までをバブル期と規定し，それを引き起こした経済要因を明らかにする．そして 97 年のアジア金融危機のアジア金融危機まで，なぜ不良債権問題の処理が先延ばされたのかを考える．1997 年は日本経済の転機で，21 世紀の現在に至る経済政策の考え方が形成された時期であることを理解させる．

【到達目標】
1980 年代の繁栄期から現在にかけての日本経済のありようを，経済政策の変化や IT 技術に象徴される技術進歩との関連に留意しながら，理解することを目的とする．国民経済計算等の統計資料に基づきながらエヴィデンス・ベースで授業を進める．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実際のマクロ経済の動きを理解するには，ある程度の経済理論に関する知識が必要であるが，それは都度，数式を全く用いずに解説するので安心して講義に参加してほしい．使用するデータは，毎回プリントにて配布する．そして，講義のまとめとしてして下記のテキストを読んでくることを義務付ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学から見た日本の 40 年
第 2 回	日本経済の繁栄 1	統計でみる 1980 年代と現在（繁栄とは何かを考える）
第 3 回	日本経済の繁栄 2	コーポレートガバナンスからみた 1980 年代と現在
第 4 回	日本経済の転機 1	プラザ合意と金融政策
第 5 回	日本経済の転機 2	バブルの始まりとその背景
第 6 回	日本経済の転機 3	バブルとは何だったのか・なぜ崩壊したのか
第 7 回	日本経済の転機 4	不良債権問題と財政政策
第 8 回	日本経済の転機 5	アジア金融危機：日本人の価値観の転換
第 9 回	現在への道 1	「構造改革」とはどんな考え方でなされたのか（組織から市場へ）
第 10 回	現在への道 2	労働市場の規制緩和と対外直接投資
第 11 回	現在への道 3	東京への一極集中と地方の衰退（市場はすべてを解決するか）
第 12 回	現在への道 4	急速な少子高齢化と財政危機
第 13 回	日本経済の現在	財政・金融政策のあり方を考える
第 14 回	授業のまとめ	これからの日本経済のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの第 9 章を講義の前半までで，読了し，自分の考え方をまとめて置くこと．

【テキスト（教科書）】
大瀧雅之著　『アカデミックナビ　経済学』，勁草書房

【参考書】
なし．

【成績評価の方法と基準】
期末に講義内容と自分の新しく学んだことをまとめたレポートを，4000 字以上で提出することが義務である．それによって成績を評価する（100%）．なお学生諸君の自覚と積極的な講義参加を重視する立場から，テストや出欠確認は行わない．

【学生の意見等からの気づき】
初回の講義で，日本経済の直面している諸問題について，オーヴァーヴューする．

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

マクロ経済学Ⅱ

今　喜史

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マクロ経済学とは、日本経済がいまどのような状況にあるのかを客観的に把握し、望ましい経済政策のあり方を議論する学問です。少子高齢化、政府の借金、終わりの見えないデフレなど、「日本経済、このままで大丈夫なの？」と思わせるようなニュースがあふれています。私たちが豊かな暮らしを続けるために、どんな政策が必要なのか、経済学の視点からじっくり考えてみましょう。

【到達目標】
①現代の日本経済が直面するマクロ経済現象について、自分の言葉で説明することができる
②マクロ経済政策の方針をめぐって、どのような論争が起こっているのかを理解する
③統計データを適切に使い、客観的な事実に基づいて経済問題を論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。不定期で、小テストを兼ねたリアクションペーパーを配布し、講義時間内に回答していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第 2 回	世界の中の日本経済	国民経済計算 (SNA) の概要を学び、日本の「経済的な豊かさ」を諸外国と比較する
第 3 回	歴史の中の日本経済	経済成長率とは何かを理解し、日本の経済成長のプロセスを概観する
第 4 回	景気変動の読み方	GDP の寄与度分解について学び、日本の景気変動の特徴を理解する
第 5 回	ケインズ経済学と乗数理論	政府が支出を増やすことで景気が改善する、と考えられる理由を理解する
第 6 回	乗数効果への反論	政府支出の副作用を強調する経済理論について学ぶ
第 7 回	財政の持続可能性	日本の国債残高の現状を知り、どのような対策が必要なのかを議論する
第 8 回	金融市場の基礎	マクロ経済における金融の意義を学び、利子率と貨幣の関係を考える
第 9 回	日本銀行と金融緩和	伝統的な金融緩和政策の手段と効果について理解する
第 10 回	インフレ・デフレと貨幣	政府が「デフレからの脱却」を政策目標として掲げることの意味を考える
第 11 回	為替レートと国際金融	日本の金融政策の効果について、為替レートの変化や外国との経済取引を踏まえて理解する
第 12 回	経済成長の理論	現在の先進国が目覚ましい経済成長を実現できた理由を考える
第 13 回	資本蓄積と技術革新	技術革新による生産性の向上こそが、経済成長の源泉となることを理解する
第 14 回	少子高齢化と人的資本	人口が減少を続ける日本で、経済的な豊かさを保つために必要な政策とは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義ノートや、配布資料の内容をよく復習してから、次の回の講義に出席してください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
大瀧雅之『アカデミックナビ　経済学』勁草書房、2018 年、本体 2700 円。福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣、2016 年、本体 2200 円。平口良司・稲葉大『マクロ経済学』有斐閣、2015 年、本体 2000 円。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）により評価を行います。また、不定期に行うリアクションペーパーに回答して提出した場合、ボーナス得点として期末試験の得点に加算します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

現代企業論

長谷川　直哉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】
ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業とは何か	講義の全体像 株式会社の誕生と発展
第 2 回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第 3 回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第 4 回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
第 5 回	企業規模の拡大と組織	規模の利益と経営の効率化 企業統治の仕組み
第 6 回	日本的経営の構造	日本的経営の成果と課題
第 7 回	経営管理の理念と機能	マネジメントの実際
第 8 回	ICT・IoT と企業経営	先端技術の活用と経営変革
第 9 回	特別講義	企業関係者による講義
第 10 回	競争戦略とマネジメント	市場競争力の源泉
第 11 回	製品開発戦略	製品開発のコンセプトとプロセス
第 12 回	株式市場と企業価値	企業と投資家の関係
第 13 回	SDGs と ESG 投資	持続可能な開発目標と企業経営の未来
第 14 回	企業間競争ケーススタディ	飲料メーカーの競争戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
井原久光『テキスト経営学―基礎から最新の理論まで第 3 版』ミネルヴァ書房，2008 年
佐久間信夫『よくわかる企業論［第 2 版］』ミネルヴァ書房，2016 年
武藤泰明『ビジュアル経営の基本 第 3 版』日本経済新聞社，2010 年

【成績評価の方法と基準】
特別講義レポート： 15 %
期末試験　　： 85 %
講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

ビジネスヒストリー

長谷川　直哉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）の変遷について学びます。併せて、就職先企業の選定について役立つ情報・知識を提供します。

【到達目標】
現代企業の発展プロセスを理解し、企業が長年培ってきた強み・弱み、企業理念、CSR の取り組み等を理解する能力を高めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じて DVD 等を視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ビジネスヒストリーを学ぶ意義
	CASE1 高峰譲吉［三共商店］	第一三共株式会社
第 2 回	CASE2 豊田佐吉［豊田自動織機製作所］	トヨタ自動車株式会社
第 3 回	鈴木道雄［鈴木式織機株式会社］	スズキ株式会社
第 4 回	波多野鶴吉［郡是製糸］	グンゼ株式会社
第 5 回	大原孫三郎［倉敷紡績・倉敷絹職］	倉敷紡績株式会社 株式会社クラレ
第 6 回	武藤山治［鐘淵紡績］	カネボウ株式会社
第 7 回	岡田良一郎［大日本報徳社］	公益社団法人大日本報徳社
第 8 回	金原明善［天竜木材・金原銀行］	財団法人金原治山治水財団
第 9 回	伊庭貞号・鈴木馬左也［住友財閥］	住友グループ
第 10 回	鳥井信治郎［寿屋洋酒店］	サントリーホールディングス株式会社
第 11 回	小林一三［阪急電鉄］	阪急阪神東宝グループ
第 12 回	石橋正二郎［日本足袋］	株式会社ブリヂストン
第 13 回	樋口廣太郎［アサヒビール］	アサヒグループホールディングス株式会社
第 14 回	稲盛和夫（京都セラミック） 立石一真［立石電機］	京セラ株式会社 オムロン株式会社

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著
『企業家活動でたどるサステイナブル経営史: CSR 経営の先駆者に学ぶ』文眞堂、2016 年
長谷川直哉編著
『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文眞堂、2013 年
長谷川直哉著
『スズキを創った男 – 鈴木道雄』三重大学出版会、2005 年
宇田川勝編
『ケースブック日本の企業家 – 近代産業発展の立役者たち』有斐閣、2013 年
宇田川勝，生島淳編
『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011 年
宇田川勝編
『企業家活動でたどる日本の自動車産業史』文眞堂、2012 年
法政イノベーションマネジメント研究センター/宇田川勝編
『ケーススタディー 日本の企業家群像』文眞堂、2008 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験　　：100%
講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクター、DVD

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

経営学入門

金藤　正直

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は、各企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】
本講義では、テキストを中心とした理論的内容だけではなく、日本企業の実践的取組みについても取り上げるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、テキストを中心に進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている日本企業のビジネスモデルについて履修者と一緒にディスカッションしていくとともに、その解説（ケーススタディ）も行う。さらに、資格試験の過去問題に基づいた例題を実際に解いていくことにより、経営学への理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 経営学とは何か	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価に加えて、経営学の目的および意義についても説明する。
第 2 回	企業と経営 企業の諸形態	企業が行う経営の全体像について説明する。また、企業・会社の概念の諸形態に関する講義を通じて、企業にはさまざまな形があることも説明する。
第 3 回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の概念、特徴、策定方法について説明する。
第 4 回	全社戦略	企業全体の戦略である「全社戦略」について説明する。
第 5 回	事業戦略	事業別の戦略である「事業戦略」について説明する。
第 6 回	機能別戦略	部署別の戦略である「機能別戦略」について説明する。
第 7 回	ケーススタディ①－新たな経営戦略の展開－	第 6 回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営戦略モデルを考察するとともに、当該企業が将来策定すべき経営戦略について議論する。
第 8 回	経営組織の基本形態とその特徴	経営組織とは何か、また、経営組織の基本形態とその特徴について説明する。
第 9 回	経営組織の応用形態とその特徴	第 8 回の講義内容に基づいて、経営組織の応用形態とその特徴について説明する。
第 10 回	ケーススタディ②－新たな経営組織の展開－	第 9 回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営組織モデルを考察するとともに、当該企業が将来展開すべき経営組織について議論する。
第 11 回	経営管理の仕組み①－経営機能と管理機能－	経営機能と管理機能について説明し、企業経営を管理（マネジメント）していく方法を理解する。
第 12 回	経営管理の仕組み②－「ヒト」と「モノ」の管理－	企業の人的資源である「ヒト」、製品製造に要する材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法について説明する。
第 13 回	経営管理の仕組み③－「カネ」と「情報」の管理－	企業が経営戦略の策定、経営組織の編成、経営管理をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計や情報の管理の基礎基本を説明する。
第 14 回	ケーススタディ③－新たな経営管理の展開－	第 13 回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営管理モデルを考察するとともに、当該企業が将来実施すべき経営管理の方法について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】
経営能力開発センター（2013）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社。
※なお、新しい版が刊行されている場合は、そのテキストを使用します。

【参考書】
講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。
・亀川雅人・鈴木秀一（2011）『入門経営学　第 3 版』新世社。
・北中英明（2013）『プレステップ経営学』弘文堂。
・橘川武郎・平野創・板垣暁（2014）『日本の産業と企業』有斐閣アルマ。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
・討論やクイズへの参加（20 %）
・確認テスト（20 %）
・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料（ワード資料）に関連する内容を口頭で説明する場合もありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】
・ワードおよびパワーポイントの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

環境経営と会計

金藤　正直

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計とは、特定の経済主体が行った活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（ステイクホルダー）に伝達するための情報システムである。そのために、会計の領域は、ミクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メソ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の 3 つに分類される。本講義では、ミクロ会計のうち、「企業（主に、株式会社）」を対象とした会計（企業会計）を体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】
本講義では、企業による従来の経営や環境経営の取組みと会計との関係を考慮に入れながら学習していくために、企業だけではなく、その経営者における会計の役割や重要性が理解でき、また、会計固有の計算技法や考え方を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、テキストを用いて専門的で難解な用語、概念、技法（コアな部分）を平易に説明するだけではなく、各講義の内容に関連する練習問題を配布し、履修者と一緒にその問題の解答やその解答に対するディスカッションおよび解説を行うことにより、会計学への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 「会計」とは何か	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。また、企業経営における会計の目的や役割について説明する。
第 2 回	会計の基本的技法	会計を支える技法（簿記）の手続きとその内容について説明する。
第 3 回	簿記の構成要素－資産、負債、純資産－	簿記の構成要素のうち、資産、負債、純資産について説明する。
第 4 回	簿記の構成要素－収益、費用－	簿記の構成要素のうち、収益および費用について説明する。
第 5 回	取引と勘定	帳簿記入の対象（取引）とその処理方法について説明する。
第 6 回	簿記・会計の練習問題①	第 2 回から第 5 回までの講義内容を練習問題を用いて復習する。
第 7 回	仕訳と転記 仕訳帳の記帳方法	取引の仕訳と仕訳帳の記帳方法について説明する。
第 8 回	仕訳帳と総勘定元帳	仕訳帳から総勘定元帳までの転記方法について説明する。
第 9 回	試算表と精算表	試算表・精算表作成の意義と方法について説明する。
第 10 回	決算と財務諸表	帳簿の締切り、損益計算書および貸借対照表の作成までの流れとその方法について説明する。
第 11 回	簿記・会計の練習問題②	第 6 回から第 10 回までの講義内容を練習問題を用いて復習する。
第 12 回	企業分析の方法 実数分析	企業分析（経営分析）の必要性と、実数分析の方法について説明する。
第 13 回	安全性分析 収益性分析	安全性と収益性の分析方法について説明する。また、第 12 回と第 13 回の講義内容も加味した練習問題を用いて、企業経営の分析を行う。
第 14 回	環境経営と会計	これまでの学習内容に基づいて、環境経営を支援する環境会計の仕組みについて説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、企業会計の知識や考え方、そして技法だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】
資格の大原（2017）『土日で合格る日商簿記初級』中央経済社。

【参考書】
講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。
・鈴木一道（2012）『会計学 はじめの一歩』中央経済社。
・山崎雅教（2014）『簿記 はじめの一歩』中央経済社。
・桝岡源一郎（2015）『図解でナットク　会計入門』中央経済社。
・千代田邦夫（2016）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第 4 版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
・討論やクイズへの参加（20 %）
・確認テスト（20 %）
・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料（ワード資料）に関連する内容を口頭で説明する場合もありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】
・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

公共経済学

小田　圭一郎

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

【到達目標】
学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。
具体的には、以下の事項を理解する：
・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
・公共財の効率的配分
・外部性の市場的解決
・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
・情報非対称性問題へのゲーム理論的解決方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。数回程度の宿題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第 2 回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第 3 回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第 4 回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第 5 回	公共財①	定義・効率的配分条件
第 6 回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第 7 回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第 8 回	外部効果①	定義、コースの定理
第 9 回	外部効果②	市場的解決方法
第 10 回	環境政策①	環境問題の定式化
第 11 回	環境政策②	環境税と排出権取引
第 12 回	公的企業	自然独占と規制
第 13 回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第 14 回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、授業内容の理解確認のための宿題を提出する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社.
他は初回授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：
・期末試験または期末課題（90%）
・宿題（10%）

【学生の意見等からの気づき】
分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムから資料をダウンロードし、授業に持参すること。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学の諸概念に基づいた説明を行うが、具体的な授業計画については、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN300HA

環境経済論Ⅰ

國則　守生

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題はどうして市場経済で対処することが難しいのかを問題意識として、環境経済学で取り扱われる重要な概念・考え方を学ぶ。とくに近年、国際的な環境問題を取り扱ううえで注目されている環境問題に対する経済的手段（economic instruments）を理解し、その役割を評価・検討する。そのために、市場経済のパフォーマンスの検討からは始めて、環境問題に対処するためにどのような考え方や政策が行わなければならないか、市場経済を補完・超克するための環境政策の基礎的な視点を検討していく。

【到達目標】
さまざまな経済活動にともなって発生している環境問題の解決を考えるためには、環境問題と経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。この授業では、経済学の側面から環境問題の捉え方や問題の解決・軽減のためにどのような対処方法があるのかを幅広い立場から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また困難であり続ける要因は何なのか、そして対処するにはどのような枠組みが必要なのかなどを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びている環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方および経済における環境の果たす役割の概観
第 2 回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第 3 回	ミクロ経済学のレビュー (1)	市場とは何かについて考える
第 4 回	ミクロ経済学のレビュー (2)	分析道具として、限界概念、余剰概念などを議論
第 5 回	ミクロ経済学のレビュー (3)	パレート効率性による市場の評価とその前提条件
第 6 回	公共財の課題 (1)	市場の失敗と環境問題の公共財的側面
第 7 回	公共財の課題 (2)	リンダール均衡の考え方と現実での対応
第 8 回	環境問題の捉え方 (1)	負の外部性問題としての環境問題の視点
第 9 回	環境問題の捉え方 (2)	環境税の基礎理論（そのメリットと限界）
第 10 回	環境問題の捉え方 (3)	規制的手段と経済的手段の比較
第 11 回	環境問題の捉え方 (4)	環境税の類型（ピグー税、ボーモル・オーツ税など検討）
第 12 回	環境問題の捉え方 (5)	環境問題における当事者間交渉の可能性とコース定理
第 13 回	環境問題の捉え方 (6)	排出権（量）取引の基礎理論
第 14 回	まとめ	環境問題に対する経済的手段の特徴についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。
受講に当たっては、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。
R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
重要な概念については繰り返し説明したい。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN300HA

環境経済論Ⅱ

國則　守生

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策のための費用負担との関係、市場評価の難しい環境評価の課題などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組みについて講義する。なかでも、長期の環境問題などに対して残された課題は何なのか、市場が存在しない環境を経済評価する際の問題点、環境を含む社会的共通資本とは何かなどについて、これらの基礎的な考え方を議論し、持続可能な社会を構築する際の課題について環境の側面からアプローチする。

【到達目標】
この授業は、環境経済学における基礎的かつ重要な考え方や概念などを環境経済論Ⅰに引き続き学習し、それらを適用する力を身につけることを目指す。とくに、持続的な資源利用、長期の環境問題、環境の経済的な評価などに注目して現在社会で環境との共生を目指す経済的な対応を理解することをテーマとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。具体的には、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎の理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、長期の環境問題などに対して、残された課題は何なのか、市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかなどに関して、その基礎を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと環境経済論Ⅱの概観
第 2 回	環境とコモンズ（1）	「コモンズの悲劇」とローカル・コモンズ、グローバル・コモンズ
第 3 回	環境とコモンズ（2）	ローカル・コモンズの長期的な存立条件と意味
第 4 回	再生可能資源の課題	漁獲（努力）モデルと過剰漁獲問題
第 5 回	資源価格と利子率の関連 (1)	非再生可能資源におけるホテリング・ルール
第 6 回	資源価格と利子率の関連 (2)	長期的な資源価格推移とバックストップ技術
第 7 回	環境とコスト・ベネフィット分析（1）	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第 8 回	環境とコスト・ベネフィット分析（2）	前提条件と社会的効用関数からの解釈
第 9 回	環境と割引率	長期の社会的割引の考え方
第 10 回	環境とリスク	リスクの考え方とコスト・ベネフィット分析への応用
第 11 回	環境の価値評価（1）	伝統的トラベル・コスト法の考え方
第 12 回	環境の価値評価（2）	ヘドニック価格法の考え方
第 13 回	環境の価値評価（3）	表明選考法（CVM, Conjoint 分析など）の考え方
第 14 回	社会的共通資本	社会的共通資本としての環境

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。
講義は環境経済論Ⅰの履修を前提として組み立てられている。また、受講に当たってはミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣
宇沢弘文 (2000)『社会的共通資本』岩波新書 696

【成績評価の方法と基準】
理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
重要な概念については、いろいろな観点から、繰り返し説明したい。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

環境経営論Ⅰ

金藤　正直

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、「企業（主に、株式会社）」の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSR 経営または CSV 経営）の現状やその取組みについても一緒に取り上げていく。

【到達目標】
本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営およびサステナビリティ経営における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に、また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、日本企業で実践されている環境経営およびサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、さまざまな企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。また、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事および映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業における環境経営やサステナビリティ経営の現状	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。また、現在海外や国内において、企業が行っている環境経営またはサステナビリティ経営の取組み（持続可能な開発目標（SDGs）などへの取組み）を紹介し、説明する。
第 2 回	環境経営の意義	また、企業経営における環境保全への取組みの必要性を歴史的に説明する。
第 3 回	サステナビリティ経営の展開	企業におけるサステナビリティ経営の意義を歴史的に説明する。
第 4 回	環境・サステナビリティ経営の全体像	従来の企業経営の仕組みと比較しながら、環境経営およびサステナビリティ経営の仕組みを説明する。
第 5 回	環境経営戦略	従来の経営戦略と比較しながら、環境経営戦略の特徴を説明する。
第 6 回	サステナビリティ経営戦略	従来の経営戦略および環境経営戦略と比較しながら、サステナビリティ経営戦略の特徴を説明する。
第 7 回	ケーススタディ①	第 6 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営戦略モデルを分析する。
第 8 回	環境経営組織	従来の経営組織と比較しながら、第 5 回の講義で説明した環境経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 9 回	サステナビリティ経営組織	従来の経営組織および環境経営組織と比較しながら、第 6 回の講義で説明したサステナビリティ経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 10 回	ケーススタディ②	第 9 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営組織モデルを分析する。
第 11 回	環境経営管理	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 12 回	サステナビリティ経営管理	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 13 回	ケーススタディ③	第 12 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営管理モデルを分析する。
第 14 回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメント	海外や国内における企業の取組みを活用しながら、環境・サステナビリティ・バリューチェーンやサプライチェーンを対象としたマネジメントの意義とその手法を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、「企業」の環境経営およびサステナビリティ経営の方法論だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法、論文・レポートの書き方などの基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料の内容を論理的に説明し、解説するとともに、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。
ただし、日本企業の環境報告書やサステナビリティ報告書、また、関連資料をダウンロードして持ってきてもらうことがあります。

【参考書】
講義中に著書・論文・雑誌・URL 等をいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。
【環境経営/サステナビリティ経営（CSR 経営）】
・谷本寛治（2006）『CSR －企業と社会を考える－』NTT 出版。
・名和高司（2012）『CSV 経営戦略―本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する－』東洋経済新報社。
・國部克彦（2017）『CSR の基礎』中央経済社。
【URL】
・環境省「環境に配慮した事業活動の促進」〈http://www.env.go.jp/seisaku/list/keizai_project.html〉。
・「CSR 図書館.net」〈http://csr-toshokan.net/〉。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
・討論やクイズへの参加（20 %）
・確認テスト（20 %）
・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

【その他の重要事項】
・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

環境経営論Ⅱ

金藤　正直

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国内の「地域」を主体とした環境経営やサステナビリティ経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義では、国内の地域で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に、また、実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、講義内容に関連する著書、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、地域で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 地域における環境・サステナビリティ経営の現状	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。また、現在海外や国内において、地域で展開されている環境経営またはサステナビリティ経営の取組みを紹介し、説明する。
第 2 回	地域における環境・サステナビリティ経営の意義と方法	SDGs（持続可能な開発目標）とともに、CSV（Creating Shared Value）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、地域における環境・サステナビリティ経営の意義と方法（産業クラスター）を説明する。
第 3 回	産業クラスターの概念とその仕組み	産業集積、組織間関係、産業クラスターの研究や取組事例を用いて、これらの概念の違いを整理する。
第 4 回	日本における産業クラスター事業の現状と課題	産業クラスターに関する国内の政策、取組事例（荒川区の MACC プロジェクト）、課題を説明する。
第 5 回	産業クラスターマネジメントの視点と方法	地域サプライチェーンとしての産業クラスターのマネジメントの視点と方法を説明する。
第 6 回	産業クラスター事業例－再生可能エネルギー事業①－	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念とともに、国内の動向や課題を説明する。
第 7 回	産業クラスター事業例－再生可能エネルギー事業②－	再生可能エネルギー事業の先進事例（飯田市や下川町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第 8 回	ディスカッション①	第 7 回までの講義内容に基づいて、産業クラスターの新たな事業展開の方法を検討する。
第 9 回	食料産業クラスター、農商工連携、6 次産業化	農林水産省で整理されている食料産業クラスター、農商工連携、6 次産業化の概念や取組事例を整理するとともに、国内の動向なども説明する。
第 10 回	食料産業クラスター事業の分析①－十勝地域、富士宮市、栃木県－	日本でフードバレーを展開している十勝地域、富士宮市、栃木県の取組みを紹介し、その特徴を説明する。
第 11 回	食料産業クラスター事業の分析②－新潟市、熊本県内－	第 10 回に引き続き、日本でフードバレーを展開している新潟市と熊本県南の取組みを紹介し、その特徴を説明するとともに、日本のフードバレーの取組みの将来について検討する。
第 12 回	地域活性化事業①－青森県板柳町のりんご産業－	青森県板柳町のふるさとセンターの取組事例を紹介し、その特徴を説明する
第 13 回	地域活性化事業②－北海道池田町のワイン産業－	北海道池田町のブドウ・ブドウ酒研究所の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第 14 回	ディスカッション②	第 13 回までの講義内容に基づいて、食料産業クラスターおよび地域活性化事業の新たな事業展開の方法を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、「地域」の環境経営およびサステナビリティ経営の方法論だけではなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法、論文・レポートの書き方などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するとともに、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

【テキスト（教科書）】
二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計－産業クラスターの可能性－』中央経済社。

【参考書】
講義中に著書・論文・雑誌・URL などをいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。
【著書】
・西川太一郎（2008）『産業クラスター政策の展開』八千代出版。
・諸富徹（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。
・山﨑朗（2015）『地域創生のデザイン』中央経済社。
【URL】
・まち・ひと・しごと創生本部（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/）。
・経済産業省 中小企業・地域経済産業（http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/index.html）
・農林水産省 食料産業（http://www.maff.go.jp/j/shokusan/index.html）

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
・討論やクイズへの参加（20 %）
・確認テスト（20 %）
・期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

【その他の重要事項】
・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

CSR 論 I

長谷川　直哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにほかなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

【到達目標】
企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐって生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステイナブル社会で求められる企業像を検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	グローバル経済の進展とその影響	1980 年代の米国と英国で進展した市場主義経済の光と影
第 3 回	サステイナビリティ（持続可能性）と CSR	地球サミット以降の CSR の展開
第 4 回	欧州の CSR 戦略	EU における CSR 政策の動向とその意義
第 5 回	CSR の制度化	ISO26000，MDGs，SDGs
第 6 回	企業戦略と CSR の相克	企業不祥事の実態とその要因
第 7 回	CSR と経営戦略	マイケル・ポーターの CSR・CSV 論を中心に
第 8 回	企業と NPO のパートナーシップ	価値共創経営とは何か
第 9 回	外部講師による特別講義 I	企業等の実務家による講義 （詳細は開講時に提示）
第 10 回	企業価値と CSR －責任投資原則	投資家は CSR をどのように評価してきたのか
第 11 回	外部講師による特別講義 II	企業等の実務家による講義 （詳細は開講時に提示）
第 12 回	CSR 金融①　社会的責任投資とは何か	CSR と社会的責任投資（SRI）の関係性
第 13 回	CSR 金融② 責任投資原則と企業評価	環境・社会・ガバナンスを反映した企業
第 14 回	SDGs と企業経営	SDGs とビジネスの統合のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
谷本寛治『責任ある競争力－ CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年
岸田眞代編『NPO× 企業 協働のススメ』 パートナーシップサポートセンター、2012 年
岸田眞代編『企業が伸びる地域が活きる: 協働推進の 15 年』 パートナーシップサポートセンター、2013 年

【成績評価の方法と基準】
特別講義レポート：　30 %
期末試験　　：　70 %
講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

MAN300HA

CSR 論Ⅱ

長谷川　直哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CSR 論Ⅰで習得した知識を基に、CSR（Corporate Social Responsibility ：企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステイナブル（持続可能な）社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることめざします。

【到達目標】
企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐって生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅰ-見えざる手と道徳哲学 A. スミス	『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 4 回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅱ-功利主義思想 J. ベンサム，J. ミル	産業革命の勃興と企業倫理
第 5 回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅲ- 資本主義の精神と倫理 M. ウェーバー	近代資本主義の思想的背景
第 6 回	企業社会の論理と倫理-社会的責任のマネジメント P. ドラッカー	社会的器官としての企業
第 7 回	外部講師による特別講義Ⅰ	企業等の実務家による講義 （詳細は開講時に提示）
第 8 回	新自由主義 vs 第三の道	新自由主義の思想と限界 第三の道と新しい公共
第 9 回	CSR 経営論の変遷	マイケル・ポーターの CSR 論を中心に
第 10 回	CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 11 回	日本企業の倫理と CSR ①	明治〜戦前期における企業経営と CSR
第 12 回	外部講師による特別講義Ⅱ	企業等の実務家による講義 （詳細は開講時に提示）
第 13 回	日本企業の倫理と CSR ②	戦後の高度経済成長と CSR
第 14 回	日本企業の倫理と CSR ②	成熟化社会の到来と CSR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
R.L. ハイルブローナー（松原隆一郎ほか訳）『入門経済思想史』筑摩書房、2001 年
武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年
佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年
谷本寛治『責任ある競争力－ CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】
特別講義レポート： 30%
期末試験： 70 %
講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

国際環境政策Ⅰ

國則　守生

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。地球規模の環境問題は同世代内だけでなく、世代間問題の公平性に関わる側面が顕著であることを確認していく。

【到達目標】
　この授業は国際的、越境的および全地球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業は前半で環境問題を軽減・解決を図るために先進各国で採用されてきたさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などとの比較を含めて、講義する。とくに各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税、排出権（量）取引などの効果と課題等について議論する。後半では、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に、経済的手段の国際協調の視点から、議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の拡がりとその類型
第 2 回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷とその特徴
第 3 回	環境と経済的手段（1）	環境税の帰着
第 4 回	環境と経済的手段（2）	OECD 諸国での課徴金と環境税
第 5 回	環境と経済的手段（3）	OECD 諸国での排出権（量）取引とその他の経済的手段
第 6 回	環境と経済的手段（4）	排出権（量）取引の種類とそれらの課題
第 7 回	環境と経済的手段（5）	不確実性下の価格コントロールと数量コントロールの比較
第 8 回	越境環境問題（1）	国内環境問題との対比
第 9 回	越境環境問題（2）	酸性雨問題
第 10 回	国際環境協定の可能性（1）	完全協力解、非協力解、提携 (coalition) などとの比較
第 11 回	国際環境協定の可能性（2）	自律的な国際環境協定や国際協定の難易度
第 12 回	地球環境問題（1）	オゾン層破壊と国際協定
第 13 回	地球環境問題（2）	地球温暖化問題と現状実施されている経済的対応の評価
第 14 回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題と地域間、世代間対立の課題、社会的割引率のあり方など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。
受講に当たっては、環境経済論Ⅰ、Ⅱの履修が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。
R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

【その他の重要事項】
旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

国際環境政策Ⅱ

内山　勝久

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、環境政策の国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。国際環境政策Ⅰの内容を踏まえ、さまざまな環境問題について統計などの諸資料を活用しながら現状を客観的に理解するとともに、世界の環境政策の潮流、地球環境問題解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて解説し検討します。授業では社会科学全般の観点から各種政策とその背景を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

【到達目標】
各種統計資料等に基づいた国際比較を通じて、各学生が現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて経済学的思考を中心に広い視野から主体的に考察できるようになること、新たな問題意識の発掘や醸成、深耕につなげられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主要な環境問題のうち国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等を、スライドを利用しながら講義形式で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のねらいや環境問題の実態について
第 2 回	環境政策の考え方	環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段等について
第 3 回	環境と持続可能な発展	途上国の環境問題と国際協調のあり方、及び持続可能な発展について
第 4 回	再生可能資源の保全政策（1）	市場を活用した森林資源保全政策等について
第 5 回	再生可能資源の保全政策（2）	市場を活用した水産資源保全政策等について
第 6 回	エネルギー問題と環境政策（1）	わが国及び世界のエネルギー消費の実態について
第 7 回	エネルギー問題と環境政策（2）	わが国及び国際的なエネルギー政策の動向について
第 8 回	廃棄物管理政策	廃棄物の現状と市場を活用した廃棄物管理手法について
第 9 回	循環型社会への取り組み	循環型社会形成に向けた内外の政策動向について
第 10 回	企業行動と環境政策	環境政策と企業の環境配慮活動について
第 11 回	金融と環境政策	ESG 投資など金融を活用した環境改善の潮流について
第 12 回	都市・まちづくりと環境政策	低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
第 13 回	生物多様性政策	市場を活用した生物多様性保全の潮流について
第 14 回	環境と経済社会	環境負荷の見える化や幸福度の考え方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、授業の記憶が鮮明なうちに復習してください。さらに、自分が関心を持ったトピックスについて、新聞・雑誌・ウェブサイトなどで関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料を毎回配布します。

【参考書】
・浅子和美・落合勝昭・落合由紀子,『グラフィック環境経済学』, 新世社, 2015 年.
・亀山康子,『新・地球環境政策』, 昭和堂, 2010 年.
・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』（各年版）.（http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/）
その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
2016 年度より担当していますが、これまでのところ、授業改善アンケートによる学生からの重要な指摘事項や、その他の要望事項等は特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料（スライド）は授業支援システムで事前に配信します。必要に応じてプリントアウトして授業に持参してください。

【その他の重要事項】
春学期開講の「国際環境政策Ⅰ」の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

国際経済協力論Ⅰ

武貞　稔彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】
本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
国際経済協力論Ⅰにおいては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。また可能な範囲で講義時間内でのグループトークなどアクティブラーニングの要素を導入する。講義の最後にリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史（1）（1945 年～1960 年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史（2）（1970 年～1980 年代）：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 5 回	国際社会と経済協力の歴史（3）（1990 年代～現在）：冷戦後の世界とグローバリゼーション	冷戦終結後の国際秩序と、グローバリゼーション下における経済協力の位置づけを概観する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～ 1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	日本の経済協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～ 2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。

第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。
第 12 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第 13 回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第 14 回	日本が経済協力を行う理由	日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー、中間レポートと期末試験による。成績配分はリアクションペーパー 15%、中間レポート 15%、期末試験 70%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
情報量が多すぎるのではとの意見があった。情報量自体を削減することは考えないが、必要な情報とそうでない情報の区分けや、提供の仕方については引き続き考えながら講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ECN300HA

国際経済協力論Ⅱ

武貞　稔彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】
本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて，受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。
　必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。
　また可能な範囲で講義時間内でのグループトークなどアクティブラーニングの要素を導入する。講義の最後にリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第 2 回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第 3 回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO) と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO) の活動について概観する。
第 4 回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われている民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第 5 回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第 6 回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第 7 回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第 8 回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩　激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第 9 回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第 10 回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第 11 回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。

第 12 回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第 13 回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第 14 回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】
斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー、中間レポートと期末試験による。成績配分はリアクションペーパー 15%、中間レポート 15%、期末試験 70%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
映像の利用はおおむね好評であるが、一方で映像が長いと集中が阻害されるとの声もあった。映像を利用するしないにかかわらず、講義が単調なものとならないように、学生の集中力を高めるための工夫やメリハリをつけることを考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ケ原　啓介

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】
環境ビジネスを構成する多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要な分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、汎用性の高いツールとしてファイナンスの基本的な視点を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。その際、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第 2 回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第 3 回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第 4 回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRR などの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第 5 回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第 6 回	ケース１：再生可能エネルギービジネス 1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第 7 回	ケース２：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO などを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第 8 回	ケース３　リサイクルビジネス 1 ／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第 9 回	ケース３　リサイクルビジネス 2 ／企業分析プレゼン②	前回の続き。

第 10 回	ケース４：土壌汚染対策ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第 11 回	ケース５：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第 12 回	ケース６：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第 13 回	ケース７：ＥＳＧ投資と環境ビジネス１／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
第 14 回	ケース７：ＥＳＧ投資と環境ビジネス２/企業分析プレゼン⑦	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ファイナンスと聞くと身構えてしまいがちですが、予備知識は一切不要です。むしろ復習を重視して下さい。自分が関心のある業界／企業が環境問題にどのように関わっているか、問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。講義では、受講生数次第ですが、単独あるいはチームで担当する企業の環境ビジネスについて分析・プレゼンしてもらいます。教室での質疑、講師からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が望まれます。なお、必要な資料等は原則として授業支援システム等を通じて配布します。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。
講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。

【参考書】
環境省　環境経済情報ポータルサイト
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
授業の一環であるプレゼンテーションへの参加と内容・貢献度（50 %）と、講義に関連して理解度を確認するため複数回課す予定の事前課題の提出（30 %）、平常点（20%）から、総合的に判断する。なお、プレゼンテーションに関して個別指導を行う関係上、受講希望者が多い場合に人数調整を行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションに関してチーム制をとる場合、受講生の学年等に偏りが出ないように留意するとともに、講義の中でチームメンバーが顔合わせを行う機会を設けるなど、その後のチームワークの円滑化を図る。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
分析・プレゼン社数は６～７件を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。また、事前課題として、ベンチャー企業の取り組み事例などに関する資料を講義で配布し、次の講義までに簡単なレポートを課す。できるだけ多くの事例に触れることで理解を深める趣旨だが、このレポートの提出も成績評価上重要な位置づけになる。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

POL200HA

平和学

山本　和也

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
内戦・テロリズム・難民が、ニューストピックにならない日はありません。このことは、第二次世界大戦後に誕生した平和学がますます重要になっていることを意味しています。本講義では、平和学の基本的内容を習得するとともに、上述のような現代的諸問題への理解を目指します。

【到達目標】
第一に、平和学誕生の背景、その学術的特徴、平和学が考える「平和」や「平和主義」の意味といった、平和学の学問的内容を習得します。第二に、それらの知識をもとにして、核兵器、貧困、平和構築といった具体的な課題を考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式で行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	平和学とは何か	平和学の学術的背景、課題、特徴を概説する。
第 2 回	平和主義の諸類型	平和学と密接に関連する「平和主義」の概念を概観する。
第 3 回	義務論の平和主義:市民	義務論の倫理からみた平和観を市民の観点から考察する。
第 4 回	義務論の平和主義:兵士	義務論の倫理からみた平和観を戦争従事者の観点から考察する。
第 5 回	目的論の平和主義	義務論とともに有力な平和観である目的論を考察する。
第 6 回	核の抑止と不拡散	20 世紀半ば以降、戦争の意味を根本的に変えた核兵器を考える。核抑止論や核兵器不拡散を目指す歴史を概説する。
第 7 回	紛争の科学的研究	平和学は平和を実現するための実践的視点とともに、学術としての科学的視点を持っている。この回では、平和学が行ってきた戦争阻止のための科学的研究の基礎理論を概説する。
第 8 回	紛争の科学的研究の平和研究への応用	前項で説明した科学的理論の平和研究への適用事例を説明する。
第 9 回	グローバルな経済格差	単に武力紛争がない状態を実現するだけではなく、南北問題といった社会的不平等の根絶は、平和学の重要なテーマであり続けてきた。ここでは、その近代史を概観する。
第 10 回	1 次産品の生産国と消費国	フェアトレードという公正な 1 次産品の取引が認識されるようになって久しい。本講では、VTR を通じてこの問題を考察する。
第 11 回	小型武器の拡散問題	内戦終了後も、ライフルや小銃といった小型武器は、回収されず紛争後の社会の安全を脅かし続けている。本講では、この問題を解説する。
第 12 回	人道援助・人道的介入・平和構築	紛争中の人道支援、紛争を強制的に停止させるための介入、紛争後の社会の安定化を目指す平和構築を概観する。
第 13 回	多元的問題としての水資源	水資源をめぐる諸問題は、単に環境問題にとどまらない。その実態を VTR を通じて考察する。
第 14 回	まとめ	半期の学習内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
平和学が対象とする問題は、ニュースで日々報道されているものが多くあります。日頃から新聞などを読みながら、上の授業計画で取り上げた話題に関心を持っておく必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】
講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (80%) と毎回の小テスト (20%) による。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料を用いて、学生のより具体的な事例に対する理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】
特になし。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

POL300HA

人間の安全保障

山本　和也

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際的な観点からの安全保障といえば、かつては国家同士の武力紛争問題でした。しかし現代では、地球上に存在する一個人に視点を合わせ、安全保障を考えます。本講義では、この「人間の安全保障」について体系的に学習します。

【到達目標】
安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家の政策、人間の安全保障問題に対する具体的な取り組みを包括的に理解します。これによって、日本で生活している人々のみならず、世界中の人々を同じ視点で見つめる感性を醸成し、グローバルに政治経済社会問題を捉えることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義 (教員による話) および映像資料を用いて行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「人間の安全保障」とは何か	人間の安全保障とはどのようなものかについて、全体像を概説し、既存の学問分野との関係を説明する。
第 2 回	「人間の安全保障」論の背景	従来の安全保障の考え方に加えて、人間の安全保障という主張が行われるようになった背景を解説する。
第 3 回	「人間の安全保障」論の展開	1990 年代から現在までに、「人間の安全保障」論がどのように発展してきたかを概観する。
第 4 回	人道活動の概要・歴史・課題	19 世紀までさかのぼり、人道活動の歴史と課題を考察する。
第 5 回	国際法と人間の安全保障	人間の安全保障の発展は、国際法による戦争の位置づけの変遷と不可分である。この回では、これを学ぶ。
第 6 回	人間の安全保障と日本	戦後日本の平和主義と人間の安全保障は、密接に関連している。この回では、人間の安全保障に対する日本政府の取り組みを概説する。
第 7 回	難民支援と国際機関	国連をはじめとする国際機関は、人間の安全保障の実現を目指す主要な主体である。この回では、国際機関の取り組みを概説する。
第 8 回	ホームグロウンテロリズム	最近、ホームグロウンテロリズムと呼ばれるテロ行為が関心を集めている。本講では、これを解説する。
第 9 回	受け入れ国と社会	EU の分裂危機にみられるように、移民問題は現在の人間の安全保障の主要な関心事である。この回では、移民受け入れ国の旧来の市民の立場からこの課題を考察する。
第 10 回	平和構築と課題	国連 PKO 活動などの平和構築は、人間の安全保障の主要課題である。この回では、国連 PKO 活動の課題を考察する。
第 11 回	感染症問題	エボラ、鳥インフルエンザなどの爆発的感染の発生 (パンデミック) は、人類に対する最大の脅威のひとつである。この回では、この問題に対する国際社会の対応の課題を考察する。
第 12 回	自然災害	大地震や巨大台風がもたらす災害もまた人間の安全保障のテーマである。この回では、この課題に対する国際ボランティアの取り組みをみていく。
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題は、武力紛争などとは縁遠い先進国の人々にも直接関係する人間の安全保障問題である。この回では、地球温暖化問題を取り上げ、各国の取り組みを概観する。

第 14 回　まとめ　　全体の振り返りと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
人間の安全保障を実現すべく取り組まれている諸問題は、われわれの身近にあります。新聞やニュースをみる際には、これら諸問題に対して常に関心を持っておく必要があります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】
講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70%)、毎回の小テスト (30%)

【学生の意見等からの気づき】
人間の安全保障の諸課題を具体的に理解できるように、映像資料を多く用います。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】
特になし。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズⅠ

池原　庸介

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模の環境課題である気候変動問題、およびその抑制を目的とした対策は、社会を構成するすべての人間活動や生態系に影響を及ぼします。気候変動問題に軸足をおいた国内外の政策動向や、いわゆる非国家主体と呼ばれる自治体・企業・投資家・NPO（非営利組織）等の取り組みに焦点をあてて講義を行います。

【到達目標】
履修者は、気候変動問題を正しく理解し、2015 年に成立した国際枠組み『パリ協定』の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいるか、政府や企業、非営利組織など様々な観点から、包括的に理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みの全体像を概観します。
まず最初に、気候変動問題の実情と科学的な将来予測などについて学び、この問題の解決に向けて国連会議でどのような議論・交渉が行われているかを理解します。さらに、パリ協定において重視されている非国家主体が進めている脱炭素社会に向けた様々な取り組みと意義について理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 深刻化する気候変動問題	講義の進め方 気候変動問題とは
2	気候変動の科学①	IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第 5 次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
3	気候変動の科学②	予測される気候変動の影響
4	国連気候変動枠組み条約と国際交渉	国際的な気候変動交渉の流れ
5	京都議定書下での政策動向	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
6	パリ協定の成立	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
7	パリ協定下での各国の政策動向	主要各国の気候変動・エネルギー政策
8	日本の気候変動・エネルギー政策	日本の中長期目標と課題、世界からの評価
9	非国家主体による気候行動①	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
10	非国家主体による気候行動②	世界の産業界の動向、意欲的な各種イニシアチブ
11	非国家主体による気候行動③	ESG 投資、化石燃料に対する投資引き上げ
12	世界のエネルギー政策	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
13	再生可能エネルギー普及拡大の動き	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用
14	試験、まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義資料は、次の授業までに必ず復習をしておきます。後の授業の理解度が高まります。
※ 気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは企業の取り組みやエネルギーなど関心のあるところから学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要です。下記の参考書を活用し、徐々に全体像をとらえるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
毎回、担当教員が作成した印刷資料を配布します。

【参考書】
●小西雅子 『地球温暖化は解決できるのか―パリ協定から未来へ!』　岩波ジュニア新書、2016 年
●諸富徹、浅岡美恵 『低炭素経済への道』　岩波新書、2010 年
●槌屋 治紀 『これからのエネルギー』　岩波ジュニア新書、2013 年
●小宮山 宏、山田 興一 『新ビジョン 2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』 日経 BP 社、2016 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト含む）： 50%
期末試験 ： 50%
講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
担当教官の経験等に基づく国連会議の話題や企業の取り組み事例などが分かり易かったとの反応が多かったため、今年度もそうした内容を盛り込むように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載します。それらを閲覧する場合はパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）の履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨します。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズⅡ

池原　庸介

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境マネジメントスタディーズⅠで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の違法伐採や水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境に与えている負荷を理解し、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深めていきます。

【到達目標】
履修者は、人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、毎回様々なトピックの資料を読み議論を行う演習（ゼミ）形式で理解を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス エコロジカルフットプリント	LPI（生きている地球指数）、EF（エコロジカル・フットプリント）を通じて地球環境の現状を理解
2	気候変動問題の解決に向けて	パリ協定、脱炭素に向けた世界の取り組み
3	企業の温暖化対策①	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点
4	企業の温暖化対策②	発表とディスカッション
5	企業の温暖化対策③	発表とディスカッション
6	企業の温暖化対策④	発表とディスカッション
7	企業の温暖化対策⑤	発表とディスカッション
8	企業の温暖化対策⑥	発表とディスカッション
9	持続可能な森林資源の活用に向けて①	森を守る調達・消費行動
10	持続可能な森林資源の活用に向けて②	森を守る調達・消費行動
11	持続可能な森林資源の活用に向けて③	ロールプレイとディスカッション
12	持続可能な水産資源の活用に向けて①	海を守る調達・消費行動
13	持続可能な水産資源の活用に向けて②	海を守る調達・消費行動
14	試験、まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業の温暖化対策については、下記の【参考書】に示す『企業の温暖化対策ランキング』の報告書の中から関心のある業種を選び、少しずつ読み進めていきます。各社の取り組みレベルを見極める力が養われ、この分野の理解が深まります。
※ 気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは関心のある分野から学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要です。日ごろから、関連するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくことも大切です。

【テキスト（教科書）】
原則として、担当教員が作成した印刷資料を配布します。

【参考書】
● WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、食料品編など）
※ 各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
https://www.wwf.or.jp/activities/2017/10/1392731.html
● WWF『生きている地球レポート 2016』
※ レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
https://www.wwf.or.jp/activities/2016/10/1341727.html
●小西雅子 『地球温暖化は解決できるのか―パリ協定から未来へ!』　岩波ジュニア新書、2016 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点 ： 50%

②期末試験 ： 50%
①企業の環境対策について調査し発表します（調査するポイントなどについては、授業内であらかじめ解説します）。
②各回で取り上げた内容を通じて地球環境の実情を理解し、与えられた課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発表とグループディスカッション、ロールプレイなどを通じて、結果的にとても理解が深まったという声が数多くあったため、今年度も継続してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載します。それらを閲覧する場合はパソコンが必要です。また、発表資料の作成にもパソコンが必要。

【その他の重要事項】
環境マネジメントスタディーズⅠ（春学期）を事前に履修することを推奨します。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

LAW200HA

行政法Ⅰ

横内　恵

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政法とは、行政の活動を根拠づけたり規制したりする法の体系です。本講義ではそのうち、行政の組織のあり方や、行政法の基本原則、行政活動の類型などについて、具体例を示しながら解説します。

【到達目標】
行政の様々な活動を法的に理解・考察できるようになることを、本講義の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメと教科書に沿って、判例集を参照しながら授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、行政組織の基礎概念	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	国の行政の仕組み、地方の行政の仕組み	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	法律による行政の原理	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	行政法の一般原則	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	行政の規範定立	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	行政行為（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	行政行為（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	行政契約	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	行政指導	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政計画	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	行政の実効性確保手段	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	行政裁量	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	行政手続	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	期末試験	授業内で期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に教科書の該当箇所を読んできてください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。

【テキスト（教科書）】
北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第６版〕』（法律文化社、2017 年）。

【参考書】
・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017 年）。
・六法：三省堂「デイリー六法」、又は、有斐閣「ポケット六法」（いずれも、最新版）。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。
「行政法Ⅱ」の履修希望者は、先に本講義を履修してください。
２０１７年度以前に「行政法の基礎」の単位を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナブルコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

行政法Ⅱ

横内　恵

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「行政法Ⅰ」の授業内容を前提として、違法または不当な行政活動を是正したり、国民の権利を保護したりするための救済制度について、具体的な事例を取り上げながら解説します。

【到達目標】
行政と国民の間の紛争をいかに法的に解決するかについて、論理的に考えられるようになることを本講義の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメと教科書に沿って、判例集を参照しながら授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政救済法概説	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	取消訴訟：処分性	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	取消訴訟：原告適格	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	取消訴訟：判決の効力	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	無効等確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	不作為の違法確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	当事者訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	民衆訴訟・機関訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政不服審査制度	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	国家賠償法：公権力の行使、公の営造物	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	国家賠償法：違法性、故意・過失	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	国家賠償法：規制権限不行使	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	期末試験	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に教科書の該当箇所を読んできてください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。

【テキスト（教科書）】
北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第６版〕』（法律文化社、2017 年）。

【参考書】
・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017 年）。
・六法：三省堂「デイリー六法」、又は、有斐閣「ポケット六法」（いずれも、最新版）。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義は、「行政法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナブルコース（旧・地域環境共生コース）

SOC200HA

現代社会論Ⅰ

田中　勉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「現代社会を人間行動の視点から考える」

【到達目標】
この講義では人間の行動 (行為) のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の行動（行為）を社会学の視点から考察するための「枠組み」となる諸概念について解説する。また、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因についていくつかの研究を紹介する。さらに、環境問題や都市問題という現代の社会問題を「行動（行為）」の集合的帰結と捉え、そのメカニズムを論じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とは何か？	「社会」はどのように認識されるのか。「人々の共同生活」としての社会への多角的な視点の意味を考える。
第 2 回	人間行動を考える枠組み (1)	「欲求」「規範」「同調」「逸脱」概念から人間の行動を考察する
第 3 回	人間行動を考える枠組み (2)	「地位」「役割」「社会関係」「集団・組織」概念により、人間の行動が生起する場を考える。
第 4 回	行動と文化 (1)	「文化」とは何か、行動に形を与えるものとしての「文化」。
第 5 回	行動と文化 (2)	「文化のダイナミズム」への視点。文化の変容・衰退、新たな文化の出現。
第 6 回	行動と文化 (3)	「文化相対主義」と「エスノセントリズム」。 文化を見る目の相対化。異文化理解と文化伝播・文化借用の事例。
第 7 回	情報と行動 (1)	「予言の自己成就」、「意図せざる結果」が生じるメカニズムとその事例。
第 8 回	情報と行動 (2)	「予言の自己破壊」、「警鐘を鳴らす」ことの有効性とその事例。
第 9 回	「社会的ジレンマ」(1)	「共有地の悲劇」、私益と共益の相克。合理的な個別利益追求行動と社会的帰結。
第 10 回	「社会的ジレンマ」(2)	「社会的ジレンマ」のメカニズム。「 ジレンマゲーム」にみる行動主体間の選択とその結果。
第 11 回	「社会的ジレンマ」(3)	ジレンマと相互信頼。「囚人のジレンマ」のメカニズムと行動主体間の「信頼」構築の可能性。
第 12 回	「環境配慮行動」の考察。	環境意識は配慮行動を生み出すか、をめぐる研究事例。
第 13 回	「環境配慮行動を促進する仕組み作り」の可能性。	「心理的方略」と「構造的方略」の具体例と実現可能性の検討。
第 14 回	まとめ－人間の行動と社会。	社会を人間の社会行動の集積として考える意義の再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いない。

【参考書】
奥村 隆,2014,「社会学の歴史Ⅰ」有斐閣
藤村正之,2014,「学ぶヒント」弘文堂
友枝ほか,2017,「社会学のエッセンス」有斐閣
山岸俊男,1990,「社会的ジレンマのしくみ」サイエンス社
土場・篠木,2008,「個人と社会の相克」ミネルヴァ書房
このほか開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
質問メモを提出してもらい、講義の中で回答します。

【その他の重要事項】
環境問題は「社会」の中で起こる問題群のひとつです。私たちがどのような「社会」を作っているのか、を考えることはこの学部での学習の基礎となります。人はなぜそう振る舞うのか、なぜこのようには行動しないのか？ 社会学的思考法を身につけ、柔軟で多様な見方から考えてみよう。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

田中　勉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会へのマクロな視点からのアプローチ～少子・高齢社会を生み出したもの～

【到達目標】
本講義は、1960 年代から今日までの約 50 年間における日本社会の変動を各種社会統計によって確認し、なぜそのような変化が生じるのかの検討を通して、社会諸領域の変動の相互連関を理解することを目標とする。また、統計データの検索法・利用法を学び、その読解力を身につけ、実証的で論理的な思考力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について解説する。次いで、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化の様相を取り上げ、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題する。統計資料を配付し、データを読み取り解釈する方法について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「社会変動」という視点	社会構造および社会変動概念により明らかにできることは何か。
第 2 回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか。変化を捉える方法について考える。
第 3 回	近代化・産業化（工業化）	産業構造・就業構造の変化。農業社会から産業社会への移行。
第 4 回	経済成長と「豊かな社会」	経済成長をとらえる指標。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第 5 回	生活と仕事の変化 (1)	性別・年齢別の労働力率の変化。働き方の変化と生活様式のかかわり。都市への人口移動と就業形態の変化。
第 6 回	生活と仕事の変化 (2)	「従業上の地位」の変化。雇用労働の進展と職業構造の変化。
第 7 回	生活と仕事の変化 (3)	女性の働き方の変化とライフサイクル。女性労働におけるM字型カーブとその要因。
第 8 回	生活と仕事の変化 (4)	高齢化と産業社会。高齢者と仕事、その現状と将来像。
第 9 回	生活と仕事の変化 (5)	働き方の変化と家族生活。家族（世帯）構成の変化。
第 10 回	人口の変化 (1)	人口転換モデル。国勢調査に見る人口の量と構造の変化。
第 11 回	人口の変化 (2)	少子・高齢社会の出現。合計特殊出生率の低下・未婚率上昇の要因。
第 12 回	人口の変化 (3)	出生率・死亡率、自然増加率の推移。「人口減少社会」の到来。人口減少の何が「問題」なのか。
第 13 回	人口の変化 (4)	少子化・高齢化の国際比較。産業化と人口構造変動の連関。
第 14 回	まとめ	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。「社会を見る目」の重要性。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】
特になし。授業時に担当教員が作成した資料（人口・世帯・地理的移動・労働・教育などに関する社会統計）を配布する。

【参考書】
数理社会学会,2014,「社会学入門-社会をモデルで読む」朝倉書店
井上・伊藤編,2008,「社会の構造と変動」世界思想社
河野稠果,2007,「人口学への招待-少子・高齢化はどこまで解明されたか」中央公論社
山田・小林編「ライフスタイルとライフコース」新曜社
「人口の動向－日本と世界－」国立社会保障・人口問題研究所

「データで見る県勢」（財）矢野恒太記念会
＊このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】
定期試験を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
スタディ・クエスチョンの回数を増やし、受講者の授業参加度を高める。

【その他の重要事項】
「なぜそのような変化が生じるのだろう？」と考える姿勢を持とう。「現代社会論Ⅲ」も履修することをお薦めします。

【関連の深いコース】
すべてのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

田中　勉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における家族と地域の変動を考える

【到達目標】
「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」における変動がテーマである。1960～2010 年の各種社会統計を用いて実証的に考察することを目標とする。「誰と」「どこで」暮らしているのか、その暮らし方はどのように変化してきたかを確認し、なぜそのような変化が生じたのかを考える。家族と地域に関する基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
高度成長期の「離村向都現象」が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけながら実態を把握し、その結果生じた「過疎と過密」の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られる生活スタイルの変化を「家族・世帯」の視点から取り上げる。このような変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、という問いから考える。統計資料を配付し、データを読み取り解釈する方法について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろう。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第 2 回	家族とは？	社会集団としての家族の構造と機能。
第 3 回	「家族」と「世帯」概念	「家族」と「世帯」概念の違い。世帯統計で家族を捉える際の問題点。
第 4 回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は進展しているか？ 世帯員数の減少とその要因。
第 5 回	少子高齢社会における家族	少子・高齢化と家族生活の変化。単独世帯・夫婦のみ世帯の増加とその要因。
第 6 回	家族機能の変容	家族は必要でなくなるか？ 家族機能の社会機関への委譲。機能の喪失か純化か。
第 7 回	家族が生活する地域の変動	「地域社会」という概念。地域社会という概念で何を考えようとしているか。
第 8 回	都市とは？	都市をとらえる視点。都市の形態と機能。都市の魅力。
第 9 回	産業化・工業化と都市化	経済成長と人口移動。産業構造の変動と人々の居住域の移動。
第 10 回	離村向都現象	ムラからマチへ。都市化の進展をもたらす要因。「社会増加率」の推移で捉える。
第 11 回	都市への人口集中	都市の拡大と過密。都市問題の発生。DID 地区の人口・面積割合。
第 12 回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会。非都市域へ浸透する都市的生活様式。
第 13 回	農山村地域の変貌	過疎と少子・高齢化問題。農山村の変化の背景を見る。
第 14 回	農業と地域の諸問題とその解決	「限界集落」の実態と新たな動き。第一次産業地域の将来展望を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いない。

【参考書】
蓮見音彦,2012,「現代日本の地域分化」東信堂
岩間ほか,2015,「問いからはじめる家族社会学」有斐閣
森岡・望月,2011「新しい家族社会学」培風館
植田今日子,2016,「存続の岐路に立つむら」昭和堂
徳野・牧野・松本ほか,2015,「暮らしの視点からの地方再生」九州大学出版会
小島・西城戸編,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
＊このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】
定期試験を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
講義への疑問・質問を出してもらう回数を増やします。

【その他の重要事項】
なぜそのような変化が生じるのだろう、と考える姿勢を持とう。「現代社会論Ⅱ」も履修することをお薦めします。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

ＮＰＯ・ボランティア論

川崎　あや

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＮＰＯ（Nonprofit Organization）は、市民によって設立・運営される非営利組織で、多様な分野で、行政や企業が取り組みにくい社会問題の解決や公益的なサービスに取り組んでいます。日本でＮＰＯが注目されるようになって２０年あまりが経ちました。市民はＮＰＯに、ボランティアなどの様々な形で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。この授業では、ＮＰＯやその担い手についての理解を深めることを通して、現代社会の様々な課題を探るとともに、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように関わっていくのかを考える機会とします。

【到達目標】
・ＮＰＯの意味、歴史、運営、財源、行政や企業との関係などについて理解を深める。
・ＮＰＯに関わる人々（設立者、ボランティア、寄付者、その他の支援者等）が、どのような思いでＮＰＯに関わるのかを考察する。
・ＮＰＯが取り組んできた課題を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもつ。
・ＮＰＯの役割や存在意義、ＮＰＯが活動・発展する上での課題を考える。
・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また受講生自らも含めて、市民一人ひとりが、社会とどのように関わるべきかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
・毎回、リアクションペーパー（感想・質問）を任意で提出してもらいます。質問については、次回の授業の冒頭でコメントします。
・ＮＰＯに参加し活動している学生から、報告してもらう時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方 ・受講者の関心調査
第 2 回	ＮＰＯの基礎知識～ＮＰＯとは何か	・ＮＰＯの意味と意義 ・ＮＰＯとボランティアの関係 ・ＮＰＯとＮＧＯ ・非営利の意味
第 3 回	市民社会の変遷とＮＰＯ	・日本における市民社会の歴史 ・市民活動からＮＰＯへの変遷
第 4 回	NPO の社会的役割～事例を通して①	・映像でさまざまなＮＰＯの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPO の社会的役割を考える。
第 5 回	NPO の社会的役割～事例を通して②	・映像でさまざまなＮＰＯの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPO の社会的役割を考える。
第 6 回	ＮＰＯ法人制度（NPO 法の目的と内容）	・ＮＰＯ法とは ・ＮＰＯ法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・公益法人制度改革
第 7 回	ＮＰＯのミッションと組織	・ＮＰＯのミッションを実現するための組織構造 ・市民の多様な関わり方 ・行政組織や企業組織との違い
第 8 回	ＮＰＯの財政と税制優遇	・ＮＰＯの財政構造 ・財源の多様性と特性 ・ＮＰＯにとって寄付の重要性 ・認定ＮＰＯ法人制度
第 9 回	ＮＰＯとボランティア～なぜＮＰＯにボランティアが集うのか	・ＮＰＯにおけるボランティアの重要性 ・社会参加・自己実現の場としてのＮＰＯ
第 10 回	ＮＰＯと雇用～ＮＰＯで働く人たち	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・ＮＰＯの就労実態 ・ＮＰＯの職域

第 11 回	ＮＰＯによる社会変革～ＮＰＯと政治・ＮＰＯの政策提案	・ＮＰＯと政治の関係 ・政策提案による社会変革の担い手としてのＮＰＯの役割 ・中間支援組織の役割
第 12 回	セクター間連携～ＮＰＯと行政	・自治体のＮＰＯ支援施策 ・行政とＮＰＯの協働
第 13 回	セクター間連携～ＮＰＯと企業、ソーシャルビジネス	・ＮＰＯと企業の共通点、相違点 ・ＮＰＯと企業の協働 ・ソーシャルビジネス（社会的起業）とＮＰＯの関係
第 14 回	授業の振り返りと補足	・全体を通しての授業の振り返り ・学生の関心の高かったテーマについての補足、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキスト（教科書）は必ず購入し、授業の前後にテキストの該当ページをよく読むこと。
・各回のレジュメ（パワーポイント資料）は、授業支援システムに掲載しておくので、欠席の場合も、各自でレジュメとテキストで授業内容を理解しておくこと。
・各自で、関心のある分野のＮＰＯの事例などを、インターネット等で調べたり、実際に活動に参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
「市民社会とＮＰＯ」　かながわ女性会議発行　６００円

【参考書】
「市民社会と自己実現」広岡守穂著　有信堂　２５００円＋税
「知っておきたいＮＰＯのこと基本編」日本ＮＰＯセンター発行　５００円

【成績評価の方法と基準】
定期試験（論述式。テキスト・レジュメ等の持ち込み可）を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか（３０％）、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか（５０％）、③考えを整理してわかりやすく論じられているか（２０％）、を重視して評価する。
※毎回のリアクションペーパーの提出回数や記述内容は、成績評価に影響しません。

【学生の意見等からの気づき】
ＮＰＯにボランティア等で参加している学生が自らの経験を報告することが、他の学生にとって興味深く、刺激になるようです。ＮＰＯ等での活動経験がある学生には、ぜひ積極的に報告し、活動のＰＲもしてもらいたいと思いますので、リアクションペーパー等で申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

フィールド調査論

西城戸　誠

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査に限らず、「調べる」ことは私たちが日常的に行って営みであり、物事を多様な方法で知ることは、個々人にとっても社会にとっても重要なことである。本講義では、社会調査に関わる基本的な知識、技術を習得することによって、「調べる」ことの重要性、社会科学の基本的な考え方、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理を学ぶ。仮説の設定、調査票の作成、リサーチデザインの作成については受講者を個別に指導する。さらに方法論の観点から実証研究を評価する視点を学び、現代の社会について主体的に考察する方法を講義する。

【到達目標】
さまざまな社会調査の基本的な知識、技術について修得をすることが授業の到達目標である。社会科学の基本的な考え方、社会調査や調査倫理といったリサーチリテラシーに加えて、メディアリテラシーの基礎も学習し、現代の社会について主体的に考察する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者のグループワークまたは個人的な作業も同時に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。また、社会調査とは何か、その歴史的展開と学ぶ意義を講義する。
第 2 回	社会調査とは何か（2）問題関心と「問い」	社会調査における問題関心と「問い」の作り方について講義する。
第 3 回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	社会調査を企画・設計するための既存資料へのアクセス法と活用術について説明する。
第 4 回	社会科学の方法の基礎（1）－「説明」「記述」	社会調査においての「記述」と「説明」について講義する。
第 5 回	社会科学の方法の基礎（2）－「因果関係」「仮説」	「概念」、「変数」、「因果関係」、「仮説」などについて講義する。
第 6 回	量的調査入門（1）－サンプリングの原理	サンプリングの考え方、原理について講義する。
第 7 回	量的調査入門（2）－量的調査の一連の流れを学ぶ	調査の企画・設計と調査票作成のプロセスを説明する。
第 8 回	量的調査入門（3）－仮説から調査票を作成する	仮説の設定と、概念の操作化を経て調査票を作成するプロセスを学ぶ
第 9 回	量的調査入門（4）－ワーディングと調査票作成	ワーディングを学び、調査票を具体的に作成する。
第 10 回	フィールドワーク入門（1）－質的調査の概要	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する。
第 11 回	フィールドワーク入門（2）－インタビューの技法	インタビューの種類と実践について講義する。
第 12 回	フィールドワーク入門（3）－質的データの整理	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する。
第 13 回	フィールドワーク入門（4）－質的調査の実際から方法を学ぶ	質的調査の具体例から、質的調査の方法を実践的に学ぶ。
第 14 回	2 つの調査方法論の比較	量的、質的調査の相違点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対してグループワークまたは個人的な作業を求める。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布
佐久間充, 1984, 『ああダンプ街道』岩波新書.

【参考書】
宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書.
高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書.

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、講義中の課題提出（30 %）、最終レポートの提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】
場合によっては PC を用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

【その他の重要事項】
本講義の定員は 30 名である。受講希望者は第 1 回目の講義で決定する。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

フィールド調査論

田中　勉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「社会調査の方法」を学ぶ

【到達目標】
この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②「リサーチ・リテラシー」（調査結果を批判的に検討する能力）を高め、調査の限界と問題点、「調査者の倫理」などを学ぶ、ことにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。次に調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査プロセスにおける課題をあげ、①面接調査法、②調査票調査法、を中心に調査事例を交えて紹介しながら調査技法を講義する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」がおり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第 2 回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査で何がわかるのか、調査の限界。「リサーチ・リテラシー」とは何か。
第 3 回	調査の方法	課題を提示、社会現象を「調べる」方法をグループ討議（GW 1）により検討する。
第 4 回	調査を計画する	社会調査のプロセス（調査デザイン、実査、分析、報告）の流れを解説し、調査計画の実際を紹介する。（GW 2）
第 5 回	調査法概説	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法、について解説する。
第 6 回	参与観察法	参与観察による調査の特質、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。フィールドワークによる研究の事例を紹介する。
第 7 回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第 8 回	面接調査法②	面接調査における留意点とこの方法のメリットとデメリットを解説する。「聴き書き」による研究事例を紹介する。
第 9 回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査。サンプルサイズに関する考え方と計算法。サンプル抽出法を類型別に検討する。
第 10 回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第 11 回	質問紙調査法③	調査票の構成。フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第 12 回	質問紙調査法④	「質問文」作成法。ワーディングにおける留意事項。（GW 4）
第 13 回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習①。（GW 5）
第 14 回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習②。（GW 6）グループで作成した調査票の検討。調査の意義と調査者の倫理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いない。講義のトピックスごとに参考文献を紹介する。

【参考書】
原 純輔,2016,「社会調査－しくみと考え方－」左右社
佐藤郁哉,2015,「社会調査の考え方　上・下」　東京大学出版会

大谷ほか編,2013,「新・社会調査へのアプローチ」ミネルヴァ書房、
玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社
佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社
このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】
①受講者数により定期試験もしくは課題レポートで評価する（60 %）。②講義時に行うグループワークへの参加度と作業成果物も評価の対象とする（40 %）。

【学生の意見等からの気づき】
調査票作成のグループワークの時間を増やします。

【その他の重要事項】
受講者数の制限（３０名まで）があります。希望者が多い場合は抽選とします。グループワークを行いますので、欠席しないことが受講条件です。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

社会統計論

藤本　隆史

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】
調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計・分析していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計・分析を行う。データの集計・分析には、統計解析ソフトの SPSS とエクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 5 回	確率分布について・データの加工	確率分布の考え方と、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 6 回	統計的推定について	標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第 7 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 8 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の検定や関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	平均値の差の分析	ｔ検定や分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
SPSS やエクセルを使った集計方法などを復習する。

【テキスト（教科書）】
講義時に適宜紹介する。

【参考書】
講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、授業内で作業した結果（ファイル）を提出してもらう（10%）。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める（30%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う（60%）。

【学生の意見等からの気づき】
分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【その他の重要事項】
パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

ファシリテーション論

三田地　真実

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者 (ステークホルダー) の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要性がある。
その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。具体的な目的は以下の通り。
1. 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
2. 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

【到達目標】
本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：
(1)「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる　（「意味」「意義」を考える）
(2) コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む。
(3) 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）
(4) グループ・プロジェクトとして、ワークショップをデザインし実施、さらに省察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ファシリテーションは実際に話し合いやワークショップの場でどのように実践するかが問われる。そのため、本授業は講義だけではなく、演習を随所に織り交ぜながら進めている。毎回のリアクションペーパーの提出、課題に応じたレポートの提出（随時）がある。また最終プレゼンテーションは、グループプロジェクトとして行うので、授業外での打ち合わせ・準備が必須となる。全体を通してアクティブ・ラーニング型授業として構成されているので、学生の主体的学修が必須である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての 3 つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第 2 回	ワークショップ体験（自己紹介ワークなど）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す ・問いかけの重要性について考える
第 3 回	ワークショップ体験（アイスブレークなど）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第 4 回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第 5 回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の３つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第 6 回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第 7 回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の 10 ステップについて学ぶ
第 8 回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10 ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ

第 9 回	ファシリテーションの本番に向けて（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第 10 回	ファシリテーションの本番（1） ・グループ・ワークショップのリハーサル	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならないことを理解する ・行動計画の書き方
第 11 回	ワークショップのプレゼンテーション	・ワークショップの総仕上げ ・プログラムを簡潔に伝えるためのプレゼンテーションを実施
第 12 回	ファシリテーションの本番（2） ・グループ・ワークショップ（1）	・グループにてワークショップを実施（第１回）
第 13 回	ファシリテーションの本番（3） ・グループ・ワークショップ（2）	・グループにてワークショップを実施（第２回） ・ワークショップの省察
第 14 回	ファシリテーション全体のまとめとふり返り	・ファシリテーション全体のふり返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
・様々な場面の観察実習など

【テキスト（教科書）】
・「ファシリテーター行動指南書」（三田地真実, ナカニシヤ出版, 2013）

【参考書】
・中野民夫・三田地真実（2016）「ファシリテーションで大学が変わる！」、ナカニシヤ出版
・中野民夫（2003）「ファシリテーション革命」, 岩波アクティブ新書
・三田地真実（2007）「特別支援教育　連携づくりファシリテーション」, 金子書房
・三田地真実（2014）「社会的・環境的変化に応じたキャリア教育」, 星槎大学教員免許状更新講習センター（編著）『共生への学び－先生を応援する教育の最新事情』, 130-142, ダイヤモンド社
・三田地真実（2012）　「『共生』は目の前の人を真に理解するところから～ライフヒストリー曼荼羅図を描く・聴くことの意味～」, 星槎大学共生科学研究会（編）『共生科学研究序説』, 101-121, なでしこ出版

【成績評価の方法と基準】
・平常点：約 60 %　（毎回、出席カードの代わりのふり返りシートへ記入する）
・最終グループプレゼンテーション：約 40 %（グループ、個人での提出物も含む）

【学生の意見等からの気づき】
ファシリテーションの視点から、授業改善のためのワークショップを実施、そこからの意見を以下に紹介します。「自分が社会に出る上で必要なスキルが学べた」「コミュニケーション能力があがった」「毎回の授業で目的が定められていたので、非常にわかりやすく授業が進んでいたと感じる」など、実践型の授業として一定の評価を受けています。講義型ではない実践型の授業ということで、一定の事前準備が必要であること、グループプロジェクトを実行するために他の学生との協力が必須ですが、様々な活動に対して「時間が足りない」という意見が多く聞かれており、これについてはオンラインのしくみなどを活用していければと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。
・旧科目名称「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

グローカル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on basic communication skills in personal and socialenvironments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】
The aims of the course are:
・to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
・to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
・to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
・to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
・to develop the process of cultural adaptation.
・to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.
Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an internationalsociety. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第 2 回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第 3 回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第 4 回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第 5 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures

第 6 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 7 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第 8 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 9 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 10 回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト（教科書）】
There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】
Jackson, Jane. (2014). Introducing language and intercultural communication. Routledge.
James W. Neuliep. (2014). Intercultural Communication: A Contextual Approach (6th Edition). SAGE Publications.
Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). Intercultural Communication: A Reader (14th Edition). Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).
* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】
There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

ADE300HA

地域形成論

小島　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業における学びにはおおよそ３つの側面がある。第１に、「持続可能な地域社会」に関するより高度な学習への入門的な位置づけである。第２に、地域社会全般はもちろんのこと、国際社会、市場経済、政治行政、文化など、現代社会の多様なテーマについて、地域という視点から読み解く幅広い教養・リテラシーを身につける場という位置づけである。そして第３に、法政大学の長期構想である HOSEI2030 のミッション・ビジョンをふまえて、法政大学（人間環境学部や他の学部）及びそこで学ぶ人々と地域社会の関係性について考えながら、自らのキャリア形成に目を向ける機会とするという位置づけである。

【到達目標】
学生の到達目標は以下のとおりである。
・「持続可能な地域社会」の構想と実践や、より高度な専門的学習に必要な地域学の基礎教養と思考力を身につける。
・地域を手がかりとした現代社会のリテラシーを身につける。
・将来、市民としてあるいは NPO 活動や仕事などを通して、国内であろうと海外であろうと、どこかの地域社会に生きながら、その場所に何らかのかたちでコミットするためのセンスを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
地域学の学際性について概観しながら、この授業のミッションを確認し、さらに参加学生自身がこの授業における学びの目的を設定する。次に、戦後日本の地域形成史をふまえながら、現代における地域社会の多様性と持続可能な地域社会のイメージについて認識を共有する。以上を導入編として、法政大学が立地する東京の過去・現在・未来を取り上げる。その上で、地域の場所性と記憶、地域コミュニティ、地域に関する思想、最先端の地域実践のケースなどを取り上げ、さらに地域とキャリアについて考える機会をつくる。最後に、地域に向き合うことの意味について再考する。
地域社会をよりリアルにとらえるために、全体を通して数名のゲストをお招きする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域を学ぶということ	オリエンテーションとイントロダクション
第 2 回	現代日本と持続可能な地域社会	地域社会と日本の現代史、多様な地域社会の姿、現代の地域課題と「持続可能な地域社会」のイメージ
第 3 回	江戸・東京の軌跡	法政大学が立地する東京（江戸）の都市形成史
第 4 回	東京はどこに向かうのか	巨大都市東京の現在と未来
第 5 回	地域の場所性と記憶	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の交錯とその意味
第 6 回	地域とキャリア (1)	地域環境とソーシャルビジネスの創造
第 7 回	キーワードとしての地域コミュニティ	問題領域でありかつ課題解決の場でもある地域コミュニティ
第 8 回	地域と消費経済	生活者から始まる地域経済のオールタナティブ
第 9 回	地域づくりの最前線 (1)	地域の担い手たち（住民、専門家、来訪者、域外者、NPO、企業、自治体・・・）による参加と協働のドラマ
第 10 回	地域と思想①	地域と向き合った先駆者
第 11 回	地域とキャリア (2)	地域づくりのイノベーター
第 12 回	地域づくりの最前線 (2)	創造的な課題解決と地域社会のイノベーション
第 13 回	地域と思想 (2)	理想の地域社会をもとめて
第 14 回	あらためて地域に向かい合うということ	授業の総括と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下の授業時間外活動を行う。
・配布資料を読みつつ復習を行う。
・授業中に指示した事項について調査する。
・ミニレポート等の演習課題を作成する。
・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】
授業内で、適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、論述試験（70 %）＋参加姿勢（10 %）＋ミニレポート（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
・ローカル・サステイナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目であり、また基幹科目ですから、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にありますので、２つのコース登録者または履登録予定者の履修を強く推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースと人間文化コース以外にもサステイナブル経済・経営コースなどでの学びでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

地域福祉論

宮脇　文恵

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1.　自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2.　地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】
人は誰もが，幸せでありたいと漠然と願っている。それは，自分が暮らしたい場所で，豊かな人間関係に囲まれ，他者から必要とされ，充実した毎日を送り，「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で，「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。
地域福祉は，地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり，そのためには，住民自身が「我が町を，住んで都にする」という意識を持ち，自分ができることを働きかけていくことが求められる。
本講義では，そのための基礎的な知識として，福祉的なニーズを抱える人たちに対する理解と，地域に存在する社会資源，助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって，自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し，実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
地域福祉とは，「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり，そのためのしくみをつくり，お互いに働きかけ合っていくこと」である。では，どんな人が大変な思いをしているのか，どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷，ひきこもり，LGBT，外国人移住者など）などへの理解を深め，地域で支え合うための技法と，地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス〜講義の概要とポイント〜	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第 2 回	地域福祉とは何か	地域福祉の理念を学び，国際生活機能分類 (ICF) に基づいて，「本人と他者 (地域社会) との関わり」を考える。
第 3 回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで，社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと，お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第 4 回	町に暮らす人々(1)〜認知症と地域社会〜	認知症高齢者，若年性認知症当事者の事例から，認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第 5 回	街に暮らす人々(2)〜高齢者と地域社会〜	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ，地域社会の関わりを考える。
第 6 回	街に暮らす人々(3)〜子ども・家庭と地域社会①〜	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える
第 7 回	街に暮らす人々(3)〜子ども・家庭と地域社会②〜	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー，子ども・家庭の貧困をとりあげ，地域社会との関わりを考える。
第 8 回	街に暮らす人々(4)〜生活困窮者と地域社会〜	野宿生活者の現状と社会の偏見，地域における支援の取り組みについて学ぶ
第 9 回	差別と偏見を見つめる	ナチスによる障害者虐殺，日本におけるハンセン病患者隔離政策などから，地域における差別の歴史を学ぶ
第 10 回	街に暮らす人々(5)〜障害者と地域社会①〜	これまで差別されてきた障害のある人について，身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第 11 回	街に暮らす人々(5)〜障害者と地域社会②〜	これまで差別されてきた障害のある人について，精神障害・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第 12 回	街に暮らす人々(6)〜LGBT と地域社会〜	15 人に 1 人と言われる LGBT への理解と，地域社会で共に生きる方策を探る

第 13 回	地域福祉の推進主体)～社会福祉協議会、社会福祉法人，NPO、民生委員・児童委員、保護司	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第 14 回	地域福祉推進における住民参画～福祉教育，地域福祉計画，ソーシャルサポートネットワーク	住民参画の方法として，福祉教育と地域福祉計画をとりあげ，住民の福祉意識の醸成と，見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また，地域住民の身近な支え合いとして，ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
視聴覚教材を多用し、その際に、合計２～３回、小レポートを執筆します。
高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】
くさか里樹『ヘルプマン！』11、12 巻 (講談社)
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』(青泉社)
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』(小学館)　他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (遅刻は授業開始後 20 分まで受付、退室は欠席とみなす)（30%）、テスト（40%）、課題提出 (正当な理由のない遅延は受け付けない。応相談)（30%）。なお、授業態度に関して以下のような行為ー私語、飲食、携帯電話操作、本講義と直接の関わりのない学習や読書などーについては、注意してもやめない場合は減点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】
配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えません）。
レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。
授業内容の記録は、原則的に各自ノートへの手書きとします。タブレット、PC を使用したい学生は、第１回目の授業時に、申し出てください。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

地域コモンズ論

山下　詠子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然資源を共同で管理・利用する仕組み、及び、共同で管理・利用する資源そのものはコモンズと呼ばれる。この授業では、地域の自然資源がどのように管理・利用されてきたのか、コモンズ研究における理論と事例の両方から学ぶ。「公」でも「私」でもない「共」の世界はどのようなものなのか、その背景と論理を知り、身近な問題に引きつけて考える一助とする。

【到達目標】
・コモンズ研究がどのような背景で発展してきたのか、実践的課題と結びつけながら、これまでの研究成果について理解する。
・地域住民共同での資源の管理と利用について、様々な地域資源や様々な地域における実践例について理解する。
・コモンズに関わる身近な問題について、自身の考えを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主とするが、その他にグループワークやレポート課題の発表も行う。
また、毎回リアクションペーパーを回収する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション “コモンズの悲劇” から考える	授業全体の進め方、学習の仕方、評価方法などについての説明をする。また導入として、“コモンズの悲劇” のシナリオを題材に考える。
第 2 回	コモンズとは何か？	コモンズの定義、またコモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかに着目しながら明らかにする。
第 3 回	日本のコモンズ①入会林野（前半）	日本における伝統的なコモンズといえる入会林野について、歴史的経緯を概説する。
第 4 回	日本のコモンズ①入会林野（後半）	前回に続き、入会林野が戦後どのような状況を辿ってきたのか、また現在置かれている状況を概説する。
第 5 回	日本のコモンズ②農業用水	稲作に欠かせない農業用用排水路や溜め池の管理について、事例をもとに講義する。
第 6 回	日本のコモンズ③海	漁業だけでなく生活や文化など多様に広がっている海と人との関わりについて、事例をもとに講義する。
第 7 回	再評価される里山	人々の生産・生活に深く結びつくことで成り立っていた里山が再評価されている。生態面から見た里山、里山保全の活動等について講義する。
第 8 回	諸外国のコモンズ①イギリスのコモンズ	イギリスにおけるコモンズの歴史的展開について講義する。
第 9 回	諸外国のコモンズ②途上国におけるコモンズ（前半）	東南アジア諸国において、自然資源の所有・管理・利用がどのように変遷してきたのかを講義する。
第 10 回	諸外国のコモンズ③途上国におけるコモンズ（後半）	前回に続き、途上国における自然資源の所有・管理・利用がどのような現状にあるのか講義する。
第 11 回	都市におけるコモンズ	伝統的な地域資源としてのコモンズに共通する性格の資源は都市にも存在する。都市におけるコモンズとその管理・利用について講義する。
第 12 回	レポート発表会	グループ内でレポート課題を発表し、発表について講評し合う。
第 13 回	グループワーク	コモンズの性格を持つ自然資源をどのように管理・利用していったら良いか、グループで話し合いを行う。
第 14 回	まとめと振り返り	今までの講義を振り返り、何を学んだのかをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回に配布される参考資料を読んで復習するとともに、新聞等のニュースや日常生活の中で関連するトピックを探す。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
各回の授業にて示す。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 35 %、レポートの内容 45 %、レポートの発表 10%、受講姿勢 10 %、の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ADE300HA

都市環境論Ⅰ

難波　匡甫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅰでは、都市に関わる具体的な視点を通し、都市の見方を構築する。

【到達目標】
新たな局面を迎え、これからの都市づくりの政策に必要な基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論Ⅰでは、都市への興味と探求心を深め、地域の課題発見と改善対策を自律的に導く基礎力を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
いくつかの視点を通して、都市環境に関わる基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論Ⅱで総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。講義では、国内外の都市環境（地形・地質、水、居住、歴史・文化、産業、地域データなど）について、配付資料や映像を活用して多様な事例を紹介し、重層的な都市環境を包括的に捉える。思考訓練および前回の復習のために、ほぼ毎回、授業の初めにミニペーパーを作成提出とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および都市の見方について
第 2 回	都市の見方 視点：地形・地質	地形・地質を通して都市形成を考える
第 3 回	都市の見方 視点：水・水辺	都市の成立・発展に関わる水・水辺を理解する
第 4 回	都市の見方 視点：緑地	都市における緑地の価値を読み解く
第 5 回	都市の見方 視点：居住	住宅地開発の系譜を概観する
第 6 回	都市の見方 視点：境界	都市における様々な境界を考える
第 7 回	都市の見方 視点：用途・機能	用途や機能による都市のあり方を捉える
第 8 回	都市の見方 視点：歴史遺産・景観	都市の記憶や都市美に触れる
第 9 回	都市の見方 視点：文化	都市で育まれる文化について考える
第 10 回	都市の見方 視点：往来	都市を支える人・物・情報インフラを理解する
第 11 回	都市の見方 視点：産業	都市発展における産業の姿を観る
第 12 回	都市の見方 視点：災害	都市形成に関わる災害を取りあげる
第 13 回	都市の見方 視点：地域データ	都市分析における地域データの価値に迫る
第 14 回	まとめ	地域形成史から江戸東京の変遷を捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。
講義における具体的な実感や、テーマに応じての自主的な調査などは、各自のノートにまとめ、授業最初に実施するミニペーパーに積極的に反映させることを推奨する。そのため、ノートには板書の内容に加え、講義に関して自ら気づいた点もあわせてメモすること。また、講義の最後において概説する次回のテーマに関して、下調べ（予習）をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】
多岐にわたるため、講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業でのミニペーパー提出）100 %。定期試験の実施はない。

【学生の意見等からの気づき】
ノートをしっかりとれるよう、板書の方法を工夫する。

【その他の重要事項】
旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ADE300HA

都市環境論Ⅱ

難波　匡甫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、同Ⅰでの個別的な側面の学習を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

【到達目標】
この授業では、都市環境論Ⅰでの目標に加え、新しい都市づくり政策に必要な、都市環境問題への対応や政策を含めた、プランニングに関する基本的な知識や感覚を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
都市環境に関する総合的なテーマにより、都市の現状を把握する。また、実践的な課題についても、各種の理論、法規、技法を踏まえ、都市環境の改善に必要な基本的事項について説明し議論をしていく。理解確認のため、ミニペーパーの作成提出を適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市とは何か、人間重視の都市環境とは何か
第 2 回	都市の背景	都市づくりの前提となる少子化・高齢化
第 3 回	都市の指針	都市づくりにおける国と地方の役割
第 4 回	都市の制度	都市づくりのプランニング（都市計画）
第 5 回	都市の技法	都市づくりの手法・方策（市街地整備）
第 6 回	都市づくり	協働のまちづくり
第 7 回	都市の移動	都市基盤としての交通計画
第 8 回	都市の配慮	都市づくりの優しさとしてのバリアフリー、ユニバーサルデザイン
第 9 回	都市の記憶	都市における歴史資産の保存と活用計画
第 10 回	都市の美学	都市の美しさとしての都市景観計画
第 11 回	都市の緑地	都市づくりに関わる緑地計画
第 12 回	都市の水辺	都市づくりの活力となる水辺計画
第 13 回	都市の防災	都市づくりを左右する防災計画
第 14 回	都市の展望	都市再生ビジョン・コンパクトシティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
都市環境論Ⅰでの議論を踏まえ、各テーマに関する理論、法規等の理解を深めるため、参考となる文献や資料に目を通すことを推奨する。また、復習に役立てるため、板書の内容をしっかりとノートにとること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】
多岐にわたるため、講義時に参考となるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（参照不可）80 %、平常点（授業でのミニペーパー提出）20 %

【学生の意見等からの気づき】
ノートをしっかりとれるよう、板書の方法を工夫する。

【その他の重要事項】
旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ADE300HA

都市デザイン論

田中　大助

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。
住宅設計を通じて、問題を見つけ、解決し、それを第３者に分かりやすく表現する手法を学ぶ。
絵・図・グラフなど視覚的表現が多いレポートを課すことで、文字のみに頼らない多彩な表現力を身に付けてコミュニケーション能力を高める。

【到達目標】
自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品 (住宅の設計) を残すものである。
講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木構造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第 2 回	「棲む」と「住む」の違い	生息する (巣) ことと生活する (家) ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する 第１回目の課題を出題する
第 3 回	住宅設計における建築家と建築技師の違い	建築家（アーキテクト）と建築技師 (エンジニア) の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第 4 回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する 第２回目の課題を出題する
第 5 回	住空間の単位空間（1）（玄関）	玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第 6 回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	居間などの日常生活空間について説明する
第 7 回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第３回目の課題を出題する
第 8 回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第 9 回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第４回目の課題を出題する
第 10 回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第５回目の課題を出題する
第 11 回	課題出題	敷地・家族をを想定して１軒の住宅を考える課題を出題する
第 12 回	住宅事例の紹介	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介 前年までの学生の作品を紹介する
第 13 回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取組み方の指導をオープンで行う
第 14 回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。
授業時間内では単なる知識しか身につかない。
授業時間外の普段の生活を意識することが授業そのものなので、時間外にどれだけ生活を観察し、生活を考えているかが結果に現れる。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配布する。

【参考書】
「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著　彰国社

【成績評価の方法と基準】
授業中の課題（50%）と最後に提出する住宅設計（50%）による総合評価。
出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないので、課題と作品によって全て判断する。
どれだけ素晴しい設計をしたかは重要ではなく、どれだけ考えたかが重要で、作品にそれは全て表れる。
どこかの設計を写したものは直ぐに分かり、ひどい場合には単位を授与しない。
逆に考えすぎて纏まりきらなくても、考えの苦悩は図面を見ると読み取れるので、その場合の方が高得点の場合が多い。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

【その他の重要事項】
課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

環境社会論Ⅰ

西城戸　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別される。本講義では 2 つのアプローチを具体的な事例を用いて講義をしながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、広い視野から環境に関わる諸課題を把握する方法を学ぶ。

【到達目標】
社会学的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
社会学的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害－被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学とは何か？	社会学的なアプローチの概要について講義する。
第 2 回	環境社会学とは何か？	環境社会学の 2 つのアプローチに関する概要を講義する。
第 3 回	日本の環境問題の歴史とその構造（1）－先史から第二次世界大戦まで	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第 4 回	日本の環境問題の歴史とその構造（2）－公害問題から地球環境問題	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第 5 回	日本の環境問題の歴史とその構造（3）－加害―被害構造	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害－被害論と、被害構造論について講義する。
第 6 回	受益圏と受苦圏（1）－概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第 7 回	受益圏と受苦圏（2）－事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第 8 回	環境破壊と社会的ジレンマ（1）－社会的ジレンマ論の概要	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第 9 回	環境破壊と社会的ジレンマ（2）〜事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第 10 回	「水」と生活文化（1）－生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第 11 回	「水」と生活文化（2）－「遠い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第 12 回	「水」と生活文化（3）－河川管理の変遷と公共性	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第 13 回	「水」と生活文化（4）－技術と災害	水害（災害）に対する技術のあり方について講義する。
第 14 回	「水」と生活文化（5）－災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】
鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
論述式の試験（80%）＋平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（20%）

【学生の意見等からの気づき】
教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

西城戸　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会（環境）問題への理解から、民主政治、政治参加、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

【到達目標】
環境問題に関わる社会運動の多様な形や活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について、日本の反原発運動の事例から講義する。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるという側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに応える。最後に再生可能エネルギーを求める市民運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第 2 回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第 3 回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）－リスク社会論	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第 4 回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）－反・脱原発運動の歴史	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第 5 回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第 6 回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（1）－水俣病	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第 7 回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（2）－水俣から福島へ	水俣病を巡る社会運動と、福島第一原発事故に関わる人々の関係について考える。
第 8 回	運動のさまざまな形とその変化（1）－理論	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第 9 回	運動のさまざまな形とその変化（2）－実証と事例研究	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第 10 回	どのように環境運動を展開するのか（1）－資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第 11 回	どのように環境運動を展開するのか（2）－フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第 12 回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）－エネルギー政策と構造	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第 13 回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（2）－コミュニティパワーの展開	市民風車運動・事業を事例として、地域に資する再生可能エネルギー（コミュニティパワー）の普及と環境運動の可能性について論じる。
第 14 回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（3）－今後の政策と課題	日本社会のエネルギー政策と、企業および市民の関わりから、今後のエネルギーと人々の関係性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に参照した文献の講読。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布
大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004 年）

【参考書】
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008 年）
丸山康司・西城戸誠・本巣芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー）』ミネルヴァ書房（2015 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（90%）と平常点（追加レポートなど・10%）

【学生の意見等からの気づき】
教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

環境社会論Ⅲ

西城戸　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性／サステイナビリティにかかわる問題（合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会）に対して、映像資料を用いて具体的な事例を提示する。また、それぞれ具体的な問題点に関する解決策を考える。さらに、これらの議論から、「環境と社会」の社会学を中心とした、持続性学（サステイナビリティ学）を展望する。

【到達目標】
日本国内の事例を中心に取り上げながら、「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性（サステイナビリティ）に関する議論として、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といったテーマにかかわる問題について映像資料を活用した上で、これらの問題の解決策について考える力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点（1）	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第 2 回	合意形成とレジティマシー（1）：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第 3 回	合意形成とレジティマシー（2）：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第 4 回	生業・半栽培・資源管理（1）：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第 5 回	生業・半栽培・資源管理（2）：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第 6 回	生業・半栽培・資源管理（3）：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第 7 回	自然再生と順応的管理（1）：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第 8 回	自然再生と順応的管理（2）：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第 9 回	過疎問題と地域社会（1）：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第 10 回	過疎問題と地域社会（2）：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第 11 回	負の遺産と地域再生（1）：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第 12 回	負の遺産と地域再生（2）：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第 13 回	縮小社会とその課題（1）：「縮小社会」とは何か。	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第 14 回	縮小社会とその課題（2）：構造的問題点と解決策	中山間地域における地域おこし協力隊など、縮小社会の解決策を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
講義ごとに参考資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
論述式の試験（60%）＋平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（40%）

【学生の意見等からの気づき】
教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【その他の重要事項】
本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定しているものの、履修制限は行わない。旧科目名称「人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

労働環境論Ⅰ

長峰　登記夫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「仕事を通して労働環境と生活を考える」

【到達目標】
本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関係する基本的な概念や現象を理解でき、職業人としての基本的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々に話題になっているアップトゥデートな諸問題をも随時紹介しつつ、本講との関連や現実社会への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
2	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
3	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
4	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
5	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
6	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
7	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
8	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
9	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
10	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
11	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
12	自立的な働き方	ベンチャーも含めて起業が盛んな今日、企業に雇われない働き方も働き方の１つとしてある。その現状について学ぶ。
13	日本的雇用慣行とは何か	日本的雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的にふりかえる。
14	試験および解説、労働環境のまとめ	試験およびその解説をしながら、日本的雇用慣行とその下にある労働環境や人々の生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し授業中に質問する。

【テキスト（教科書）】
佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学　変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012 年。

【参考書】
テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリントやその週の関連する新聞記事等で補う。

【成績評価の方法と基準】
論述式試験（100%）により、特定のテーマについて基本的な理解ができているかを評価し、実社会における職業生活への理解度をみる。

【学生の意見等からの気づき】
この科目に関連した時事的事象についてほぼ毎時間紹介しているが、これには要望も多く今後も継続する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決できるか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【関連の深いコース】
すべてのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

労働環境論Ⅱ

長峰　登記夫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仕事を通して労働環境と生活を考える。

【到達目標】
労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいかを考えながら、卒業後の職業人としての基礎的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。１つのトピックにつき１〜２回で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第 2 回	日本的雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本的雇用慣行の特徴を概観する。
第 3 回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第 4 回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第 5 回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第 6 回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第 7 回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第 8 回	労働環境と労働時間 1（労働時間の見方、考え方）	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第 9 回	労働環境と労働時間 2（裁量労働制と変形労働時間制）	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、ホワイトカラー・エグゼンプション（残業代ゼロ制度）や最近の高度プロフェッショナル制度をめぐる議論についても学ぶ。
第 10 回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第 11 回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第 12 回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第 13 回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。震災で雇用に何が起こり、当事者や行政等はどう対処したのかみていく。
第 14 回	試験と解説、労働環境のまとめ	試験および解説をするなかで、労働環境や私たちの生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習が必須である。

【テキスト（教科書）】
学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本を教科書として使うことはしない。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学　変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012 年。

【成績評価の方法と基準】
論述式の試験（100%）により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が現実に即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【関連の深いコース】
すべてのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

ＮＧＯ活動論

小野　行雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界が直面する問題を理解し、ＮＧＯの活動する場と方法を確認した上で、日本のＮＧＯ、国際ＮＧＯ、「途上国」ＮＧＯ等の現状を把握し、市民社会におけるＮＧＯの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】
1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
2 ＮＧＯと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
3 ＮＧＯ活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回簡単なレポートを作成する時間をとり、次の授業でそれをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション ＮＧＯ活動の基礎－インド事例紹介	グループづくりワークショップ インドについての基礎情報確認
第 2 回	ＮＧＯ活動の基礎－支援の方法	インド山岳民族をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」とグループ討議
第 3 回	ＮＧＯ活動の基礎－開発と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と近代化についてのグループ討議
第 4 回	ＮＧＯ活動の基礎－グローバリゼーションの影響	インド・ラダック開発に関わるビデオ視聴とグループ討議
第 5 回	ＮＧＯ活動の基礎－緊急支援	フィリピン緊急支援事例についてグループ討議
第 6 回	ＮＧＯ活動の基礎－地域支援	フィリピン地域支援をめぐるワークショップ「24 人にインタビュー」とグループ討議
第 7 回	ＮＧＯ事例研究－日本のＮＧＯ 1	開発支援系日本ＮＧＯについてグループによる事例調査と発表および講義
第 8 回	ＮＧＯシミュレーション 1	フィリピン地方題材のドキュメンタリー視聴とグループによる支援の検討
第 9 回	ＮＧＯシミュレーション 2	グループによるフィリピン支援ＮＧＯ設立を想定した計画作成
第 10 回	ＮＧＯシミュレーション 3	グループによるフィリピン支援ＮＧＯ設立を想定した計画発表
第 11 回	ＮＧＯ事例研究－日本のＮＧＯ 2	その他日本ＮＧＯについてグループによる事例調査と発表および講義
第 12 回	ＮＧＯ事例研究－国際ＮＧＯ	国際ＮＧＯとＮＧＯネットワークについてグループによる事例調査と発表および講義
第 13 回	ＮＧＯ事例研究－「途上国」ＮＧＯ	「途上国」ＮＧＯについてグループによる事例調査と発表および講義
第 14 回	ＮＧＯの役割	ＮＧＯの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回渡される課題ペーパーを読んでくること。次の回の最初に、そのペーパーを巡って討論を行うこととする。
10 月にお台場で行われる「グローバルフェスタ JAPAN」または横浜で行われる「よこはま国際フェスタ」にできる限り参加すること。最初の講義で説明するが、これを一種のフィールドワークとし、情報収集とインタビューを行う実践の場とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。
平常点 (発表等)40%、毎時間のレポート 40%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の交流を活発化させるため、３回に１度程度グループを組みなおしながら実施する。
毎時間１０分程度のレポート作成の時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】
授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

【その他の重要事項】
グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

SOC300HA

ローカルスタディーズⅠ

舩戸　修一

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】
「農山村（中山間地域）」の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）を使い、毎回、それぞれ 1 章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。なお、本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを受講条件とし、またゼミ形式を導入するため受講者の定員を 30 名程度にする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第 1 回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第 2 回	テキストの輪読・発表・討論（1）	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第 3 回	テキストの輪読・発表・討論（2）	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第 4 回	テキストの輪読・発表・討論（3）	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」をとりあげる。
第 5 回	テキストの輪読・発表・討論（4）	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第 6 回	テキストの輪読・発表・討論（5）	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第 7 回	テキストの輪読・発表・討論（6）	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第 8 回	テキストの輪読・発表・討論（7）	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第 9 回	テキストの輪読・発表・討論（8）	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第 10 回	テキストの輪読・発表・討論（9）	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第 11 回	テキストの輪読・発表・討論（10）	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多元的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第 12 回	テキストの輪読・発表・討論（11）	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。
第 13 回	テキストの輪読・発表・討論（12）	『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
第 14 回	テキストの輪読・発表・討論（13）	『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）
日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）

【参考書】
参考文献は、授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を 50 %として評価する。さらに学期末に課すレポートを 50 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】
本講義の内容は「食と農の環境学Ⅱ」の応用である。よって「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを本講義の履修条件とする。なお、受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行う。受講希望者には、必ず初回授業に出席を求める。
「地球環境ケーススタディⅠ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

後藤　純

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルスタディーズは、ひとことでいえば、まちづくり（最近の流行では、コミュニティ・デザイン）の理論と技法について学びます。日本は少子高齢社会に突入していますが、住みよいまちをつくるには、住民やコミュニティの構成員が自らのリソースを提供して行うまちづくりが必要です。これまでは、行政が単独で計画をつくってきましたが、これからは行政だけでなく、住民自治組織、企業等が連携できるフレームワークづくりが重要となります。本授業ではまちづくり（＝コミュニティ・デザイン）の方法論を学ぶとともに、コミュニティ・デザインに関する理論、技術、制度について基礎知識を獲得し、理解を深めます。

【到達目標】
コミュニティ・デザイン（まちづくり）に関する理論、技術、制度について基礎知識を習得する。この知識をもとに身近なまちづくりの事例を調査分析できるようになる。さらには、分析の結果として、１０年、２０年先を見すえた、望ましい解決策を提示することができるようになる。これらをレポートにまとめることで、個人的なスキル（技能）を超えて、社会的技術としてのコミュニティ・デザインの技法を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
もはやゼロから都市を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の都市が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築していきます。本授業では 2030 年の超高齢社会を念頭におきながら、都市における参加・協働のまちづくり実践について考えます。
これからの日本社会を支える皆さんには、特に（1）コミュニティ・デザインの基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に（2）市民・住民の地域に対する意思やニーズを 把握するポイントについて学んでいただきます。また（3）課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えうるのか、具体ケースをみながら、考えて行きます。（4）本授業では各人調査テーマを一つ決め、講義で学んだことを踏まえつつ、（1）〜（3）に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、単位の取り方などを説明します。
第 2 回	超高齢社会の都市と課題	１０年後、２０年後、私たちの社会はどのように変わっていくのか。予測が出来れば、対策もしやすい。超高齢社会という観点からみたコミュニティの変化を学びます。
第 3 回	コミュニティ・デザインとはなにか	コミュニティとは何か？　どのように考えればよいのか？　コミュニティ・デザインの歴史的変遷から基礎論を学びます。
第 4 回	コミュニティ・デザインの技法	コミュニティ・デザインの具体的な技法を学びます。住民ワークショップを行い、地域活性化イベントを行うことは、コミュニティデザインではありません。
第 5 回	コミュニティ・デザインの歴史的展開	１９６０年代〜今日までのコミュニティ・デザイン（日本型まちづくり）の歴史を学びます。歴史を学ぶと、これから先の正確な展開予測が出来ます。
第 6 回	コミュニティ・デザインにおける主体論、主体形成及び組織形成の理論と技術	よきコミュニティは、短期間では出来ません。コミュニティの担い手の育成とともコミュニティが育っていくことが重要です。時間軸を踏まえた、主体形成の理論と技術について学びます。
第 7 回	小レポートの報告	最終レポートについて、どのようなテーマで書くのか企画書をＡ４ × １枚以内で作成し、発表、教員とディスカッションを行います。
第 8 回	住民参加、協働の理論	コミュニティ・デザインは、多様な主体が関わります。多様な主体の参加、協働がなぜ必要なのか、その社会的背景、理論について学びます。
第 9 回	新しい公共性と都市空間のガバナンス	多様な主体が関わった結果として、新しい社会や価値をどのように創造すればよいのか。新しい公共性、ガバナンスという観点から考えます。
第 10 回	コミュニティ・デザインの事例分析１	空き家の活用、コミュニティカフェ、サードプレイスなど居場所づくりの事例を学びます。
第 11 回	コミュニティ・デザインの事例分析２	震災復興におけるコミュニティ・デザインの課題と今後の展望について学びます。
第 12 回	コミュニティ・デザインの仕組みを考える	最終レポートに向け、これまでの事例分析を踏まえ、各自の考えるまちづくりの仕組みについて議論します。
第 13 回	コミュニティ・デザインの事例分析３	高齢者の生活を最期まで支える地域包括ケアのまちづくりについて考えます。
第 14 回	成果発表	レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・都市におけるコミュニティ・デザインの実践について、参考文献に挙げたコミュニティデザイン学を副読本として利用してください。
・まちづくりについて興味を持ちつつ、自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく思考訓練を心がけてください。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しませんが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付します。

【参考書】
・小泉秀樹編著（２０１６）コミュニティデザイン学:ーその仕組みづくりから考えるー、東京大学出版会
・東京大学高齢社会総合研究機構編著（２０１４）地域包括ケアのまちづくり、東京大学出版会
・住民主体の都市計画―まちづくりへの役立て方、学芸出版社
・新時代の都市計画- 市民社会とまちづくり、ぎょうせい
その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、小レポート１０％、最終レポート５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
少人数でディスカッションをしながら進めて欲しいとの意見がありました。授業はディスカッションの時間を多くとりながら進めたいと思います。受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影します。

【その他の重要事項】
定員は最大２０名です。受講希望者が多数の場合には、第１回目の授業で選抜を行います。学ぶこととともに、考えることの多い授業にしたいと思います。「地球環境ケーススタディⅡ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SSS300HA

災害政策論

中川　和之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害大国日本において、ごく最近から歴史時代まで繰り返されてきた災害での多くの経験や人々の悔しさを知り、そこで作られて来た災害政策を把握し、これからの災害政策のあり方を共に考え、行政職員や教育者、企業人、社会人としてすべきことを深く認識する。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学ぶ
②現状の政策の背景と発展、課題を学ぶ
③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える
④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを発見する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島は、これまでの地球の歴史を 1 年としたら、最も最近の 1 日でできた若い列島だ。周囲を海に囲まれ、急峻な山と盆地や谷、限られた平野という大地の特性や恵みを生かし、数万年前から人々が暮らしてきた。そこに、地震や火山噴火、豪雨や土砂災害が繰り返し、災害をもたらしてきた。一方で、古くからさまざまな災害対策や支え合いが、この列島に生きてきた私たちの祖先を支えてきた。社会の高度化や高齢化は、災害に対するぜい弱性を生む。大地動乱の時代に入ったとも言われる日本。そこで、これからの人生を生きていくのが君たちだ。災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマだが、限られた資源の中で、どのような備えと構えをとっていけばいいのか。誰かが正解を与えてくれるわけではない。君たち自身が考えていくことでもある。授業では、歴史時代から東日本大震災、近年の災害などを、豊富な映像記録などを使って紹介。それらの災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を知る。さらに、ここ数年の災害や授業期間中に発災した災害をも事例にし、制度政策が十分に活かされていない現状を知る。その上で、めざすべき社会のあり方と、制度のあり方をともに考えたい。また、ワークシートも活用し、できるだけ、学生同士や講師との討論を行う。授業のリアクションペーパーに、「今日の気になったキーワード」を記入してもらうとともに、授業の冒頭には前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明。災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か。なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。行政がやる気になれば、今の法制度でたいていのことはできるにも関わらず、なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感するゲームも体験し、災害政策で備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の歴史では、新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。 その上で、学生諸君の出身地や身近な場所について、いくつかの指定した Web サイトで知ることができる地域特性の情報を元に、自らの身の回りのハザードリスクを認識することにつながる簡単なワークシートを作成してくることが宿題となる。
第 3 回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。地域特性によって、自然がもたらす災害にも特徴があることや、引き続いてその地に暮らすために何をすべきかを考える。
第 4 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。前では、東日本大震災の前までを取り上げる。
第 5 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災とは何だったか	東日本大震災とは、どのような災害だったのか、改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第 6 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝これからの大災害を見据えて	想定首都直下地震、南海トラフの地震、巨大化する台風など、これからの生涯で経験する可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本の後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何かを考える。
第 7 回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の台風・豪雨災害編	2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。
第 8 回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の地震災害編	2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。
第 9 回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の噴火災害編	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。
第 10 回	災害政策に求められることとは？	これまでの授業で学んできた災害種別ごとに、事前の備えや災害後の危機管理、応急救助、暮らしや営みの再建、復興で、何が求められるのか、改めて振り返るとともに、地域特性を調べた居住地（出身地）の市区町村の災害対策で欠けている点は何かを考えてワークシートに記入し、問題意識を共有して議論する。その上で、居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）を読み込み、レポートの提出を求める。

第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体が情報を共有するための研究成果に基づく SIP4D についても知る。
第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。すべて、自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力が鍵になる。ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割をともに考える。
第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 14 回	めざすべき社会と災害＝授業内レポート	「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC の活用も可能とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間以外で、以下の２つのワークシートとレポートの提出してもらう。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。
１）学生諸君の出身地や身近な場所について、いくつかの指定した Web サイトで知ることができる地域特性をまとめるワークシート。
２）居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）を読み込んだうえでのレポート。

【テキスト（教科書）】
授業では、PPT を使用する。その資料は、毎回、授業で配布するとともに、授業支援システムに事後に掲載する。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出することで評価対象とする。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（リアペ）40 %、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20 %、期末試験（最終講座内レポート）評価 40 %

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションの時間をより多くしたい。毎回のリアクションペーパーをより活用し、問題意識を確認して次に進みたい。既に東日本大震災でも「歴史」になってきており、できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらいたい。授業の資料は、これまで事後に授業システムに格納していたが、今後は当日、配布をし、メモやキーワードを記入してもらうことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業の後、授業支援システムに配布した資料を搭載する。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出することができる。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SHS300HA

科学技術社会論

詫間　直樹

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術のアウトプットは、社会に多大な正負両面の影響を与える。逆に、研究費の調達や人材の供給、研究活動の社会的承認などを巡って、社会の側から科学技術への影響も存在する。従って、科学技術と社会は相互に影響を及ぼしながらお互いを形成していくのであり、このようなプロセスを「共進化」と呼ぶ。この「共進化」のプロセスを解明し、その問題点を社会に呼びかけていくことが、科学技術社会論の一つの使命である。
　本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用な諸概念を学ぶとともに、それらの概念を用いて具体的事例を理解する能力を養う。

【到達目標】
科学技術と社会との関わりを理解するために有用となる概念を学ぶとともに、それらを用いて具体例事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキスト ― 平川秀幸著『科学は誰のものなのか　社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書，2010 年）をベースとして、重要概念と関連事例の解説を行う。
　また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。
　また、毎回、授業の終わりに、コメントシートに感想・意見・質問を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	当科目の目的と背景、授業の進め方についての説明。科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第 2 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その１）」（テキスト対応箇所：第２章序盤）	なぜ今ガバナンスなのか、科学技術ガバナンスの登場、日本の転機： 1995 年、双方向なコミュニケーション、ほか。
第 3 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その２）（テキスト対応箇所：第２章中盤）	参加型テクノロジーアセスメント、市民が参加するコンセンサス会議、市民陪審とシナリオワークショップ、ほか
第 4 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その３）（テキスト対応箇所：第２章終盤）	BSE 問題が引き起こした「信頼の危機」、理解から対話・参加へ、「アウェー」としてのサイエンスカフェ、ほか。
第 5 回	科学技術は「完全無欠」か（その１）（テキスト対応箇所：第３章序盤）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病を悪化させた完璧主義、実験室の科学はまだ途半ば、知識の品質管理、「ファイナルアンサー」までのさらなる道のり、ほか。
第 6 回	科学技術は「完全無欠」か（その２）（テキスト対応箇所：第３章中盤）	それでも残る科学の不確実性、不確実性における二つの無知（Known Unknowns と Unknown Unknowns）、科学知識の制約、理想化にともなう不確実性、ほか。
第 7 回	科学技術は「完全無欠」か（その３）（テキスト対応箇所：第３章終盤）	誠実な科学者は白黒つけられない、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第 8 回	科学技術と社会のディープな関係（その１）（テキスト対応箇所：第４章序盤）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生成」という考え方、科学技術の純潔主義、研究開発の国家総動員体制、ほか。
第 9 回	科学技術と社会のディープな関係（その２）（テキスト対応箇所：第４章中盤）	「価値中立的な科学技術」から「善い科学技術」へ、人工物に埋め込まれた政治性（アーキテクチャの権力、環境管理型権力）、ほか。

第 10 回	科学技術と社会のディープな関係（その３）（テキスト対応箇所：第４章終盤）	「緑の革命」の光と影、作動条件への不適合、技術の囲い込み症候群、利益構造の不平等、構造的問題としての市場の力、ほか。
第 11 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その１）（テキスト対応箇所：第５章序盤）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準をどこに置くか、ほか。
第 12 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その２）（テキスト対応箇所：第５章中盤）	挙証責任が映し出す利害の対立、遺伝子組換え作物の環境影響、挙証責任の逆転、評価基準を変えた政治的・社会的理由、ほか。
第 13 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その３）（テキスト対応箇所：第５章終盤）	事前警戒原則、欧州組換え作物規制が示唆するもの、問いのフレーミングと答えの解釈、価値中立性を再定義する、とるべきリスクと避けるべきリスク、「賭け」を「実験」に変える知恵、ほか。
第 14 回	知ることと、つながること（テキスト対応箇所：第６章）	どうやって科学技術問題に関わるのか、次の一歩が踏み出せない、「一人一人の心がけ」でよいのか、不自然な省略、知的協働のアクションチャート、信頼できる資料の見つけ方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか―社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。
・授業時間中に理解を深めるため Q&A の時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。

【テキスト（教科書）】
平川秀幸『科学は誰のものなのか ―社会の側から問い直す―』，NHK 出版生活人新書，2010 年。
本授業を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。
紙媒体・電子書籍の両方がある。電子書籍は、一覧性がなく、ページ番号が表示されないといった欠点があるので、できるだけ紙媒体で購入することを推奨する。
（ただし、品切れになった場合はこの限りではない。）

【参考書】
必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点６０％、期末レポート４０％。
・平常点は、毎回提出してもらうコメントシートをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
・期末レポートの概要：
テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する基本文献を選んでその概要を紹介してもらった後、その基本文献を根拠として自説を展開してもらう。Ａ４用紙５枚程度。

【学生の意見等からの気づき】
・複雑系に関する補足のための動画について、「分かりにくい」「関連性が明らかでない」といったコメントがあったので、別の補足コンテンツに換える。

【学生が準備すべき機器他】
教科書は、紙媒体を購入し持参することを推奨するが、どうしても電子書籍を購入したい者は許可する。また、紙媒体が品切れの場合は、電子書籍を購入してもらうことになる。
電子書籍を購入・使用する場合は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PC など）も毎回の授業に持参してもらうことになる。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

社会開発論

新村　恵美

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／２単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木１**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。しかしながら、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。その上で、社会的に弱い立場に置かれている人びとを中心に据え、すべての人が持続可能で豊かな人生の選択肢を持てるようになることに注目し、授業を展開する。

【到達目標】
下記の３点を到達目標とする。
１、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
２、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
３、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
大きく３セクションに分ける。まず、社会開発とは何か、その定義や歴史的経緯、課題とされることを理解する。次に、社会開発のもたらす社会変容を日本及び海外の事例を検討する。最後に、「仕事」をテーマに、社会開発を検討する。
学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 社会開発とは１　定義と歴史的背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。社会開発がどのように位置付けられてきたのか、国際社会及び日本における歴史的経緯を概観する。課題レポートの説明も行う。
第 2 回	社会開発とは２	国連の「人間開発」「人間の安全保障」等の概念を理解し、社会開発を検討する。統計資料を使うほか、南アジアを例に考える。
第 3 回	社会開発とは３ 途上国の貧困	途上国の貧困問題への取り組みを、バングラデシュのストリートチルドレンや児童労働をせざるを得ない子供達の「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGO の取り組みから社会開発の役割を検討する。
第 4 回	社会開発とは４　日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECD や ILO のデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。また、日本の NPO による貧困問題への取り組みを理解する。
第 5 回	社会開発とは５　格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差の拡大を体験をし、考察する。
第 6 回	社会開発と社会変容１ 貧困を断ち切るには	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。途上国及び日本双方の、識字教育の現場での声を紹介する。
第 7 回	社会開発と社会変容２ 国際協力と国際ボランティア」活動の種類と形態	社会開発を行う主体として、国際機関、各国政府、NGO の活動について概観する。

第 8 回	社会開発と社会変容３ NGO による国際協力と社会開発	社会開発の主体の中でも、草の根の活動を通して現地の人々の中に入って行う NGO の活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。
第 9 回	社会開発と社会変容４ 差別と社会運動	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動と NGO 等による社会開発の役割について考える。
第 10 回	課題レポートの共有と発表（グループワーク）	学生各自が取り組んだ課題レポートの内容を共有し、グループごとに発表の準備をする。
第 11 回	社会開発と社会変容４ インドの家事労働者の運動	家事労働とは何か、他人の家の家事を引き受ける家事労働者とはどのような人たちなのか。人々はどのように連帯し、国際社会を変えようとするのか。ILO の「家事労働者のディーセントワーク条約」を取り上げ、国際ネットワークの構築とその意義 を考察する。
第 12 回	社会開発と「仕事」1 ディーセント・ワークとは	ILO の提唱するディーセント（適正）な労働とはどういうことか。途上国のインフォーマルセクター労働、二重労働市場、非正規/正規雇用、女性の労働参加など、仕事満足度など、労働をテーマに社会開発を考える。
第 13 回	社会開発と「仕事」2	国連の 2015 年の「人間開発報告書」は「仕事」をテーマにしている。本報告書を検討し、「仕事」について考察する。
第 14 回	社会開発と「仕事」3 「人的資本」に注目して	社会が発展するために重要な「人的資本」とは何か。教育や職業訓練がどのように生かされるのかに注目する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化する。

【参考書】
佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発―貧困削減への新たな道筋』日本評論者
アマルティア・セン (1999) 池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
中間レポート： 20%
期末試験： 50%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】
2016 年度より担当。各回授業の学生からのフィードバックを踏まえて、双方向の授業にする。

【学生が準備すべき機器他】
授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲示する。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

SOC300HA

国際社会学

新藤　慶

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、在日ブラジル人をめぐる状況を、日本とブラジルの両国の視点から理解することで、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
本授業を通じて、在日ブラジル人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際社会学とは	国際社会学の考え方について概説する。
第 2 回	在日ブラジル人の増加と行政の対応	在日ブラジル人の増加の背景と行政の対応について概説する。
第 3 回	在日ブラジル人の労働と生活	在日ブラジル人の労働と生活の実態について講義する。
第 4 回	ブラジル系エスニック・ビジネスの展開	在日ブラジル人を対象としたエスニック・ビジネスについて講義する。
第 5 回	在日ブラジル人に対する地域住民の意識	在日ブラジル人に対する地域住民の意識について講義する。
第 6 回	在日ブラジル人と町内会活動	在日ブラジル人の集住地域における町内会の対応について講義する。
第 7 回	公立学校における在日ブラジル人教育	公立学校での在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第 8 回	ブラジル人学校における在日ブラジル人教育	ブラジル人学校における在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第 9 回	在日ブラジル人の保育	在日ブラジル人の子どもに対する保育について講義する。
第 10 回	ブラジル政府による教育支援	ブラジル政府による在日ブラジル人教育に対する支援について講義する。
第 11 回	大都市におけるデカセギの影響	ブラジルの大都市における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 12 回	大都市近郊農村におけるデカセギの影響	ブラジルの大規模近郊農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 13 回	僻地農村におけるデカセギの影響	ブラジルの僻地農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 14 回	帰国児童生徒へのデカセギの影響	日本から帰国したブラジル人の子どもに対するデカセギの影響について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会学的な関心を持ちながら生活することも重要となる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】
宮島喬ほか編，2015，『国際社会学』有斐閣.
小内透編，2009，『講座トランスナショナルな移動と定住』（全 3 巻），御茶の水書房.

【成績評価の方法と基準】
論述試験（70%）＋毎回のリアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。また、遅刻者や私語への対応の不十分さも指摘されていたので、改善し、授業環境の整備に努めたい。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

PHL200HA

西欧近代批判の思想

越部　良一

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を得ることである。

【到達目標】
西欧近代批判として、この授業では主として２つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観
第 2 回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第 3 回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第 4 回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第 5 回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第 6 回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第 7 回	ヘーゲルの思想Ⅰ	人間理性は絶対者（神）である
第 8 回	ヘーゲルの思想Ⅱ	人間精神（＝神）の展開としての歴史
第 9 回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第 10 回	キルケゴールⅠ	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第 11 回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第 12 回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第 13 回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判
第 14 回	授業のまとめ	まとめと展望、及び試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末試験（６０％くらい）によって成績を評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL200HA

仏教思想

高堂　晃壽

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**土 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏教の基礎概念について大枠を把握する。
アジアの文化の様々な分野に浸透し、多大な影響を与えている仏教の思想について考えてゆきたい。
　一口に仏教といっても、内容は極めて広汎である。したがって本講では、仏教の基本概念とその思想的な展開についての概観を中心として講義を行う。仏教の基礎概念より始め、原始仏教、大乗仏教諸学派の基本的内容を把握していきたい。時間的制約もあり、インド仏教史の概略を跡付けることが主な作業となる。東アジア仏教については、簡略に触れるのみとなる。

【到達目標】
日本の文化の形成に多大な影響を及ぼした大乗仏教の概略を把握することを目標とする。
社会人として知っておきたい仏教の基本を習得したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
初期仏教から始めて、主として大乗仏教の概略を解説してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	なぜ仏教を学ぶか	東アジアにおける仏教の位置づけ。
第 2 回	仏教の基礎(1)	「仏」（ブッダ）とは何か。 ゴータマ・ブッダの生涯。
第 3 回	仏教の基礎(2)	「法」（ダルマ）とは何か。 三法印と四諦。
第 4 回	仏教の基礎(3)	「僧」（サンガ）とは何か。 仏教教団の概要。
第 5 回	仏教教団の分裂と展開	根本分裂と部派仏教の思想。
第 6 回	大乗仏教(1)	大乗とは何か。 大乗仏教の概略。
第 7 回	大乗仏教(2)	大乗仏教の概略。 大乗仏教の展開。
第 8 回	大乗仏教(3)	般若経典と中観派の概略。
第 9 回	大乗仏教(4)	法華経の概略。
第 10 回	大乗仏教(5)	浄土経典の概略。
第 11 回	大乗仏教(6)	華厳経の概略。
第 12 回	大乗仏教(7)	唯識の概略。
第 13 回	大乗仏教(8)	如来蔵思想の概略。
第 14 回	大乗仏教(9)	密教の概略。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書の該当項目の内容を、講義の前後に確認することを、準備学習、復習とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。
必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】
中村元・三枝充悳『バウッダ』（講談社学術文庫）
三枝充悳『インド仏教思想史』（講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】
学期末のテスト　70 %
平常点　30 %

【学生の意見等からの気づき】
今年度より開講につき、なし。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原　傳

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」の実作を体験する機会も設ける予定である。

【到達目標】
・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。
・主だった季語の季節を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切字／実作（俳句）
第 2 回	季語の重層性	発句と俳句、歳時記の世界、「季語」について／実作（俳句）
第 3 回	切れについて	俳諧の発句、芭蕉の追い求めたもの
第 4 回	再び切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第 5 回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第 6 回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第 7 回	正岡子規の俳句革新	『俳諧大要』より、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第 8 回	川柳と俳句	川柳と俳句の違い／実作（俳句）
第 9 回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌）
第 10 回	高濱虚子とその弟子たち	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第 11 回	自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第 12 回	前衛俳句	鑑賞（前衛俳句）／実作（俳句）
第 13 回	現代俳句	鑑賞（現代俳句）／実作（俳句）
第 14 回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自作の俳句（毎回３句ほど）を作り、持参する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版　現代俳句（上・下）』（角川選書）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第１～３巻（角川学芸出版）
日原傳『３６５日入門シリーズ⑦　素十の一句』（ふらんす堂）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度・提出作品）　７０％
最終レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
提出された実作を素材として解説する時間を多くとりたい。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

比較演劇論Ⅰ

平野井　ちえ子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第 1 回目の授業には必ず出席してください。

【到達目標】
演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行ないます。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 3 回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 4 回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第 5 回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第 6 回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第 7 回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第 8 回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第 9 回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第 10 回	日本人の主情性 ―家庭悲劇のドラマツルギー―（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 11 回	日本人の主情性 ―家庭悲劇のドラマツルギー―（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 12 回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第 13 回	総括	春学期の学習内容の復習。期末試験の予告。
第 14 回	期末試験（記述式）	１３回までの講義内容について、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】
プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】
河竹登志夫著　『舞台の奥の日本　ー日本人の美意識ー』　TBS ブリタニカ
野間正二著　『比較文化的に見た日本の演劇』　大阪教育図書
青山昌文編著　『舞台芸術への招待』　放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
【平常点】４０％
参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。
ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。
【期末試験】６０％
参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】
「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】
ＢＴ０３０９教室での授業です。

【その他の重要事項】
・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・2011 年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART300HA

比較演劇論Ⅱ

平野井　ちえ子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】
春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第 2 回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第 3 回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第 4 回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	古典歌舞伎とスーパー歌舞伎のスペクタクルについて考察します。
第 5 回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 6 回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 7 回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 8 回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 9 回	翻案劇とは何か	明治期のシェイクスピア受容を初めとして、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第 10 回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第 11 回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第 12 回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第 13 回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。期末試験の予告。
第 14 回	期末試験（記述式）	１３回までの講義内容について、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】
プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】
河竹登志夫著　『舞台の奥の日本　ー日本人の美意識ー』　TBS ブリタニカ
野間正二著　『比較文化的に見た日本の演劇』　大阪教育図書
青山昌文編著　『舞台芸術への招待』　放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
【平常点】４０％
参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。
ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。
【期末試験】６０％
参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】
「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、２０１３年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は一切認めていません。

【学生が準備すべき機器他】
ＢＴ０３０９教室での授業です。

【その他の重要事項】
・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・2011 年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・春学期の「比較演劇論Ⅰ」を履修していない学生の履修は、一切認めません。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

日本美術史論

豊田　和平

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、まず日本美術史の全体を、絵画史を中心に概観する。学生のこれまでの学習体験により、日本美術史に対する知識に不均衡があることが予想されるため、まず日本美術史に対する教室内での共通認識を深め、わが国の美術史に対する理解と愛着を醸成したい。さらに、各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画に焦点をあわせ、その発展の歴史をたどる。近代日本画の美術史的な意義を考察することは、日本美術史における各様式を再確認することにつながる。また、近代日本画とその豊富な諸資料をもとに、絵画に対する読解力を養う。

【到達目標】
私たちの先人が生み出してきた美術の流れを、特に絵画史についてたどることで、わが国の伝統と文化の特色の一端を味わい理解することを目指す。諸資料の講読などによってさまざまな日本美術の用語と美術史に関する基礎知識を理解し、日本の絵画に対する教養を身につけることを目的とする。さらに講義で取り上げる絵画に関する意見を表現するトレーニングなどを通して、美術作品の読解力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、近世以前の日本美術史、特に絵画の各様式における作品例を概観する。そののち近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本美術のながれ〜日本美術の” 特色” は何か	本講義の導入として、日本美術の特色と言えるものは何か、検討する。
第 2 回	日本美術のながれ〜日本美術の一系譜としての” 近代日本画”	前回に引き続き、日本絵画史研究の導入として、近代日本画というジャンルが、日本絵画史上に有する意義を考察する。
第 3 回	日本美術史の概観、古墳時代から奈良時代	主として古墳時代から奈良時代における絵画の代表例を概観する。
第 4 回	日本美術史の概観、平安時代〜鎌倉南北朝時代	主として平安時代から鎌倉南北朝時代における絵画の代表例を概観する。
第 5 回	日本美術史の概観、室町時代〜安土桃山時代	主として室町時代から安土桃山時代における絵画の代表例を概観する。
第 6 回	日本美術史の概観、江戸時代	江戸時代における絵画の代表例を概観する。
第 7 回	” 日本画” のイメージ〜重要文化財指定などによる” 歴史化”	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第 8 回	伝統的な” 日本画” のすがた、かたち〜技法、材料、装丁などを中心に	日本の絵画の伝統的な技法、材料や装丁方法などを概観し、” すがた、かたち” の面から日本画に関する基礎知識を共有する。
第 9 回	近代日本画の” 誕生”	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第 10 回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治 10 年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第 11 回	東京美術学校の創設と草創期の近代日本画	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。
第 12 回	近代日本画の勢力〜東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治 40 年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第 13 回	近代日本画の勢力〜官展の京都画壇	明治末、とりわけ明治 40 年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第 14 回	大正期の近代日本画	大正期の日本画壇、特に日本美術院の再興、金鈴社と国画創作協会の結成、帝国美術院の創設と帝展の開催について、それらの意義を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

【テキスト（教科書）】
テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】
小林忠『原色現代日本の美術　第２巻　日本美術院』1979 年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術　第３巻　京都画壇』1978 年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術　第４巻　東京画壇』1978 年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集　第 22 巻　洋画と日本画』1992 年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ ― 講談社野間記念館名品図録』2005 年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（試験期間中）の成績による（100%）。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

【学生の意見等からの気づき】
講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】
・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。
・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

西洋美術史論

板橋　美也

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのジャポニスム―日本がどのように眺められてきたのか

【到達目標】
近年、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外で大きな注目を集めていますが、こうした海外での日本の事物に対する高い関心は、19 世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分たちの創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、その時々の自分の支持する美術思想を正当化するべく日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、このジャポニスムという現象が 1860 年代から 1930 年代までのイギリスでどのような変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860 年代から 1930 年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを授業時に随時書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ジャポニスム前史	シノワズリーからジャポニスムへ
第 2 回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第 3 回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第 4 回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第 5 回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第 6 回	唯美主義におけるジャポニスム（1）	唯美主義の背景説明
第 7 回	唯美主義におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第 8 回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第 9 回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第 10 回	1910 年日英博覧会	日本政府による「日本美術」の表象
第 11 回	モダニズムにおけるジャポニスム	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第 12 回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第 13 回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析
第 14 回	試験	授業内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしておいてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを適宜配布します。

【参考書】
世田谷美術館編、『「ＪＡＰＡＮと英吉利西（いぎりす）日英美術の交流 1850-1930」展』、世田谷美術館、1992 年
谷田博幸、『唯美主義とジャパニズム』、名古屋大学出版会、2004 年
小野文子、『美の交流―イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スクリーンに映し出した作品を鮮明に見せようとすると、黒板前の照明を暗くせざるを得ないので、その点ご了承ください。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

日本環境史論Ⅰ

根崎　光男

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：人と自然の環境史
本授業では、人と自然との歴史的なかかわりを、近世日本の政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史研究の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】
この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の論理的構成方法を学ぶ。また自然・環境などにかかわる根拠資料を踏まえて解説する。人と自然とのかかわりを歴史的に知るために、地域性や時代性を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた環境史の具体像を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みとその役割について学ぶ
第 2 回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係について学ぶ
第 3 回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第 4 回	自然をめぐる環境思想	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第 5 回	山林保護をめぐる政策と地域慣行	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容について学ぶ
第 6 回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相について学ぶ
第 7 回	植林をめぐる政策と地域性	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性について学ぶ
第 8 回	共有資源の利用と紛争	山野河海の所有・利用をめぐる幕府の裁定方針について学ぶ
第 9 回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質について学ぶ
第 10 回	狩猟の歴史と自然環境保全	狩猟の歴史と自然環境保全とのかかわりについて学ぶ
第 11 回	狩猟の文化と地域社会	狩猟文化の歩みと地域社会とのかかわりについて学ぶ
第 12 回	農業と害鳥獣対策	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係について学ぶ
第 13 回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係から共生のあり方について学ぶ
第 14 回	公害と領主・地域社会	公害の多様性と領主・地域社会とのかかわりについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。
テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
『日本近世環境史料演習　改訂版』（根崎光男編、同成社、2011 年）

【参考書】
『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006 年）
『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

日本環境史論Ⅱ

横濱　文孝

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：江戸の都市環境について
本授業では、江戸の都市環境の全体像を、政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】
この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の理論的構成方法を学ぶ。また都市・環境などにかかわる根拠資料を踏まえて解説する。江戸という地理的条件や日本の伝統的な生活文化を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史や文化の具体像を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス―江戸の都市環境について	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第 2 回	江戸の都市化と地域の特色	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第 3 回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第 4 回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第 5 回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第 6 回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史的変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第 7 回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第 8 回	産業の発達と地域社会	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第 9 回	巨大都市とゴミ問題	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第 10 回	江戸のゴミ処理システム	幕府のゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第 11 回	火災と地域社会	災害都市江戸のありようを学ぶ
第 12 回	江戸の消防と防火対策	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方と多様な防火対策について学ぶ
第 13 回	市民生活と水問題	江戸の上下水道について学ぶ
第 14 回	江戸の生活文化と都市空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。
テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
『日本近世環境史料演習　改訂版』（根崎光男編、同成社、2011 年）

【参考書】
『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社＋α新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅰ

辻　英史

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】
ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性について考察を広げる視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。
毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第 2 回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第 3 回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第 4 回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第 5 回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第 6 回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第 7 回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第 8 回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第 9 回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第 10 回	20 世紀の都市問題	20 世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第 11 回	田園都市と郊外の開発	20 世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第 12 回	20 世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第 13 回	現代における都市の再生	1980 年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。

第 14 回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進度に応じて、『世界の歴史』(中央公論新社)、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』(山川出版社) などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布する。

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験（100 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】
・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻　英史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の持続可能な発展のためには、その社会の集団アイデンティティが重要な役割を演じる。集団アイデンティティは、歴史や文化・自然などに関して成員の間で保有される共通のイメージや認識に基づいて形成され、その社会が全体としておこなうさまざまな決定に影響を与える。
この授業では、とくに過去の歴史に対する認識の確立に大きな努力を払ってきたドイツの事例を学ぶことを通じて、集団アイデンティティがつくり出される上での重要な要素や問題点について理解し、またこの領域における日本の問題点について考察する。

【到達目標】
この授業では、近現代のドイツを中心に、ヨーロッパの他国や日本と比較しながら、この集団アイデンティティの問題に取り組む。ドイツにおいて歴史や文化、伝統、自然などがどのように認識されイメージされていたのかを時代を追って明らかにし、それによって各時代にどのような集団アイデンティティが形成されていったのかを時代状況とともに理解する。
その際、集団アイデンティティは決して単一のものではなく、複数のそれらが競合して社会内外の対立を増幅したりあるいは和解させたりする作用を持つこと、また特定の政治勢力や集団の利益のために利用される可能性もあることにふれ、その可能性と危険について理解することもまた本授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回資料として同時代文献や統計を用いるほか、理解の助けとなる文化遺産や芸術作品の図像・写真・映像などを紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：集合記憶と集団アイデンティティ	テーマに関する理論的な説明と、予備知識の解説を行う。
第 2 回	国民意識の誕生と集合記憶の創造	近世において小国分立状態の中でのドイツ人意識とアイデンティティの誕生について。
第 3 回	19 世紀ドイツの集合アイデンティティ①	19 世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。まず過去の歴史に対する認識をあつかう。
第 4 回	19 世紀ドイツの集合アイデンティティ②	19 世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。続いて文化や自然、芸術をあつかう。
第 5 回	120 世紀初頭の歴史認識をめぐる政治的闘争	第一次世界大戦期から戦間期にかけての国内外での政治的対立が激しくなった時期におけるアイデンティティ間の葛藤をあつかう。
第 6 回	ナチスによる「政治の美学化」と過去の利用	1933 年に政権を獲得したナチスは集団アイデンティティを巧みに構築し利用した。その手法を分析する。
第 7 回	第二次世界大戦後の東西ドイツにおける集合アイデンティティ	第二次世界大戦後成立した東西ドイツにおける、それぞれの集団アイデンティティをめぐる状況を明らかにする。
第 8 回	ナチズムの過去をめぐる東西ドイツの取り組み	ナチスや第二次大戦に関する過去への認識が戦後ドイツの中でどのように集団アイデンティティとなっていったかを明らかにする。
第 9 回	68 年運動とドイツ人のアイデンティティの変動	ドイツ社会を大きく変えたと言われる学生運動後の西ドイツ社会の変容と、それによる集団アイデンティティの変化を検証する。
第 10 回	統一後のドイツ社会における東ドイツの過去の位置づけ	1990 年の東西再統一後は東ドイツという過去をどのように集団アイデンティティの中に位置づけるかという問題が生じた。
第 11 回	地域社会とその集団的アイデンティティ	ドイツの多様な地域社会と、その住民の集団アイデンティティとの関係について。

第 12 回	ドイツの自然保護と景観	開発規制と記念物保護、自然保護など、現代ドイツの自然景観を守る運動が、集団アイデンティティにどのように影響を与えているか。
第 13 回	過去の記憶に関する新しいプロジェクトと論争	近年ドイツ社会のなかで見られるようになった、ナチズムの過去への反省の姿勢を修正しようとする傾向と、そレに反対する動きを取りあげる。
第 14 回	結論：ドイツと日本における集団アイデンティティのあり方との比較	日本における集団アイデンティティの作られ方や過去のイメージについて考え、ドイツのそれらと対照する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
別途指示する参考書のほか、授業の進度に応じて『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読んでおくと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布する。

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 (100 %)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】
・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも受講可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA200HA

環境人類学Ⅰ

高橋　五月

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境人類学Ⅰでは、人間と自然の関係について探求してきた国内外の人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学ぶ。また、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深める。

【到達目標】
本講義では、身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第 2 回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介する。
第 3 回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介する。
第 4 回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介する。
第 5 回	生態人類学とは？	ロイ・ラパポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介する。
第 6 回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義する。
第 7 回	中間試験	中間試験を行う。
第 8 回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 9 回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義する。
第 10 回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義する。
第 11 回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 12 回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 13 回	環境思想と運動	環境思想と環境運動から見た人間と環境の関係について講義する。
第 14 回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備学習）詳しい授業計画を授業第１回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートをとり、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】
授業内に紹介します

【参考書】
パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】
講義中にリアクションペーパーの提出（３０％）、中間・期末筆記試験（７０％）。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメを配ってほしいというリクエストがあったのですが、ノートテイキングも学びのうちという教育理念を持っているのでレジュメの配布は今後もしません。板書の時間は十分にとりますので、自分なりの授業ノートを作成し、学びに繋げてください。

私語をやめてもらうにはどうすればいいのか、悩み中です。大教室なので教壇からヒソヒソ話を察知することは難しいのですが、より良い教室環境をつくる工夫をしていきたいと思います。
映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

高橋　五月

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境人類学 II では、「サステイナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論する。

【到達目標】
本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステイナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
映像資料を随時活用しながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する
第 2 回	サステイナビリティとは？（1）	サステイナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義する
第 3 回	サステイナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義する
第 4 回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論する
第 5 回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論する
第 6 回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論する
第 7 回	中間試験	筆記の中間試験を行う
第 8 回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論する
第 9 回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論する
第 10 回	里山・里海	里山・里海が目指すサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第 11 回	災害	災害とサステイナビリティの関係について講義・議論する
第 12 回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第 13 回	アンソロポシーン	アンソロポシーンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論する
第 14 回	まとめ：地球の見方	地球の見方をテーマに、環境人類学 II の総括をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートをとり、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】
資料を配付する。

【参考書】
授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
講義中にリアクションペーパーの提出（３０％）、中間・期末筆記試験（７０％）。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメを配ってほしいというリクエストがあったのですが、ノートテイキングも学びのうちという教育理念を持っているのでレジュメの配布は今後もしません。板書の時間は十分にとりますので、自分なりの授業ノートを作成し、学びに繋げてください。
大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）, 人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA300HA

環境人類学Ⅲ

高橋　五月

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境人類学 III は、定員制（上限４０名）です。定員を超える希望があった場合は、第一回授業内で志望理由書を書いて提出していただき、選考します。選考結果は同日中に掲示します。授業では、講義に加えて、学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。授業のイメージとしては、講義とゼミが合わさったような感じです。質問等がある方は、第１回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。積極的な応募をお待ちしています！
２０１８年度のテーマは災害人類学です。災害の文化・社会的側面について日本国内外の文化人類学的研究をもとに学びます。災害とは何か。リスクとは何か。復興とは何か。私たちは、災害にまつわるキーワードについて、知っているようで、その意味について深く考えずに使用していることが多々あります。本授業では、震災にまつわるキーワードの意味を多角的に探求することで、その先に見えてくる文化や社会システムについて考察することを目標とします。従って、本授業の目的は、キーワードを「正しく定義する」ことではありません。学生が自ら疑問を探求し、考察する力を身につけること、またその力を磨くことが最終的な目的です。

【到達目標】
１）災害人類学の議論や視点について基礎的な知識を取得する
２）災害にまつわるキーワードについて、批判的に考察する力を取得する
３）国内外の災害事例についての基本的な知識を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
アクティブラーニングを実践するために定員制をとります。
授業は、講義に加え、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを行います。プレゼンテーションは、５つのテーマから１つを学生各自が選び、新聞記事などを調査し、自分なりの考えを発表します。テーマは例えば、「日本で最古の災害とは何か」などがあります。「正しい答え」はないので、学生各自が調査をもとに得た知識をクラスメイトと共有し、議論することが目的です。グループワークのテーマは、災害ミュージアムです。国内外の災害事例ごとにグループ分けをし、オリジナルの災害ミュージアム構想をつくり、発表します。ミュージアムづくりを通して、災害を記録すること、記憶すること、伝えることの意味について理解を深めることを目的とします。この授業ではディスカッションの機会を多く設けます。自分の考えを自分の言葉で表現出来るスキル、また人の意見を自分の考えと対比させながら考察を深めるスキルを磨くことが目的です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の目的や進め方について、また定員制と選考についての説明をする
第 2 回	震災人類学の意義（1）	文化人類学者が災害を研究する意義について講義、討論する
第 3 回	震災人類学の意義（2）	文化人類学者が災害を研究する意義について、具体的な事例研究をもとに更に理解を深める
第 4 回	「災害」とは何か（1）	「災害」とは何か。その意味を探る。
第 5 回	「災害」とは何か（2）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第 6 回	「災害」とは何か（3）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第 7 回	「リスク」と「安全」の意味（1）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。その意味を探る。
第 8 回	「リスク」と「安全」の意味（2）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第 9 回	「復興」の意味（1）	「復興」とは何か。その意味を探る。
第 10 回	「復興」の意味（2）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第 11 回	「復興」の意味（3）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第 12 回	災害ミュージアム（1）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第 13 回	災害ミュージアム（2）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第 14 回	期末試験	授業内期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備学習）詳しい授業計画を授業第１回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業の前日までに読み、感想文（３００字程度）を授業支援システムにアップしましょう。
（復習）期末試験の問題は講義で使用する文献、映画、および講義内容から出題します。講義中はノートをとり、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業支援システムにアップする

【成績評価の方法と基準】
文献感想文（２０％）、個人プレゼンテーション（２０％）、グループワーク（２０％）、平常点（２０％）、期末試験（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
２０１７年度に初めて開講した授業でしたが、議論が中心の授業を通して、学生はお互いに学び合い、視野を広げる機会を楽しんでくれたようで嬉しいです。２０１８年度の授業も楽しみにしています。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）, 人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

TRS200HA

環境表象論Ⅰ

梶　裕史

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。
「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために 1992 年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も 2005 年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】
・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。
・「景観は」見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながることが多いということに気付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT や OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か　導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	文化的景観の定義	ユネスコ、日本（文化財保護法）
第 4 回	文化財保護法の既存の文化財との比較	「環境」、持続可能性重視の新視点
第 5 回	文化的景観の多面的な効用①	国土の自然環境保全、生物多様性保全ほか
第 6 回	「文化的景観」保全の多面的効用②	日本型エコツーリズム・エコミュージアム等との関連
第 7 回	事例紹介①　近江八幡から学ぶべきこと	重要文化的景観第 1 号
第 8 回	事例紹介②a　宗教・信仰の聖地	熊野三山、沖縄の御嶽、富士山等
第 9 回	事例紹介② b　古典文芸の名所	既存の文化財「名勝」との関連、松島等
第 10 回	前回② b の拡大解釈―その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性　など
第 11 回	生きて変化する文化財として (1)	「循環する自然」（＝季節の周期変化）に即した生活文化の意義
第 12 回	生きて変化する文化財として (2)	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観。四万十川や沖縄県竹富島を事例に
第 13 回	「伝統」継承のための階層的発想	「無形」の文化尊重の潮流とも関連づけて
第 14 回	まとめ　（「視覚」のみから「五感」の景観へ／「感覚環境のまちづくり」との関連）	総括とともに、概念進化の可能性を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】
授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】
梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第５章、ミネルヴァ書房、2012) ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 %（授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配布します。）

【学生の意見等からの気づき】
私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなることがあります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。また、「雑談」「余談」的なくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストと思います。
また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるというかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見るため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・日本の伝統文化をサスティナビリティーの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。
・旧科目名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

TRS300HA

環境表象論Ⅱ

梶　裕史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】
・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できること。
・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いため、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んでゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」などと呼ばれますが、持続可能な地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆきます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間も多くとる予定です。
授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、Ⅰに引き続き、視覚的画像をみることがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：「五感」のエコロジーと文化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第 2 回	日本の「いろ」の話（1）	日本文化における色彩、配色の特色
第 3 回	日本の「いろ」の話（2）	日本文化における「色づかい」の二面性
第 4 回	日本の「いろ」の話（3）	3 回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第 5 回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第 6 回	光と影・闇（2）	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第 7 回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（1）
第 8 回	日本人の「風景を聴く」伝統	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（2）
第 9 回	環境省「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（1）	「自然」の音風景の具体例
第 10 回	「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（2）	生き物に関わる音風景の具体例
第 11 回	「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（3）	生業や交通などに関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第 12 回	「残したい日本の音風景 100 選」を窓口に（4）	伝統祭事に関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第 13 回	方言をめぐって	音風景の一種として、地域文化の核である地域のことばに注目
第 14 回	総括―人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】
授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】
環境表象論Ⅰに同じ。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 %（授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業環境については、環境表象論Ⅰとほぼ同様です。
昨年度は、春学期の「表象論Ⅰ」の授業を計画通り完了できなかったため、表象論Ⅱの前半に、本来はⅠで話すべき内容を話し、その結果、一部がシラバスとは異なる内容になったことが反省点です。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表像論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

BSC200HA

サイエンスカフェⅠ

石井　利典

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**土 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように，高校の「化学基礎」と「化学」の復習からはじめます。さらに，よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学もできるだけ授業に取り入れてゆきます。

【到達目標】
高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が，「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする，基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
化学の基本的な理論，必要な数値計算法，知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第１章　物質を構成するミクロな世界	原子の構造と性質，化学結合と分子間力
第 2 回	第２章　化学変化と量的関係	物質量，化学反応式
第 3 回	第３章　酸と塩基	溶液 pH の計算，酸と塩基の反応，中和滴定
第 4 回	第４章　酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応，酸化還元滴定
第 5 回	第４章　酸化と還元（2）	ＣＯＤ (化学的酸素要求量) 値 および ＤＯ (溶存酸素量) 値の測定原理
第 6 回	第５章　有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法，異性体，有機化合物の構造と性質
第 7 回	第５章　有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第 8 回	第６章　身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類，脂肪と脂肪油
第 9 回	第６章　身近な有機化合物（2）	単糖類，二糖類，多糖類の構造と性質
第 10 回	第６章　身近な有機化合物（3）	アミノ酸，タンパク質の種類と立体構造
第 11 回	第６章　身近な有機化合物（4）	合成繊維，合成樹脂，合成ゴム
第 12 回	第７章　酵素	酵素，補酵素，補欠分子族のはたらき
第 13 回	第８章　核酸	ＤＮＡとＲＮＡの構造，遺伝子発現のしくみ
第 14 回	期末テスト	第１回講義～第 13 回講義の内容に関する筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の最初の１０分間程度は、前回授業の確認テストを行います。前回分の授業内容を配布したプリント類，ノートで必ず確認してください。欠席者は授業支援システムにログインして，その回に配布したプリント類を各自ダウンロードしてください。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。授業で取り扱ったすべてのプリント類は，授業支援システムからダウンロードできます。

【参考書】
高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に実施する確認テスト（１０分間程度）（５０％）と期末試験（５０％）の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
環境科学に関連するテーマとともに，身近な科学に関するテーマも多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにアクセスできる情報機器

【その他の重要事項】
「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田　雅之

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けることを目的とします。

【到達目標】
以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①野生生物の生活と生存戦略
②生物の進化と適応
③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第 2 回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第 3 回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第 4 回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第 5 回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第 6 回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第 7 回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第 8 回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第 9 回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第 10 回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第 11 回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ、サメ
第 12 回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第 13 回	生物を取り巻く新技術	バイオロギング、衛星活用、遺伝子技術
第 14 回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。
また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

INE200HA

エネルギー論Ⅰ

北川　徹哉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エネルギーは私たちの生活や社会，経済と密接にリンクしているとともに，近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に，エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている．本講義においては，エネルギーの資源の特徴や流れ，エネルギー関連の基礎原理，発電形態を学ぶとともに，我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る．

【到達目標】
１．エネルギーと人間生活，社会との結びつきを説明できる．
２．各種エネルギー資源の特徴とその利用方法，原理について説明できる．
３．現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行われる．また，質問は随時受け付ける．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史，世界のエネルギー情勢
第 2 回	エネルギーの資源，流通，消費	１次エネルギーと２次エネルギー，各種資源の輸入と流通，各種エネルギーの消費動向
第 3 回	エネルギーを表す量，単位	熱量，仕事，パワー，電力量などの意味と表現
第 4 回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第 5 回	熱と力	サイクルとは何か，熱力学第１・第２・第３法則
第 6 回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成，サイクルがする仕事と効率
第 7 回	エントロピー	エントロピーとは何か
第 8 回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係，エントロピー増大の法則
第 9 回	熱から電力への変換	熱と水の関係，発電で用いられるサイクル
第 10 回	電力の需要と供給	送電・配電，電力の需給バランス
第 11 回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類，火力発電所の構造
第 12 回	原子力とは	原子の構造，核分裂，核燃料
第 13 回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類，原子力発電所の構造
第 14 回	核燃料サイクル，放射性廃棄物	プルサーマル，高速増殖炉，使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の内容を事前に学習しておくと良い．第１～３回：エネルギー・資源の用語と単位，第４回：ジュールの実績，第５～８回：前回の講義内容の見直し，第９回：水の性質，第１０～１３回：我が国の電力会社と発電所，第１４回：原子力の時事問題

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポート（50 %）：各種エネルギーの特性に関する課題により，主として到達目標２の達成度を評価する．
試験（50 %）：各種資源とエネルギー利用形態，エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり，到達目標１～３全般の習得度を評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【その他の重要事項】
エネルギー分野は広範囲な内容を含み，楽しく学べます．科学的な内容については焦点を絞って取り上げます．わからないところは質問しましょう．
本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です．ただし，本科目を修得済の場合，「環境科学入門」の代替として履修することはできません．

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

SHS200HA

地球科学史Ⅰ

谷本　勉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

【到達目標】
略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなくて、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、１７世紀の科学革命期から１８世紀の地球像を詳述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第 2 回	古代世界の自然観	天地創造神話
第 3 回	古代ギリシアの地球観（1）	ミレトス学派からプラトン
第 4 回	古代ギリシアの地球観（2）	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第 5 回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第 6 回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第 7 回	科学革命期の地球観（1）	デカルトの『哲学原理』(1644) の地球論
第 8 回	科学革命期の地球観（2）	ステノの『プロドロムス』(1669) の科学的地球観
第 9 回	科学革命期の地球観（3）	ライプニッツの『プロトガイア』(1691) 啓蒙主義の時代の地球観
第 10 回	１８世紀の地球観（1）	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第 11 回	１８世紀の地球観（2）	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第 12 回	１８世紀の地球観（3）	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第 13 回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第 14 回	授業の総括	全体の概説史的説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【その他の重要事項】
本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

SHS200HA

地球科学史Ⅱ

谷本　勉

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

【到達目標】
地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
１８世紀末からプレートテクトニクス誕生までの 200 年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもっとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第 2 回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第 3 回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第 4 回	地層と時代	Dinosaurus（恐竜）の発見と時間の発見
第 5 回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第 6 回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第 7 回	１９世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第 8 回	２０世紀前半の地質学	シュティレ：地向斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第 9 回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第 10 回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第 11 回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第 12 回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第 13 回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第 14 回	授業の総括	全体の概説史的説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

BOM200HA

環境健康論Ⅰ

朝比奈　茂

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？ 健康で過ごすにはどうすればよいか？ 適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。
本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

【到達目標】
1.「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスターシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べることができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明する。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べることができる。
8. 食べることの重要性を述べることができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. こころが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	ホメオスターシスと病気－病気になる人となりにくい人－	人間に備わっているホメオスターシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。
第 3 回	がんの基礎知識Ⅰ	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。
第 4 回	がんの基礎知識Ⅱ	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第 5 回	免疫系と自律神経系：免疫力アップは腸内細菌の元気から	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第 6 回	治癒の本質：治癒の 3 局面（反応・再生・適応）	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第 7 回	創傷の治癒：線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。
第 8 回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。
第 9 回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性をを解説する。
第 10 回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人間は日々の摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第 11 回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第 12 回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさけ上手に生活をおくる方法を検討する。
第 13 回	こころが治癒に果たす役割：治癒とこころの相関関係（笑いが地球を救う）	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、こころが治癒系に与える影響について解説する。
第 14 回	成熟した成人になるために：治療は外から、治癒は内から	治療 (cure,　treatment）と治癒（healing）の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】
健康・体力づくりハンドブック　名取　礼二　監修　大修館書店
人はなぜ治るのか　アンドルー・ワイル著　上野圭一訳　日本文化社
癒す心、治る力　アンドルー・ワイル著　上野圭一訳　角川文庫
補完代替医療入門　上野圭一著　岩波アクティブ新書
標準東洋医学　仙頭正四郎　金原出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【その他の重要事項】
本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

BOM200HA

環境健康論Ⅱ

朝比奈　茂

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しがなされ、多くの人が日常的にとりいれ、その効果を実感している。
本講義では、世界におよそ 600 種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追及する。

【到達目標】
1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第 3 回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状を DVD を視聴しながら解説する。
第 4 回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第 5 回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第 6 回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第 7 回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として 7 種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第 8 回	補完代替医療システム ：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 9 回	補完代替医療システム ：インド伝統医学（アーユールヴェーダ、ヨガ）	インド地域を中心として発達した 5000 年の歴史があるアーユルヴェーダ、ヨガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 10 回	精神・身体相互介入による医療 ：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。
第 11 回	生物学的療法 ：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第 12 回	手技および身体を介する療法 ：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第 13 回	手技および身体を介する療法 ：カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第 14 回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】
補完代替医療入門　上野圭一著　岩波アクティブ新書
ホメオパシー医学への招待　松本丈二著　フレグランスジャーナル社
標準東洋医学　仙頭正四郎　金原出版
近代中国の伝統医学　ラルフ・C・クロイツァー著　創元社
傷寒論を読もう　高山宏世著　東洋学術出版社
アーユルヴェーダとヨガ　上馬場和夫著　金芳堂
人はなぜ治るのか　アンドルー・ワイル著　上野圭一訳　日本文化社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

DES300HA

自然環境政策論Ⅰ

高田　雅之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	自然公園、自然環境保全地域
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	鳥獣保護区、ワイルドライフマネジメント
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、国内外の事例、グリーンインフラ
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。
また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田　雅之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
②諸外国における取組みの事例とその仕組み
③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第 2 回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水・森林と人との関わり、開発と自然保護の対立
第 3 回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第 4 回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント、生態学と環境計画
第 5 回	法によらない保全メカニズム	自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPO による取組事例、協定等の自発的手法
第 6 回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのビオトープ
第 7 回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第 8 回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い、エコロジカルネットワーク
第 9 回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第 10 回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第 11 回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第 12 回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第 13 回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光、野生生物を生かした事例
第 14 回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

環境科学Ⅰ

藤倉　良

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
・上下水道の構造と処理のプロセス
・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
・土壌汚染（原因、対策技術）
・廃棄物（法律上の定義と現状）
・リサイクル（意義と現状）
・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は，原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その１（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第 3 回	大気汚染・その２（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その１（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その２（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第 14 回	基準の決め方（第 6 章）	環境基準と排出基準

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？　人間環境論集，第１６巻，第１号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】
期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。講義中に質問事項などを記述し提出してもらいますが、評価とは関係しません。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉　良

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**土 1**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会
・越境大気汚染の原因と対策
・中国の資源と環境
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は，原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その１（第７章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その２（第７章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その１（第８章）	ＩＰＣＣ、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その２（第８章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第 6 回	気候変動・その３（第８章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第 7 回	気候変動・その４（第８章）	緩和策
第 8 回	気候変動・その５（第８章）	適応策
第 9 回	越境大気汚染（第９章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第 10 回	中国の環境と資源・その１（第１１章）	人口，食料と水資源
第 11 回	中国の環境と資源・その２（第１１章）	エネルギー、公害、政策
第 12 回	環境の評価（第１２章）	環境アセスメント
第 13 回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第 14 回	環境国際協力	事例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。講義中に質問事項などを記述・提出してもらいますが、評価には関係しません。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉　良

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**土 1**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。
・資源の意味
・淡水
・エネルギー
・土壌とリン、窒素
・遺伝資源
・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は，原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第 9 回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第 12 回	遺伝資源	食料、医薬品
第 13 回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第 14 回	金属（2）	レアアース、レアメタル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布するレジュメを使って復習してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】
期末試験のみで評価します（100%）。講義時間中に質問事項などを記述・提出してもらうことがありますが、評価には関係しません。

【学生の意見等からの気づき】
図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

INE300HA

エネルギー論Ⅱ

北川　徹哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
元来，エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった．再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは，環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである．本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ，開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について，我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく．

【到達目標】
1．エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる．
2．各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる．
3．再生可能エネルギーの効率，環境負荷低減効果，課題を説明できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行われる．また，質問は随時受け付ける．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策と国の方針（電力を中心に）
第 2 回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは，新エネルギーの種類
第 3 回	水資源	水資源の循環，河川の性質
第 4 回	水力発電	水力発電の種類と仕組み，落差，中小水力発電
第 5 回	海水の動きを利用する発電	波力，潮力，潮流・海流による発電
第 6 回	風と風車	風車のタイプと性能，風がもつエネルギー，発電用風車の仕組み
第 7 回	風力発電	風況，パワーカーブ，発電量予測，風車と音
第 8 回	太陽光の特性，太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー，太陽電池セルとシリコン
第 9 回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類，フィード・イン・タリフ
第 10 回	太陽光の熱，太陽熱発電	太陽熱の熱利用，太陽熱発電の種類と仕組み
第 11 回	バイオマス	バイオマスの種類と分類，バイオマスの賦存量
第 12 回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題，バイオマスエネルギーの利用事例
第 13 回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電，海洋温度差発電
第 14 回	燃料電池	(B)EV と FC(E)V などのエコカーのバラエティ，燃料電池の仕組みと種類，家庭用燃料電池，水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の内容を事前に学習しておくと良い．第１回：エネルギーの CO2 換算，第２回：再生可能エネルギーの種類，第３〜５回：水の高さ・速さとエネルギーの関係，第６〜７回：風力発電の時事問題，第８〜１０回：太陽光・太陽熱利用の時事問題，第１１〜１２回：バイオマス利用の時事問題，第１３回：地球内部と海洋の構造，第１４回：エコカーの時事問題

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポート（50 %）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により，主として到達目標２の達成度を評価する．試験（50 %）：各種再生可能エネルギーの仕組や原理，環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり，到達目標１〜３全般の習得度を評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【その他の重要事項】
再生可能エネルギーには話題が豊富です．また，再生可能エネルギーのほとんどは，実は昔からあったということを実感して欲しいと思います．

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

EAE300HA

大気と社会Ⅰ

丸本　美紀

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気象や気候は古代より人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしてきました。「大気と社会Ⅰ」においては、人間が住む空間において気候がどのように形成されているのか、気候の構成要素や表現方法についてと、日本の気象災害の事例を中心に気候や気象の人間社会への影響について学んでいきます。

【到達目標】
1.　気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2.　日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明できる。
3.　身近な生活において、どのように気候の影響を受けているのか、考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた講義形式で行います。授業内で適宜ミニレポートを提出してもらいます。質問も随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	気象・気候の基礎	気候風土―人間を取巻く環境としての気候、気象と気候の違い、二十四節気七十二候
第 2 回	大気の構造	大気の垂直構造、大気大循環、地球の熱収支と水収支
第 3 回	気候の表現方法 1	気候要素と気候因子、気候のスケール、気候指数
第 4 回	気候の表現方法 2	世界の気候区分、日本の気候区分、平年値と年候、静気候と動気候
第 5 回	日本の気候 1	気象観測の方法、日本の気象観測網
第 6 回	日本の気候 2	日本周辺の気圧配置と季節による分類、シンギュラリティー
第 7 回	局地風	海陸風、日本の局地風（フェーン、だし風、おろし風）と風害、屋敷林、自然エネルギーへの転換
第 8 回	生物季節	生物季節観測、桜前線、紅葉前線、温量指数
第 9 回	春の気象災害	春の天気図パターンとメイストーム（雹、竜巻、ダウンバースト）
第 10 回	夏の気象災害 1	梅雨の天気図パターンと集中豪雨、やませと冷害
第 11 回	夏の気象災害 2	盛夏期の天気図パターンと猛暑、干害
第 12 回	秋の気象災害 1	秋の天気図パターンと台風
第 13 回	秋の気象災害 2	秋雨前線、霧
第 14 回	冬の気象災害	冬の天気図パターンと山雪・里雪、局地不連続線

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。随時、プリントを配布します。

【参考書】
荒木健太郎『雲の中では何が起こっているのか』ベレ出版
その他、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート（70 %）、授業内のミニレポート＋平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】
旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

EAE300HA

大気と社会Ⅱ

北川　徹哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気と社会Ⅰに引き続き，大気と人間，社会，都市との関係について網羅的に学ぶ．大気と社会Ⅱにおいては，大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する．

【到達目標】
１．大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる．
２．都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる．
３．人間生活で利用している気流について説明できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行われる．また，質問は随時受け付ける．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第 2 回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類，広域大気汚染，気温と大気汚染
第 3 回	ストリートキャニオン	都市における沿道の景観，沿道大気汚染，地形が作る大気環境，大気汚染の環境基準
第 4 回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質，都市キャノピー，クールアイランドからの冷気放出
第 5 回	クリマアトラスと風の道	ドイツ・シュツットガルトの風の道，気候情報に基づく都市計画・環境計画，風の道をつくるには
第 6 回	飛砂，風食	地表層土砂の挙動，風紋，飛砂対策，砂漠の拡大
第 7 回	黄砂の飛来	黄砂の発生源，黄砂の飛来性状と被害，アメリカ・中東・オーストラリアなどのダストストーム
第 8 回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質，花粉の観測方法，スギ花粉飛散状況と天候，アメリカ乾燥地域のタンブルウィード
第 9 回	住居環境と気流（1）	室内で発生する汚染物質，室内にいる人間からの CO2 放出が室内環境に及ぼす影響，換気と通風の違い，換気施設と換気計画
第 10 回	住居環境と気流（2）	通風による室内環境の変化，人間の代謝と快適感・温冷感
第 11 回	火災と大気	都市計画法第 9 条，延焼と市街地火災，火災旋風（ファイヤー・トルネード），火災の熱と大気
第 12 回	鉄道・自動車と大気	車両の形と転覆，強風による交通マヒ・事故，鉄道の運行規制とその発動回数減少のための対策，高速鉄道のトンネル微気圧波
第 13 回	農作物と大気（1）	受粉と気流，光合成と大気，気流による農作物の倒伏，飛来塩分による塩害
第 14 回	農作物と大気（2）	地域独自の大気特性を利用した農業，霜害とその防止，気温逆転層

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の内容を事前に学習しておくと良い．第１〜３回：大気汚染物質の種類，第３〜５回：都市の気候，第６〜８回：砂粒子の大きさと形，第９〜１０回：屋内の空気管理，第１１回：地震の２次災害，熱の種類，１２回：列車や自動車の形状・構造，第１３〜１４回：地域の気候

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポートによる平常点評価（100 %）：知識を得るためだけでなく，作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（２，３回程度）を通じ，到達目標１〜３の習得度を総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【その他の重要事項】
大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので，楽しんで受講してください．
旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

PHY200HA

サイエンスカフェⅣ

渡邊　誠

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ
本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその３つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】
物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
視聴覚教材や実験のデモンストレーションを見ながら学習していく。文系の学生、物理を苦手にしている学生にわかりやすい授業となるように留意したいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第 2 回	スピードガンで測ろう１（落下するボールの運動と力学、シミュレーション付）	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第 3 回	スピードガンで測ろう２（振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付）	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約 100W の電球と同じ、など。
第 4 回	熱とエネルギーを理解しよう１（エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る）	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球－宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第 5 回	熱とエネルギーを理解しよう２（気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する）	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第 6 回	熱とエネルギーを理解しよう３（熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱＋空気の流れにより伝わる熱＋電気ストーブによる加熱）	伝熱の３形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第 7 回	物質の三態と状態変化を調べよう１（氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について）	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第 8 回	物質の三態と状態変化を調べよう２（水の密度と膨張率＋氷の密度と浮力、氷の融解現象について）	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海水面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海水面上昇の原因なのか？
第 9 回	波の性質を知ろう（横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる）	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第 10 回	電気回路の性質を調べてみよう（電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を流れる電流による熱発生（ジュール熱）について）	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスは熱に転化する。
第 11 回	磁石を使って電気を作ろう＆電池を使って磁石をつろう（電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る）	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X 線なども電磁波の仲間。
第 12 回	原子・分子を理解しよう（原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門）	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）と Sv（シーベルト）などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第 13 回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう１（水と湯の間の熱移動＋水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ）	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第 14 回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう２（LED 電球と白熱電球の熱発生について）	なぜ LED 電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス（損失）が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピー的解釈超入門。総括として、物理学と環境問題および持続可能という概念との関係性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。
この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。
「自然環境科学の基礎（物理学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

ENV200HA

環境モデル論Ⅰ

渡邊　誠

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

【到達目標】
本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたいと考えている。画像、映像などのビジュアルな教材等をできるだけ使用しなが進めていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（サイエンスカフェ Ⅳ、統計とデータ分析、環境モデル論 II など）の概要と本科目との関連性についての解説。
第 2 回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第 3 回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第 4 回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第 5 回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこにいくのか？ エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか？
第 6 回	自然の法則と環境１	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第 7 回	自然の法則と環境２	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第 8 回	ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）に見る人為の熱力学１	人間活動の特徴をＬＣＡの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はＬＣＡではどのように表現されているか？
第 9 回	ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）に見る人為の熱力学２	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。
第 10 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る１	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？
第 11 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る２	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今そこで行われている人間活動を支え扶養する力（容量）を持っているのか？
第 12 回	持続可能性への考察１	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第 13 回	持続可能性への考察２	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第 14 回	総括	講義内容をまとめ、参加者による総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。
本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお薦めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ Ⅳ」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお薦めします。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

ENV200HA

環境モデル論Ⅱ

渡邊　誠

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える
本科目では持続可能とは何か？ という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。自然界にはおいては物質・エネルギーは保存されているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向（時間の矢）があり、それらは拡散する（言い換えるとエントロピーは増大する）という特徴を持っている。系を持続可能とするためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。持続という言葉はシステムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものであり、その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミックス）を調べることがひとつのアプローチであろう。本科目では、自然界において観察されているいくつかの現象や具体例を眺めてみることにより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。そのため比較的容易に理解できるシステムダイナミックス（ＳＤ）手法を習得し様々な系のダイナミックスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能というテーマに対しエントロピー増大則などを含むめた熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】
本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウエア＋ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	ＥＸＣＥＬラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第 4 回	成長の限界１	ローマクラブ「成長の限界」(1972) と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第 5 回	成長の限界２	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（Ｓ字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（栄養）の減少との関係について。
第 6 回	成長の限界３	喰う者と喰われる者（例えばウサギとヤマネコ）に関する個体数変動のダイナミックスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被食（2 体）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第 7 回	成長の限界４	喰う者喰われる者の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミックスについて。3 体、4 体間の競合と持続性を解析する。
第 8 回	システムダイナミックス（ＳＤ）入門１	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。ＳＤで使用される記号とフローの描き方。レベル（ストック、状態）とレイト（流量）、フロー（流れ）、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。
第 9 回	システムダイナミックス（ＳＤ）入門２	具体例をもとにしてＳＤ計算をＥＸＣＥＬ上で体験する。正と負のフィードバック（因果関係）ループの理解。時間遅れの構造とそれがシステム与える影響（効果）の理解。それにより「持続する」を考察する。
第 10 回	複雑系の世界１	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性（バタフライ効果）と予測（不）可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス（非線形力学）と環境問題との関係性を考察する。
第 11 回	複雑系の世界２	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか？ などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。
第 12 回	循環と持続を考える	本科目で見てきたダイナミックスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
第 13 回	エントロピーの概念について	情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の役割・価値と確率について。エントロピーが最大になるとはどのようなことか？ エントロピーの直観的理解と持続するということとの関連について。
第 14 回	総括	ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界　人類の選択」(2004) をどのように読むか？ ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998) の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講時の積極性 50%、最終授業時に出題するレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。
本科目は「環境モデル論 I」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお薦めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお薦めします。
本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

DES300HA

自然環境論Ⅳ

中井　達郎

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たち人間は、自然環境に取り巻かれ、それを基盤にして生存し、生活しています。しかし、近年さまざまな原因により自然環境が劣化し、人間社会への悪影響が生じています。この授業では、そのような自然環境の劣化の現状を知り、その原因を考えます。さらには自然環境保全の必要性とそのための方策を考えます。そして自然環境保全のためには、生態学、地生態学などの自然科学のみならず人文・社会科学的も含むさまざまなアプローチから、また身の回りの身近な地域レベルから地球規模までの幅広い視点から理解しようとすることの重要性を学び、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の 4 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①環境保全のための基本概念である生態系
②生物多様性保全とそのための方策
③地域レベルから地球規模レベルまでを関連づけて総合的とらえることの重要性
④持続可能な自然利用の重要性とそのための方策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「生態系」、「社会変化と自然環境」、「生物多様性保全」、「地域での自然環境のとらえ方」、「持続可能な自然利用とそれを基本とした社会」などについて、国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより学びます。自然科学的視点と人文・社会科学的視点を含む総合的かつ論理的な理解とそれに基づいて、自然とのつきあい方を考える能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「環境」とは？ 自然環境保全とは？	「環境」とは何かを整理、認識した上で、現代社会で大きな課題となっている環境問題、自然環境保全の内容とその根底に共通する「持続可能性」についての議論を行う。
第 2 回	生態系とは（1）循環	自然環境を理解し、また地球環境問題や公害問題も含む環境保全全般において重要な基本概念である「生態系」について解説する。
第 3 回	生態系とは（2）関係性	前回に引き続き、「生態系」について解説する。
第 4 回	生物多様性（biodiversity）とは？	自然環境保全において重要なキーワードである「生物多様性」について解説する。そして生物多様性を保全することが、自然環境保全に根幹にあることを示す。
第 5 回	生物種の多様性の危機	近代から現代にかけて、急速に進行する生物種の絶滅、それは生物多様性の危機である。その現状を解説する。
第 6 回	絶滅の原因と人間活動	現在進行している多くの生物種の絶滅は人間活動に起因することを示すとともに、現在行われている対策について紹介する。
第 7 回	生態系の多様性・地域の多様性	生物多様性保全において、地域生態系の多様性を保全が極めて重要である。地域生態系の多様性を成立させている空間的、時間的背景を含めその保全の重要性を解説する。
第 8 回	里やまと生物多様性（1）里やまとは	近年、生物多様性保全の視点から注目されている「里やま」について解説する。
第 9 回	里やまと生物多様性（2）人間活動が維持する生物多様性	「里やま」における伝統的自然利用とそれが生む生物多様性について紹介するとともに、持続可能な自然利用のありかたを考える。
第 10 回	都市の自然：自然環境・生物多様性の回復をめざして	すでに劣化してしまった都市の自然について、そのような場所における生物多様性の”回復”の必要性と活動の事例を紹介する。
第 11 回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全（1）：サンゴ礁の生物多様性	授業担当者の専門であるサンゴ礁の自然と人間のかかわりを紹介する。まず、サンゴ礁生態系の構造と生物多様性について解説する。
第 12 回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全（2）：地球温暖化とサンゴ礁	現在世界各地のサンゴ礁は人為的インパクトによって劣化している。サンゴ礁保全を通じて、地域レベルの生物多様性保全の解決は地球規模の生物多様性保全・環境保全につながることを学ぶ。
第 13 回	人間にとっての生物多様性：なぜ自然環境保全が必要か？	これ以前の授業でも折に触れて言及する「人間にとっての生物多様性」の必要性について整理を行った上で、どのような保全が目指されているかを学ぶ。
第 14 回	自然環境保全と持続可能な自然利用を基本とする社会にむかって	自然環境保全・生物多様性保全のゴールは、持続可能な自然利用を基本においた社会形成であると考える。現在行われている生物多様性保全の制度うちのいくつかを紹介しその課題と将来への方向性を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

公害防止管理論Ⅰ

大岡　健三

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
河川や海、地下水など身近な水環境の基本知識をビジュアルを活用して学ぶ。水環境や汚染浄化、環境法の基礎が理解できる人材育成をめざす。同時に文系学生、特に物理化学を学んでいない学生を対象に公害防止管理者国家資格の取得準備に役立つ知識も分かりやすく解説する。企業経営や環境行政、国際活動などで環境の知識は不可欠であり、社会人として持つべきやや高度な実務知識を本講座で取得する。なお、国家試験を受験しない一般学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。

【到達目標】
マスコミ報道で耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則を学ぶ。環境汚染の実態および物理化学処理や生物処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できる仕組みなど水質管理技術に加え、米国大学の環境科学や過去の汚染事故、報道記事なども交えて国際レベルの環境問題も学ぶことができ、社会で役立つ環境の技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに授業では公害防止管理者国家試験レベルの基本問題を解く訓練も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回教材を配布してスライドで説明する。各論では、講師が国内外で取材した産業公害の実際、有害物質、汚染メカニズム等を理解して、環境問題の基礎と環境法令を学ぶ。同時に、水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。毎回学生のコメントや要望を聞いて次回講義に反映する。なお成績評価は、授業内に行う簡単な小テストと平常点で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球温暖化と水環境、廃棄物問題、さらにベトナム、マレーシア、ネパール及び米国の環境と公害防止	現地取材の写真を見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。当講座全体の概要と授業について説明。
第 2 回	環境基本法と水質環境基準	環境基本法の概要を中心に水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因　主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に研究。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化と還元、膜分離などの基本知識も解説。
第 9 回	好気性微生物処理法	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	嫌気性微生物処理法、汚泥の脱水技術	嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説する。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術を学ぶ。
第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した各種処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質についてまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習	授業の要点復習および小テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に使用する。なお、国家試験受験希望者は市販の書籍またはインターネット検索により予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】
「新・公害防止の技術と法規　水質編」
　　発行所　（一社）産業環境管理協会
「公害防止管理者等国家試験問題　正解とヒント　水質」
　　発行所　（一社）産業環境管理協会
「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」
　　発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
授業内で小テストを行い、平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが８０％、平常点２０％。
A ＋ ： 100-90 A ： 89-80 B ： 79-70
C ： 69-60 D ： 59 点以下で不合格。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントによる映像を利用

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

公害防止管理論Ⅱ

大野　香代

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 6**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の健康や生活環境保全のためには、企業の公害防止管理が必要不可欠である。また、近年は地球温暖化防止の観点より、工場の生産活動に伴い排出される二酸化炭素等の温暖化物質を削減することも企業の重要な責務となっている。
我が国は 1960 年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、また 1970 年代に二度のオイルショックを経験したことにより、汚染物質排出抑制技術や省エネ技術は国際的に高い技術を有している。本講座では、近年の大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項を中心に学ぶ。

【到達目標】
大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項の概要を学び、企業における環境管理の重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は大気汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。温暖化問題について課題レポートを提出し、グループディスカッションで問題定義や課題解決の方法を学ぶ。定期試験ではなく、授業内に行う試験と平常点で成績評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大気汚染の歴史と現状	日本の公害問題の歴史と近年の大気環境問題について。
第 2 回	大気関係の法律	環境基本法や大気汚染防止法、公害防止管理者法について概要を学ぶ。
第 3 回	グループワーク 課題　気候変動の緩和と適応	企業が行える気候変動への取り組みについて考える。
第 4 回	大気汚染メカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要・大気汚染物質とその発生源、発生のプロセスについて。
第 5 回	排ガスの大気拡散モデル	排ガスの大気拡散について。
第 6 回	燃焼管理技術①	燃料の種類や燃料計算について。
第 7 回	燃焼管理技術②	効率的な燃焼管理方法について。ボイラー等の燃焼装置、空気比の管理、燃焼管理のための各種測定技術について。
第 8 回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について。
第 9 回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減方法及び処理技術について。
第 10 回	除じん集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第 11 回	有害物質の除去技術	排ガス中のカドミニウムや鉛、塩化水素、水銀等の有害物質の除去方法について。
第 12 回	排ガス中汚染物質の測定方法	ばい塵、硫黄酸化物、窒素酸化物の測定方法について。
第 13 回	大規模工場におけるばい煙処理技術と省エネ技術	火力発電所、鉄鋼等の大規模大施設における排ガス処理技術及び省エネ技術について。
第 14 回	まとめと授業内試験	まとめと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新・公害防止の技術と法規　大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規　大気編
　　発行所　（社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
レポート（20%）、筆記試験（80%）の総合点で判定する。
A+： 100-90 A ： 89-80 B ： 79-70 C ： 69-60 D ： 59 点以下で不合格

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果が出ていないので、記述できない。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

廃棄物・リサイクル論

鏑木　儀郎

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**土 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物は社会を映す鏡であり、超高齢化、自然災害の激甚化などの社会の変化に対応して想定すべき廃棄物問題とその解決策は次世代を担う学生が自らの問題として考える必要がある。この講義では、そのための基礎として「廃棄物処理はみんなの責任」と言われるのはなぜなのか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何なのかなどを理解するため、今日の環境問題を俯瞰しつつ廃棄物に関して過去と現在を比較検討するとともに法制度、技術等の廃棄物・リサイクルを考える基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
廃棄物問題は複雑・多様で簡単には片付かない。社会の変化、それに伴う生活や製品の変化、産業構造の変化、自然災害の激化などが種々に廃棄物問題を生む。法的には「廃棄物」の定義の難しさ、処理責任を負うべき排出者のみでは解決できない製品の高度化・多様化に対応できる社会システムの政策誘導などの課題がある。そこで社会の変化と廃棄物の発生・処理との関係を学び、廃棄物に関するテーマについて過去と現在との比較考察をし、生活に身近な廃棄物がどこでどう処理されるかを知り、処理技術の基礎を学ぶ。そのうえで法における廃棄物の定義と有価物の差異を学ぶとともに廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。加えて災害環境研究などの現状を学ぶ。これらをもとにしてリサイクルなど３Ｒ政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義資料をもとにして講義を進め、日常の生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するリアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体構成と進め方　まず知っておくべき基本的な事実と知識	講義の全体像を説明。今日の環境問題全般について俯瞰したうえで廃棄物・リサイクル問題にフォーカスする。
第 2 回	社会の変化による廃棄物の排出等への影響	政府の白書等をもとにして社会の変化を認識しそれによって廃棄物の排出等がどのように影響されるかを学ぶ
第 3 回	ごみ処理の昔と今	明治時代の東京、大阪や中世のパリの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第 4 回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第 5 回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第 6 回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第 7 回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第 8 回	特別管理廃棄物の処理の考え方	ＰＣＢ廃棄物などを具体例として特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。
第 9 回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第 10 回	中間処理技術と最終処分技術, リサイクル技術	焼却などの中間処理技術, 埋め立て技術, リサイクル技術など環境産業、環境技術の現状を学ぶ。
第 11 回	有害廃棄物処理技術	有害な特性を持つ物質の処理技術について学ぶ。
第 12 回	災害環境研究の現状と見通し	東日本大震災を契機として行われている災害環境研究の現状と今後の見通しについて学ぶ
第 13 回	まとめとレポートの出題	講義全体の内容をまとめるとともに、講義内容全体の理解を深めて考える力をつけるためのレポートを出題する
第 14 回	授業時間内小テスト	授業内容の理解とそれらを踏まえた考察力の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておくと良い。新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読みなぜ記事のようなことが起こっているのか考える訓練をしておくと良い。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布する。

【参考書】
環境・循環型社会・生物多様性白書
「人間とごみ」カトリーヌ・ド・シルギー著　新評論
「明治日本のごみ対策」溝入茂著　リサイクル文化社
「ごみ減量　全国自治体の挑戦」服部美佐子著　丸善

【成績評価の方法と基準】
参加姿勢、提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は小テスト４０％、レポート４５％、平常点１５％とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
各講義時間の終了時に提出してもらう出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次回の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

【学生が準備すべき機器他】
携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

【その他の重要事項】
・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。
・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。
・講義内容は入れ替えがあり得ます。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

SEE300HA

環境教育論

野田　恵

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 2**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年深刻化する環境問題を解決するアプローチのひとつである環境教育および ESD（持続可能な開発のための教育）について学び、持続可能な社会の構築における環境教育の意義や役割、可能性や限界について自分なりの考えを深める。

【到達目標】
環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法についての知識を身に付け、環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点をもち、自分なりの考えを持てるようになる。
また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では対話型および参加型の手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：「わたしと環境教育」	本講義のねらい・進め方についてのオリエンテーションと自分の環境教育の経験を振り返る。
第 2 回	環境教育とは何か？	環境教育について、その意義や理論的背景について学び、なぜ環境教育を学ぶのか考える。
第 3 回	環境教育の歴史	環境教育についての国際的取り組みと日本の環境教育の歴史を概括する。
第 4 回	ESD と SDG s	持続可能な開発とは何か、ESD(持続可能な開発のための教育）とは何か、講義を通じて考える。
第 5 回	自然保護教育と自然体験学習	日本の環境教育のルーツである自然保護教育とその発展形態である自然体験学習について学ぶ。
第 6 回	自然学校と地域づくり	自然に関わる環境教育、特に自然学校と持続可能な地域づくりの可能性について解説する。
第 7 回	公害教育・1	公害から学ぶとともに、日本の公害教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ。公害教育教材を体験する。
第 8 回	公害教育・2	公害から学ぶとともに、日本の公害教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ。沼津三島の住民運動について触れる。
第 9 回	SDG s とソーシャルアクション	持続可能な開発を実現する方法について考え環境教育と ESD についてさらに深める。
第 10 回	環境教育のラディカルさを考える	環境教育に対して批判的な論考を読み考えを発展させる。
第 11 回	環境教育とは何か（グループワーク）	これまでの講義を振り返り、環境教育とは何か自分なりの考えをまとめる。また受講者同士のディスカッションを通じて考えを深める。
第 12 回	環境教育プログラムを考えてみよう	社会教育施設や学校における環境教育について学ぶとともに、環境教育プログラムを作成する。
第 13 回	環境教育プログラムを考える（ワークショップ）	作成した環境教育プログラムを紹介しあう。
第 14 回	まとめ	これまでの授業のまとめ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。
環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】
『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】
毎時間出す課題とグループワークや授業への参加・態度を評価の対象にする。詳細は以下のとおり
●授業 1 ～10 回ワークシートを配布するので取り組む。ワークシートはすべて 11 回のグループワークに参加時に回収する。（配分 70%：ワークシートの課題にしっかり答えられているか、授業で扱ったポイントを踏まえて書かれているかを評価の基準とします。自筆のみ可とし、他の受講者のもの写したり代筆とみなされるものは評価の対象にしません。作成方法や評価基準の詳細は第 1 回の授業時に指示します）
● 12 回・13 回で環境教育プログラムを作成しグループワークに参加し提出する。（配分 20%　作成方法と評価基準は 12 回の授業中に指示します）
●平常点 (10%　授業態度など）
成績評価や課題について詳細を説明しますので、第 1 回目の授業に出席するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度からの変更点 → 授業前後の学習に取り組むように、今年は「ワークシート」として毎時間課題を出すようにしました。しっかり取り組み学習を深めてください。

【学生が準備すべき機器他】
太い文字が書けるサインペン（黒以外でも可。黄色や蛍光色など見えにくい色は不可）を常備してください。

【その他の重要事項】
受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第 1 回目の授業に出席するようにしてください。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

CAR200HA

キャリア入門

長峰　登記夫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Understanding job careers.

【到達目標】
This class aims to give students an opportunity to study what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, this subject will give students hints to consider about their own careers and help them understand issues about career making and make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be run in English and basically in the form of lecture. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make presentations in class. One or two guest speakers may be invited if possible. The lecture will deal with issues mainly in Japan and English speaking countries focusing on career making in the global stage.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Intorduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	Words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.
week 6	International students at Hosei	Students will look at international students at Hosei University in the past and now.
week 7	Global careers (1) how to make a global career	The employment by the Japanese companies of kikokusei and Japanese students studying overseas who wish to make a job career in the global stage.
week 8	Global careers (2) global human resources	The Japanese companies' attitude to the employment of overseas students studying at Japanese universities.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.
week 11	How to make a job career (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	How to make a job career (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	Employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final exam.	Final examination and commentary on it.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are supposed to read materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk.

【テキスト（教科書）】
Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】
References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will be made by short exams (20%) and by a final exam or an essay (80%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words.

【学生の意見等からの気づき】
The lecturer will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences.

【学生が準備すべき機器他】
Nothing.

【その他の重要事項】
Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn something (job careers) in English, not to learn the English language itself.
Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer.
If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties.

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

ASS300HA

食と農の環境学Ⅰ

西川　邦夫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済発展段階が先進国段階に到達した現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。日本農業の現状を理解するに際して、置かれている国際的連関に基づく制約条件、及び農業の持続可能性に留意する。

【到達目標】
農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、論理的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。農業経済学の理論的な解説とともに、現場での実例の紹介に比重を置く。教員と受講生の双方向の対話を重視する。講義の終わりにリアクションペーパーへの記入を行い、次回講義で紹介する。
（受講人数によって変更する場合がある）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：現代日本における農業問題の枠組み	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題と取るべき政策について、理論的に解説する。
第 2 回	GATT ウルグアイ・ラウンドと先進国の農政改革	1990 年代以降の先進国の農政改革と、それを規定した GATT ウルグアイ・ラウンドについて解説する。
第 3 回	WTO ドーハ・ラウンドの展開と国際貿易交渉の多層化	現在も継続中の WTO ドーハラウンドの失敗をもたらした要因と、代替策としての FTA の広がりを解説する。
第 4 回	TPP の政治経済学	日本が主導的な役割を果たした TPP の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第 5 回	アメリカの農業政策とカリフォルニア稲作	日本農業にとって最大の競争相手となるアメリカの農業政策と、カリフォルニア州の稲作の実態について解説する。
第 6 回	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況を、特に食料安全保障に注目して解説する。
第 7 回	日本経済の構造転換と米政策	日本農業において最も重要な農産物である米について、経済の構造転換の影響を受けた家計との関係から考察する。
第 8 回	農業労働力の脆弱化と就農ルートの多様化	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による補充の動きについて解説する。
第 9 回	農地流動化と農地制度改革	離農に伴う農地流動化の進展と、それを促進するための農地制度改革について解説する。
第 10 回	日本農業を支える多様な担い手	日本農業を支える「担い手」の経営展開について、地域的多様性に留意しながら解説する。
第 11 回	農業者に対する支援システム	農業者を支援してきた農業協同組合と協同農業普及事業について、その役割と課題を解説する。
第 12 回	条件不利地域農業と農山村政策	条件不利地域農業としての中山間地域農業が抱える問題と、求められる政策について解説する。
第 13 回	農業と環境	農業と環境の関係について、理論・実態・政策の関連を解説する。
第 14 回	エピローグ：日本農業は持続可能なのか？	これまでの講義の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
成績評価はテスト形式であるため、毎回のレジュメの見直しが効果的である。また、興味関心を養うために、新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことを勧める。国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を合わせて履修することも勧める。

【テキスト（教科書）】
①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012 年（本体 2,600 円＋税）.
②速水佑次郎・神門善久『農業経済論　新版』、岩波書店、2002 年（4,200 円＋税）.

【参考書】
農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）.

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 100 %
（受講人数によって変更する場合がある）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーで出された意見を、積極的に講義に盛り込んでいきたい。また、講義前後での教員への質問も歓迎する。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の配布、レポートの提出等で授業支援システムを積極的に活用する予定であるので、コンテンツの更新には常に注意すること。具体的な活用方法については、講義で指示する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

舩戸　修一

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食料の生産基盤である「農山村（中山間地域）」を自然環境の仕組みや環境問題から考える。

【到達目標】
自然環境の仕組みや環境問題から「農山村（中山間地域）」を将来的に維持していくための方策を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「農山村（中山間地域）」は、人間の生活に必要な物資（食べ物や材木など）を生産する場所である。また、棚田や森林は、水源を涵養し、自然環境や景観の維持に貢献している。このように農山村は、環境保全機能を果たし、都市部に住む人たちの生活や暮らしにも寄与している。しかし、現在、このような地域では、高齢化による農林業の担い手不足、耕作放棄地の増加、過疎や限界集落など深刻な問題に直面している。そこで、この授業では、このような諸問題成立の背景を踏まえ、自然環境や環境問題から「農山村（中山間地域）」を考察し、これらの地域を将来的に維持してための方策を理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに〜なぜ「農山村（中山間地域）」を問うのか？	現代社会において「農山村（中山間地域）」を考える意義について学習する。
第 2 回	高度経済成長と地域社会（Ⅰ）〜都市と農村の所得格差はいつ拡がったのか？	戦後の農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習する。
第 3 回	高度経済成長と地域社会（Ⅱ）〜戦後の「ALLWAYS 三丁目の夕日」の時代は本当に美しかったのか？	「農村から都市へ」の戦後の人口移動を高度経済成長との関連で学習する。
第 4 回	高度経済成長と地域社会（Ⅲ）〜農民層出身者はなぜ都市労働者になっていったのか？	第一次産業就業者数の減少を高度経済成長との関連で学習する。
第 5 回	林業と地域社会〜森林問題はなぜ都市住民と関係あるのか？	戦後社会における人間と森林との関わりの変容について学習する。
第 6 回	ムラ（村）と過疎〜テレビ番組「田舎に泊まろう！」には映らない田舎の現実とは？	「過疎」問題の成立を高度経済成長との関連で学習する。
第 7 回	「限界集落」を解決するために（Ⅰ）〜“限界集落”の誤解とは？	「限界集落」という言葉の登場背景について学習する。
第 8 回	「限界集落」を解決するために（Ⅱ）〜“他出子”を活かした中山間地域づくりの有効性とは？	人間関係（家族関係）から限界集落問題の解決可能性について学習する。
第 9 回	「限界集落」を解決するために（Ⅲ）〜グリーン・ツーリズムでなぜ農山村は疲弊するのか？	グリーン・ツーリズムの成立背景とその功罪について学習する。
第 10 回	「限界集落」を解決するために（Ⅳ）〜中山間地域づくりに“移住者（よそ者）”が果たす役割とは？	田園回帰志向の高まりと移住者が農山村の集落維持のために果たす役割について学習する。
第 11 回	「限界集落」を解決するために（Ⅴ）〜中山間地域づくりに“高齢者”や“農村女性”が果たす役割とは？	農業の活性化・農山村の維持のために高齢者や農村女性をエンパワメントする取り組みについて学習する。
第 12 回	地域政策と地域社会（Ⅰ）〜戦後の地域振興策（＝地域開発）はなぜインフラ整備が中心だったのか？	戦後の地域政策の変容について学習する。
第 13 回	地域政策と地域社会（Ⅱ）〜市町村合併は中山間地域づくりにとって良かったのか？	「平成の大合併」による地域社会の変容について学習する。
第 14 回	地域政策と地域社会（Ⅲ）〜中山間地域づくりにとって必要なものは何か？	中山間地域において行政・企業・家族機能が縮小する中で求められる地域づくりの方向性について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
参考文献は、授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポートの内容を 90 %、授業後に課すリアクションペーパーの内容を 10 %として評価する。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業では出席をとらなかったため、授業を欠席する学生がいたようである。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではないが、授業後にリアクションペーパーを課したいと考えている。

【その他の重要事項】
旧科目名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場合、本科目は履修はできない。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ASS300HA

食と農の環境学Ⅲ

吉田　岳志

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
農政改革が国政の課題に取り上げられ農業問題が注目されているが、これらを理解するために、地域の自然条件と立地条件によって営まれている様々な農業の実態、農政の変遷、食料自給率の変遷、食品の安全性問題、農業技術の発展とそれに伴う課題、地球環境問題等の新たな課題と農業・農村の関係などについて基本的なことを学ぶ。

【到達目標】
①農政の変遷、②食料自給率や食品の安全性確保の現状と課題、③農業生産を支える技術の発展と課題、④産業としての農業生産活動と環境保全機能の関係、⑤地球環境問題に対応した農業生産、⑥新たな農業生産の展望、等について講義と意見交換を通じて、農業問題に関する多面的なものの見方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
（概要）
スライドを用いた講義を主体とし、併せて講義のレジュメを配付する。
また、出席調査票に記載される当日の講義についての質問や意見を、次の講義の際に紹介しコメントや回答することによって、理解を深めるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業の形態を紹介します。
第 2 回	農業生産及び農業政策の推移	戦後７０年の農業生産の推移を技術の発展や政策の推移に着目しながら講義します。
第 3 回	農村の現状と課題	農業の担い手問題、農村の多面的機能、それが損なわれている現状、鳥獣害対策等について講義します。
第 4 回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、海外との比較、食料自給率が低い要因、食料自給率向上に向けた取組等について講義します。
第 5 回	食品の安全問題	様々な危害要因と食品のの安全性との関係、リスク分析の考え方等を講義します。
第 6 回	農業生産資材	農業機械、農薬、肥料等の農業生産資材の役割と課題について講義します。
第 7 回	バイオテクノロジーと農業Ⅰ	バイオテクノロジーの農業分野 (作物) での活用について講義します。
第 8 回	バイオテクノロジーと農業Ⅱ	バイオテクノロジーの農業分野（畜産、食品工学等）での活用について講義します。
第 9 回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農業生産方式の現状と課題について講義します。
第 10 回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負荷と生物多様性を保全する役割、国際的な取り組みについて講義します。
第 11 回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生状況、地球温暖化防止、温暖化適用技術等について講義します。
第 12 回	技術開発・普及と知的財産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び新品種等知的財産の保護・活用の仕組みと課題、ＩＴ化やロボット化等新しい農業技術について講義します。
第 13 回	国際化の進展と農業農村の展望	TPP 問題等農産物の輸入自由化問題への対応及び農業・農村の現場で起きている新しい取り組みを紹介しながら、今後の農業の展望について講義します。
第 14 回	時事問題	震災対応を含め、農政改革で話題になっている農協問題等について、最新の状況を講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

【参考書】
農業白書（平成２７年度食料・農業・農村の動向）
　農林水産省の HP で閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、期末試験６０％

【学生の意見等からの気づき】
　「考え方が分かりやすかった」についての学生の評価が低いようなので（以前のアンケート）、伝える情報量を減らして、毎回の授業の結びに、その日の講義のエッセンスを伝えるようにする。
　また、講義の冒頭の時間を利用して、前回の講義に対する主な質問 (出席調査票に記入) に対する回答を行い、学生の理解を深める。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

SOC300HA

アーティストと社会貢献

庄野　真代

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても 20 世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎだす作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通した社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】
・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動を検討しながら、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄って検討する。授業期間内に 1〜2 回、ゲストスピーカーを迎える予定をしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第 2 回	アーティストとは？ 社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第 3 回	プロテストソングの誕生〜アーティストと現代史（1）	1960 年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯について検討する。ピート・シーガーなど。
第 4 回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容〜アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984 年）を契機に「USA フォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ボブ・ゲルドフ、ボノなど。
第 5 回	社会貢献活動の軌跡〜アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取りくむアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第 6 回	国際社会とアーティスト〜親善大使として役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第 7 回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について検討する。レディガガなど。
第 8 回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているＮＰＯ／ＮＧＯ、市民団体について検討する。
第 9 回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。
第 10 回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について検討する。
第 11 回	社会貢献活動の企画ワークショップ	アーティストが社会貢献する企画をたててみる。
第 12 回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまずしさキャンペーン」「なんとかしなきゃ！ プロジェクト５５億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストを検証する。
第 13 回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を検証し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第 14 回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
好きなアーティストの、本来の活動をとおした社会貢献、あるいは本業外での社会貢献活動を探してみよう。毎回、内容に添った豆情報を一つ調べてくる。

【テキスト（教科書）】
資料を適宜、配布

【参考書】
その都度、紹介

【成績評価の方法と基準】
①リサーチレポート 30 %、②課題レポート 40 %、③授業内試験 30 %　による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講師が主催しているチャリティイベントなどのボランティアスタッフを希望される方は歓迎します。
是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。
「人間環境特論（アーティストと社会貢献）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

ARSl300HA

グローバルスタディーズⅠ

吉田　秀美

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちが日常生活で購入している商品は、様々な原材料を加工して作られています。例えば、大豆は味噌や豆腐の材料であるだけでなく、マーガリン、ファーストフードの揚げ油、スナック菓子、石鹸、インク、バイオ燃料にまで使われています。
本授業では、こうした原材料（世界の市場で大量に取引される産品＝コモディティ）を入り口として、環境、貿易、食料、エネルギー、歴史、ODA、企業やNGO の活動などについて学びます。授業を通じて、各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

【到達目標】
１）身近なモノを事例として、生産地や生産者その他のステイクホルダーに関する具体的なイメージを持ち、社会　経済の動き方を理解する。
２）文献や統計資料（英文含む）を読みこなす力を身につける。
３）ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。
４）調べて得た知識を基礎としつつ、独自の視点で課題や解決策を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が 25 名を超過する場合は、第 1 回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第 2 回	講義：パーム油のサプライチェーンについて	生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第 3 回	グループワーク：大豆をめぐる各国のステイクホルダー（1）	グループ研究を進めるうえで必要な基礎知識、データの集め方などを学ぶ
第 4 回	グループワーク：大豆をめぐる各国のステイクホルダー（2）	集めた情報を統合して、課題の全体像をつかむ
第 5 回	グループワーク：大豆の生産（1）	国ごとに異なる生産者の多様性や課題を知る
第 6 回	グループワーク：大豆の生産（2）	国ごとに異なる生産者の多様性や課題を知る
第 7 回	グループワーク：大豆の流通	大豆がグローバルに取引される構造を理解する
第 8 回	グループワーク：大豆を使った加工食品	大豆がどのように加工され消費者に届くかを理解する
第 9 回	グループワーク：世界の食糧需給と農業	遺伝子組み換え技術や有機農業について議論する
第 10 回	グループワーク：援助とビジネス	大豆に関連する開発援助プロジェクトやビジネスについて理解を深める
第 11 回	農林水産物の生産と環境に関する文献と議論、発表テーマの決定	各自の関心に合わせ、発表のグループ分けを行う
第 12 回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第 13 回	発表・議論（1）	受講者が設定したテーマの発表（1）
第 14 回	発表・議論（2）	受講者が設定したテーマの発表（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
「WWF Report 2014 拡大する大豆栽培―影響と解決策」
概況把握のため表記テキストを使用しますが、様々な視点の文献や統計資料を各回で紹介します。
WWF（2012）「生きている地球のためのより良い生産」

【参考書】
本郷豊・細野昭雄（2012）「ブラジルの不毛の大地『セラード』開発の奇跡」（JICA プロジェクト・ヒストリー）ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
参加姿勢 (予習とグループワークへの貢献）（40%）、グループ発表（2 回）（30%）、レポート（2 回）（30%）を基本とします。
予習への取り組み状況、任意提出の英文和訳などの取り組み状況によって加点します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度と同じ材料を扱いますが、授業時間の変更に伴い、授業内でのグループワークや意見発表する時間を増やし、正式なグループ発表の回数を減らします。
文献を読んだり、ネットで調べ物をしてくる、といった予習をしてくることで、グループワークが活性化されますので、積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。
資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修をすると理解が深まります。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ARSl300HA

グローバルスタディーズⅡ

吉田　秀美

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちにとって身近な食品である砂糖は、歴史の中で人の移動に大きな影響を与えてきました。本授業では砂糖がもたらした人の移動について、主要な生産国の歴史と現在直面している課題を考察します。授業を通じて各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

【到達目標】
1）現代の社会の成り立ちには歴史的経緯があることを理解し、その知識をふまえて現代の国境を超える人の移動について考察する。
2）文献や統計資料を読みこなす力を身につける。
3）ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が 25 名を超過する場合は、第 1 回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第 2 回	講義：カカオ（1）	カカオと人の移動の歴史
第 3 回	講義：カカオ（2）	チョコレート産業と CSR
第 4 回	文献講読と発表（1）	大航海時代を新大陸の側から見る
第 5 回	文献講読と発表（2）	砂糖プランテーションがアフリカと新大陸にもたらした影響
第 6 回	文献講読と発表（3）	イギリスの砂糖と紅茶の歴史を知る
第 7 回	文献講読と発表（4）	奴隷貿易廃絶運動から奴隷の解放まで
第 8 回	文献講読と発表（5）	年季奉公者について
第 9 回	文献講読と発表（6）	現代の砂糖と労働をめぐる課題
第 10 回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第 11 回	人の移動に関する文献講読と議論（1）	日本からの移民と日本に来た外国人
第 12 回	人の移動に関する文献講読と議論（2）	外国人技能実習制度
第 13 回	人の移動に関する文献講読と発表（1）	各自が設定したテーマで発表する（1）
第 14 回	人の移動に関する文献講読と発表（2）	各自が設定したテーマで発表する（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
川北稔（1996）「砂糖の世界史」(岩波ジュニア新書)
ラッセル・キング（ほか著，　竹沢尚一郎・稲葉奈々子・高畑幸（訳）（2011）「移住・移民の世界地図 移動する人びと」丸善出版

【参考書】
エリザベス・アボット（2011）「砂糖の歴史」河出書房新社
WWF（2012）「生きている地球のためのより良い生産」

【成績評価の方法と基準】
参加姿勢（40%）、発表（2 回）（30%）、レポート（2 回）（30%）を基本とします。
予習への取り組み状況、任意提出の英文和訳などの取り組み状況によって加点します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のアンケートでは、「世界的なつながりや時代的なつながりを学び、物事を少し俯瞰して見られるようになった」という回答がありました。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。
資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修すると理解が深まります。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

PHL200HA

現代思想と人間Ⅰ

竹本　研史

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：現代社会思想
　私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。そこで本講義では、現代社会思想および映画作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

【到達目標】
　人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステイナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこないますが、授業中ならびにリアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティヴな授業になるように心がけます。単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の自由と反植民地主義（1）	ジャン=ポール・サルトルの思想（1）――『存在と無』を中心に
第 2 回	個人の自由と反植民地主義（2）	ジャン=ポール・サルトルの思想（2）――『弁証法的理性批判』を中心に
第 3 回	個人の自由と反植民地主義（3）	ジャン=ポール・サルトルの思想（3）――『ユダヤ人問題についての考察』、「黒いオルフェ」を中心に ハンナ・アーレントの思想（1）――『全体主義の起源』を中心に
第 4 回	個人の自由と反植民地主義（4）	フランツ・ファノンの思想――『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第 5 回	フェミニズムの思想（1）	オランプ・ド・グージュ、メアリ・ウルストンクラフト、J・S・ミルの思想を中心に
第 6 回	フェミニズムの思想（2）	シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想――『第二の性』を中心に
第 7 回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第 8 回	全体主義批判と人間性の問題（2）	ハンナ・アーレントの思想（1）――『全体主義の起源』を中心に
第 9 回	全体主義批判と人間性の問題（3）	ハンナ・アーレントの思想（2）――『エルサレムのアイヒマン』、クロード・ランズマン『ショア』、ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スペシャリスト』を中心に
第 10 回	全体主義批判と人間性の問題（4）	ハンナ・アーレントの思想（3）――『人間の条件』、『革命について』を中心に
第 11 回	規律と権力（1）	ミシェル・フーコーの思想――『監視と処罰』を中心に
第 12 回	規律と権力（2）	ミシェル・フーコーの思想――『性の歴史』を中心に
第 13 回	規律と権力（3）	ミシェル・フーコーの思想――『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に
第 14 回	まとめ	今学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013 年。
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013 年。
坂本達哉『社会思想の歴史――マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014 年。
坂本治也編『市民社会論――理論と実証の最前線』、法律文化社、2017 年。
仲正昌樹編『政治思想の知恵――マキャベリからサンデルまで』、法律文化社、2013 年。
同編『現代社会思想の海図 (チャート) ――レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014 年。
山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004 年。
同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009 年。
同『公共哲学からの応答―― 3・11 の衝撃の後で』、筑摩選書、2011 年。
ほか
＊各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後に提出するコメントシート（20%）＋学期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史 I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本　研史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「労働」の思想的系譜
ランスでは、リセ（高校）の最終学年で哲学を学ぶことが必修とされています。大学入学資格試験に当たるバカロレアにおいても、人文系であれ、社会科学系であれ、自然科学系であれ、哲学は受験必須科目であり、生徒たちは 4 時間かけて、ディセルタシオンというフランス式小論文の形式で問題に取り組んでいます。
　本講義では、人間環境学部、ならびに学部の主軸理念である「サステイナビリティ」の学問内容とも関わりの深いテーマを選び、みなさんと一緒に考えていきます。今年度は、2016 年度バカロレア試験の理系の選択問題だった「労働を減らせば、より善く生きることになるのか (Travailler moins, est-ce vivre mieux ?)」をテーマとして設定します。
　ただし、あくまで大学の学部専門科目として、それにふさわしいレベルで「労働」についての思想的知識を身につけたうえで、設定したテーマについてみなさんが見解を示すことが目的です。
　社会では「働き方」について見直されつつある昨今、改めて「労働」とは何かについて根本的に考えてみましょう。

【到達目標】
　人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステイナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。
＊「労働」についての思想的系譜を把握したうえで、その知識を基にして「労働を減らせば、より善く生きることになるのか」という問題設定に対して自分自身の見解を示すことができるようになること。
＊その際に、日本語のかたちであれ、ディセルタシオンの形式を身につけて、論理的に上記に関する見解を論じることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑＋次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティヴな授業になるようにいたします。
　思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	映画作品から考える「労働」	ダルデンヌ兄弟『サンドラの週末』、ケン・ローチの作品などを中心に
第 2 回	近代の思想家が見る「労働」(1)	ジョン・ロックの労働所有権論と十分性条件
第 3 回	近代の思想家が見る「労働」(2)	ルソーの『人間不平等起源論』と『社会契約論』における「労働」について
第 4 回	近代の思想家が見る「労働」(3)	アダム・スミスの労働価値説
第 6 回	近代の思想家が見る「労働」(4)	ヘーゲルにおける「主人と奴隷の弁証法」および、市民社会と労働について
第 7 回	近代の思想家が見る「労働」(5)	初期社会主義者と「産業社会」
第 7 回	近代の思想家が見る「労働」(6)	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール 18 日』など
第 8 回	近代の思想家が見る「労働」(7)	カール・マルクス『資本論』
第 9 回	近代の思想家が見る「労働」(8)	マックス・ヴェーバー、プロテスタンティズムと禁欲的労働
第 10 回	現代の思想家が見る「労働」(1)	ハンナ・アーレント、ジャン=ポール・サルトル、ミシェル・フーコーそれぞれの労働論を春学期の復習も兼ねて学び直す
第 11 回	現代の思想家が見る「労働」(2)	ジル・ドゥルーズの「管理社会」論
第 12 回	現代の思想家が見る「労働」(3)	アントニオ・ネグリ／マイケル・ハートの「非物質的労働」と「マルチチュード」論
第 13 回	現代の思想家が見る「労働」(3)	イヴァン・イリイチの「シャドウ・ワーク」論
第 14 回	まとめ	今学期のテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
市野川容孝・渋谷望編『労働と思想』、堀之内出版、2015 年。
ラース・スヴェンセン『働くことの哲学』小須田健訳、紀伊國屋書店、2016 年。
立正大学文学部哲学科編『哲学　はじめの一歩：働く』、春風社、2017 年。
市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013 年。
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013 年。
坂本達哉『社会思想の歴史――マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014 年。
坂本治也編『市民社会論――理論と実証の最前線』、法律文化社、2017 年。
仲正昌樹編『政治思想の知恵――マキャベリからサンデルまで』、法律文化社、2013 年。
同編『現代社会思想の海図 (チャート) ――レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014 年。
山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004 年。
同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009 年。
同『公共哲学からの応答―― 3・11 の衝撃の後で』、筑摩選書、2011 年。
ほか
＊各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後に提出するコメントシート（20%）＋学期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】
在学中に企業・行政組織・ＮＰＯなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、ＮＰＯ等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第 2 回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第 3 回〜第 12 回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第 13 回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第 14 回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80 %）・レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】
自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。
「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017 年度から「選択必修科目」（6 単位）の対象科目になります。

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：**フレッシュマン** ｜ 配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水 1**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】
「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を学ぶことを目的とする。また、人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。そして、多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間環境学部での学び方（1）学部理念とノートテイキングの手法	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第 2 回	人間環境学部での学び方（2）人間環境学部の専門性と多様な学び	フィールドスタディ、人間環境セミナー、ＳＡなど学部の特色ある学び方のねらいと履修法法を説明する。
第 3 回	人間環境学部での学び方（3）リーディングスキル	リーディングスキル学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第 4 回	人間環境学部での学び方（4）語学を学ぶことの意味と意義	語学および海外から学ぶことの意義と、人間環境学部における学びとの関係性について講義する。
第 5 回	人間環境学部での学び方（5）ライティングスキル	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第 6 回	人間環境学部での学び方（6）学問横断的な学び・入門編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第 7 回	人間環境学部での学び方（7）学問横断的な学び・応用編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第 8 回	テーマによる学び（1）	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第 9 回	テーマによる学び（2）	同上
第 10 回	テーマによる学び（3）	同上
第 11 回	テーマによる学び（4）	同上
第 12 回	テーマによる学び（5）	同上
第 13 回	テーマによる学び（6）	同上
第 14 回	テーマによる学び（7）	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

【テキスト（教科書）】
小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】
各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ブックレポート・課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】
非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】
本科目は、１年次の必修科目でありクラス指定をします。A～F クラスは水曜１時限目に、G～L クラスは水曜２時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：**フレッシュマン** ｜ 配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】
「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を学ぶことを目的とする。また、人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。そして、多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間環境学部での学び方（1）学部理念とノートテイキングの手法	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第 2 回	人間環境学部での学び方（2）人間環境学部の専門性と多様な学び	フィールドスタディ、人間環境セミナー、ＳＡなど学部の特色ある学び方のねらいと履修法法を説明する。
第 3 回	人間環境学部での学び方（3）リーディングスキル	リーディングスキル学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第 4 回	人間環境学部での学び方（4）語学を学ぶことの意味と意義	語学および海外から学ぶことの意義と、人間環境学部における学びとの関係性について講義する。
第 5 回	人間環境学部での学び方（5）ライティングスキル	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第 6 回	人間環境学部での学び方（6）学問横断的な学び・入門編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第 7 回	人間環境学部での学び方（7）学問横断的な学び・応用編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第 8 回	テーマによる学び（1）	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第 9 回	テーマによる学び（2）	同上
第 10 回	テーマによる学び（3）	同上
第 11 回	テーマによる学び（4）	同上
第 12 回	テーマによる学び（5）	同上
第 13 回	テーマによる学び（6）	同上
第 14 回	テーマによる学び（7）	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

【テキスト（教科書）】
小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】
各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ブックレポート・課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】
非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】
本科目は、１年次の必修科目でありクラス指定をします。A～F クラスは水曜１時限目に、G～L クラスは水曜２時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

カテゴリ：**フレッシュマン** ｜ 配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】
文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
20 名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、５コースの内容説明。
第 2 回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第 3 回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等を学ぶ。
第 4 回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第 5 回	テキストの講読（2）	同上
第 6 回	テキストの講読（3）	同上
第 7 回	グループ分けとテーマ設定	１班２～４人程度の班を編成する。
第 8 回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第 9 回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第 10 回	グループ発表・討論１	１回２班。１班の発表 10 分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 11 回	グループ発表・討論２	同上
第 12 回	グループ発表・討論３	同上
第 13 回	グループ発表・討論４	同上
第 14 回	総括のグループワーク	レポート提出など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

【テキスト（教科書）】
担当教員が指示する。

【参考書】
担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が４回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】
学部が各学生が希望するコースと時間帯（ゾーン）をそれぞれ第３希望まで調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2 年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。

【その他の重要事項】
希望時間帯の調査は５～６月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

COT100HA

情報処理基礎

小林　信彦

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】
・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けすすめる。前半と後半の間には、情報リテラシの周辺知識に関する講義もしくは確認小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	ネットワークの活用	1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1.Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2.Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 範囲選択、編集機能 2. 書式設定演習 文字単位の書式設定
第 5 回	文書作成演習-書式・ページレイアウト	1. 書式設定演習 文章単位の書式設定 2. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成 2. その他機能演習 ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能
第 7 回	文書作成応用演習	1. 長文作成支援機能演習 1 レイアウトの活用と検索・置換 2. 長文作成支援機能演習 2 目次、表紙の作成
第 8 回	プレゼン資料作成演習	1. 基本的なスライドの作成演習 Powerpoint を利用した資料作成の基礎 2. スライドの活用演習 配付資料の作成、スライド切り替え/アニメーション効果
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式の応用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成	1. 基本グラフ作成演習 一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の基本的なグラフの作成 2. 応用グラフ作成演習 散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集
第 14 回	表計算応用演習-データベース	1.Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念 2.Excel のデータベース機能活用演習 ソートとオートフィルタを活用したデータの操作と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につきにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
確認小テストについては事前の告知は行わない。講義／実習内容については復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】
講義時に内容に合わせて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題および授業内で随時行う確認テスト (10%) により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。
授業内での確認テストは毎回ではないが、理解度・到達度を確認するために web ベースでの選択式のテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。
レポートの提出・採点状況の進捗状況確認表を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
情報処理教室のパソコンを利用する。
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】
初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

情報処理基礎

小林　信彦

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】
・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けすすめる。前半と後半の間には、情報リテラシの周辺知識に関する講義もしくは確認小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	ネットワークの活用	1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1.Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2.Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 範囲選択、編集機能 2. 書式設定演習 文字単位の書式設定
第 5 回	文書作成演習-書式・ページレイアウト	1. 書式設定演習 文章単位の書式設定 2. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成 2. その他機能演習 ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能
第 7 回	文書作成応用演習	1. 長文作成支援機能演習 1 レイアウトの活用と検索・置換 2. 長文作成支援機能演習 2 目次、表紙の作成
第 8 回	プレゼン資料作成演習	1. 基本的なスライドの作成演習 Powerpoint を利用した資料作成の基礎 2. スライドの活用演習 配付資料の作成、スライド切り替え/アニメーション効果
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式の応用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成	1. 基本グラフ作成演習 一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の基本的なグラフの作成 2. 応用グラフ作成演習 散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集
第 14 回	表計算応用演習-データベース	1.Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念 2.Excel のデータベース機能活用演習 ソートとオートフィルタを活用したデータの操作と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につきにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
確認小テストについては事前の告知は行わない。講義／実習内容については復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】
講義時に内容に合わせて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題および授業内で随時行う確認テスト (10%) により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。
授業内での確認テストは毎回ではないが、理解度・到達度を確認するために web ベースでの選択式のテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。
レポートの提出・採点状況の進捗状況確認表を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
情報処理教室のパソコンを利用する。
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】
初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

情報処理基礎

今枝　佑輔

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】
この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	インターネットを使った情報検索	インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。Excel online, Word online, PowerPoint online の紹介
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などの保存場所は何処か？
第 5 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Excel の応用	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 7 回	Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word の応用	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word を使ったレポート課題の作成・提出	Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	PowerPoint の応用	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし。
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。
Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で Microsoft アカウントを取得しておくこと。(Microsoft アカウントの登録は個人情報を特定企業に差し出すことにほかならないので、希望するもの以外は取得しなくて良い。)

【その他の重要事項】
初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

情報処理基礎

今枝　佑輔

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】
この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	インターネットを使った情報検索	インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。Excel online, Word online, PowerPoint online の紹介
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などの保存場所は何処か？
第 5 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Excel の応用	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 7 回	Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word の応用	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word を使ったレポート課題の作成・提出	Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	PowerPoint の応用	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし。
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。
Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で Microsoft アカウントを取得しておくこと。(Microsoft アカウントの登録は個人情報を特定企業に差し出すことにほかならないので、希望するもの以外は取得しなくて良い。)

【その他の重要事項】
初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

情報処理基礎

渡邊　誠

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンによる情報処理と実務を学ぶ
本科目では現代社会において身に着けておくことが必要な情報リテラシを修得する。PC およびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についても IT 技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】
・Word　および Excel の基礎事項を学習し、文書作成および表計算に関する技法を修得する。
・Powerpoint の利用法を学習し、効果的なプレゼンテーション技法を修得する。
・Web による情報検索法を学習し、様々な情報の収集と各種調査に役立てる方法を修得する。
・情報セキュリティの基礎事項を学習し、コンピュータ・ネットワークの安全な利用法を修得する。
・IT システムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について学び、それらの応用法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
情報実習室に設置されている PC を利用することにより、その操作と各種ソフトウエア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法について実習する。また PC の原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について講義形式で学習する。その他、IT システムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用法などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「IT パスポート」の受験を目指す上で必須の内容となっており、その受験を念頭においている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報実習室の利用法	システムの概要とソフトウエア構成、PC 基本操作、ファイルシステムと階層構造など
第 2 回	文書作成と編集 1	Word による文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第 3 回	文書作成と編集 2	Word による図表の活用、レポートライティング
第 4 回	表計算 1	Excel の操作法と表作成、各種関数の利用
第 5 回	表計算 2	Excel における相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第 6 回	表計算 3	Excel におけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第 7 回	情報検索 1	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索と取得
第 8 回	情報検索 2	各種統計データなどの分析とその活用
第 9 回	プレゼンテーション 1	PowerPoint の基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第 10 回	プレゼンテーション 2	PowerPoint における図表と画像などの利用、プレゼン実習
第 11 回	IT システムとテクノロジー	PC の原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットと LAN のしくみ、リスク管理とセキュリティ対策など
第 12 回	IT システムとストラテジ	経営戦略と業務分析、品質管理手法、会計基礎、知的財産権など
第 13 回	IT システムとマネジメント	システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第 14 回	総括	IT パスポート試験の受験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予習と復習を行ってください。また、レポート提出のための準備を行ってください。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しません。必要に応じて教材を配布します。

【参考書】
授業中に IT パスポート試験に関する書籍を紹介します。その他、情報センターで作成している電子版資料（例えば、法政大学市ヶ谷情報センター利用ガイド、情報セキュリティハンドブックなど）を使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（授業参加の積極性）３０％、提出されたレポートの完成度３０％、定期試験の結果４０％の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室の PC を利用しますので、学生が準備すべき機器等は特にありません。

【その他の重要事項】
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

情報処理基礎

小林　信彦

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】
・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けすすめる。前半と後半の間には、情報リテラシの周辺知識に関する講義もしくは確認小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	ネットワークの活用	1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1.Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2.Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 範囲選択、編集機能 2. 書式設定演習 文字単位の書式設定
第 5 回	文書作成演習-書式・ページレイアウト	1. 書式設定演習 文章単位の書式設定 2. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成 2. その他機能演習 ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能
第 7 回	文書作成応用演習	1. 長文作成支援機能演習 1 レイアウトの活用と検索・置換 2. 長文作成支援機能演習 2 目次、表紙の作成
第 8 回	プレゼン資料作成演習	1. 基本的なスライドの作成演習 Powerpoint を利用した資料作成の基礎 2. スライドの活用演習 配付資料の作成、スライド切り替え/アニメーション効果
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式の応用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成	1. 基本グラフ作成演習 一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の基本的なグラフの作成 2. 応用グラフ作成演習 散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集
第 14 回	表計算応用演習-データベース	1.Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念 2.Excel のデータベース機能活用演習 ソートとオートフィルタを活用したデータの操作と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につきにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
確認小テストについては事前の告知は行わない。講義／実習内容については復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】
講義時に内容に合わせて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題および授業内で随時行う確認テスト (10%) により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。
授業内での確認テストは毎回ではないが、理解度・到達度を確認するために web ベースでの選択式のテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。
レポートの提出・採点状況の進捗状況確認表を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを利用する。
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】
初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

情報処理基礎

小林　信彦

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】
・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けすすめる。前半と後半の間には、情報リテラシの周辺知識に関する講義もしくは確認小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	ネットワークの活用	1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1.Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2.Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 範囲選択、編集機能 2. 書式設定演習 文字単位の書式設定
第 5 回	文書作成演習-書式・ページレイアウト	1. 書式設定演習 文章単位の書式設定 2. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成 2. その他機能演習 ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能
第 7 回	文書作成応用演習	1. 長文作成支援機能演習 1 レイアウトの活用と検索・置換 2. 長文作成支援機能演習 2 目次、表紙の作成
第 8 回	プレゼン資料作成演習	1. 基本的なスライドの作成演習 Powerpoint を利用した資料作成の基礎 2. スライドの活用演習 配付資料の作成、スライド切り替え/アニメーション効果
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式の応用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成	1. 基本グラフ作成演習 一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の基本的なグラフの作成 2. 応用グラフ作成演習 散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集
第 14 回	表計算応用演習-データベース	1.Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念 2.Excel のデータベース機能活用演習 ソートとオートフィルタを活用したデータの操作と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につきにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
確認小テストについては事前の告知は行わない。講義／実習内容については復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】
講義時に内容に合わせて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題および授業内で随時行う確認テスト (10%) により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。
授業内での確認テストは毎回ではないが、理解度・到達度を確認するために web ベースでの選択式のテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。
レポートの提出・採点状況の進捗状況確認表を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを利用する。
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】
初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

PRI100HA

統計とデータ分析

渡邊　誠

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ： EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する
統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「５〜９５％が含まれる範囲」、「９０％信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】
本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に着けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけではなく、大学生として身に着けるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回、情報実習室を使用して進めていく。各種ソフト＋ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かりやすく授業を進めていく予定である。EXCEL の高度利用を目指している学生にとっても有益な授業となるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第 2 回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウエア＋ネットワークの利用のしかたについて。
第 3 回	EXCEL 実習１	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第 4 回	EXCEL 実習２	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第 5 回	EXCEL 実習３	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第 6 回	環境データの検索と分析１	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 7 回	環境データの検索と分析２	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 8 回	統計学入門１	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？ なぜ正規分布が現れるのか？
第 9 回	統計学入門２	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第 10 回	統計学入門３	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第 11 回	統計学入門４	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいか？
第 12 回	統計学入門５	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門６	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第 14 回	総括	様々な現象を統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講時の積極性 50%、最終授業時に出題するレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業では毎回情報実習室を利用します。受講にあったては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

【その他の重要事項】
この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。
この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関連する科目としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。
旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

COT100HA

情報処理基礎

今枝　佑輔

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】
この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	インターネットを使った情報検索	インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。Excel online, Word online, PowerPoint online の紹介
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などの保存場所は何処か？
第 5 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Excel の応用	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 7 回	Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word の応用	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word を使ったレポート課題の作成・提出	Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	PowerPoint の応用	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし。
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で Microsoft アカウントを取得しておくこと。(Microsoft アカウントの登録は個人情報を特定企業に差し出すことにほかならないので、希望するもの以外は取得しなくて良い。)

【その他の重要事項】
初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

情報処理基礎

今枝　佑輔

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】
この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	インターネットを使った情報検索	インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。Excel online, Word online, PowerPoint online の紹介
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などの保存場所は何処か？
第 5 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Excel の応用	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 7 回	Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word の応用	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word を使ったレポート課題の作成・提出	Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	PowerPoint の応用	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし。
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で Microsoft アカウントを取得しておくこと。(Microsoft アカウントの登録は個人情報を特定企業に差し出すことにほかならないので、希望するもの以外は取得しなくて良い。)

【その他の重要事項】
初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

LNG100HA

英語Ⅰ（スキルアップ科目）

平野井　ちえ子

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning) 教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】
英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。また、厳しいステップではありますが、教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
最初は、後述のテキストと同 CALL 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現になじむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。CALL 教材のデモンストレーションもあります。受講者選抜となる可能性が高いので、受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	テキスト Chapter1・2（旅行編）	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel)
第 3 回	テキスト Chapter3・4（旅行編）	‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第 4 回	テキスト Chapter5・6（旅行編）	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第 5 回	テキスト Chapter7・8（旅行編）	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘Good to See You!’ (Meeting a friend)
第 6 回	テキスト Chapter9・10（旅行編）	‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 7 回	テキスト（旅行編）の応用	テキスト（旅行編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 8 回	テキスト Chapter13・14（留学編）	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 9 回	テキスト Chapter16・17（留学編）	‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account) ‘How about Sea Mail?’ (Sending a package)
第 10 回	テキスト Chapter18・19（留学編）	‘Would You Like to Join Us? (Inviting a friend) ‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)
第 11 回	テキスト（留学編）の応用	テキスト（留学編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 12 回	復習（1）	テキスト Model Dialogue 復習のための小テスト（口頭）を行います。 今期全体についてのポイント講義を行います。
第 13 回	期末試験	１３回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。
第 14 回	復習（2）	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。
また、授業内でのタスクのために、Model Dialogue は完全に覚える必要があります。

【テキスト（教科書）】
Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.
2,000 JPY

【参考書】
URL（例）
https://www.expedia.co.uk/
https://www.ox.ac.uk/gazette/
https://www.londontheatre.co.uk/ など。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】
「実践的な英語表現が身についてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」・「新しいＣＡＬＬシステムにふれたのが新鮮だった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2018 年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
CALL 教室での授業です。

【その他の重要事項】
当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。初回授業にて選抜または抽選を行う可能性が高いです。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅰ（スキルアップ科目）

板橋　美也

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

【到達目標】
日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々なとっさの状況で適切な英語の表現を用いることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかくおぼえた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということはよくあると思います。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話でのやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	試験とまとめ	授業の内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用ＣＤを用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】
Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

【参考書】
必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（50%）と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席４回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くみられましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
CALL 教室

【その他の重要事項】
本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部　芳恵

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「目で見る」「耳で聞く」「口に出す」など感覚を多く使い、暗記し、acting out することで日常的な会話表現を体得することを目的とする。

【到達目標】
この授業では、映画総合教材を使用して、リスニング力を養いながら、会話表現を学び、映画の中の台詞を自分の言葉で言い換えることができるようにすることでコミュニケーション力を身につけることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにそって進めていくが、各ユニット最後の exercise F のリスニングの部分をペアで練習し、act out する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Second viewing, exercises and acting out
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 4 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Second viewing, exercises and acting out
第 5 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 6 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Second viewing, exercises and acting out
第 7 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Second viewing, exercises and acting out
第 9 回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Uuit 5 Andy Performs a miracle	Second viewing, exercises and acting out
第 11 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Second viewing, exercises and acting out
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Wrap-up and Final Exam	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Exercise A（vocabulary）、 B(phrase)、exercise E (paraphrase）を予習する。

【テキスト（教科書）】
The Devil Wears Prada (松柏社、2,200 円)

【参考書】
必要に応じて講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験（40 %）、各ユニットの acting out（30 %）、授業中の参加の度合い、貢献度など（30 %）。欠席 4 回以上は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部　芳恵

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is for students to learn rhetoric which makes one's speech moving and convincing and express themselves by using authentic materials.

【到達目標】
The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students practice Obama's speech at the beginning of the lesson and then moves on to the main textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction Unit 1 A great read	Grammar and vocabulary
第 2 回	Unit 1 A great read	Conversation
第 3 回	Unit 1 A great read	Reading
第 4 回	Unit 1 A great read	Review
第 5 回	Unit 2 Technology	Grammar and vocabulary
第 6 回	Unit 2 Technology	Conversation
第 7 回	Unit 2 Technology	Reading
第 8 回	Unit 2 Technology	Review
第 9 回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第 10 回	Unit 3 Society	Conversation
第 11 回	Unit 3 Society	Reading
第 12 回	Unit 3 Society	Review
第 13 回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第 14 回	Wrap-up and final exam	Wrap-up and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

【テキスト（教科書）】
Viewpoint 2(Cambridge University Press)
『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000 円

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
Attendance and participation 40%, recitation 10%, in-class test 50%.
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.
The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime

【その他の重要事項】
Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.
本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部　芳恵

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is for students to improve their listening and speaking skills by listening to the news and express themselves to deal with business scenes.

【到達目標】
This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students practice listening and speaking using the news digest and then moves on to the main textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction & Unit 1	Mini lesson
第 2 回	Unit 1 Working life	Vocabulary
第 3 回	Unit 1 Working life	Video and discussion
第 4 回	Unit 2 Projects	Vocabulary
第 5 回	Unit 2 Projects	Key expressions
第 6 回	Unit 3 Leisure time	Vocabulary
第 7 回	Unit 3 Leisure time	Key expressions
第 8 回	Review	Review Unit 1-3
第 9 回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第 10 回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第 11 回	Unit 8 Working together	Key expressions
第 12 回	Unit 12 Innovation	Vocabulary
第 13 回	Unit 12 Innovation	Key expressions
第 14 回	Wrap-up and final exam	Presentation and in-class test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will do the reading part at home and get prepared for presentations.

【テキスト（教科書）】
Business Result Intermediate(Oxford University Press)

【参考書】
必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
Attendance & Participation 40%, Presentation 20%, Test40%.
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be given more opportunities to study the current news.

【その他の重要事項】
Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.
※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

テーマ別英語 1（スキルアップ科目）

板橋　美也

カテゴリ：**スキルアップ**　｜　配当年次／単位：**1～4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

【到達目標】
Through the course, students will be able to:
-define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century
-explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a ‘designed’ object. But have you ever thought about how the ‘designs’ with which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Guidance on the course
第 2 回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第 3 回	The dawning of the 20th century design	The Deutcher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第 4 回	Modernism 1	The Bauhaus
第 5 回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第 6 回	Consumerism and design 1	Art Deco
第 7 回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第 8 回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第 9 回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第 10 回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第 11 回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第 12 回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第 13 回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第 14 回	Exam and Wrap-up	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

【テキスト（教科書）】
Worksheets will be provided by the instructor.

【参考書】
Please bring a dictionary to the class.

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on:
-class participation（60%）

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)(40%)
Note: Students who miss 4 classes or more will not be able to pass this course.

【学生の意見等からの気づき】
I'm glad to know that there were many 'discoveries' for you in this course.

【その他の重要事項】
※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

テーマ別英語３（スキルアップ科目）

R．G．ジェイムズ

カテゴリ：**スキルアップ** ｜ 配当年次／単位：**1～4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**土２**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To develop students awareness of and ability to discuss healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】
To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Aging 1	Reading and discussion
Lesson 3	Aging 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 4	Smoking 1	Reading and discussion
Lesson 5	Smoking 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 6	Health and environment 1	Reading and discussion
Lesson 7	Health and environment 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 8	Exercise and health 1	Reading and discussion
Lesson 9	Exercise and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 10	Food and health 1	Reading and discussion
Lesson 11	Food and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 12	Stress 1	Reading and discussion
Lesson 13	Stress 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 14	Review and final exam	Review of course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】
Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebooks.

【成績評価の方法と基準】
Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】
Experience has shown that often we will need more than one lesson to finish a complete unit.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

LNG100HA

テーマ別英語４（スキルアップ科目）

R．G．ジェイムズ

カテゴリ：**スキルアップ** ｜ 配当年次／単位：**1～4 年／ 1 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**土２**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music

【到達目標】
To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Gospel music and slavery	Sample and discuss early African-American music and it's origin
Lesson 3	Blues and the rural poor	Examples of early "Country Blues" and its social context
Lesson 4	Country music and immigration	Samples of the music brought by early settlers from Britain and Europe, and the rural culture where it took root.
Lesson 5	Folk music and white protest	Examples of music used as tool of political expression during the Great Depression and later
Lesson 6	Jazz and music as art or entertainment	Examples of both popular jazz idioms and the growth of "serious" music
Lesson 7	R & B and race relations	Examples of early rock music and the fissures in society that were exposed by its growing popularity
Lesson 8	Mid-term course review	Open-book quiz of the first part of the course
Lesson 9	The music industry	An overview of money in music, from early sales of sheet music, the rise and fall of record labels to music promotion in the digital age.
Lesson 10	Rock music and youth culture 1	An examination of the rise of youth culture and the maturing of rock music, through the career of the Beatles and other "classic rock" musicians.
Lesson 11	Rock music and youth culture 2	A look at the major genres of rock music in the context of social and political unrest
Lesson 12	Rock reactions and the rise of punk	Some examples of rock music fragmentation in the face of political failure and the rise of the political right
Lesson 13	Soul music and civil rights	Examples of early gospel-influenced soul, through pop, dance and funk styles, in the context of the early and later civil rights movements.
Lesson 14	Review and final exam	Review of the course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】
Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from Youtube or Wikipedia.

【成績評価の方法と基準】
Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】
We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】
None, though Internet access would be useful to pursue further examples cited.

【その他の重要事項】
Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

OTR400HA

研究会（A）

朝比奈　茂

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「なぜ人間は○○○だろうか？」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
1．研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べることができる。
2．文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3．グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。
授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。 今後の計画を立てる。
第 4 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。 文献を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。 文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。 文献を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。 文献を講読し、意見交換を行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。 文献を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	（1）最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	（1）最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 16 回	研究（調査）テーマ検討および決定	秋学期に行う、研究（調査）テーマを各々で検討し、決定する。
第 17 回	資料収集および講読	図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。 仕入れた文献を整理して内容を理解する。

第 18 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 19 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 20 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 21 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 22 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 23 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 24 回	DVD 鑑賞	環境全般に関する DVD を視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けディベート形式で討論する。
第 25 回	レクリエーション（スポーツ大会）	スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。
第 26 回	外部講師による講演会	現在社会で活躍している講師（学外）を招聘し講義を行う。
第 27 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。
第 28 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
・その科学が成功を決める　リチャード・ワイズマン　文春文庫

【成績評価の方法と基準】
授業の参画状況（50 %）、プレゼンテーション（25 %）、レポート（25 %）を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】
1．毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2．常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3．授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（A）

板橋　美也

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術・デザインと異文化交流の歴史

【到達目標】
美術・デザインの歴史や日本の異文化交流の歴史についての理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。研究会での様々な活動を通して、自らの文化・自明のものだと思っていた文化を新たな視点から捉えなおしてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）指定した文献や作品に関するディスカッションを通して、美術・デザインや異文化交流の歴史について皆で考えます。
（2）発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。
いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第 2 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 3 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 4 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 5 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 6 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 7 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 8 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 9 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 10 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 11 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 12 回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 13 回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・総括します
第 15 回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第 16 回	４年生による研究紹介	４年生が各自行っている研究に関する短い発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 17 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 18 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 19 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 20 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 21 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 22 回	４年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション

第 23 回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 24 回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 25 回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 26 回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 27 回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 28 回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。

【テキスト（教科書）】
随時指定します。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中は遠慮せずに発言しましょう。

【関連の深いコース】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

杉戸　信彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】
自然環境の地域的差異とその要因、歴史的変遷を理解しながら、自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。自然と人間のかかわりあいに関わる視野をひろげること。災害の多い日本列島で生きるうえで妥当な自然観を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク、個人研究を行います。個人研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、防災教育、地域性、メカニズム、歴史的変遷などです。学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、学びを積極的にすすめ、意義深いテーマや重要な地域にたどりつくよう期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明
第 2 回	講義	文献等検索法、論文の作成法・発表の方法
第 3 回	時の話題	発表、質疑応答、討論
第 4 回	文献購読	意見交換
第 5 回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第 6 回	課題演習	机上作業
第 7 回	野外実習	フィールド巡検
第 8 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 9 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 10 回	グループワーク	意見交換
第 11 回	グループワーク	発表、質疑応答、討論
第 12 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 13 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 14 回	総括	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	趣旨説明
第 16 回	個人研究	研究方針の報告と質疑応答、討論
第 17 回	文献講読	意見交換
第 18 回	文献講読	発表、質疑応答、討論
第 19 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 20 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 21 回	課題演習	机上作業
第 22 回	野外実習	フィールド巡検
第 23 回	グループワーク	意見交換
第 24 回	グループワーク	発表、質疑応答、討論
第 25 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 26 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 27 回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第 28 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員から配布ほか

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
知識や応用力，思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

岡松　暁子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和（国際紛争の解決、環境問題の改善、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】
１．自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論する。
２．卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１．国際法および国際環境法に関連する文献講読、判例研究
２．個人の研究報告
３．その他（時事問題に関する討論、ディベート等）
＊受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。
＊校外授業及び合宿を行う（場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める）。
＊サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第 2 回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第 3 回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第 4 回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第 5 回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第 6 回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第 7 回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第 8 回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第 9 回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第 10 回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第 11 回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第 12 回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第 13 回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第 14 回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第 15 回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第 16 回	打ち合わせ	秋学期の研究計画
第 17 回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第 18 回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第 19 回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第 20 回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第 21 回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第 22 回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第 23 回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第 24 回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第 25 回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第 26 回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第 27 回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第 28 回	研究報告 (12)	個別報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の十分な予習

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
適宜指示

【成績評価の方法と基準】
平常点、レポート

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同じように行います。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

梶　裕史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】
「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖縄離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、研究成果を「共有」できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
「授業計画」の通り、参加者個々の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となります。（ただし、「到達目標」に記した通り、他のゼミ生の研究とのつながりを見つけられ、「共有」できることが大切です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	個人研究発表①	発表は 1 人 30 以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 3 回	個人研究発表②	(例）竹富島の「住」と景観　その１
第 4 回	個人研究発表③	（例）竹富島の「住」と景観　その２
第 5 回	個人研究発表④	（例）竹富島の「住」と景観　その３
第 6 回	個人研究発表⑤	（例）竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その１
第 7 回	個人研究発表⑥	（例）竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その２
第 8 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第 9 回	個人研究発表⑦	（例）竹富島の「食」の文化　その１
第 10 回	個人研究発表⑧	（例）竹富島の「食」の文化　その２
第 11 回	個人研究発表⑨	（例）竹富島の祭事・行事と「うつぐみ」精神
第 12 回	個人研究発表⑩	（例）竹富島の「観光文化」の歩みと将来
第 13 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第 14 回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第 15 回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第 16 回	個人研究発表⑪	題材は昨年度または今年度（夏休み等）の研究成果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 17 回	個人研究発表⑫	（例）離島のエコツーリズムと環境保全
第 18 回	個人研究発表⑬	（例）離島の伝統芸能・祭事とアイデンティティー
第 19 回	個人研究発表⑭	（例）港町の産業遺産（倉庫）を活用したツーリズム
第 20 回	個人研究発表⑮	（例）宿場町の景観保全とツーリズム
第 21 回	個人研究発表⑯	（例）農家民泊とグリーンツーリズム
第 22 回	個人研究発表⑰	（例）里山における五感の環境教育（体験プログラム）
第 23 回	個人研究発表⑱	（例）文芸の名作を活かしたツーリズム
第 24 回	個人研究発表⑲	（例）アニメツーリズム（フィルムツーリズム）の試み
第 25 回	個人研究発表⑳	（例）アート・ツーリズム（アートを活かした地域づくり、感性価値創造）
第 26 回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第 27 回	グループワーク②	前回の続きとまとめ（学生の自主作業）
第 28 回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）と個別指導	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、現地調査の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。なお、３・４年生は先輩として 2 年生（４限参加）の指導も行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %

【学生の意見等からの気づき】
・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・この金曜５限研究会は、前年度からの継続参加者（３・４年生）が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】
人間文化コースまたはローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

北川　徹哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エネルギーは社会にとって血液であり，ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である．本研究会においては，国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在，エネルギーと人間とのかかわり，エネルギーの未来像について勉強してゆく．

【到達目標】
１．我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる．
２．エネルギーと環境負荷軽減，人の暮らしとの関係を説明できる．
３．交通・運輸，居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は，指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく．各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して，その他の文献も参照しながら内容をまとめ，発表に臨む．後半には，春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性，輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	１番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	２番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	３番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	４番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	５番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	６番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	７番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	８番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１０番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１０番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１１番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１２番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１３番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	調査テーマの選定	調査グループの決定，前半の輪読をヒントに調査テーマを考案，構想発表の準備
第 16 回	調査テーマの構想発表・討論（その１）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第１回）
第 17 回	調査テーマの構想発表・討論（その２）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第２回）
第 18 回	調査と分析（その１）	調査の方向性の修正，各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 19 回	調査と分析（その２）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業，中間発表の準備
第 20 回	調査と分析（その３）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業，中間発表の準備
第 21 回	中間発表・討論（その１）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第１回）
第 22 回	中間発表・討論（その２）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第２回）
第 23 回	調査と分析（その４）	調査の方向性の修正，各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 24 回	調査と分析（その５）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 26 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ，調査概要書の執筆
第 27 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ，調査概要書の執筆，最終発表の準備
第 28 回	調査概要書の提出・最終発表	各自あるいは各グループより調査概要書の提出，最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１〜１４回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査，発表用スライドなどの作成，発表の練習
第１５回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
第１６〜１７，２１〜２２回：発表用スライドなどの作成，発表の練習
第１８〜２０，２３〜２４回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
第２５〜２７回：調査概要書の執筆・データ整理
第２７〜２８回：発表用スライドなどの作成，発表の練習，調査概要書のリバイズ

【テキスト（教科書）】
授業時に指定する．

【参考書】
適宜，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポート（調査概要書）（30 %：論述の適切さ，到達目標１〜３への到達度），発表（40 %：スライドなどの良好度，説明の正確さ，質疑応答の適切さ，到達目標１〜３への到達度），議論（30 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ，到達目標１〜３への到達度）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
おおむね好評でした．

【その他の重要事項】
楽しく，じっくりと勉強します．また，知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です．わからないことは遠慮せずに質問し，スッキリさせてゆきましょう．

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

國則　守生

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の考え方や手法への理解および批判的検討を通じて、現実の環境問題への適用を考える。環境へのその他のアプローチとの比較なども行う。

【到達目標】
地球環境問題などの環境問題に対して、どのように対処してゆけばよいのかについて、主として環境経済学の観点から、発表、議論、批判的検討などを行い、各人がその発表力および応用力を身につけることを目標とする。その際、学生間での協働を活発に行い、お互いが向上することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究会は演習形式で行う。研究会では、問題意識をもって、環境経済学等のテキスト、記事等の輪読を中心に、ディスカションを行う。サブゼミ、ゼミ合宿なども実施し、総合力の獲得を目指す。4 年生は研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読（1）	報告および討論
第 4 回	文献講読（2）	報告および討論
第 5 回	文献講読（3）	報告および討論
第 6 回	文献講読（4）	報告および討論
第 7 回	文献講読（5）	報告および討論
第 8 回	文献講読（6）	報告および討論
第 9 回	文献講読（7）	報告および討論
第 10 回	文献講読（8）	報告および討論
第 11 回	文献講読（9）	報告および討論
第 12 回	文献講読（10）	報告および討論
第 13 回	文献講読（11）	報告および討論
第 14 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 15 回	研究会修了論文中間発表	発表会への参加と発表・討議
第 16 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 17 回	文献講読（12）	報告および討論
第 18 回	文献講読（13）	報告および討論
第 19 回	文献講読（14）	報告および討論
第 20 回	文献講読（15）	報告および討論
第 21 回	文献講読（16）	報告および討論
第 22 回	文献講読（17）	報告および討論
第 23 回	文献講読（18）	報告および討論
第 24 回	文献講読（19）	報告および討論
第 25 回	文献講読（20）	報告および討論
第 26 回	文献講読（21）	報告および討論
第 27 回	研究会修了論文発表	発表会への参加と発表・討議
第 28 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下の各項目を必ず、実施する。
1）演習ノートを用意し、毎週，決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
2）サブゼミに出席する。
3）ゼミ合宿に参加する。
4）各種課題を提出する。
5）４年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト（教科書）】
環境経済学のテキスト（授業時に指示する）。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80 %）および各人のテーマの取組姿勢と提出されたレポート等執筆（20 %）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】
不明な点などを明らかにし、議論のなかで解明を目指したい。研究会修了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介したい。サブゼミでの作業内容と連携を強化したい。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（グローバル・サステイナビリティコースも可）

OTR400HA

研究会（A）

小島　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この研究会では、「持続可能な地域社会の創造」をテーマとして、特に 21 世紀に入って国内そして世界で注目されている地域の「ソーシャルイノベーション」について、持続可能性における環境・経済・社会の 3 領域を全て視野に入れ、統合的に検討しながら、市民・ＮＰＯ・自治体などのステークホルダーの参加・協働を展望する。研究会の目的と意義は、地域実践を含む高度なアクティブ・ラーニングを通して、「持続可能な地域社会」について深く理解しながら、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築することである。

【到達目標】
学生の到達目標は以下のとおりである。
・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見を涵養する。
・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
・文章力を涵養する。
・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるＰＢＬ（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。さらに、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、１年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	同上。
第 6 回	文献講読（3）	同上。
第 7 回	文献講読（4）	同上。
第 8 回	文献講読（5）	同上。
第 9 回	文献講読（6）	同上。
第 10 回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第 11 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 13 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 14 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第 15 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第 16 回	共通テーマの確認	秋学期に調査研究を行う共通テーマについて確認する。
第 17 回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 18 回	共通テーマの調査研究（2）	同上。
第 19 回	共通テーマの調査研究（3）	同上。
第 20 回	共通テーマの調査研究（4）	同上。
第 21 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 22 回	共通テーマの調査研究（5）	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 23 回	共通テーマの調査研究（6）	同上。
第 24 回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	同上
第 28 回	1 年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下の時間外学習を行う。
・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
・共通テーマに関する事前のグループワーク。
・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】
開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】
適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特定地域に関するＰＢＬ（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】
この研究会は、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）の学生を対象としています。
したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

小島　聡

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点で理論やケースを検討しながら地域実践に参画する。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。研究会の目的と意義は、共通テーマへの取り組みを通して、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築しながら、自らの卒業後のキャリアイメージを模索すること、さらに研究会修了論文を完成させることである。

【到達目標】
学生の到達目標は以下のとおりである。
・共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
・論文作成能力を身につける。
・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるＰＢＬ（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、１年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	同上。
第 6 回	地域連携プロジェクトの企画（1）	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 7 回	文献講読（3）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読（4）	同上。
第 9 回	地域連携プロジェクトの企画（2）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本設計について検討する。
第 10 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 14 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 15 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 16 回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第 18 回	ソーシャルイノベーション・ミニＦＳ（1）	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 19 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言の作成に着手する。
第 20 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成（2）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言の作成作業を行う。
第 21 回	ソーシャルイノベーション・ミニＦＳ（2）	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 22 回	地域連携プロジェクトの提言作成（3）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言案を確認し内容を調整する。
第 23 回	ソーシャルイノベーション・ミニＦＳの総括	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを検証し知見を確認する。
第 24 回	ソーシャルイノベーションとキャリア形成	夏期に実施した地域連携プロジェクトや地域におけるソーシャルイノベーション・ミニＦＳをふまえて、自らのキャリア形成について議論する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 28 回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下の時間外学習を行う。
・文献の事前学習。
・地域連携プロジェクトの企画。
・研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】
・開講時の約１ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】
適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
ＰＢＬ（問題発見・解決型学習）として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育んでいると感じています。

【その他の重要事項】
この研究会は、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）に登録した学生を対象としています。
したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業** ｜ 曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
* Mass Media Research *
The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】
This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Method	Data Collection / Entry data
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 28 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

【テキスト（教科書）】
There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】
David R. Croteau and William D. Hoynes (2013). Media/Society: Industries, Images, and Audiences. SAGE Publications.
John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2014). Converging Media: A New Introduction to Mass Communication (4th Edition). Oxford University Press.
Shirley, Biagi (2014). Media/Impact: An Introduction to Mass Media. Wadsworth: Thomson.

【成績評価の方法と基準】
1st Semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.
2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

【学生の意見等からの気づき】
There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【その他の重要事項】
This class is open to students who have taken グローカル　コミュニケーション or 'Stockwell's ゼミ B (Human Communication) before.

【関連の深いコース】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

武貞　稔彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2018 年度は、途上国における最大の課題である「貧困」について、その歴史、現状、対策などを、より深く考察し、先進国における「貧困」の姿と重ね合わせながら議論を行います。

【到達目標】
本研究会では、（ア）開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、（イ）自らの意見を持ちそれを人に伝え、（ウ）途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行いますが、主に　a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション　課題 1 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	グループディスカッション　課題 1 (2)	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション　課題 2 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	グループディスカッション　課題 2 (2)	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション　課題 3 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	グループディスカッション　課題 3 (2)	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	まとめ：「貧困」とは。	春学期の演習の総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンエテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「貧困問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第 17 回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「問題」の捉え方ーフレーミング　について学ぶ。
第 18 回	データ収集について	「貧困」にまつわる文献やデータの収集方法について学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション　課題 4 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション　課題 4 (2)	グループ発表および全体ディスカッション
第 21 回	グループディスカッション　課題 5 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション　課題 5 (2)	グループ発表および全体ディスカッション
第 23 回	グループディスカッション　課題 6 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション　課題 6 (2)	グループ発表および全体ディスカッション
第 25 回	グループディスカッション　課題 7 (1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション　課題 7 (2)	グループ発表および全体ディスカッション (1)
第 27 回	グループディスカッション　課題 7 (3)	グループ発表および全体ディスカッション (2) (フィードバックを含む)
第 28 回	年間の学びのまとめ	「貧困問題」について理解できたことできなかったことを整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】
特に指定のテキストはありません。

【参考書】
ゼミ開講前に平田 オリザ (著) 「わかりあえないことから――コミュニケーション能力とは何か (講談社現代新書 2177) を一読しておくことが望ましい。他は研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
研究会への出席および議論への貢献、期末レポートを勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【その他の重要事項】
サブゼミの実施および内容については原則学生の意思に委ねます。開講する場合は原則金曜日６限としますが、これも学生の決定によります。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

田中　勉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルな環境問題の社会学

【到達目標】
参加者それぞれが個人テーマを設定し研究を行う。地域社会の研究方法および環境問題への社会学的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、論文作成、発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき着実に前進できるようにする。今年度参加者は４年次生のみであるので、「研究会修了論文」の作成が最終目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに文献・資料を参考にいくつかのテーマでグループ討議を行い、社会学的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて理解を深め、各自の研究課題への応用をはかる。次いで、「研究会修了論文」作成へ向けて、参考文献・資料の検索、論文構想を発表、コメント・質疑などをふまえて論文執筆を進める。随時個別面談を行い、文献・資料の検索、現地調査に関する指導などを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	年間計画策定	年間スケジュールを作成する。昨年度の個人研究の進捗状況を確認。
第 2 回	文献発表①	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 3 回	文献発表②	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 4 回	文献発表③	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 5 回	ＧＷまとめ	グループワークのまとめ。
第 6 回	研究会修了論文作成①	修了論文構想発表①
第 7 回	研究会修了論文作成②	修了論文構想発表②
第 8 回	研究会修了論文作成③	修了論文構想発表③
第 9 回	研究会修了論文作成④	論文作成法講義。執筆要項を配布して論文形式の理解を深める。
第 10 回	研究会修了論文作成⑤	修了論文中間報告①
第 11 回	研究会修了論文作成⑥	修了論文中間報告②
第 12 回	研究会修了論文作成⑦	修了論文中間報告③
第 13 回	研究会修了論文作成⑧	修了論文中間報告④
第 14 回	春学期まとめ	論文作成進捗状況の確認。夏期休暇期間の課題の確認。
第 15 回	研究会修了論文作成⑨	修了論文、最終構想発表①
第 16 回	研究会修了論文作成⑩	修了論文、最終構想発表②
第 17 回	研究会修了論文作成⑪	修了論文、最終構想発表③
第 18 回	研究会修了論文作成⑫	修了論文、最終構想発表④
第 19 回	研究会修了論文作成⑬	修了論文発表と討論。
第 20 回	研究会修了論文作成⑭	修了論文発表と討論。
第 21 回	研究会修了論文作成⑮	修了論文発表と討論。
第 22 回	研究会修了論文作成⑯	修了論文発表と討論。
第 23 回	研究会修了論文作成⑰	修了論文発表と討論。
第 24 回	研究会修了論文作成⑱	修了論文発表と討論。
第 25 回	研究会修了論文作成⑲	修了論文発表と討論。
第 26 回	研究会修了論文発表①	修了論文最終発表①
第 27 回	研究会修了論文発表②	修了論文最終発表②
第 28 回	研究会修了論文発表③	修了論文最終発表③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修了論文のテーマ選定、文献・資料検索を行う。社会調査（インタビュー・調査票調査）を行う場合は個別に指導する。

【テキスト（教科書）】
宮内泰介「グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング」三省堂
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

【参考書】
筒井・前田「社会学入門」有斐閣
小島・西城戸編「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
西城戸・舩戸編「環境と社会」人文書院
森岡清志 編「地域の社会学」有斐閣
藤村正之「考えるヒント」弘文堂
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

【成績評価の方法と基準】
修了論文作成のための発表、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
修了論文作成への動機づけを高める工夫をします。

【その他の重要事項】
各回の時間配分は変更されることがあります。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

辻　英史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界と日本の生活保障――社会福祉と市民社会
グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地域で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっている。
病気や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか、それぞれの社会で模索が続いている。

【到達目標】
このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、それぞれの地域の事情に即して比較して考察します。医療や介護、就労、成人教育、出産・育児といったさまざまな生活局面について、行政や法律・制度だけでなく、人間相互の助け合いのあり方や NPO・NGO といった市民社会の活動を含めて幅広く扱います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の購読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究相談のために必要に応じてサブゼミを開講する（隔週で週 1 回程度を予定）。またゼミ合宿を開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第 2 回	研究発表	3-4 年生の研究発表
第 3 回	研究発表	3-4 年生の研究発表
第 4 回	研究発表	3-4 年生の研究発表
第 5 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第 6 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。。
第 7 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第 8 回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第 9 回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 10 回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第 11 回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第 12 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 13 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 14 回	まとめ	全体討論およびゼミ合宿準備
第 15 回	オリエンテーション	ゼミ合宿の準備をかねる。
第 16 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をおこなう。
第 17 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をおこなう。
第 18 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 19 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 20 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 21 回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 22 回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 23 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 24 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 25 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 26 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 27 回	卒論最終報告	4 年生対象の卒論完成報告。
第 28 回	まとめ・反省	2・3 年生は 1 年間の学習内容を総括し翌年度の学習テーマを決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。
また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】
宮本太郎『福祉政治』有斐閣、2008 年
小熊英二ほか『平成史』（増補新版）河出書房新社、2014 年。
金子充『入門貧困論』明石書店、2017 年。
神野直彦ほか『「分かち合い」社会の構想』岩波書店、2017 年。
宮本太郎『共生保障』岩波新書、2017 年。
山崎史郎『人口減少と生活保障』中公新書、2017 年。
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（20 %）、研究報告、グループワーク、ディベートなどでの貢献（30 %）、秋学期末のレポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【関連の深いコース】
人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

永野　秀雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2018 年度は、環境関連の CSR を研究します。

【到達目標】
このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表（２）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表（３）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表（４）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表（５）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表（６）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表（７）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表（８）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表（９）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表（１０）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表（１１）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表（１２）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表（１３）	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表（１４）	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】
これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

永野　秀雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2018 年度は、環境関連の CSR を研究します。

【到達目標】
このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (２)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (３)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (４)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (５)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (６)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (７)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (８)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (９)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (１０)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (１１)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (１２)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (１３)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (１４)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】
特に、ありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】
これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

長峰　登記夫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】
本研究会での学習や作業をとおして、学生たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低１回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。年間計画についても説明する。
第 2 回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第 3 回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第 4 回	日本の雇用システム　伝統と変化 1	日本的雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第 5 回	日本の雇用システム　伝統と変化2	日本的雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第 6 回	日本の雇用システム　伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといってよい。この回ではその特徴についてみていく。
第 7 回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義的雇用管理（賃金と昇進）は日本的雇用システムのなかの新しい側面といってよい。この回ではそれについて学ぶ。
第 8 回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第 9 回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第 10 回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第 11 回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係し、また他の原因は何か等について考える。
第 12 回	大学生の就職１（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 13 回	大学生の就職２（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 14 回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第 15 回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。
第 16 回	研究の進め方とレポートの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第 17 回	学生による研究発表１	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 18 回	学生による研究発表２	上記に同じ
第 19 回	学生による研究発表３	上記に同じ
第 20 回	学生による研究発表４	上記に同じ
第 21 回	学生による研究発表５	上記に同じ
第 22 回	学生による研究発表６	上記に同じ
第 23 回	学生による研究発表７	上記に同じ
第 24 回	学生による研究発表８	上記に同じ
第 25 回	学生による研究発表９	上記に同じ
第 26 回	レポートの途中経過報告	学生は 80 %程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
第 27 回	学生による研究発表１０	上記研究発表に同じ
第 28 回	完成版レポートの提出	完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

【テキスト（教科書）】
春学期は基本的に本の１章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。
秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012 年。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、１．参加姿勢、２．授業での発表、３．発表のために作成したレジュメの内容、４．授業内での議論への参加、５．最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】
修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナブルコース

OTR400HA

研究会（A）

西城戸　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会の〈環境〉の中で特に「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

【到達目標】
地域社会の「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわり方を再考し、その関係性の再構築のための実践に着目した調査研究を実施する。また、
首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールドにするほか、生活協同組合（生活クラブ生協）の実践に関わりながら、調査研究を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、３つの部分から構成される。
1）文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
2）現地視察：文献講読と並行しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
3）グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献購読（1）：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献購読（2）：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する
第 4 回	文献購読（3）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献購読（4）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献購読（5）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定（1）	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定（2）	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査（1）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査（2）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査（3）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査（4）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査（1）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査（2）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査（3）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査（4）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 20 回	各グループにおける調査（5）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査（6）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査（7）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査（8）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査（9）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査（10）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成（1）	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成（2）	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読やフィールドワークを課す。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
随時、指定する

【成績評価の方法と基準】
授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義は月曜日 5 時限目にサブゼミとして延長して行う場合もある。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

根崎　光男

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ
環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生起したさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】
日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を解決するための教養を身につける。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、４年時に研究会修了論文を提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポート・研究会修了論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション－環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	大学周辺フィールドスタディ①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 6 回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第 7 回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第 8 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 16 回	大学周辺フィールドスタディ②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 22 回	古文書解読②	指定された古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 27 回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付した歴史資料・古文書を事前に解読・分析する。
グループ・個人の調査研究にかかわる文献を収集・分析する。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (70%)、発表・レポート (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

OTR400HA

研究会（A）

長谷川　直哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サスティナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】
CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、４年生は研究会修了論文、２・３年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・ 論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チーム活動の報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】
研究会の開講前に掲示します。

【参考書】
必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度
〔個別評価〕４年生：卒業論文
２・３年生：ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】
参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

日原　傳

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
名勝と文学作品の関係を探る。

【到達目標】
・日本の自然や歴史について理解を深める。
・名勝の成立に関わる文学作品や関連文献を捜し、読み解くことを通して、調べる力・発表する力をつける。
・各自研究テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・最初の授業で名勝に関するいくつかの文献を紹介する。テキストに決めた紀行文について、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。
・テキストを輪読する過程で、各自が個人の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紀行文と名勝	テキストの説明。参考文献の紹介。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 11 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 12 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 13 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	文献講読	テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	文献講読	テキスト輪読
第 23 回	文献講読	テキスト輪読
第 24 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 25 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 26 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 27 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 28 回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自に割り当てた紀行文の担当箇所について、可能な限り調べ、レジメを作成する。
・各自テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。
・論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定します。

【参考書】
必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度、発表内容）７０％
最終レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】
人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

平野井　ちえ子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】
１．地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
２．基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
３．文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行ないます。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1 年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第 2 回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 3 回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第 4 回	現代演劇１（講義・討論）	翻訳劇の系譜について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 5 回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第 6 回	現代演劇２（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 7 回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第 8 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 9 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 10 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 11 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 12 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（5）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 13 回	フィールドワーク文献購読・討論（1）	『フィールドワーク　―書を持って街へ出よう―』1. フィールドワークとは何か　２．フィールドワークの論理
第 14 回	フィールドワーク文献講読・討論（2）	『フィールドワーク　―書を持って街へ出よう―』３．フィールドワークの実際　４．ハードウェアとソフトウェア
第 15 回	文献講読・討論（『入門文化政策』１）	１．文化政策の観点からの京都観光論　２．国際観光と文化政策　３．地域文化資源と文化マネジメント（富山の事例）
第 16 回	文献講読・討論（『入門文化政策』２）	１．市民と自治体による文化芸術創造都市づくり（横浜の事例）　２．中山間地域の文化政策　３．文化政策とその担い手
第 17 回	文献講読・討論（『入門文化政策』３）	１．格差社会における文化政策　２．ライフスタイルのための文化政策 ３．文化政策としてのミュージアム・マネジメント
第 18 回	文献講読・討論（『入門文化政策』４）	１．活動の現場からみた公と民の協働論　２．市民文化の創造環境を目指して　３．公共施設の運営と指定管理者制度
第 19 回	文献講読・討論（『入門文化政策』５）	１．文化創造拠点としての宗教空間 ２．「政策科学」のこれからと文化政策への期待
第 20 回	地域の文化レポート作成指導（1）	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第 21 回	地域の文化レポート作成指導（2）	どのようなテーマ設定が可能か、ケーススタディを紹介します。
第 22 回	地域の文化レポート作成指導（3）	参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。
第 23 回	地域文化レポート発表・討論（1）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 24 回	地域文化レポート発表・討論（2）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 25 回	地域文化レポート発表・討論（3）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 26 回	地域文化レポート発表・討論（4）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 27 回	地域文化レポート発表・討論（5）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 28 回	総括	２０１８年度のゼミを振り返り、講義・文献講読・舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポートの各項目と相互の関係について、ディスカッションとフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読の予習（発表者はレジュメの準備）
舞台芸術鑑賞とフィールド調査（レポート作成）

【テキスト（教科書）】
井口貢（２００８）『入門文化政策　地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房
佐藤郁哉（２００６）『フィールドワーク　―書を持って街へ出よう―』新曜社

【参考書】
青山昌文（２０１５）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会
大笹吉雄（１９９９）「劇場が演じた劇」教育出版株式会社
舞台芸術財団演劇人会議（２００５）『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議
ＳＰＡＣ（１９９９）『劇場とは何か　新しい文化活動の創出に向けて』ＳＰＡＣ
平野井（２００６）「小鹿野歌舞伎の現在」『法政大学人間環境論集』第６巻第２号
平野井（２００７）「ＳＰＡＣの地域性と国際性」『法政大学人間環境論集』第７巻第２号

【成績評価の方法と基準】
【平常点】５０％
参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について）
【期末レポート】５０％
春学期は、舞台芸術鑑賞レポート
秋学期は、文化発信の「場」のレポート

【学生の意見等からの気づき】
好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ＢＴ０３０９教室での授業です。

【その他の重要事項】
当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】
人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

藤倉　良

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を検索する Google Scholar というサイトのトップには「巨人の肩の上に立つ」という言葉が出てきます。築きあげられた先人の知識の上に私たちが立っているという意味です。先人の知識とは本であり論文です。本を読むことは知的生活をする上での基本です。このゼミでは本を読むことで巨人の肩の上に立つことを目指します。

【到達目標】
年間に１０冊以上の本を読んで要旨か書評をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
書籍の内容と分量に応じて２週から３週に１冊、本を指定します。その要旨もしくは書評を期日までに授業支援システムに提出してください。2017 年度の書籍は『メディア・バイアス』『チェインジング・ブルー』『自動車の社会的費用』『効かない健康食品』『環境問題と世界史』『はじめての福島学』『気候変動を理学する』『喰いつくされるアフリカ』などです。
なお、書籍は各自が購入するか図書館から借りるかなどして、自力で調達してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第 2 回	１冊目１	読書
第 3 回	１冊目２	要旨か書評を提出
第 4 回	１冊目３	議論
第 5 回	２冊目１	読書
第 6 回	２冊目２	要旨か書評を提出
第 7 回	２冊目３	議論
第 8 回	３冊目１	読書
第 9 回	３冊目２	要旨か書評を提出
第 10 回	３冊目３	議論
第 11 回	４冊目１	読書
第 12 回	４冊目２	要旨か書評を提出
第 13 回	４冊目３	議論
第 14 回	５冊目１	読書
第 15 回	５冊目２	要旨か書評を提出
第 16 回	夏休み課題図書（６冊目）	議論
第 17 回	７冊目１	読書
第 18 回	７冊目２	要旨か書評を提出
第 19 回	７冊目３	議論
第 20 回	８冊目１	読書
第 21 回	８冊目２	要旨か書評を提出
第 22 回	８冊目３	議論
第 23 回	９冊目１	読書
第 24 回	９冊目２	要旨か書評を提出
第 25 回	９冊目３	議論
第 26 回	１０冊目１	読書
第 27 回	１０冊目２	要旨か書評を提出
第 28 回	１０冊目３	議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
４年生は卒業研究を進めてください。

【テキスト（教科書）】
適宜、指定します。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
要旨・書評の提出状況（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく幅広い分野をカバーするように課題本を選定します。

【関連の深いコース】
主たる関連コースは環境サイエンスコースとローカル・サステイナビリティコースですが、他コースに登録している学生もコース変更をせずに履修できます。

OTR400HA

研究会（A）

金藤　正直

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

【到達目標】
本研究会では、地域で実施されている農林漁業者、企業、自治体、公的機関、大学などの連携ビジネスの現状と問題への解決策を、研究・調査チームで自由に、また、論理的に考え、説明していく能力を習得することを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①これまでの研究・調査テーマに基づいて設定された 5 つの事業部「組織連携・クラスター事業部、CSV 事業部、自然エネルギー・廃棄物事業部、海外事業部、地域マネジメント事業部」のうち、どれかに所属し、研究・調査を進めてもらいます
②研究・調査テーマに関する地域ビジネスの実態を著書、論文、報告書などの文献を用いて丁寧に整理し、また、そこからいくつかの問題も明確にしてもらいます。
③文献の考察や、アンケート調査およびヒアリング調査を通じて、②で明らかにされた諸問題への解決策を提案し、また、その解決策が地域の持続的成長に繋がるかどうかを検討してもらいます。
④各自のさらなるレベルアップのために、ゲストスピーカーによる講演、アンテナショップへのヒアリング調査、①のテーマに関係する機関が主催するイベントへの参加、調査先や学部・大学間での勉強会・報告会や合宿（特別ゼミ）などを開催します。
⑤①〜④の成果は、事業関係者に報告（最終報告）するとともに、今後の研究計画書やこれをもとに作成される研究・調査レポートあるいは研究会修了論文（またはＰＣソフト（アプリ）・仕様書など）としてまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、チームを作り、その中で各自の 1 年間の目標を検討し、設定する。
第 2 回	研究・調査やその成果報告の方法（A）	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第 4 回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで 1 年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。
第 5 回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 6 回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 7 回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 8 回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 9 回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 10 回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 11 回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 12 回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。

第 13 回	研究・調査やその成果報告の方法（B）	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第 14 回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第 15 回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 16 回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 17 回	研究・調査に関する映像資料の視聴	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 18 回	製品・商品の生産・販売店の調査	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 19 回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 20 回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 21 回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 22 回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 23 回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 24 回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 25 回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 26 回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 27 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第 28 回	総括－最終報告－	今年度取り組んだ研究・調査や春学期に作成した計画書（レポートあるいは（小）論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本研究会では、諸文献の分析や実践的な取組みを通して、研究・調査テーマの決定、研究・調査の目的・視点・方法、研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法などを学習し、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきますので、大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用しますので、各チームはレジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20 %）
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・研究・調査計画書とレポート（あるいはＰＣソフト（アプリ）・仕様書など）（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】
本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

下井倉　ともみ

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地球温暖化とその周辺」
地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術　など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】
地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
最近の活動内容は以下の通りです。2018 年度はサイエンスコミュニケーションを大きなテーマにしますが、詳細はゼミ内の話し合いで決めます。
「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。
「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論（STS）の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。
「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。
「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。
「報告書」（年度末）…１年間の成果をまとめた報告書を提出します。４年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。
必要に応じてサブゼミを火曜６限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講 グループワーク発表	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 16 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 28 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示をします。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】
環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース 他

OTR400HA

研究会（A）

児玉　ゆう子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会を健康に生きていくために
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】
テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（１０）	同上（１０）
第 13 回	同上（１１）	同上（１１）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（１２）	研究発表とディスカッション（１２）
第 17 回	同上（１３）	同上（１３）
第 18 回	同上（１４）	同上（１４）
第 19 回	同上（１５）	同上（１５）
第 20 回	同上（１６）	同上（１６）
第 21 回	同上（１７）	同上（１７）
第 22 回	同上（１８）	同上（１８）
第 23 回	同上（１９）	同上（１９）
第 24 回	同上（２０）	同上（２０）
第 25 回	同上（２１）	同上（２１）
第 26 回	同上（２２）	同上（２２）
第 27 回	同上（２３）	同上（２３）
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定します

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【その他の重要事項】
２年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（A）

児玉　ゆう子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会を健康に生きていくために
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】
テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（１０）	同上（１０）
第 13 回	同上（１１）	同上（１１）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（１２）	研究発表とディスカッション（１２）
第 17 回	同上（１３）	同上（１３）
第 18 回	同上（１４）	同上（１４）
第 19 回	同上（１５）	同上（１５）
第 20 回	同上（１６）	同上（１６）
第 21 回	同上（１７）	同上（１７）
第 22 回	同上（１８）	同上（１８）
第 23 回	同上（１９）	同上（１９）
第 24 回	同上（２０）	同上（２０）
第 25 回	同上（２１）	同上（２１）
第 26 回	同上（２２）	同上（２２）
第 27 回	同上（２３）	同上（２３）
第 28 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定します

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期、春学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【その他の重要事項】
２年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（A）

渡邊　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える
「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。科学技術政策の立案・決定プロセスにおいて市民参加を伴うオープンな検討方式の重要性について考察します。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性と政策の進め方などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

【到達目標】
今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどとを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自らが問題・課題を発見し、調査・検討するという体験を通して、自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１年間の授業内容はおおむね次の通りです。春学期には主として数名からなるグループを作り調査や討論を進めその研究内容を報告します。さらにゼミ生全員でディスカッションを行うことにより、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。秋学期には、各個人が研究テーマを定め、それについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。科学技術とその政策に関連する具体事例について調査し多角的に考察を行います。４年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	１年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 4 会	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 5 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 6 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 7 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 8 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告行う。
第 9 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 10 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 11 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 12 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 13 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 14 回	グループ研究の総括	グループ研究のまとめと総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。
第 16 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 17 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 18 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 19 回	卒論の中間報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行う。

第 20 回	卒論の中間報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行う。
第 21 回	卒論の中間報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行う。
第 22 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告する。
第 23 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告する。
第 24 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告する。
第 25 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告する。
第 26 回	卒論の最終報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行う。
第 27 回	卒論の最終報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行う。
第 28 回	卒論の最終報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

【学生の意見等からの気づき】
基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションのためのＰＣなどは各自用意してください。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（A）

高田　雅之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然のもつ豊かな魅力に触れるとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、環境の視点と地域社会や経済活動との関わりを中心に、加えて国際的視点や海外事例、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

【到達目標】
以下の 4 点を身に付けることを目標とします。
①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※プロジェクト学習のテーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山と農・生き物文化など）
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 ：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 ：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 ：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 ：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 ：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 ：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 ：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 ：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 ：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 ：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 ：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 ：ディベート 6	発表とまとめ

第 22 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 1	事前学習
第 23 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 6	発表と総括講義
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

岡松　暁子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。
国際社会の諸問題について、英語で発表を行う。

【到達目標】
専門領域における英語文献を抵抗なく購読できるようになること。
国際問題について、英語で討論できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。
・国際社会の諸問題について、英語で発表し、討論を行う。
＊受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進行しないことがある。
＊必要に応じてサブゼミを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 2 回	文献購読（1）	文献講読と討論
第 3 回	文献購読（2）	文献講読と討論
第 4 回	文献購読（3）	文献講読と討論
第 5 回	文献購読（4）	文献講読と討論
第 6 回	文献購読（5）	文献講読と討論
第 7 回	文献購読（6）	文献講読と討論
第 8 回	映画鑑賞会（1）	映画鑑賞と討論
第 9 回	時事問題（1）	時事問題の討論
第 10 回	時事問題（2）	時事問題の討論
第 11 回	時事問題（3）	時事問題の討論
第 12 回	時事問題（4）	時事問題の討論
第 13 回	時事問題（5）	時事問題の討論
第 14 回	映画鑑賞会（2）	映画鑑賞と討論
第 15 回	まとめ	まとめ
第 16 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 17 回	文献購読（7）	文献講読と討論
第 18 回	文献購読（8）	文献講読と討論
第 19 回	文献購読（9）	文献講読と討論
第 20 回	文献購読（１０）	文献講読と討論
第 21 回	文献購読（１１）	文献講読と討論
第 22 回	文献購読（１２）	文献講読と討論
第 23 回	映画鑑賞会（3）	映画鑑賞と討論
第 24 回	時事問題（6）	時事問題の討論
第 25 回	時事問題（7）	時事問題の討論
第 26 回	時事問題（8）	時事問題の討論
第 27 回	時事問題（9）	時事問題の討論
第 28 回	時事問題（１０）	時事問題の討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習

【テキスト（教科書）】
受講者と相談の上、その都度指示する

【参考書】
受講者と相談の上、その都度指示する

【成績評価の方法と基準】
平常点

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

梶　裕史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」（訪問先＝八重山諸島）での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】
「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業（共同研究発表の準備）や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となります。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行なってもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第 3 回	導入課題の小発表（グループワーク）	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画（日帰り／ 1 泊）
第 4 回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観（有形部分）の価値Ⅰ
第 5 回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立　その経緯
第 6 回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第 7 回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ（無形部分）　祭事・行事の意義など
第 8 回	講義とグループワーク⑤	「うつぐみの心」と観光文化（第 2 回からのまとめ）
第 9 回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第 10 回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて／合宿のグループ分け
第 11 回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について　概観
第 12 回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動について―竹富島との共通点・相違
第 13 回	夏合宿の打ち合わせ①	島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第 14 回	夏合宿の打ち合わせ②	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク

通年

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期オリエンテーション	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成（ゼミ相談会用）と共同発表に向けた打ち合わせ
第 16 回	共同作業①（ポスター作成）	構成（コンテンツ）、見出し、解説文、写真選定等
第 17 回	共同作業②（ポスター作成）	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第 18 回	共同作業③（ポスター完成）	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ
第 19 回	共同作業④（共同プレゼンの準備）	ポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第 20 回	共同作業⑤（共同プレゼンの準備）	前回の続き。
第 21 回	共同作業⑥（共同プレゼンの準備）	レジュメ完成
第 22 回	共同作業⑦（共同プレゼンの準備）	プレゼン予行練習
第 23 回	個人研究発表①（学年末論文作成の準備）	個別に合宿の成果を発表。1 人 20 以内で 1 回 2 〜 3 人程度。第 1 グループ（例）伝統的な食文化と健康
第 24 回	個人研究発表②（学年末論文作成の準備）	上記に同じ。第 2 グループ（例）「住」の景観と連帯感・共同規範
第 25 回	個人研究発表③（学年末論文作成の準備）	第 3 グループ（例）祭事・芸能と共同体の規範、絆
第 26 回	個人研究発表④（学年末論文作成の準備）	第 4 グループ（例）伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発（リゾート問題）
第 27 回	2 年生共同発表	3 ・ 4 年生も参加、聴講
第 28 回	個別論文指導	グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %。

【学生の意見等からの気づき】
・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・「環境表象論ⅠⅡ」を未履修の人は、今年度中に受講してください。
・この金曜 4 限研究会は 2 ・ 3 年の新規参加者が履修登録対象になります.

【関連の深いコース】
人間文化コースまたはローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

北川　徹哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気象は私たちにとって身近なものであり，私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的につき合ってゆく存在である．また，多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど，気象と経済・経営とにも密接な関係がある．この研究会では，気象の基礎，ならびに気象と人間，社会，経済の関係について勉強する．

【到達目標】
１．人の生活・社会・企業と気象とのかかわりを説明できる．
２．様々な気象の特徴やしくみについて説明できる．
３．気象における環境問題について説明できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを２冊ほど選び，各自の担当部分を決めて春学期は１冊目を，秋学期は２冊目を輪講してゆく．各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み，発表する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト（1）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明，輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	１番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	２番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	３番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	４番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	５番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	６番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	７番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	８番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	９番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１０番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１１番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１２番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１３番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	テキスト（2）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明，輪読担当部分の取り決め
第 16 回	担当部分の発表・質疑応答	１番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 17 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	２番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 18 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	３番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 19 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	４番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 20 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	５番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 21 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	６番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 22 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	７番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 23 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	８番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論論
第 24 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	９番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 25 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１０番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 26 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１１番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 27 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１２番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 28 回	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	１３番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１〜２８回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査，発表用スライドなどの作成，発表の練習

【テキスト（教科書）】
授業時に指定する．

【参考書】
適宜，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %：スライドなどの良好度，説明の正確さ，質疑応答の適切さ，到達目標１〜３への達成度），議論（50 %：説明の正確さ，質疑応答の適切さ，到達目標１〜３への達成度）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【その他の重要事項】
自分がわからない部分は，ほかの人もわからないものです．わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです．気象に興味はあっても今まで踏み込むチャンスがなかった学生さん，気象予報士に興味がある学生さん，一緒に勉強してゆきましょう．

【関連の深いコース】
どのコースでも可

OTR400HA

研究会（B）

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業** ｜ 曜日・時限：**月 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
* Human Communication *
Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】
This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 16 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 17 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 18 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 19 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 20 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 21 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 22 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 23 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 24 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 25 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 26 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト（教科書）】
There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】
Adler, R., & Rodman, G. (2013). Understanding Human Communication (9th Edition). New York: Oxford.
Joseph A. DeVito (2014). Human Communication: The Basic Course (13th Edition). Pearson.
Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2013). Human Communication. Boston: McGraw Hill.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

【学生の意見等からの気づき】
There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

武貞　稔彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2018 年度は、途上国、先進国を問わず人類の生存と文明の存続に必須の「水」をテーマに持続可能な社会のあり方についての議論を深めます。受講者が何が持続可能な社会なのかについて、深く考えかつ具体的に行動できるようになることを目指します。

【到達目標】
本研究会では、（ア）開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、（イ）自らの意見を持ちそれを人に伝え、（ウ）途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行いますが、主に　a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	何が「問題」か？	「水問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第 3 回	誰にとって「問題」か？	「水問題」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第 4 回	グループディスカッション課題１（身近な水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、身近な水問題について意見交換する。(1)
第 5 回	グループディスカッション課題１（身近な水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、身近な水問題について意見交換する。(2)
第 6 回	グループディスカッション課題１（身近な水問題）(3)	「水問題」に関する基礎文献を読み、身近な水問題について意見交換する。(3)
第 7 回	グループディスカッション課題２（日本における水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(1)
第 8 回	グループディスカッション課題２（日本における水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(2)
第 9 回	グループディスカッション課題３（日本における水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(3)
第 10 回	グループディスカッション課題３（日本における水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、日本における水問題について意見交換する。(4)
第 11 回	グループディスカッション課題４（途上国における水問題）(1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、途上国における水問題について意見交換する。(1)
第 12 回	グループディスカッション課題４（途上国における水問題）(2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、途上国における水問題について意見交換する。(2)
第 13 回	グループディスカッション課題４（途上国における水問題）(3)	「水問題」に関する基礎文献を読み、途上国における水問題について意見交換する。(3)
第 14 回	「水問題」とは？	春学期の学びの総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンエテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「水問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第 17 回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「水問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第 18 回	「問題」の捉え方を学ぶ	「水問題」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方ーフレーミング　について学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション課題５（過去における水問題）(1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション課題５（過去における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 21 回	グループディスカッション課題６（現代における水問題）(1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題６（現代における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題７（途上国における水問題）(1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題７（途上国における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題８（途上国における水問題）(1)	ディスカッション課題についてクループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題８（途上国における水問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題８（途上国における水問題）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「水問題」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】
特に指定のテキストはありません。

【参考書】
研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
研究会での議論への貢献（70 %）、期末レポート（30 %）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

田中　勉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 5・6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
千代田区の地域環境政策（ＣＥＳ・千代田エコシステム）の研究と実践

【到達目標】
このゼミは 2006 年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、企画・実践することを目的としています。大学外の関係者との連携により視野を広げていきます。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・ＮＰＯ）からの聞き取りを行う。このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やＣＥＳ推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをとおして「ＣＥＳ (千代田エコシステム)」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。参加者の関心に基づく「個人研究」の発表とレポート作成を行う。
なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メンバー確認、ＣＥＳについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、ＣＥＳの特色について、説明と質疑。
第 2 回	ゼミの経過（報告書）講義	2017 年度活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第 3 回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第 4 回	千代田区の特性②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第 5 回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第 6 回	ＣＥＳ推進協議会事務局への聞き取り	ＣＥＳ推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第 7 回	プログラムミーティングと実践①	2018 年度春学期および年間の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 8 回	プログラムミーティングと実践②	活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 9 回	プログラムミーティングと実践③	プログラムを決定。 実施グループメンバーへの割り振り。
第 10 回	プログラムミーティングと実践④	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 11 回	プログラムミーティングと実践⑤	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 12 回	プログラムミーティングと実践⑥	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 13 回	プログラムミーティングと実践⑦	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 14 回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および秋学期のスケジュールについて確認。
第 15 回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第 16 回	プログラムミーティングと実践⑧	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 17 回	プログラムミーティングと実践⑨	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 18 回	プログラムミーティングと実践⑩	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 19 回	講演会（講師：未定）	行政・企業・ＮＰＯなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第 20 回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 21 回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 22 回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 23 回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	千代田研究④	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 25 回	千代田研究⑤	個人研究の追加発表。
第 26 回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第 27 回	プログラムミーティング⑫	各プログラムグループごとに実行プランのふり返り行い、活動評価を行う。
第 28 回	年度活動報告書作成会議②および年間活動ふり返り	報告書内容決定。ふり返り記録作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「講演会」「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。
ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いない。必要に応じて区政資料などを配布する。

【参考書】
杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣
ほかにイベントごとに資料を作成、配布する。

【成績評価の方法と基準】
活動参加・役割関与（40 %）、個人研究発表（40 %）、研究レポート（20 %）を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
個人・グループ研究の発表および討論の時間を増やし、研究の深化をはかります。

【その他の重要事項】
このゼミは５・６限目の２時限連続で行います。１時限だけの登録はできません。

【関連の深いコース】
コースを限定しません

OTR400HA

研究会（A）

谷本　勉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大森荘蔵の科学哲学を手がかりにして科学とは何か、人間とは何かを探求する。

【到達目標】
「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	イントロダクション 1	「夢まぼろし」 「記憶について」
第 3 回	イントロダクション 2	「真実の百面相」 「心の中」
第 4 回	イントロダクション 3	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第 5 回	イントロダクション 4	イントロダクションの総括のための議論と解説
第 6 回	初期大森哲学 1	「哲学的知見の性格」
第 7 回	初期大森哲学 2	「他我の問題と言語」
第 8 回	初期大森哲学 3	「言語と集合」
第 9 回	初期大森哲学 4	初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第 10 回	初期大森哲学 5	「決定論の論理と、自由」
第 11 回	初期大森哲学 6	「知覚の因果説検討」
第 12 回	初期大森哲学 7	「知覚風景と科学的世界像」
第 13 回	初期大森哲学 8	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第 14 回	春学期総括	それぞれの描く大森哲学 1
第 15 回	秋学期の展望	夏休みのレポートの発表と議論
第 16 回	中期大森哲学 1	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」1
第 17 回	中期大森哲学 2	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」2
第 18 回	中期大森哲学 3	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」3
第 19 回	中期大森哲学 4	「科学の罠」
第 20 回	中期大森哲学 5	「虚想の公認を求めて」
第 21 回	中期大森哲学 6	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第 22 回	後期大森哲学 1	「過去の制作」
第 23 回	後期大森哲学 2	「ホーリズムと他我問題」
第 24 回	後期大森哲学 3	「脳と意識の無関係」
第 25 回	後期大森哲学 4	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第 26 回	後期大森哲学 5	「「後の祭り」を祈る－過去は物語」 「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第 27 回	後期大森哲学 6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第 28 回	秋学期総括	それぞれの描く大森哲学 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】
『大森荘蔵セレクション』（平凡社ライブラリー、2011 年）
『物と心』（ちくま学芸文庫、2015 年）

【参考書】
授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する。平常点（50%）とレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（B）

長峰　登記夫

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】
本研究会での学習や作業をとおして、学生たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低 1 回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。年間計画についても説明する。
第 2 回	レジュメ、レポートの書き方 1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第 3 回	レジュメ、レポートの書き方 2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第 4 回	日本の雇用システム　伝統と変化 1	日本的雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第 5 回	日本の雇用システム　伝統と変化 2	日本的雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第 6 回	日本の雇用システム　伝統と変化 3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといってよい。この回ではその特徴についてみていく。
第 7 回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義的雇用管理（賃金と昇進）は日本的雇用システムのなかの新しい側面といってよい。この回ではそれについて学ぶ。
第 8 回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第 9 回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第 10 回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第 11 回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係し、また他の原因は何か等について考える。
第 12 回	大学生の就職 1（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。

第 13 回	大学生の就職２（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 14 回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第 15 回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。
第 16 回	研究の進め方とレポートの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第 17 回	学生による研究発表１	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 18 回	学生による研究発表２	上記に同じ
第 19 回	学生による研究発表３	上記に同じ
第 20 回	学生による研究発表４	上記に同じ
第 21 回	学生による研究発表５	上記に同じ
第 22 回	学生による研究発表６	上記に同じ
第 23 回	学生による研究発表７	上記に同じ
第 24 回	学生による研究発表８	上記に同じ
第 25 回	学生による研究発表９	上記に同じ
第 26 回	レポートの途中経過報告	学生は 80 %程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
第 27 回	学生による研究発表１０	上記研究発表に同じ
第 28 回	完成版レポートの提出	完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

【テキスト（教科書）】
春学期は基本的に本の１章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。
秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012 年。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、１．参加姿勢、２．授業での発表、３．発表のために作成したレジュメの内容、４．授業内での議論への参加、５．最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】
修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

根崎　光男

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**月 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ
環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生起したさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】
日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための能力を養う。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、研究レポートを提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション－環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	大学周辺フィールドスタディ①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 6 回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 7 回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 8 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 16 回	大学周辺フィールドスタディ②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。

第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 22 回	古文書解読②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 27 回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付した歴史史料・古文書を事前に解読・分析する。
グループ・個人の調査研究テーマの文献収集・分析を行う。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (70%)、発表・研究レポート (30%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

OTR400HA

研究会（B）

長谷川　直哉

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サスティナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】
CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ検討	ファンドテーマ決定企業の調査手法・調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒業論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チームの活動報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チームの活動報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チームの活動報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】
研究会の開講前に掲示します。

【参考書】
必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度
〔個別評価〕ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】
参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

高田　雅之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然のもつ豊かな魅力に触れるとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、環境の視点と国際的な視点や海外の事例を中心に、加えて地域社会や経済活動の視点、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

【到達目標】
以下の 4 点を身に付けることを目標とします。
①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び企画力・実践力・分析力を養います（※プロジェクト学習テーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山と農・生き物文化など）
④自らの関心テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 ：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 ：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 ：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 ：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 ：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 ：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 ：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 ：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 ：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 ：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 ：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 ：ディベート 6	発表とまとめ

第 22 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 1	事前学習
第 23 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 6	発表と総括講義
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

永野　秀雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】
受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい個所は、担当教員が解説いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書で指定された小テストの個所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

【テキスト（教科書）】
宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、３回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしてこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】
これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

日原　傳

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
松尾芭蕉の『おくの細道』を読む。

【到達目標】
・江戸時代の旅の実態について理解を深める。
・芭蕉の創作の工夫について学ぶ。
・俳諧に関する基本的な知識を習得する。
・日本の名勝について知る。
・自分の力で文献を調べ、読み解く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の時間にテキストの『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』等の関連資料について説明する。その上で、参加者に担当箇所を割り振る。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストについて	『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』等の関連資料の説明。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	文献講読	テキスト輪読
第 11 回	文献講読	テキスト輪読
第 12 回	文献講読	テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	総合討論	研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの該当箇所を下読みし、議論の種を見つけておく。
・担当者は担当箇所に関して、可能な限り調べ、レジメを作成する。

【テキスト（教科書）】
潁原退蔵・尾形仂訳注『新版　おくのほそ道』（角川ソフィア文庫）

【参考書】
授業の進行に合わせて、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度・発表）７０％
最終レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
和本リテラシーの基礎も学ぶ。

【関連の深いコース】
人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B）

谷本　有美子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対応力を高めること、さらに学生が自治体職員になった場合に必要な政策形成能力の基礎を身につけることも目的としています。

【到達目標】
第 1 に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第 2 に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第 3 に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力への理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討論、ゲストスピーカー（現職の自治体職員等）の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイディアの検討と報告、必要に応じ現地調査などを組み合わせていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と、受講者の意見交換を通じて自治体職員に対する各人のイメージを共有する
第 2 回	自治体の政策課題の発見（1）	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を受講生が持ち寄り、グループでその対策アイディアを検討する
第 3 回	自治体の政策課題の発見（2）	第 2 回の内容を発表し、全体で討議する
第 4 回	自治体職員のミッションとは？	自治体職員が働く現場の事例から、仕事のミッションについて考える
第 5 回	ケース分析「自治体職員の仕事」	ビデオやテキスト等の事例を題材に自治体職員の仕事に必要な能力についてグループで討議、発表する
第 6 回	自治体の現場課題を考える〜政策形成思考のトレーニング（1）	自治体現場の最前線の政策課題について、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第 7 回	自治体の現場課題を考える〜政策形成思考のトレーニング（2）	第６回の内容を発表し、全体で討議する
第 8 回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（1）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第 9 回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（2）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第 10 回	自治体職員としてのキャリア形成を考える	前年度受講者から進路選択の実際について聞き取り、キャリア形成について考える
第 11 回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（1）	受講生各自が仮の志望自治体を選び、関心のある政策を調べて、自身がどのように携わり、キャリアを形成したいかについてのプレゼンテーションを行う
第 12 回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（2）	第 11 回の続き
第 13 回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（3）	第 11・12 回の続き
第 14 回	総括討論	学習した内容を振り返りつつ、自治体職員の役割・あるべき姿などについて総括的に討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テーマ討論や講義内容に関する事前学習

・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

【テキスト（教科書）】
各回のテーマに応じて、必要な印刷物を配付します。

【参考書】
稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書）の他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
自治体の仕事の実際に触れられる機会を可能な限り提供します。
グループ討議で他の受講生と共に学びながら報告内容をまとめる経験を積み、発表の機会を通じてプレゼンテーション技術が向上できるようなサポートをします。

【関連の深いコース】
全てのコースが対象

OTR400HA

研究会（B）

渡邊　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ:科学技術社会について考える（書籍・文献等の講読を中心に）
科学技術社会を考えるための素養を身に付けることを目標に、様々な書籍、文献、新聞などの講読を行います。またそれにもとづいて各自の関心のあるテーマについての報告と討論を行うことにより、コミュニケーション力を修得します。科学技術の意義と役割、歴史、様々な問題点と将来像などについて考察し政策との関連について考えます。環境問題をより深く眺め、諸学問分野の垣根を超えた学際的な発想ができるようになることを目指します。

【到達目標】
幅広く具体的な内容に触れながら科学技術という断面から人と社会についてより深く考えることができるようになることが目標です。この研究会は理科系の学生向けに開設されたものではありません。科学とは何か？ 科学技術とは何か？ を文系の立場から考察し、科学技術政策を模索、決定し遂行するための方法などについて考えることを目指します。新聞あるいは雑誌、各種統計資料を含む様々な情報を読み解くことができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
幾つかの書籍を講読しその内容について報告します。また新聞、雑誌、その他各種資料を参考にして、各自の関心のあるテーマについて報告し討論します。少人数教室での質疑応答、意見交換、ディスカッションなどを経験することにより、自分が自らの意見をもち、説得力のある主張を展開していくための力を身に付けたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と進め方の確認を行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 5 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 6 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 7 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 8 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 9 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 10 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 11 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 12 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 13 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 14 回	総括	春学期の授業内容についての総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	研究テーマ選定のための考え方について。
第 16 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 17 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 18 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 19 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 20 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第 21 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 22 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。

第 23 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 24 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 25 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 26 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 27 回	総括（1）	共通テーマを設定し総合討論を行う。
第 28 回	総括（2）	共通テーマを設定し総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
書籍、各種資料の内容把握と文献収集、事前調査、報告のための資料作成などを行います。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

【学生の意見等からの気づき】
文系の立場であるということを常に意識して、わかりやすい説明となるよう留意します。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

OTR400HA

研究会（B）

金藤　正直

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本研究会では、ビジネスモデルや企業および地域を主体とした事業（ビジネス）に関する文献の内容分析とともに、それに関連する現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）を通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法論を学習していくことを目的とする。

【到達目標】
本研究会では、企業や地域のビジネスに関する現状分析や問題への解決策の考察を通して、経済・経営系の基礎知識、分析能力、論理力などといった研究会（A）や今後社会で活躍するために必要とされる基礎的な能力を身につけていくことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【春学期】
□ビジネスモデルに関する著書や論文に基づいて、持続可能なビジネスモデルをデザインする技法を学習する。
□学習したビジネスモデルの視点から、現在国内外で注目されている企業や地域を主体としたビジネスの現状を分析するとともに、その企業や地域をさらに持続的に成長していくために何が必要かを検討し、明らかにしてもらいます。
【秋学期】
□新たな文献のサーベイや、春学期で取り上げた企業や地域の事業関係者に対してアンケート調査やヒアリング調査を実施し、当該ビジネスの現状や問題を明らかにするとともに、その問題への解決策を検討し、提案してもらいます。
□春学期および秋学期の研究・調査の成果を、事業関係者に報告（最終報告）するとともに、研究・調査レポート（あるいはＰＣソフト（アプリ）・仕様書など）にもまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自 1 年間の目標を検討し、設定してもらう。
第 2 回	研究・調査のための諸文献の分析方法（A）	テキストや他の著書を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のための諸文献の分析方法（B）	論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 4 回	諸文献の分析内容の報告・議論①	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 5 回	諸文献の分析内容の報告・議論②	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 6 回	諸文献の分析内容の報告・議論③	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 7 回	諸文献の分析内容の報告・議論④	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 8 回	研究・調査テーマの選定・検討方法	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）の選定・検討方法を説明するとともに、実際にその事業を選定し、検討していく作業も行う。
第 9 回	研究・調査テーマの分析方法	第 7 回までの講義内容に基づいて、第 8 回で選定・検討した研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析していくための方法を説明する。
第 10 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 11 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 12 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 13 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。

第 14 回	小　括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第 15 回	研究・調査に関する報告会（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第 16 回	研究・調査に関する報告会（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 17 回	現地調査の方法（A）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）の方法を説明する。
第 18 回	現地調査の方法（B）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第 19 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 1	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 20 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 2	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 21 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 3	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 22 回	製品・商品の生産・販売店の調査（A）	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 23 回	製品・商品の生産・販売店の調査（B）	第 22 回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 24 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 25 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 26 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 27 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 28 回	総括 研究・調査テーマの検討内容の整理	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成されるレポートに活かしていく方法を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本研究会では、諸文献の分析や実践的な取組みを通して、研究・調査テーマの決定、研究・調査の目的・視点・方法、研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法などを学習し、研究会（A）や今後社会で活躍するための基礎的な能力をしっかりと身に付けていきますので、大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

【テキスト（教科書）】
使用するテキストは第 1 回に紹介します。
また、毎回パワーポイントを用いて報告してもらいますので、レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20 %）
・報告用配布レジュメの内容（20 %）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
・研究・調査レポート（あるいはＰＣソフト（アプリ）・仕様書など）（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】
本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

國則　守生

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2～4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 2**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学などの考え方の理解・習得を基礎的なレベルから行う（自分の言葉で理解・判断する能力と他人と協力して解決する能力の獲得を図る）。

【到達目標】
重要な経済学の基礎的な考え方を集中して学び、環境政策を考えるために必要な素養を、発表、議論、批判的検討を通じて獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究会は演習形式で行う。研究会では、ミクロ経済学などのテキストを全員で輪読し、それに関してディスカッションを行う。経済学に関するベーシックで重要な考え方、捉え方をしっかりと身につけるため、お互いとの意見交換を重視する。また、毎週サブゼミを実施し、ゼミの先輩とグループで調査・研究・発表を行う。ゼミ合宿ではサブゼミなどで行った調査・研究を発展させ、全体で議論する。
幅広い素養を身につけるため、副読本として環境に関する文献も積極的に読み、感想を発表する。4 年生の研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読（1）	報告および討論
第 4 回	文献講読（2）	報告および討論
第 5 回	文献講読（3）	報告および討論
第 6 回	文献講読（4）	報告および討論
第 7 回	文献講読（5）	報告および討論
第 8 回	文献講読（6）	報告および討論
第 9 回	文献講読（7）	報告および討論
第 10 回	文献講読（8）	報告および討論
第 11 回	文献講読（9）	報告および討論
第 12 回	文献講読（10）	報告および討論
第 13 回	文献講読（11）	報告および討論
第 14 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 15 回	課題発表	指定された課題図書読書後の発表
第 16 回	文献購読（12）	報告および討議
第 17 回	文献講読（13）	報告および討論
第 18 回	文献講読（14）	報告および討論
第 19 回	文献講読（15）	報告および討論
第 20 回	文献講読（16）	報告および討論
第 21 回	文献講読（17）	報告および討論
第 22 回	文献講読（18）	報告および討論
第 23 回	文献講読（19）	報告および討論
第 24 回	文献講読（20）	報告および討論
第 25 回	文献講読（21）	報告および討論
第 26 回	文献講読（22）	報告および討論
第 27 回	文献講読（23）	報告および討論
第 28 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）演習ノートを用意し、毎週，決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
2）サブゼミに出席する。
3）ゼミ合宿に参加する。
4）各種課題を提出する。
5）４年生になると、研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト（教科書）】
ミクロ経済学のテキスト（授業時に指示する）。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80 %）および各人のテーマの取り組み姿勢と提出されたレポート等執筆（20 %）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】
最初の時期にできるだけ各学生の意見が積極的に発せられるように、雰囲気作りに配慮したい。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（グローバル・サステイナビリティコースも可）

OTR400HA

研究会（B）

高橋　五月

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Bゼミのテーマは「エスノグラフィーで学ぶ人と環境」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

【到達目標】
1）人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
2）エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
3）フィールドワークの実践的なスキルを得る
4）先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第 2 回	エスノグラフィー入門（1）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 3 回	エスノグラフィー入門（2）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 4 回	エスノグラフィー入門（3）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 5 回	エスノグラフィー入門（4）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 6 回	エスノグラフィー入門（5）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 7 回	エスノグラフィー入門（6）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 8 回	エスノグラフィー入門（7）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 9 回	エスノグラフィー入門（8）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 10 回	エスノグラフィー入門（9）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 11 回	エスノグラフィー入門（１０）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 12 回	エスノグラフィー入門（１１）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 13 回	エスノグラフィー入門（１２）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を発表、提出する。
第 15 回	ガイダンス	後期の進め方についての説明

第 16 回	調査研究の中間報告（1）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 17 回	調査研究の中間報告（2）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 18 回	調査研究の中間報告（3）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 19 回	調査研究の中間報告（4）	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 20 回	エスノグラフィー分析（1）	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 21 回	エスノグラフィー分析（2）	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 22 回	エスノグラフィー分析（3）	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 23 回	エスノグラフィー分析（4）	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 24 回	エスノグラフィー分析（5）	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 25 回	エスノグラフィー分析（6）	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 26 回	研究成果の発表（1）	調査論文を発表し、討論する
第 27 回	研究成果の発表（2）	調査論文を発表し、討論する
第 28 回	研究成果の発表（3）	調査論文を発表し、討論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にする。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。

【テキスト（教科書）】
小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】
随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（３０％）、文献発表（２０％）、調査計画、現地調査、調査論文（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
現地調査を自ら計画して遂行するのは苦労も多いが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【関連の深いコース】
どのコースの学生でも履修可能

OTR400HA

研究会（B）

渡邊　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会人ゼミ　－人と社会について考える－
人と社会の問題について多角的に考えることをテーマとします。この内容に沿って各人の経験、問題意識をもとに自由に具体的な研究テーマを選定し研究を行います。各人が関心を強く持っている内容について報告とディスカッションを行うことになりますので、授業参加者は幅広い内容に触れることになります。

【到達目標】
本科目は、社会人を対象とした半期ごとのゼミナールです。春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。社会人学生同士のコミュニケーションをもつことを目標としています。また、自主的にテーマを模索し、研究活動を行っていくための基礎を修得することを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の前半では、書籍、新聞記事あるいは各種文献を講読し、人、自然、環境問題、社会の持続性などに関して総合的に、そして複眼的に眺めて考える力を身につけます。後半では、各人のテーマの探索と研究活動、および報告とディスカッションを行うことによって、柔軟に考察する力と説得力のあるプレゼンテーションを行うための力を修得することを目指します。なお、必要に応じて近くの現場（例えば千代田区内などに出向くミニ・フィールド) 体験も（参加者と相談の上）行う可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の自己紹介、授業の進め方などの説明
第 2 回	文献講読と討論	書籍、新聞記事、各種資料の講読など
第 3 回	文献講読と討論	書籍、新聞記事、各種資料の講読など
第 4 回	文献講読と討論	書籍、新聞記事、各種資料の講読など
第 5 回	共通テーマ研究	共通テーマについての研究と発表
第 6 回	共通テーマ研究	共通テーマについての研究と発表
第 7 回	共通テーマ研究	共通テーマについての研究と発表
第 8 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 9 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 10 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 11 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 12 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 13 回	プレゼンテーション研究	発表技術、レポート・論文のまとめ方
第 14 回	プレゼンテーション研究	発表技術、レポート・論文のまとめ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
書籍、新聞記事、各種文献などの内容把握と研究テーマに関する事前調査、報告のための準備を行う。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性（50%）、提出されたレポートの内容（50%）。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

OTR400HA

研究会（B）

渡邊　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会人ゼミ　－人と社会について考える－
人と社会の問題について多角的に考えることをテーマとします。この内容に沿って各人の経験、問題意識をもとに自由に具体的な研究テーマを選定し研究を行います。各人が関心を強く持っている内容について報告とディスカッションを行うことになりますので、授業参加者は幅広い内容に触れることになります。

【到達目標】
本科目は、社会人を対象とした半期ごとのゼミナールです。春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。社会人学生同士のコミュニケーションをもつことを目標としています。また、自主的にテーマを模索し、研究活動を行っていくための基礎を修得することを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の前半では、書籍、新聞記事あるいは各種文献を講読し、人、自然、環境問題、社会の持続性などに関して総合的に、そして複眼的に眺めて考える力を身につけます。後半では、各人のテーマの探索と研究活動、および報告とディスカッションを行うことによって、柔軟に考察する力と説得力のあるプレゼンテーションを行うための力を修得することを目指します。なお、必要に応じて近くの現場（例えば千代田区内などに出向くミニ・フィールド）体験も（参加者と相談の上）行う可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の自己紹介、授業の進め方などの説明
第 2 回	文献講読と討論	書籍、新聞記事、各種資料の講読など
第 3 回	文献講読と討論	書籍、新聞記事、各種資料の講読など
第 4 回	文献講読と討論	書籍、新聞記事、各種資料の講読など
第 5 回	共通テーマ研究	共通テーマについての研究と発表
第 6 回	共通テーマ研究	共通テーマについての研究と発表
第 7 回	共通テーマ研究	共通テーマについての研究と発表
第 8 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 9 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 10 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 11 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 12 回	個人研究と報告	個人研究のテーマ探索と調査・検討
第 13 回	プレゼンテーション研究	発表技術、レポート・論文のまとめ方
第 14 回	プレゼンテーション研究	発表技術、レポート・論文のまとめ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
書籍、新聞記事、各種文献などの内容把握と研究テーマに関する事前調査、報告のための準備を行う。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性（50%）、提出されたレポートの内容（50%）。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

OTR400HA

研究会（A）

高橋　五月

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Aゼミのテーマは「人と環境の文化人類学」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、卒業論文を作成する。

【到達目標】
1）人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
2）エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
3）現地調査を通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
4）エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立てるスキルを養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィーと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての説明。文献講読の司会担当決め。
第 2 回	本年度の卒論研究計画の発表（1）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 3 回	本年度の卒論研究計画の発表（2）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 4 回	先行研究の講読（1）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 5 回	先行研究の講読（2）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 6 回	先行研究の講読（3）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 7 回	先行研究の講読（4）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 8 回	先行研究の講読（5）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 9 回	先行研究の講読（6）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 10 回	先行研究の講読（7）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 11 回	先行研究の講読（8）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 12 回	先行研究の講読（9）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 13 回	先行研究の講読（１０）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 14 回	前期のまとめ	期末課題の提出、発表。中間発表の順番決め。
第 15 回	卒論研究中間発表（1）	卒論研究の中間発表
第 16 回	卒論研究中間発表（2）	卒論研究の中間発表
第 17 回	卒論研究中間発表（3）	卒論研究の中間発表

第 18 回	卒論研究中間発表（４）	卒論研究の中間発表
第 19 回	先行研究の講読（１１）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 20 回	先行研究の講読（１２）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 21 回	先行研究の講読（１３）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 22 回	先行研究の講読（１４）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 23 回	先行研究の講読（１５）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 24 回	先行研究の講読（１６）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 25 回	先行研究の講読（１７）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 26 回	先行研究の講読（１８）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 27 回	卒論発表（1）	卒論提出予定者による研究成果発表
第 28 回	卒論発表（2）	卒論提出予定者による研究成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献は必ず読み、感想文（３００字程度）を授業支援システムにアップロードすし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にする。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。

【テキスト（教科書）】
小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】
随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、文献発表（２０％）、課題（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見：「文献購読の際にすこし何人かで集まりグループワーク的なものがあっても形式としては面白いかなと思いました。」
教員からの回答：いい案ですね。２０１８年度のゼミでグループワークも導入したいと思います。

【関連の深いコース】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコースなど

OTR400HA

研究会（A）

竹本　研史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティなどの現代社会の問題を考察するために必要な諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきました。
本研究会では、ヨーロッパや近現代日本の思想を初めとする人文科学の文献や映画や美術作品などの分析を通じて、こうした諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討、理解しながら、それらの現代社会における意義を考察することを目標としています。
2018 年度の前半は、社会の諸相について日本の基礎的研究文献を講読し、後半では、「贈与」や「交換」をテーマに古典を精読する予定です。

【到達目標】
(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」や「社会」、「民主主義」をはじめとする諸概念それ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。
(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) ヨーロッパや近現代日本の人文科学の文献の精読（学生による発表＋教員による背景知識の解説＋ゼミ全体で議論）。
(2) 秋学期の個人研究発表。
(3) 学期に 1 回、事前学習のうえ、首都圏の映画館・美術館・博物館などでプチ FS 。
(4) ゼミ合宿（9 月ないし 2 月を予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方
第 2 回	テクストの精読 A（1）	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読（1）
第 3 回	テクストの精読 A（2）	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読（2）
第 4 回	テクストの精読 A （3）	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読（3）
第 5 回	テクストの精読 A （4）	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読（4）
第 6 回	テクストの精読 A （5）	社会の諸相に関する日本の基礎的文献の講読（5）
第 7 回	学外学習事前学習会（1）	第 8 回でおこなう学外学習に必要な予備知識を講義
第 8 回	学外学習（1）	映画館・美術館などで作品などを鑑賞
第 9 回	グループ学習	今年度のテーマに関連する概念に関する調査・発表
第 10 回	テクストの精読 B （1）	贈与や交換に関する古典の精読（1）
第 11 回	テクストの精読 B （2）	贈与や交換に関する古典の精読（2）
第 12 回	テクストの精読 B （3）	贈与や交換に関する古典の精読（3）
第 13 回	テクストの精読 B （4）	贈与や交換に関する古典の精読（4）
第 14 回	研究会修了論文中間発表	4 年生を対象とした卒論中間発表
第 15 回	レポート合評会（1）	2 年生それぞれの夏休みレポートについて教員・学生も交えて討論する（前編）
第 16 回	レポート合評会（2）	3 年生それぞれの夏休みレポートについて教員・学生も交えて討論する（後編）
第 17 回	テクストの精読 B （5）	贈与や交換に関する古典の精読（5）
第 18 回	テクストの精読 B （6）	贈与や交換に関する古典の精読（6）
第 19 回	テクストの精読 B （7）	贈与や交換に関する古典の精読（7）
第 20 回	テクストの精読 B （8）	贈与や交換に関する古典の精読（8）
第 21 回	テクストの精読 B （9）	贈与や交換に関する古典の精読（9）
第 22 回	テクストの精読 B （10）	贈与や交換に関する古典の精読（10）
第 23 回	テクストの精読 B （11）	贈与や交換に関する古典の精読（11）
第 24 回	学外学習事前学習会（2）	第 25 回でおこなう学外学習に必要な予備知識を講義
第 25 回	学外学習（2）	映画館・美術館などで作品などを鑑賞

第 26 回	3 年生研究構想発表（1）	3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論（前編）
第 27 回	2 年生研究構想発表（2）	3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論（後編）
第 28 回	まとめ	1 年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。
（2）思想、文学、文化に関する文献を渉猟し、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。
（3）最低週 1 回は、人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみること。

【テキスト（教科書）】
授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

【参考書】
教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】
（1）2、3 年生は、授業中に年間 2 回の個人発表と積極的な議論への参加、および夏・冬 2 回のレポート、年 5 回のブックレポートの提出。
（2）4 年生は、授業中の積極的な議論への参加、および研究会研究会修了論文の中間報告、研究会修了論文、夏学期 3 回のブックレポートの提出。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【その他の重要事項】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】
人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（A）

西城戸　誠

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**火 6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。

【到達目標】
本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会学的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文（もしくは（ゼミレポート））を執筆することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめるといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読（1）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読（2）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読（3）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読（4）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読（5）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読（6）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（1）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 9 回	文献購読（7）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読（8）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読（9）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読（10）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読（11）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	文献購読（12）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 15 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（2）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。

第 16 回	文献購読（13）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 17 回	文献購読（14）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読（15）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 19 回	文献購読（16）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 20 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（3）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 21 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（4）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 22 回	文献購読（17）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 23 回	文献購読（18）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 24 回	文献購読（19）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 25 回	文献購読（20）	課題図書を購読し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 26 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（5）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 27 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（6）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 28 回	研究会修了論文（ゼミレポート）中間報告（7）	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献講読、調査、論文執筆等）

【テキスト（教科書）】
随時、指定する。

【参考書】
随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。ただし、社会人学生で 2018 年度から研究会に参加する者は春学期、秋学期にゼミレポートの提出を求める。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
本演習は火曜日 6 時限目にサブゼミとして延長して実施することがある。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース

OTR400HA

研究会（B)

横内　恵

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国の環境法のうち行政法分野の法制度や判例について調査をし、ディスカッションやディベートを通して深く考え、理解することを目指します。また、受講者各自で研究テーマを設定し、主体的に研究して４年生終了時までに論文を書き上げることを目指します。

【到達目標】
本研究会では、（１）国内環境法の主要分野についての知識を習得すること、（２）受講者各自で設定した研究テーマについて、よく調べて発表し、皆で議論すること、（３）学部４年次には、研究会修了論文を提出し、その内容について発表することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
環境法に関する文献講読や判例研究、個人の研究報告とディスカッション、ディベート等の様々な方法で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、受講者の春学期の報告スケジュールを決定する
第 2 回	環境行政法（1）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 3 回	環境行政法（2）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 4 回	環境行政法（3）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 5 回	環境行政法（4）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 6 回	環境行政法（5）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 7 回	環境行政法（6）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 8 回	環境行政法（7）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 9 回	環境行政法（8）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 10 回	環境行政法（9）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 11 回	環境行政法（10）	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 12 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 13 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 14 回	まとめ	春学期の復習を行う
第 15 回	秋学期の研究計画	各受講者の研究テーマについて協議し、報告スケジュールを決定する
第 16 回	研究報告（1）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 17 回	研究報告（2）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 18 回	研究報告（3）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 19 回	研究報告（4）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 20 回	研究報告（5）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 21 回	研究報告（6）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 22 回	研究報告（7）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 23 回	研究報告（8）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 24 回	研究報告（9）	受講者による研究報告とディスカッションを行う

第 25 回	研究報告（10）	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	秋学期の総復習を行い、次年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告準備にあたっては、事前に文献調査をしっかりと行ってください。適宜、受講生に課題を出すこともあります。

【テキスト（教科書）】
北村喜宣『環境法〔第４版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】
大塚直『環境法〔第３版〕』（有斐閣、2010 年）。
淡路剛久、大塚直、北村喜宣編『環境判例百選〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）。
その他、必要に応じて研究会中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
総合評価（目安としては、平常点８５％、課題１５％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

OTR400HA

研究会（B）

横内　恵

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい科学技術によってどのような被害が生じ得るかが完全には予測できないという、科学的不確実性を伴うリスクの問題が深刻となっている。とりわけ環境問題としては、遺伝子技術、ナノテク、新規の化学物質、電磁波、原子力のリスクが挙げられるが、AI・ロボット技術の実装に伴って生じ得る環境問題もある。このような新たなリスク事象を法的にいかに制御し得るのかについて、文献を購読し、議論して、理解を深めることを本研究会の目的とする。

【到達目標】
科学技術・リスク論について、とりわけその法理論的な諸問題について、理論状況をある程度把握し、理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者が事前に課題文献の該当箇所を熟読し、その上で、その内容についてディスカッションを行う。なお、ディスカッションに入る前に、報告者が、課題文献の該当箇所の概要について報告を行い、内容を確認することとします。学期末には、課題文献の内容をもとにディベートのテーマを設定して、ディベートを行う。毎回、受講者全員が積極的な姿勢で参加することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、課題文献を決定する
第 2 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 3 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 4 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 5 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 6 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 7 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 8 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 9 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 10 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 11 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 12 回	ディベート（1）	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 13 回	ディベート（2）	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 14 回	春学期まとめ	春学期の総復習を行う
第 15 回	オリエンテーション	春学期の復習をし、秋学期の課題文献を決定する
第 16 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 17 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う

第 18 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 19 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 20 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 21 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 22 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 23 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 24 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 25 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 26 回	ディベート（1）	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート（2）	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	１年間の復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、報告担当者だけでなく全受講者が、課題文献を熟読してください。課題文献に関連して紹介された参考文献についても、適宜、読んでもらいます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
必要に応じて指定・紹介します。

【成績評価の方法と基準】
総合評価（目安としては、平常点７０％、課題２０％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース、サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

OTR400HA

研究会修了論文

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**4 年／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ａタイプ研究会を原則として２年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】
各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各Ａ研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第 2 回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 3 回	テーマの設定と構成②	同上
第 4 回	テーマの設定と構成③	同上
第 5 回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第 6 回	資料の収集②	同上
第 7 回	資料の収集③	同上
第 8 回	資料の収集④	同上
第 9 回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第 10 回	情報の整理②	同上
第 11 回	情報の整理③	同上
第 12 回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 13 回	執筆②	同上
第 14 回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】
各教員が指示する。

【参考書】
各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】
①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
②Ｂタイプ研究会受講者は登録できない。（Ｂタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【関連の深いコース】
すべてのコース

OTR400HA

コース修了論文

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**4 年／ 2 単位**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】
各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第 2 回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 3 回	テーマの設定と構成②	同上
第 4 回	テーマの設定と構成③	同上
第 5 回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第 6 回	資料の収集②	同上
第 7 回	資料の収集③	同上
第 8 回	資料の収集④	同上
第 9 回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第 10 回	情報の整理②	同上
第 11 回	情報の整理③	同上
第 12 回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 13 回	執筆②	同上
第 14 回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】
各教員が指示する。

【参考書】
各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】
①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
③ A タイプ研究会受講者は登録できない。

【関連の深いコース】
すべてのコース

OTR200HA

人間環境セミナー「持続可能な開発目標（SDGs）と私たち」

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**土 3**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2030 年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下 SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。

【到達目標】
グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO ／ NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ当学部の学生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本セミナーの目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本セミナーでは、SDGs に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。
受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。
また、同時に可能な範囲でアクティブラーニングの要素を取り入れた回を設け、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。
担当：渡邊誠、小島聡、武貞稔彦

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第 2 回	セミナー	外部講師による講義
第 3 回	セミナー	外部講師による講義
第 4 回	セミナー	外部講師による講義
第 5 回	セミナー	外部講師による講義
第 6 回	セミナー	外部講師による講義
第 7 回	セミナー	外部講師による講義
第 8 回	セミナー	外部講師による講義
第 9 回	セミナー	外部講師による講義
第 10 回	セミナー	外部講師による講義
第 11 回	セミナー	外部講師による講義
第 12 回	セミナー	外部講師による講義
第 13 回	セミナー	外部講師による講義
第 14 回	試験	これまでのセミナー内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく。
復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】
外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）： 40 %
テスト・レポート： 60 %
なお、原則として、4 回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。
講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

【その他の重要事項】
講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。
本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。
なお、来年度以降のセミナー開催予定については「履修の手引き」に掲載している。

OTR200HA

人間環境セミナー「グローバル人材の就職」

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**土 3**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材の育成と採用および活用について、その実際を知る。

【到達目標】
いま政府はグローバル人材の育成や採用について、積極的に発言し、政策化している。そうした動きが出てきたのは 2010 年前後のことである。もちろんそれ以前にもあったが、具体的な政府の行動として現れたのはそのころのことであった。その後、日本人留学生や外国人留学生の採用や活用が活発化し、多かれ少なかれ、いま学生はそのことを意識せざるを得ない状況に置かれている。そうしたなかで、グローバル人材の採用や活用の実態を知ること、それがいかに学生たちのキャリア形成につながるのかを考えること、それが本セミナーの目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本セミナーでは、企業の採用人事に関係する部署、人材サービス会社で活躍しておられる方々、およびグローバル人材として活躍しておられる方々を講師にお招きし、グローバル人材の採用や活用の実際について、経験に基づいてグローバル人材活用の実際だけでなく、それにかかわる考え方、見方等についてもお話しいただく。学生の積極的な参加による質疑応答を通して、グローバル人材の育成や採用、活用について何を学べるのか、それを学生が今後のキャリア形成にどうつなげられるのかについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方、各回の講師と講義タイトルの紹介（担当：長峰・長谷川）
第 2 回	グローバル人材入門	グローバル人材の採用や活用にかかわる歴史的な流れや、過去 10 数年の政府や企業の動きについて学ぶ。（担当：長峰・長谷川）
第 3 回	金融１	金融業界における実情について：外部講師による講義
第 4 回	金融２	前週の続き：外部講師による講義
第 5 回	商社１	商社における実情について：外部講師による講義
第 6 回	商社２	前週の続き：外部講師による講義
第 7 回	電機メーカー１	電機メーカーにおける実情について：外部講師による講義
第 8 回	電機メーカー２	前週の続き：外部講師による講義
第 9 回	電機メーカー３	前週の続き：外部講師による講義
第 10 回	百貨店	百貨店における実情について：外部講師による講義
第 11 回	スーパー	スーパーにおける実情について：外部講師による講義
第 12 回	人材サービス業１	人材サービス業における実情について：外部講師による講義
第 13 回	人材サービス業２	前週の続き：外部講師による講義
第 14 回	グローバル人材の採用と活用を総合的にみる	これまでの講義を通して学んだことを振り返り、将来のキャリア形成にどうつながるのか考える。（担当：長峰・長谷川）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示された参考資料を事前に学習し、各回の授業で講師から配布された資料を復習して理解し、次週の授業での質問等に応じられるよう準備すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じて講師の方々が提供する資料を配布し、使用する。

【参考書】
上記に同じ。

【成績評価の方法と基準】
受講生には毎週短いコメントペーパーを書いてもらう。また、最後にはレポートも書いてもらう（レポートのテーマは授業で指示する）。評価は毎時間のコメントペーパー（40%）とレポートの内容（40%)、および平常点 (20%) でおこなう。なお、4 回以上無断で欠席した者、レポート未提出の者は、成績評価の対象にならない。

【学生の意見等からの気づき】
初めてのテーマであるため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学生のみなさんには十分に関心が持てる内容になると考えます。講師の話をよく聞き、積極的に質問するようにしてください。
ただし、企画後、お願いしている講師の方々が配置転換や遠隔地への転勤などで予定していた講義ができなくなり、企画変更が余儀なくされることも予想されます。それは避けがたいことでもあり、その結果、企画に変更が生じることもあることには留意してください。
なお、セミナーの詳しいテーマ及び外部講師、あるいは変更等については、掲示板及び学部ウェブサイトで発表します。とくにウエブサイトは適宜チェックするようにしてください。

OTR200HA

人間環境セミナー「野鳥を通して考える人と社会の未来」

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水 6**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域の自然環境を最も実感しやすい物差し生物である“野鳥”をテーマとし、野鳥と人間活動や地域社会との共生と軋轢に関わる様々な様相を学ぶことを通して、自然と人・社会の望ましい関係について学ぶことを目的とします。

【到達目標】
以下の 3 点を目標とします。
①野鳥を取り巻く様々な問題や取り組みに関して知識を得、その要点を理解すること。
②事例等を通して多角的な視点から自然と人・社会の関係を捉えること。
③自然と人・社会との持続的な共生に向けて、今後の望ましい在り方について考えを深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、公益財団法人日本野鳥の会等の専門家をお招きして、具体的なトピックスについての講演を聴講します。各講師の豊かな経験と知見に触れることで、受講者の視野が広まることを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方、各テーマの説明、日本野鳥の会や日本の野鳥の概要など本セミナー受講に当たっての基本的なこと
第 2 回	野鳥観察から始まる環境保護	日本野鳥の会の歴史、野鳥観察の楽しみ、野鳥の視点から地域の環境について考える
第 3 回	なぜ野鳥が密猟されるのか	密猟の背景、密猟との闘いの歴史、密猟撲滅の取り組み、日本以外の実態など
第 4 回	地域に根差したバードサンクチュアリ（野鳥の聖域）作り	日本野鳥の会による日本初のサンクチュアリづくりから今日まで、環境学習の取り組み、地域の文化・社会との関わりなど
第 5 回	ツルと人間との共生	北海道でのタンチョウ保護活動、九州・四国に飛来するマナヅル、ナベヅルの生態とその保全など
第 6 回	コウノトリを育む地域社会	兵庫県豊岡市におけるコウノトリを核とした地域づくりの取り組みとその課題など
第 7 回	人の英知で希少種の絶滅回避に挑む	北海道のシマフクロウ、伊豆諸島のカンムリウミスズメとアカコッコなど、なぜ絶滅に瀕しどう保全するのか
第 8 回	渡り鳥を守る国際的な取り組み	水鳥と草原性の鳥をめぐる課題と取り組み、ラムサール条約・渡り鳥条約・フライウェイ等の国際的な取り組みなど
第 9 回	里山とオオタカ・サシバ	里山の自然、オオタカの減少と回復、地域とオオタカとの共生など
第 10 回	放射線による野鳥への影響	原子力発電所の事故と鳥類・自然環境・地域社会への影響について
第 11 回	野鳥から見た自然再生エネルギー	風力発電による野鳥への影響と取り組み、メガソーラー事業と野鳥、自然再生エネルギーの今後など
第 12 回	鳥インフルエンザと野鳥保護	鳥インフルエンザとは何か、野鳥との関わり、私たちはどう対処すべきかなど
第 13 回	野鳥を守る仕組み	鳥獣保護管理法・種の保存法・生物多様性基本法・環境アセスメントなどの日本における野鳥と関わる法制度の仕組みなど
第 14 回	試験	各回の講師が示したポイントや問題となっている要点等について筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で配布されたプリント、講義の内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、平常点 50 %、期末試験 50 %です。
出席は毎回とります。10 分以上の遅刻・早退・途中退室は欠席扱いとします。4 回以上の欠席は成績評価の対象外となりますので注意してください。
また講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止です。注意に従わない場合は減点または欠席扱いとなることがあるので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださりますので、理解を深められるはずです。なお、外部講師の都合で講師やテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。

OTR200HA

フィールドスタディ

人間環境学部教員

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】
教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第 2 回〜第 4 回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第 5 回〜第 10 回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計４日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には１週間から１０日前後に及ぶこともある。
第 11 回〜第 13 回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第 14 回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】
コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】
非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】
参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

SES300HA

Japanese Environmental Policy 1

藤倉　良

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To learn basic environmental science and effectiveness of environmental policy by reviewing Japanese policy making and implementation.

【到達目標】
Students will learn basic science of climate change and air pollution control technologies. They also learn why Japan faced serious industrial pollution during the 1960s and how it was able to overcome the problems during the 1970s; how Japanese pollution control policy was established; who enforced it; and how it became effective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
Lecture using PPT and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction.	Contents of the course.
Week 2	Evidence for Human-Caused Climate Change (1).	How do we know that the Earth has warmed? How do we know that greenhouse gases lead to warming? How do we know that humans are causing greenhouse gases to increase? How much are human activities heating the Earth?
Week 3	Evidence for Human-Caused Climate Change (2).	How do we know the current warming trend isn't caused by the Sun? How do we know the current warming trend isn't caused by natural cycles? What other climate changes and impacts have been observed?
Week 4	Warming, Climate Changes, and Impacts (1).	How do scientists project future climate change? How will temperatures be affected? How is precipitation expected to change?
Week 5	Warming, Climate Changes, and Impacts (2)	How will sea ice, snow, coastlines, ecosystems and agriculture be affected?
Week 6	Making Climate Choices (1).	How does science inform emission choices? What are the choices for reducing greenhouse gas emissions?
Week 7	Making Climate Choices (2).	What are the choices for preparing for the impacts of climate change? Why take action if there are still uncertainties about the risks of climate change?
Week 8	International Agreements.	UNFCCC and Paris Agreement.
Week 9	Industrial Pollution in Japan during the 1960s (1).	Why did Japan face pollution problems? How did the national government react?
Week 10	Industrial Pollution in Japan during the 1960s (2).	How and why did local governments react?
Week 11	Industrial Pollution in Japan during the 1960s (3).	Why did Japanese industries spend huge amount of money for pollution control?
Week 12	Basic science of air pollution.	How are air pollutants produced?
Week 13	Basic science of air pollution control.	How can air pollutions be avoided?
Week 14	Basic science of water supply and waste water treatment.	How is tap water produced? How is waste water treated?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students must read assigned papers before classes.

【テキスト（教科書）】
Climate Change: Evidence Impacts, and Choices
Download free PDF from
https://www.nap.edu/catalog/14673/climate-change-evidence-impacts-and-choices-pdf-booklet

【参考書】
A copy of assigned paper will be distributed in class.

【成績評価の方法と基準】
Performance will be evaluated by a written examination (50%) and participation in discussion (50%).

【学生の意見等からの気づき】
Please be aware that the lecturer is not a native English speaker. Thus, students are encouraged to ask for clarification if they have any questions.

【学生が準備すべき機器他】
None

【Prerequisite】
None

【Lecturer's recent publications (articles)】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (2017) Beyond Land-for-Land: Toward a New Paradigm of Resettlement Policy, Asian Journal of Environment and Disaster Management, Vol. 9, No. 1, pp.1 – 10, doi: 10.3850/S179392402016000016
2. Erhan Akça, Daisuke Sasaki, and Ryo Fujikura (2017) An Unexpectedly Successful Resettlement: The Atatürk Dam Resettlers to Western Turkey, Asian Journal of Environment and Disaster Management, Vol. 9, No. 1, pp. 39 – 48, doi: 10.3850/S179392402016000041
3. Kawanishi, M. and Fujikura, R. (2017) Incentives for Sustainable National Greenhouse Gas Inventory in Developing Countries, International Journal of Environmental Science and Development, Vol. 8, No. 10, page 748-752, doi: 10.18178/ijesd.2017.8.10.1050
4. Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Manami Fujikura (2016) Formulation Process of Diet Law and Cabinet Law in Japan – A Comparative Study of Basic Environmental Law and Basic Law on Biodiversity – , International Journal of Social Science Research, Vol. 4, No. 2, DOI: http://dx.doi.org/10.5296/ijssr.v4i2.9703
5. Michael Lerner, Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama & Manami Fujikura (2016) The Influence of Limits to Growth and Global 2000 on U.S. Environmental Governance, International Journal of Social Science Studies, Vol. 4, No. 8, 52-63, doi:10.11114/ijsss.v4i8.

【Selected lecturer's publications (books and special issues)】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

SOC300HA

Japanese Society and Sustainability 1

佐伯　英子

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 1**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Introduction to Contemporary Japanese Society
This course is designed to be an overview of contemporary Japanese society. Throughout the term, we explore how we can understand Japanese society, by using various sociological concepts and making international comparisons. By engaging with critical issues in contemporary Japan, we will explore the ways in which the society can achieve sustainable system and culture both within the country as well as a member of international community.

【到達目標】
Through this class, you will be expected to critically engage with both scholarly discussions as well as media portraits on Japanese culture and society, and demonstrate your understanding through your assignments, an individual research paper, and participation in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
This course is divided into four sections: 1. Work, inequality, and poverty; 2. Gender and sexuality; 3. Diversity, marginality, and social coherence; and 4. Contentious issues in contemporary Japan. Each class consists of lecture, discussions, and other learning activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	What does it mean to study Japan from sociological perspectives?
Week 2	Sustainability and contemporary Japanese society	What does it mean to make Japanese society more sustainable?
Week 3	Inequality and poverty	How to measure inequality, historical changes, homelessness
Week 4	Employment	Different types of employment and their impacts on people's life course
Week 5	Gender and work	Paid and unpaid work; Child poverty and unequal opportunities
Week 6	Gender and socialization	How we learn the norms of gender and sexuality
Week 7	Gender and sexuality	LGBTQ experiences
Week 8	Mid-term examination	Assessing students' understanding of the course materials
Week 9	Diversity, marginality, and social coherence 1	Myth of homogeneity
Week 10	Diversity, marginality, and social coherence 2	Okinawans, Ainu, and burakumin
Week 11	Diversity, marginality, and social coherence 3	Resident Koreans and Brazilians
Week 12	Contentious Issues in Contemporary Japan 1	Debates over constitutional revision
Week 13	Contentious Issues in Contemporary Japan 2	To be determined based on the class discussions
Week 14	Final examination	Assessing students' understanding of the course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read assigned texts and to come to class fully prepared.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in class.

【参考書】
Sugimoto, Yoshio. 2014. An Introduction To Japanese Society. Fourth Edition. Cambridge University Press.
Other materials will be distributed in class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 30%; Writing assignments 40%; Examinations 30%

【学生の意見等からの気づき】
In addition to covering the materials for this course, I will continue to provide instructions for basic academic skills in English (e.g., research and writing).

SOC300HA

Japanese Society and Sustainability 2

佐伯　英子

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**水 1**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Sociology of the Family
The family is one of the most important social institutions that everyone in society is familiar with. Because of the familiarity, however, we often lack critical perspectives on the issues pertaining to the family. We will challenge typically taken-for-granted notions of the family by considering it from a sociological point of view.

【到達目標】
While focusing on families in contemporary Japan, this course will take a historical and comparative perspective to highlight diversity and transformation of families, both within and outside Japan. By investigating both public policies and private dynamics, we aim to deepen our understanding of, and gain critical perspectives on the family.
By taking this course, students will be able to:
1. Identify and critically engage with social issues pertaining to the family;
2. understand the connection between individual experiences in family and broader socio-historical contexts; and
3. discuss issues surrounding the family with a comparative perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
The course consists of lectures, discussions, and various activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course	Introduction and overview of the course
Week 2	What is the family?	Systems of kinship and diversity in the world
Week 3	Studying families sociologically	Methods and approaches
Week 4	History of the family in Japan	Patriarchy, "ie" system, and "koseki"
Week 5	Love, sexuality, and relationship formation	Heterosexual norm and feminization of love
Week 6	Parenthood	Social and cultural meanings attached to parenthood
Week 7	Gender and the family	Socialization and reproduction of gender norms
Week 8	Work and the family	Work, parenting, and gender norms
Week 9	Inequality and the family	Single-parenthood and how structural inequality affects families
Week 10	Intimate violence	Violence within family and close relationship
Week 11	Contemporary debates on the family 1	Marital name change
Week 12	Contemporary debates on the family 2	Same-sex marriage
Week 13	Contemporary debates on the family 3	Family and reproductive technologies
Week 14	Conclusion	Reflections and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read assigned texts and come to class fully prepared.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in class.

【参考書】
Texts will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 30%; Tests 40%; Assignments 30%

【学生の意見等からの気づき】
I will encourage students' active participation by incorporating more activities and discussions.

SOC300HA

Japanese Society and Sustainability 3

佐伯　英子

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Marginality and Social and Cultural Diversity in Japan
There long has been a discourse of Japan being a homogeneous country with lack of diversity. This course challenges such a notion, focusing on the diversity and marginalization within Japan, and explores the future of this multicultural society.

【到達目標】
Upon completion of the course, students are expected to have a richer understanding of the diversity and complexity of Japanese society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
In the beginning of the course, we will discuss the definitions and meanings of majority and minority. In particular, we will focus on the ways in which social foundations act to privilege some while marginalizing others. Further, we will discuss social functions served by the discourse of homogeneity of Japan. From the third week, we will learn the history and current situations of various marginalized populations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and overview of the course	What is a minority? What is a majority?
Week 2	Why study diversity?	The myth of homogeneity in Japan
Week 3	Ainu	The Ainu as an indigenous group, its culture and history
Week 4	Okinawa	From Ryukyu to Okinawa, the issues of the US military bases
Week 5	Resident Koreans	Korea-Japan relations, colonial legacies and continued presence
Week 6	Nikkei Brazilians	History of e/immigration and what it means to be “Japanese”
Week 7	Burakumin	History of status hierarchy and discrimination. Who are the burakumin?
Week 8	LGBT	Gender identity, sexuality and their diversity. Changes in the society
Week 9	Disability	Meaning of “able-bodied person.” What it means to live with disability in Japan
Week 10	Hansen’s Disease	Social and legal marginalization and the lives of survivors today
Week 11	Hibakusha	Social and legal marginalization and the lives of survivors today
Week 12	Newcomer immigrants	Immigration policies in Japan and social acceptance
Week 13	Multi-raciality	Race and what it means to be Japanese
Week 14	Conclusion	Reflection and wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read assigned articles and be prepared for discussions in class.

【テキスト（教科書）】
Texts will be distributed in class.

【参考書】
Michael Weiner. 2008. Japan’s Minorities: The Illusion of Homogeneity. Routledge.
Other texts will be distributed in class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 30%; Tests 50%; Writing assignment: 20%

【学生の意見等からの気づき】
I will encourage students’ active participation by incorporating more activities and discussions.

MAN300HA

Business and Sustainability in Japan 1

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 1**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We human being are facing serious problems on earth such as environmental degradation, poverty and many forms of inequalities. Many of those problems are inter-related and caused by unsustainable economic activities. Governments alone cannot solve those problems anymore, therefore there is growing expectation for businesses to play more important roles to solve those problems, that is, reducing their negative impacts and increasing social and environmental value.
The SDGs, the latest world development goals announced by the United Nations in 2015, clearly emphasizes the role of business. It is increasingly important for us to be able to critically review how companies should address global issues through their efforts of corporate sustainability.

【到達目標】
In this course, we aim at (1) understanding the basic theory and global trend of corporate sustainability, and (2) mastering analytical methodologies to critically review companies’ efforts on sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of short lectures, group discussions, and presentations by students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview of the course, introductory discussion on "what is a good company?"
2	What is corporate sustainability and CSR?	Overall concept of sustainability and its relation to corporate sustainability. Also learn the overview of ISO26000, components of SR(Social Responsibility), and relation between corporate sustainability and CSR.
3	Main theme of corporate sustainability/CSR 1 Human rights and working conditions(1)	Understand the human rights issues in business. Human rights are one of seven core subjects of ISO26000 as well as important subject in SDGs.
4	Main theme of corporate sustainability/CSR 1 Human rights and working conditions(2)	Human rights/labor issues especially in companies’ global supply chain.
5	Main theme of corporate sustainability/CSR 2 Climate change and Business (1)	Understand overall climate change issue through watching IPCC videos and group discussion.
6	Main theme of corporate sustainability/CSR 2 Climate change and Business (2)	Understand the details of Paris agreement and its impact on business
7	Main theme of corporate sustainability/CSR 2 Climate change and Business (3)	Learn how to evaluate corporate efforts to reduce CO2 emissions(absolute amount and intensity) through various case studies.
8	Guest speaker session 1	External expert will come to the class to talk about business and sustainability.

9	Philanthropy, CSR and Business 1	Discuss a case study about which option a company should choose for effective corporate activities to contribute to the society. Learn business should find areas they can create social and economic benefits simultaneously.
10	Philanthropy, CSR and Business 2	More in-depth analysis on strategic philanthropy/CSR through value chain and improving external competitive situation(using the Diamond model).
11	Creating Shared Value(CSV) 1	Understand CSV as evolution of strategic philanthropy/CSR.
12	Creating Shared Value(CSV) 2	Understand the concept of CSV and its realization at three different levels: (1)meeting societal needs through products and service (2) utilizing resources, suppliers, logistics and employees more productively(=Value chain) (3) improving the local business environment(=cluster)
13	Guest speaker session 2	External expert will come to the class to talk about business and sustainability.
14	The role of investors to promote corporate sustainability/CSR	Understand the role of investors to promote corporate sustainability/CSR. Global expansion of ESG investment and changing way to evaluate corporate value.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Select a company you're interested in and research on how the company have developed its corporate sustainability strategy. CSR/Sustainability report is a good source of information.

【テキスト（教科書）】
Materials will be handed out in class

【参考書】
Additional resources will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Evaluation will consist of active class participation, students' presentation and final assignment with the following ratio.
Active class participation 35%
Student presentation 35%
Final Assignment 30%
Please note that students who miss 4 classes or more cannot receive the course credits.

【学生の意見等からの気づき】
Based on students' feedback, we will analyze more Japanese companies' efforts on corporate sustainability in 2018.

【学生が準備すべき機器他】
There is no special equipment student needs to prepare.

【その他の重要事項】
In this course, lectures and discussions will be conducted in English. So, students with lower English proficiency may find it difficult to keep up with class discussion.This will be discussed at the first class.

MAN300HA

Business and Sustainability in Japan 2

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水 1**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this lecture, we discuss the relationship between business and sustainability in Japan through various topics.
Sustainability in society will be realized through company's efforts to fulfill their corporate social responsibility (CSR) in wide areas of business. Therefore, the main constituent of CSR is companies and society. However, the interest of society and companies don't always fit; rather, they often cause conflict. That is why companies must work hard to accomplish their CSR to realize sustainable society. Society now expects business to pursue common, shared values for companies and society. Based on this setting, in this course, we discuss CSR from the viewpoint of companies and society.

【到達目標】
In this course, by discussing various topics, student will be able to understand the importance of integrating CSR into corporate management, and its actual methodology.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
Students will deepen their understanding about business and sustainability in Japan through lectures, group discussions, writing assignments. Class schedule may change as our discussions progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Part 1 1. CSR in corporate management	Overview of CSR in corporate management
Week 2	2.CSR and governance	Understand how CSR and governance are inter-related.
Week 3	3.CSR and corporate strategy	Understand how CSR needs to be integrated in corporate strategy.
Week 4	4.CSR and risk management	Understand CSR as risk management.
Week 5	5.CSR and marketing	Understand how marketing impacts CSR
Week 6	6.CSR and disclosure/reporting	Understand effective disclosure and reporting as part of CSR.
Week 7	7.CSR and supply chain	Understand global supply chain problems and how to ensure sustainability.
Week 8	8.CSR for financial industry	Understand unique opportunity for financial industry to contribute to sustainabe society.
Week 9	9.Stakeholders and CSR	Understand various stakeholders for companies and what needs to be done to satisfy them.
Week 10	10.Labor/human rights and CSR (1)	Understand labor and human rights related CSR issues to be addressed by companies.
Week 11	11.Labor/human rights and CSR (2)	Understand labor and human rights related CSR issues to be addressed by companies.
Week 12	12.Environment and CSR (1)	Understand how environmental problems impact corporate management, and learn basic analytical framework.
Week 13	13.Environment and CSR (2)	Understand how environmental problems impact corporate management, and learn basic analytical framework.
Week 14	14.Finance/investment and CSR	Understand Socially Responsible Investment(SRI) and recent development of ESG investment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Select a company you're interested in and research on how the company has developed its CSR strategy. CSR/Sustainability report is a good source of information. Also, students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for group discussion.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in class.

【参考書】
References will be introduced in class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (35%), performance in group activities (35%), presentations and writing assignments (30%).
Please note students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

【学生の意見等からの気づき】
Because this class is relatively new, class methodology might change based on students' feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Students are asked to bring a laptop computer when he/she gives a PowerPoint presentation. Students may use his.her own computer, or they may borrow on at the rental PC desk next to the Peer Learning Space (BT 3rd floor). Detailed instruction will be given in class.

【その他の重要事項】
As all the class discussion and group works will be conducted in English, students whose English proficiency is introductory level may have difficulties in keeping up with the class.

SES300HA

Bio-diversity and Nature Conservation in Japan

高田　雅之

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期　｜　曜日・時限：木 2
他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
How human activities can harmonize with wildlife and a natural environment on earth is an important issue towards making a society sustainable. In this course, students will learn the current environmental conditions and problems of biodiversity in Japan, and conservation measures including scientific approaches to tackle these issues.

【到達目標】
The purposes of this course are to acquire knowledge about ecosystems and biodiversity in Japan, and to understand efforts to solve the conflict between human beings and wildlife. Through these, students are expected to deepen their interest in biodiversity in their home countries, and to acquire the ability to explore a society in which people and nature live sustainably together.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
This course will be performed with lectures and discussions. At the end of the semester, students will give individual presentations on their home country's biodiversity.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of biodiversity in Japan
Week 2	Forest and mountain	Vegetation and wildlife in forest and mountain ecosystems
Week 3	Wetlands	Features and wildlife in wetland ecosystems
Week 4	Marine and coast	Marine wildlife, Ecosystem in tidal flats and coral reefs
Week 5	Islands	Ecosystem of continental islands and oceanic islands
Week 6	Urban and country (Satoyama)	Features and wildlife in urban and country ecosystems
Week 7	Conservation system	National Park, Wildlife Protection Area, World heritage sites, Ramsar sites
Week 8	Conservation Problem 1	Wildlife management (Cases of deer, wild boar, monkeys, etc.)
Week 9	Conservation Problem 2	Alien species issues
Week 10	Conservation Problem 3	Endangered species issues
Week 11	Extinction and reintroduction of species	Cases of Oriental Stork, Japanese Crested Ibis, Otter, etc.
Week 12	Conservation technology	Bio-logging, Biomimicry, Nature restoration
Week 13	Biodiversity	Biodiversity, Ecosystem service, Resilience, Offset mechanism
Week 14	Presentation	Individual presentation on home country biodiversity

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Pre-learning such as reading assignments and website research on the theme showed in the syllabus is expected.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in class or via the web support system.

【参考書】
References will be introduced in each lecture.

【成績評価の方法と基準】
Participation (30%), Class activity including reaction papers (20%), Final report and presentation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
None

SOC300HA

Social Development and Sustainability 1

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to study the concept of sustainability with examples from Southeast Asian region. Southeast Asia offers ample practices for social sustainability in order to co-exist in a sustainable way among astounding diversity in the scope of ethnicity, religion and language. Students will understand the concept of sustainability with broader scope, not only restricted in environmental problems but also relationship among ethnic groups for co-existence, state-region relation, and trans-national (trans-local) practice that people in southeast Asia experience daily.

【到達目標】
Students will be able to understand sustainability in a broader way with examples from Southeast Asia. Students will be able to enrich their perspectives of the concept of sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
This course places emphasis on interaction among the instructor and students in class. Students are expected to actively participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Sustainability in Southeast Asia	Introducing Southeast Asian region and problems related to sustainability. For example, ethnic relations, conflict, peace building and environmental problems
No.2	The commons	Studying the concept of the commons with examples from southeast Asia
No.3	Environmental problems in Southeast Asia and several approaches to problems	Studying environmental problems in Southeast Asia and introducing several approaches such as research conducted by Kyoto University
No.4	Ethnic relations and co-existence	Sustainability among various ethnicities in Southeast Asia and local practices for maintaining good relationships
No.5	Religious perspective and sustainability	Variety of religious practices in Southeast Asia and interaction across religions
No.6	Aceh Tsunami, Disaster, Disaster Prevention and resilience of society	Introducing the outcome of research conducted by a team from Kyoto University on disaster and resilience studies in Southeast Asia
No.7	Conflicts and peace building process	Analyzing various cases of conflicts in Southeast Asia and the process of peace building
No.8	Conflicts between regions and the state	Case study of independent oriented movements in Southeast Asia, such as Aceh
No.9	Majority and minority, Chinese overseas in Southeast Asia, nation building	Discussing majority and minority problems with example of ethnic Chinese in Southeast Asia in the context of nation building
No.10	Nationalism	History of the formation of nation-state in Southeast Asia
No.11	Industrialization and globalization	Understanding the process of industrialization in Southeast Asia from the 1960s up to the present and influence of globalization
No.12	Trans-nationalism, local-local connection	Introducing practice of trans-nationalism in Southeast Asia, and local-local connection (trans-local)
No.13	Border studies	Introduction of "border studies"
No.14	Consumerism in Asia	Considering relationships between Sustainability and Consumerism (Capitalism)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read and study designated reference materials in class.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be distributed in class.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
In-class participation 25%
Final paper (1500 words in English) 75%

【学生の意見等からの気づき】
More discussion time in class.

SOC300HA

Social Development and Sustainability 2

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期　｜　曜日・時限：火 3

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is an introductory course of area studies in order to learn basic research methods and fieldwork techniques. Students will understand approaches of area studies (fieldwork is an essential part of research activities besides library research in area studies). This course will focus on the theory and practice of fieldwork, and examine different approaches toward fieldwork through various case studies. Fieldwork methods of area studies are useful beyond the academic discipline. For example, in the business world, marketing researchers increasingly use a technique called ethnography, which was originally carried out in cultural anthropology and has been used widely among area studies experts. In addition, in the field of development studies, many scholars have emphasized that it is important for aid donors to understand the uniqueness of each region in order to carry out effective aid projects. Thus, area studies and its fieldwork methods can also provide useful insights for those who are interested in development programs and international cooperation.

【到達目標】
Through this course, students will be able to;
- understand the basic theories of area studies and its fieldwork methods
- enhance their academic writing skills
- enhance their research planning skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
Lectures using PPT, presentations by students on course readings as well as on their own research plans, and also discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	area studies 1	basic knowledge of area studies, its origin and development
No.2	area studies 2	area studies on Southeast Asia in the present days
No.3	fieldwork 1	What is fieldwork? various forms of fieldwork and ethnography
No.4	fieldwork 2	qualitative/quantitative survey, method of interviews, participant observation
No.5	fieldwork 3	oral history, methodological problems related to fieldwork
No.6	introduction for academic research 1	how to start academic research?
No.7	introduction for academic research 2	how to find research themes?
No.8	introduction for academic writing (with exercise)	how to develop ideas in order to write academic papers?
No.9	example 1: Kyoto Univesity's oil palm project in Southeast Asia	understanding the interdisciplinary research of oil palm plantation in Southeast Asia
No.10	example 2: Aceh Tsunami, Disaster studies	disaster prevention and resilience of society and area studies
No.11	workshop 1: organizing research plan	Students develops their own research plans with the guidance of the instructor.
No.12	workshop 2: organizing research plan	Students develops their own research plans with the guidance of the instructor.
No.13	presentation 1	presentation by students and discussion
No.14	presentation 2 and concluding remarks	presentation by students, discussion and summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to make necessary preparations for their presentations, to conduct a brief research for in-class assignments and to read course materials for participation in class discussions.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in class.

【参考書】
Additional resources will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Course evaluation will be based on in-class participation (30%), performance in the group activities (20%), and presentations (50%).

【学生の意見等からの気づき】
new class in 2017

ECN300HA

Practice of Environmental Economics and Japan

國則　守生

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 2**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to understand how environmental economics has been and will be applied to the real situations with particular emphasis on Japan's environmental policies.

【到達目標】
The purpose of this class is to provide students with a basic and systematic understanding of how the environment is intertwined with the economy and how the environmental problems could be tackled. Students will learn the advantages and limitations of the regulatory measures which have been widely put in operation in Japan. Students will also learn various forms of "economic instruments" such as environmental taxes and emissions trading to solve the global environmental problems in the decades to come.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
Teaching is done mainly in a lecture style. The course introduces numerous kinds of environmental problems in Japan. Environmental economics is explained to understand why some forms of market-based interventions are called for in solving various environmental problems including the transboundary and global ones such as global warming.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Environmental problems in Japan: I	Local issues before the mid-1970s
Week 2	Environmental problems in Japan: II	Local issues after the mid-1970s
Week 3	Measures taken for local environmental problems in Japan: I	Command and control; safety standard
Week 4	Measures taken for local environmental problems in Japan: II	Roles of local government
Week 5	Introduction to environmental economics	Inefficiency of price mechanism; market failures
Week 6	Negative externality and public "bads"	Definition of technological externality
Week 7	Environmental taxes and subsidies	Correction of market mechanism
Week 8	Emissions trading	Allowances and emissions reduction credits
Week 9	Transboundary environmental problems	Acid rain
Week 10	International environmental agreements	Japan's involvement
Week 11	Japan's energy policy	Multiple policy goals
Week 12	Global Warming: global perspective	Paris Agreement
Week 13	Japan's policy on global warming: I	Quantity targets
Week 14	Japan's policy on global warming: II	Individual measures

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
A review of each class is strongly recommended. Do not leave the questions unanswered. Assignments are sometimes given to check each student's understanding.

【テキスト（教科書）】
No textbooks are assigned. Handouts are distributed in class.

【参考書】
Following books may be helpful in understanding environmental economics:

Turner, R.K. et. al. (1993) Environmental Economics: An Elementary Introduction, The Johns Hopkins University Press.
Field, B. and Filed, M.K. (2017) Environmental Economics: An Introduction, 7th Ed. McGraw-Hill Education.

【成績評価の方法と基準】
Evaluation will be based on assignments (20%) and a submitted report (80%). The title and the number of words for the report will be announced at the end of the final class.

【学生の意見等からの気づき】
Asking questions in class is welcome and highly recommended. The SCOPE students are encouraged to take this course.

【学生が準備すべき機器他】
Nothing in particular.

【その他の重要事項】
Taking Microeconomics courses is recommended, but not a prerequisite. Important notions and ideas will be explained in class.

ARS200HA

Asian Societies and Japan

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期　｜　曜日・時限：木 1

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed for undergraduate students interested in Japan and its relationship with Asian countries, international politics, national security, and comparative political economy in these areas. It examines the political, military, and economic challenges facing Japan and its neighbors, and the international system under conditions of great uncertainty. This course will discuss the history of Japan and neighboring countries (mainly modern history, which presents one of the most striking transformations in the interconnected history of the world), as well as regional problems such as territorial issues. We examine the invention of new traditions of the Japanese nation and of Japanese identity as crucial aspects of the tumultuous changes from the mid-1800s through the present. Looking at the rise and fall of the empire, the devastation of World War II and more recent eras of astonishing growth and puzzling stagnation, we explore how people in Japan have dealt with the dilemmas of modernity that challenge us all.

【到達目標】
Through this course, students will be able to;
- understand Japan's history and its relationship with Asian countries
- understand the history of conflicts between Japan and other Asian countries
- understand the Japanese history from broader, international, and relational perspectives
- use these understandings above and discuss trans-regional issues in more thoughtful and critical manners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
This course uses various interactive learning approaches. Thus, students are expected actively participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	overview of Japanese history	understanding the basic history of Japan
2	before the Tokugawa era	Japanese history before 1600
3	the Tokugawa era and the restoration	concerning the Edo period and Meiji restoration
4	industrialization and modernization	concerning development in the Meiji era
5	Japan's wars and colonization	Japanese history from the end of 19th century to the end of World War II within Asian history
6	Japan in the world system	position of Japan in traditional Chinese world system and international orders led by European countries
7	After World War II, alliance with the US, Japan's miracle economy	how Japan built the relationships with the US, War compensation, economic development
8	Japan and China, Korea and Taiwan	understanding the relationship between Japan and neighboring countries
9	Japan and Southeast Asia	understanding the relationship between Japan and Southeast Asian countries, such as Japanese businessmen in the pre-war period, Japanese occupation, Japanese enterprises in Southeast Asia after World War II
10	Okinawa and Japan	relationship between Japan and Okinawa, brief history of the Ryukyu kingdom and its autonomous relationship with Asian countries
11	Okinawa and Asia	Understanding Asia through lens different from the nation-state framework. Relationship between Okinawa and neighboring areas.
12	Japan and southern islands	Japanese history including the South Pacific islands, Japanese occupation of Southern islands
13	Asian regionalism and Japan	how Japan copes with Asian regionalism
14	concluding remarks	conclusion and discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to make brief research about assignment in class and to read materials for participation in class discussions.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in class.

【参考書】
Additional resources will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Course evaluation will be based on in-class participation (30%), performance in the brief presentation on assignment (50%), overall contribution to the class (20%)

【学生の意見等からの気づき】
new class in 2017

ARS300HA

Subsistence, Resource Use and Sustainability

傅　凱儀

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期　｜　曜日・時限：木 1

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Economic globalization and global warming are causing serious impacts on sustainable management of natural resources and human security. Behind these phenomena are the excessive exploitation of natural resources and commoditization of environment. In this course, rules and practices of local community to resist destruction caused by economic globalization and climate change, and their adaptation strategies will be reviewed. Case studies on natural resource use and management of local community will be analyzed. Community-based resource management provides insight into improvement of relationship between human and natural environment, and has received increased attention in recent years as an effective concept in solving environmental problems. In additional to theoretical concepts, we will review case studies from overseas countries and Japan. This course argues that community-based resource management is one of the potential practical solutions that resolve contemporary environmental challenges.

【到達目標】
In this course, students will acquire various concepts and knowledge on community-based natural resource management. They will develop a broad view on natural resources preservation and community development. By the end of the course, students should be able to develop their own thinking on sustainable community-based natural resource management and collective action. They should be able to elaborate their ideas using the theoretical concepts and case studies introduced to them throughout the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to be actively engaged in class activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	The outline of the course, learning method and evaluation criteria will be explained.
Week 2	Logic of the Commons (1)	The tragedy of the commons; The prisoner's dilemma game; The logic of collective action
Week 3	Logic of the Commons (2)	Current policy prescriptions; An alternative solution
Week 4	An institutional approach (1)	The commons situation, Interdependence, independent action and collective action
Week 5	An institutional approach (2)	The supply, commitment and monitoring puzzles
Week 6	Analyzing Commons (1)	Communal tenure in high mountain meadows and forests
Week 7	Analyzing Commons (2)	Huerta irrigation institutions
Week 8	Analyzing Commons (3)	Similarities among enduring, self-governing commons
Week 9	Institutional change (1)	The competitive pumping race; The litigation game
Week 10	Institutional change (2)	The entrepreneurship game; The analysis of institutional supply
Week 11	Institutional failures (1)	Case studies of commons in Turkey and California
Week 12	Institutional failures (2)	Case studies of commons Sri Lanka, Nova Scotian
Week 13	Institutional failures (3)	Timber forest management in Nepal and Japan
Week 14	Conclusion	Supplementary topics and conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

【テキスト（教科書）】
Ostrom, Elinor. 1990. Governing the commons: the evolution of institutions for collective action, Cambridge: Cambridge University Press.

【参考書】
1. Ostrom, Elinor. 1992. Crafting institutions for self-governing irrigation systems, San Francisco, California: Institute for Contemporary Studies.
2. Otsuka, Keijiro and Frank Place. 2001. Land Tenure and Natural Resouce Management: A Comparative Study of Agrarian Communities in Asia and Africa. The International Food Policy Research Institute.
3. Olson, Mancur. 1965. The Logic of Collective Action: Public Goods and the Theory of Groups. Harvard University Press.
4. Baden, John and Douglas Noonan (eds). 1998. Managing the Commons. Indiana University Press.
5. Hardin, Garrett. 1968. The Tragedy of Commons. Science, 162(3859): 1243-1248.

【成績評価の方法と基準】
Class participation and discussion (30%), presentation (40%) and a final paper (30%)

【学生の意見等からの気づき】
New course from autumn semester 2016.
We will increase the use of video teaching materials and allocate more time for student activities and discussion.
We will also adjust the pace of teaching according to the needs of students. Time will be allocated for questions and answers, so as to help improve students' understanding. Instructor may use Japanese in time of need to assist Japanese students.

SOC300HA

Civil Society and NGOs

小野　行雄

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in civil society.

【到達目標】
Through the course, students will be able to;
1 understand the issues the world is facing as well as the interconnection among issues.
2 understand the history and present situation of NGOs.
3 understand the linkage of people all over the world from a global citizens' point of view.
4 acquire positive attitudes to tackle the world issues as a global citizen.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】
You will study and learn by way of discussions and workshops. Your positive attitude is necessary.
You will be asked to write a short report in every class. We will discuss over the reports.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction World issues	Exchange experiences and group formation Discussion over SDGs
2	NGO case study - India	Basic knowledge of India Workshop "People of Donguria Kondoh"
3	Develpoment and modernization	Discussions over development and modernizaiton with the Donguria Kondoh case
4	NGO case study - emergency aid	Workshop "Emergency support for hurricane victims"
5	NGO case study - regional development	Workshop "Interview with 24 people"
6	World Issues - poverty and child labor	Lecture on poverty and child labor
7	NGO simulation	Imaginary simulation of an NGO organizing
8	Research and presentation - Japanese NGOs 1	Research and presentation of Japanese development NGOs
9	Research and presentation - Japanese NGOs 2	Research and presentation of other Japanese NGOs
10	Researh and presentation - NGOs of other countries	Research and presentation of development NGOs in GB, the Philippines and other countries
11	Researh and presentation - International NGOs	Research and presentation of large-scale International NGOs
12	World Issues - War and Peace	Lecture on peace issues and research and presentation on NGOs
13	NGO case study - NGO networks	Lecture on NGO networks
14	Review	Review over NGOs and civil society

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework - either paper reading or NGO research - will be assigned in every class.

【テキスト（教科書）】
No textbooks needed

【参考書】
To be given during the classes

【成績評価の方法と基準】
Worksheets and participation 40%
Homework 30%
Term-end report 30%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
A laptop computer, a tablet or a smartphone is necessary. You will be asked to research through the Internet in class.

SOC200HA

Global Human Resources Management

長峰　登記夫

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Studying Global Human Resources (GHR) and thinking about career making in the global stage.

【到達目標】
This class aims to learn why GHR has been actively discussed in Japan in the past several years, and help students understand GHR as part of their career plan and make their own job careers in the global business area.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
This class will take up various topics concerning GHR, including topics such as education at schools and universities, mobility of people between countries and employment of people with different cultural backgrounds. The class will be run in the form of lecture with active participation of students in the discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	What is GHR?	What GHR is will be broadly discussed in the first session.
Week 2	The economy moving towards globalization	As a basis of GHR, students will look at the globalization of economy and people's move across the border of a country.
Week 3	Japanese employment practices (1)	Before getting into the discussion about GHR, it will be briefly reviewed what characterises the Japanese employment practices.
Week 4	Japanese employment practices (2)	The way of job seeking by university students in Japan will be looked at.
Week 5	Quick move to GHR in Japan	The Japanese Government has been pushing educational institutions and companies towards globalization in the past years. Why and how?
Week 6	Policies of employer organizations and companies, Japanese case	The policies of employer organizations and companies on GHR in Japan will be discussed.
Week 7	Education towards globalization (1)	The lecture will look at the development of GHR at schools.
Week 8	Education towards globalization (2)	What have Japanese universities been doing for the development of GHR?
Week 9	International students and their employment (1)	The employment of Japanese students who studied overseas including kikokusei will be examined.
Week 10	International students and their employment (2)	The employment of non-Japanese students who are studying in Japan will be examined.
Week 11	World race for talent and studying overseas	Universities all over the world are involved in the race for talent and young people are studying and finding a job across the border of a country. Such a trend will be broadly considered.
Week 12	Presentation by students	Students will present their future career plan.
Week 13	Presentation by students or talk by a guest speaker	Students will present their future career plan, or if available, a guest speaker may be invited. It depends on the number of students and availability of a guest speaker.
Week 14	Final examination and comment on it	The final examination will be conducted, followed by comments on it.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should read in advance handouts and other reading materials provided and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions or make comments about them.

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is used, but various handouts and other reading materials will be provided.

【参考書】
Some reference books will be introduced in the first session.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will be made based on the final examination. Consideration will also be taken into short exams and participation in the discussion in class. Short exmas may be conducted frequently in class.

【学生の意見等からの気づき】
Reading materials in advance is strongly recommended so that students can better understand the lecture.

【学生が準備すべき機器他】
Nothing.

【その他の重要事項】
Those students who may take this subject must attend the first session with their results in English language ability tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests.
In case of the number of applicants becoming more than 15, priority will be given to SCOPE students and some sort of selection will be made for the other students.

MAN200HA

Business Communication

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication is critical to our successful life and career. Being an effective communicator is no longer a 'nice to have" skill; it is a required skill for everyone to possess. So how can we become an effective communicator? When we want to be a good communicator, learning how to speak and write clearly is not enough; it is important for us to improve our ability to connect with others. The ability to truly connect with others is the key to building good relationships and improving our communication. So, in this course, we will learn how to communicate effectively by focusing, not on our own perspective, but on the perspective of others and their interests. If you can do that, you can aspire to lead and influence others. In this course, we also learn about unconscious bias. Unconscious bias refers to a bias that we are unaware of, and which happens outside of our control. Unconscious bias happens by our brains making quick judgments and assessments of people and situations without us realizing. Our biases are influenced by our background, cultural environment and personal experiences. We may not even be aware of these views and opinions or be aware of their full impact and implications (defined by Equality Challenge Unit: 2013 Unconscious bias in higher education, http://www.ecu.ac.uk/). Increasing numbers of global companies are introducing in-company education program on unconscious bias because it could be potential obstacle for their business unless they recognize this bias and effectively counter them. So, in this course, we will have a basic understanding about unconscious bias and how we can deal with them.

【到達目標】
We aim at achieving following goals:
(1) Learn background and basic methodologies for effective business communication
(2) Have basic understanding about unconscious bias and how to cope with them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
For the first half of the course, students will learn about the background and various methodologies for effective business communication using text book. For the second half of the course, we will learn about the unconscious bias. Each lecture begins with introduction of a new set of communication problem, followed by viewing of a related video materials. After watching a video, students will review and discuss the case.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	How to proceed the course Overview of the course
2	Effective communication 1	Shift our focus from ourselves to other people
3	Effective communication 2	Build a reputation as a good listener
4	Effective communication 3	Develop our written and oral communication skills for the greatest impact
5	Effective communication 4	Inspire and influence others
6	Effective communication 5	Communicate more effectively in any business or social situation
7	Effective communication in Japanese organization	Understand major characteristics of Japanese organization and learn effective communication.
8	How to ask effective question	Asking a right, effective question is important step for you to achieve our business goal. Reviewing multiple scenarios in the business, we discuss how to ask a right, effective question.
9	How to explain effectively in the meeting	Explaining our opinion or idea effectively in the meeting is critically important for you to contribute to our team. In this course we learn effective ways of communicating our thought to other members in the meeting.
10	Effective presentation 1	Effective presentation is important step for you to achieve your business goal. In this course we discuss the effective presentation that obtain supports from others
11	Decision making in Japanese organization	Many Japanese companies' typical decision-making process is bottom-up. In this course you can have basic understanding about decision making process in Japanese organization and how effectively you can be involved in these processes.
12	Understanding unconscious bias 1 Background	Explain overall story and background of the unconscious bias and what they are why we need to know them
13	Understanding unconscious bias 2 Case study 1	Discuss the case study 1. Understand the root-cause of the problem and learn effective solutions.
14	Understanding unconscious bias 3 Case study 2	Discuss the case study 2. Understand the root-cause of the problem and learn effective solutions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
As we use a textbook in this course, students are required to read the textbook before each class.

【テキスト（教科書）】
Jay Sullivan, 'Simply Said: Communicating Better at Work and Beyond' Wiley, 2016

【参考書】
To be shared at the begging of the course.

【成績評価の方法と基準】
Class participation 50%, Final report 50%
If you miss four or more class, you cannot receive credit.

【学生の意見等からの気づき】
This is a newly opened course in 2018.

【その他の重要事項】
This course will be conducted in English. Therefore, students with high English proficiency can only take this course.

CUA200HA

Human and Environment

高橋　五月

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期　｜　曜日・時限：火 3
他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“Human and Environment” is an introductory course to learn anthropological theories and discussions on the relationship between cultures and the environment.
Through reading theoretical and ethnographic works by scholars of anthropology — a discipline that has historically investigated questions about the environment — this course aims to explore the ways in which people’s lives are shaped by different cultural, political, and ecological contexts, and how anthropological theories provide tools for understanding complex human-environment relations. Through examining literatures in environmental anthropology, this course will also explore the ways in which human-environment relations have been interpreted by anthropologists and also how environmental anthropologists have contributed to broader debates about concepts like modernity, globalization, power, kinship, and science and technology.

【到達目標】
The goal of this course is not to teach solutions to environmental problems, but to provide tools to think critically about such issues. In order to accomplish this, it will be important for students to remain engaged not only toward reading materials but also other class participants. I expect students to read and work through the arguments, debates, themes, and perspectives of the class readings; the key point here is “critical engagement.” By critical engagement, I mean that students are to carefully read and consider the texts, and to understand and discuss the intentions of the author, whether or not they agree with his/her opinions or conclusions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
This is a lecture/seminar course, which expects students to actively participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course introduction
Week 2	Anthropologists and Environment	What is anthropology? What is environmental anthropology?
Week 3	Anthropological Fieldwork	Film, "Second Nature"
Week 4	Religion	Relationship between religion and environmental issues
Week 5	Is God Green?	Film, "Is God Green?"
Week 6	What is Natural?	Social construction of nature
Week 7	Mid-term Exam	In-class exam
Week 8	Sustainable Development	How can we accomplish sustainable development?
Week 9	Food	GMOs and related discourses
Week 10	Common Resources	The Commons and Anthropologists
Week 11	Biodiversity	Why do we care about biodiversity?
Week 12	Climate Change	Energy and Culture
Week 13	Anthropocene	What is anthropocene?
Week 14	Final Exam	In-class final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Class preparation: Please read the detailed course syllabus carefully, which will be provided in the first day of class. Students are expected to complete assigned readings before class.
Learning Instructions: Both midterm and final exams ask questions based on assigned readings, films, lectures, and class discussions. Taking notes during class will help deepening students’ understanding. Lecture notes will also help studying for exams.

【テキスト（教科書）】
No particular text book used for this course, but we will read selected pages from books and journal articles.

【参考書】
Reading examples:
Horace Miner (1956) Body Ritual among the Nacirema
Neil Thomson (1971) The Mysterious Fall of the Nacirema
Michael R. Dove (1993) A Revisionist View of Tropical Deforestation and Development
Hugh Gusterson (2005) Decoding the debate on "Frankenfood"
Hugh Raffles (2010) Insectopedia
David M. Hughes (2014) Energy
Satsuki Takahashi (2014) Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan

【成績評価の方法と基準】
2 Exams (50%), Reading Commentaries (12%), Class participation (12 %), Presentation (12%), Film essay (14%).

【学生の意見等からの気づき】
"[T]he content that she showed was really interesting and relevant to our current situati on in the world." – a comment by student

ARS200HA

Area Studies

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 1**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Introduction to Area Studies on Southeast Asia. This lecture is designated to study history, culture, politics and economy of Southeast Asian countries, namely Vietnam, Cambodia, Laos, Thailand, Myanmar, Malaysia, Brunei, Indonesia, Singapore, East Timor, and The Philippines. Southeast Asia which is now composed of independent nations was colonized by European countries 100 years ago. The present Southeast Asia has been shaped through not only European colonization but also layers of many other geographical and historical features such as local social orders, the Chinese civilization, the Indian civilization, the Islamic civilization, and the hybrid of them. Students will study not only contemporary issues of each country, but also transnational activities of people in Southeast Asia.

【到達目標】
Students will understand outlines of history and culture of Southeast Asian countries, how the current Southeast Asian countries have been established and changed, and what kinds of problems they are currently facing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Lecture using PPT and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Outline of Southeast Asian countries	Introducing Southeast Asia and outline of its history
No.2	Southeast Asia before colonization	Understanding political and economic systems in Southeast Asia before colonization
No.3	The process of colonization	Understanding process of colonization of Southeast Asia
No.4	the rise of nationalism	Understanding the process of the rise of nationalism in 20th century
No.5	Independence Movement and the Japanese occupation	Understanding the condition of Southeast Asia during the Japanese occupation and independence movement
No.6	Southeast Asia in post-independence period	Understanding domestic political process in the 1950s, unification of the Third World, Asia-Africa Conference
No.7	Southeast Asia in the context of the Cold War	Understanding political process in the 1950s, influence of the Cold War
No.8	Internationalism and Southeast Asia	Communist movements in Southeast Asia, especially in Indonesia, Malaysia, Singapore, and Thailand
No.9	The history of the Philippines, Vietnam War	Overview of history of the Philippines, understanding the process of the Vietnam War
No.10	Laos, Cambodia and Vietnam after the Vietnam War	Understanding the condition of Indochina region after the Vietnam War
No.11	The formation of ASEAN and its development	Understanding how ASEAN was formed in the 1960s, and its development. Southeast Asia in the post-Cold War era.
No.12	The influence of the end of the Cold War, Democratization in Southeast Asia	Understanding the process of democratization in Southeast Asia from the 1980s up to the present
No.13	Southeast Asia in the 2000s	Understanding current condition of Southeast Asia
No.14	Southeast Asia and Chinese overseas	History of Chinese overseas in Southeast Asia and their characteristics in each region

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read and study designated reference materials, and to make short presentations once or twice in the semester concerning topics in the course.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be distributed in class.

【参考書】
Mary Somers Heidhues, Southeast Asia: A Concise History, Thames & Hudson; Revised version, 2001.
Anthony Reid, A History of Southeast Asia: Critical Crossroads (Blackwell History of the World), Wiley-Blackwell, 2015.
Benedict Anderson, Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism, Revised Edition, London-New York: Verso, 1991.

【成績評価の方法と基準】
in-class participation 25%
final report 75%

【学生の意見等からの気づき】
More discussion time in class.
More visual materials.

MAN200HA

Business and Society

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 5**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We human being are facing serious problems such as environmental degradation, poverty and various forms of inequalities. To address those problems, we need more and more resources, and those resources are mainly created by business. Therefore, there is growing expectation for businesses to play more important roles to solve social problems.
Business can create resource when it is able to meet a need at profit, so it is very important for us to understand how business operates. In this course, we learn various topics related to corporate management so that we can better understand companies and their expected role in society.

【到達目標】
Students are aiming at understanding various topics and theories related to business and business management, and eventually able to analyze actual business cases with analytical frameworks students learn in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
We discuss theories and cases of basic functions of companies including corporate/business strategy, organization, marketing, finance, and generating innovation. Class will consist of short lectures, group discussions, and presentations by students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction 1 What is company?	(1) Role of company in society (2) Structures of “stock company”(joint stock corporation). (3) Company’s shareholders (4) Difference between shareholder and stakeholders
2	Introduction 2 How can we analyze company?	Understand the importance of theoretical framework to analyze company.
3	Strategy 1	(1)Overview of corporate/business strategy (2)Industry analysis (using five forces model)
4	Strategy 2	Competitive advantage, Porter’s three generic competitive strategy. SWOT analysis.
5	Marketing 1	Introduction of marketing
6	Marketing 2	Understand various marketing framework such as 3C and 4P.
7	Marketing 3	Application of marketing methodologies to social issues such as Cause-Related Marketing (CRM).
8	Guest speaker session	External speaker will be invited to speak in the class.
9	Financial Statements 1	(1)Understand overall structures of financial statements (2)Understand important functions of income statements
10	Financial Statements 2	Understand important functions of balance sheet
11	Financial Statements 3	Understand the importance of cash flow statement.
12	Innovation 1	Understand definition, basic idea and examples of "innovation".
13	Innovation 2	(1)Have deeper understanding about the concept of innovation. (2)Know difference between sustaining innovation and disruptive innovation in Christensen’s model.
14	ESG investing	(1) What is ESG? (2) What constitutes corporate value (financial, non-financial)? (3) Corporate value and ESG

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep following major economic and business topics reported in media and try to think what strategic actions companies are taking to survive in rapidly changing environment.

【テキスト（教科書）】
Material will be handed out in class.

【参考書】
Additional resources and reference will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Course evaluation will be based on active class participation, students’ presentation and final assignment with the following ratio.
Active class participation 35%
Students presentation 35%
Final Assignment 30%
Please note that students who miss 4 classes or more cannot receive credit

【学生の意見等からの気づき】
Based on students’ feedback, external guest speaker session may be increased.

【その他の重要事項】
In this course lectures and discussions will be conducted in English. This will be discussed at the first class.

INE200HA

Introduction to Energy and Resources

北川　徹哉

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The topics in this course contain the fundamentals on resources and their transformation to energy used for power generations, in which the "sustainability" in the field of the resource and energy development is involved. Students learn about the issues on the demand - supply of energy in Japan as well.

【到達目標】
The points considered as achievements in this course are (i) to acquire statistical skills for the investigation on resource and energy development, (ii) to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view points of thermodynamics and renewables, and (iii) to obtain the knowledge on energy issues in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Lecture and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Natural resources for energy generation.
Week 2	Energy resources (1)	Resource amount estimation and dispute on the estimation, and survey method using logistics curve.
Week 3	Energy resources (2)	People's view on resources and energy, and the sustainability.
Week 4	Unit of energy	Work, heat and power.
Week 5	Basis of energy conversion (1)	Cycle and work in P-V curve.
Week 6	Basis of energy conversion (2)	Entropy, heat in T-S curve and efficiency ratio.
Week 7	Basis of energy conversion (3)	Carnot cycle.
Week 8	Energy conversion in thermal power plant (1)	Characteristics of water and Rankine cycle.
Week 9	Energy conversion in thermal power plant (2)	Gas turbine system and Brayton cycle.
Week 10	Nuclear power (1)	Nuclear reactors, nuclear fuel and nuclear fission.
Week 11	Nuclear power (2)	Control of nuclear reaction and safety of nuclear power plant.
Week 12	Nuclear power (3)	Nuclear fuel cycle and nuclear waste.
Week 13	Wind energy	Structure of wind turbine, characteristics of wind power and prediction of electricity output.
Week 14	Final examination	A written examination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Completing assignments.

【テキスト（教科書）】
None, but handouts will be provided in class.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Course evaluation will be based on Assignments (50%) and the final examination (50%).

【学生の意見等からの気づき】
None.

POL200HA

International Society and Environmental Issues

岡松　暁子

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society and environmental issues. The course provides an introduction to international environmental law referring to precedents by both international and domestic courts.

【到達目標】
Students may learn the legal framework of the international society and environmental issues, and will also learn the legal process of peace making. Students will get how to achieve the peaceful settlement of international environmental disputes as well.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
This course is a lecture-based class. However, the students are encouraged to participate in discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the international law
2	Environmental issues in international law	Facts, Legal approach
3	Development of international environmental law	Historical background
4	Sustainable development	History, concept, theories
5	International system	International law making
6	Procedural obligations, Part 1	Prior notification, consultation, exchange of information
7	Procedural obligations, Part 2	Prior informed consent, environmental impact assessment, monitoring
8	Climate Change	UNFCCC, Paris Agreement
9	Biodiversity	CBD, Nagoya Protocol
10	Ocean environment	UNCLOS
11	Human rights and environmental protection	Environmental rights, indigenous people
12	Armed conflicts and environmental proctection	International humanitarian law
13	Trade and environment	GATT/WTO
14	Conclusion	International environment in the future

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read suggested materials beforehand.

【テキスト（教科書）】
Vaughan Lowe, International Law: A Very Short Introduction, Oxford Univ Press, 2016.

【参考書】
Malcolm Evans ed., Blackstone's International Law Documents, 13th Revised, Oxford University Press, 2017.

【成績評価の方法と基準】
Final paper (50%)
Presentations (30%)
Class participation (20%)
Attendance itself is not evaluated, but is a requirement to submit a final paper.

【学生の意見等からの気づき】
N/A (This is the first year offering the course)

SOC200HA

Research Methods 1

佐伯　英子

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to teach the basics of qualitative methods for social science research. Students will learn how to do a literature review, set up research questions, write fieldnotes, and interview informants. At the end of the course, students will write a proposal for an academic research paper.

【到達目標】
Through this class, students will learn techniques for qualitative research. Although this is an introductory course on methods and students do not conduct actual social research, they will be familiarized with various methods through lectures, in-class exercises, as well as listening to stories by an experienced fieldworker. Students are also expected to demonstrate their comprehension of the materials by writing a research proposal and give an oral presentation on the project at the end of the semester.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Most class periods consist of lectures, exercises, and discussions. In addition to active participation in class, this course expects that each student completes assignments and brings them to class to maximize the learning experiences.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Goals of this course; What is qualitative research?
Week 2	Introduction to qualitative methods	Comparing social research with journalism; Differences between qualitative and quantitative methods
Week 3	Literature review	How to find previous research; How to use academic databases; How to write literature review
Week 4	Research questions	How to come up with research questions; Connections between research questions and methods
Week 5	Semi-structured interviews	Semi-structured interview, its methods and preparation
Week 6	Ethnography	Participant observation and fieldnotes
Week 7	Research proposal	How to write a research proposal; Contents and structure
Week 8	Mid-term presentations	Individual presentations on the ideas for research proposal
Week 9	Learning from an experienced researcher	Guest lecture by an ethnographer
Week 10	Data handling	Analysis and interpretation; Coding
Week 11	Writing a research paper	Process of writing; Structure of a research paper
Week 12	Ethical research	Research ethics surrounding qualitative social research
Week 13	Presentations	Oral presentations of proposed research projects
Week 14	Conclusion	Reflections and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read assigned articles and to complete assignments in a timely manner. In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the H'etudes (https://hcms.hosei.ac.jp/portal). All the assignment must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

【テキスト（教科書）】
Reading materials will be assigned during class.

【参考書】
Babbie, Earl R. 2012. The Practice of Social Research. Cengage Learning.
Emerson, Robert M., Rachel I Fretz, and Linda L. Shaw. 2011. Writing Ethnographic Fieldnotes, Second Edition. University of Chicago Press.
Flick, Uwe. 2014. An Introduction to Qualitative Research. Edition 5. SAGE Publications.

【成績評価の方法と基準】
Class participation 30%; Assignments 40%; Presentation 10%; Research proposal 20%

【学生の意見等からの気づき】
I will further increase the chances in which students can practice interviews and observation both within and outside the class.

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
n/a

OTR200HA

Field Workshop

人間環境学部教員

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
A "field workshop" is designed to explore a particular capacity-building environment about sustainability off-campus. Participating students in a field workshop will visit one of the distinctive facilities in different parts of Japan or elsewhere and meet the people who are engaged in various “real” issues.

【到達目標】
Students will be able to understand better how to relate classroom knowledge and skill to real-life agenda through a field workshop.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP5" is related

【授業の進め方と方法】
Each field workshop consists of both a field trip itself and ex-ante and ex-post on-campus classes held for preparations and appraisals. Since field workshops differ from one another in their content, applicants are advised to find detailed information about each field workshop when announced.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Outlines of a field workshop
2-4	Preparatory classes	Advance knowledge and preparation of the field workshop
5-11	Fieldwork	Minimum requirement of 4 day stays on site. The program’s total trip days may stretch to a week or so depending upon locations of the sites and its content.
12-13	Ex-post classes	Reviews and reflections
14	Report Writing	Writing and submitting an assigned report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Appropriate instruction is provided in orientation, etc.

【テキスト（教科書）】
Same as above.

【参考書】
Same as above.

【成績評価の方法と基準】
Same as above.

【学生の意見等からの気づき】
No comments are to be collected for field workshops.

【その他の重要事項】
Participants have to bear the costs of transportation, lodging, insurance, etc.
Cancelation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.
In addition, this course is to be canceled if there is no participant from SCOPE.

OTR200HA

Co-creative Workshop A Ⅰ

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水 4**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant development challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and Japanese students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together. In this workshop, participants will tackle sustainability issues which involve business and their stakeholders. Through group work, students will come up with viable solution for the sustainability issues.
Examples of the cases discussed in previous workshop include:
A global hamburger chain company faces criticism for destroying the environment in developing countries by unsustainable farming. This is beginning to impact on their hamburger sales. As CSR manager for the company, you need to work with company’s stakeholders to solve this problem. Students were divided into four teams and discussed to come up with viable solution.

【到達目標】
By the end of the semester, students should be able to:
(1) identify and analyze sustainability problems,
(2) interact proactively and collaborate among diverse participants
(3) reach and design collaborative solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP1"and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
Week 2	Basics	Basic knowledge in corporate sustainability
Week 3	Case No.1(1) Issue Introduction	Issue Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
Week 4	Case No.1 (2) Stakeholders	Stakeholder analysis
Week 5	Case No.1 (3) Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 6	Case No.1 (4) Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
Week 7	Case No.1 (5) Business Project Design	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 8	Case No.1 (6) Presentation In class	Presentation of solutions and feedback from participants
Week 9	Case No.2 (1) Issue Introduction	Issue Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
Week 10	Case No.2 (2) Stakeholders	Stakeholder analysis
Week 11	Case No.2 (3) Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 12	Case No.2 (4) Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
Week 13	Case No.2 (5) Business Project Design	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 14	Case No.2 (6) Presentation In class	Presentation of solutions and feedback from participants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in the class.

【参考書】
Additional resources will be introduced in the class,if necessary.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of active class participation (30%), contribution to the group work and presentations (40%), and submit of reflection sheet (30%).
Note that students who miss 4 classes or more cannot receive credit.

【学生の意見等からの気づき】
Multiple student comments for 2017 workshop emphasized the importance of proactive contribution to the group work.
Free riding will not be tolerated so students who plan to take this workshop should make sure they will actively participate in the group work and entire class activities.

【学生が準備すべき機器他】
When group work starts, students often need to use laptop computers.

【その他の重要事項】
(1)As all the classes and group works will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties.
(2)Please note selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students who are interested in taking this workshop should attend the first class.

OTR200HA

Co-creative Workshop A Ⅱ

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期　｜　曜日・時限：月 3

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together. In this class, participants will discuss sustainability issues in the field of “Business” and try to come up with solutions through various group work. Examples of cases students will tackle in the workshop are: (1) achieving local revitalization in rural area by tackling social problems with social business type of approach, and (2) ensuring environmental and social sustainability in global supply chain of companies.

【到達目標】
By the end of the semester, students should be able to:
1) identify and analyze sustainability problems in given cases,
2) interact proactively and collaborate with diverse participants,
3) reach and design collaborative solutions and present in the class,
4) share various solutions in the class for further discussion of the issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP1"and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given. Methods and Schedule will be subject to change based on discussion with participants.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
2	Basics	Basic knowledge in business environment
3	Case No.1(1) Issue	Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
4	Case No.1 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
5	Case No.1 (3)Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
6	Case No.1 (4)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
7	Case No.1 (5)Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
8	Case No.2 (1) Issue	Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
9	Case No.2 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
10	Case No.2 (3)Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
11	Case No.2 (4)Objective Analysis (Project Design)	Analyze the objectives to solve the issue and design the project
12	Case No.2 (5)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
13	Case No.2 (6)Presentation	Presentation of solutions and feedback from participants
14	Summary and reflection	Reflection on interaction and group works for further study

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials, to do necessary web-site research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】
Materials will be distributed in the class.

【参考書】
Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (30%), performance in the group work (30%), presentations and over-all contribution to the class (40%).
Please note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

【学生の意見等からの気づき】
Collecting students'on-going feedback, progress of the class might change.

【学生が準備すべき機器他】
As students will be asked to make discussion summary each week, bringing personal computers are expected.

【その他の重要事項】
(1) Note that selection may be done in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
(2) As all the classes and group works will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties to keep up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

OTR200HA

Co-creative Workshop B Ⅰ

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant development challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and Japanese students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. In this class, participants will discuss the globalized world based on "Utopia for Realists: The Case for a Universal Basic Income, Open Borders, and a 15-Hour Workweek" by
Rutger Bregman (Dutch historian). He argues that the remedies for contemporary global inequality are as appeared in the title of his book. Participants will read and understand his arguments. However, the most important is to critically discuss his arguments through own research in class. Students will collaborate (in pair work and/or group work) to understand problems concerning these issues and propose prescriptions based on academic research.

【到達目標】
By the end of the semester, students are expected to able to:
a.identify and analyze sustainability problems.
b.interact proactively and collaborate among diverse participants.
c.propose prescriptions based on academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP1"and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given. Methods and Schedule will be subject to change based on discussion with participants.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	orientation	ice-breaking and introduction of participants, practice of group work
2	basic income and work style 1	reading the text by Rutger Bregman on basic income, understanding the contents precisely
3	basic income and work style 2	further discussion, using visual materials and reading the text
4	basic income and work style 3	reading on work style that Rutger Bregman argues.
5	basic income and work style 4	preparation for the presentation on the arguments by Rutger Bregman (presentation training)
6	basic income and work style 5	presentation on the viewpoints of Rutger Bregman.
7	open borders 1	reading the text on "open borders"
8	open borders 2	continue reading the text and understanding the auther's veiwpoints
9	open borders 3	presentation guided by the instructor (learning basic skill of presentation)
10	open borders 4	presentation on the idea of "open borders" (learning basic skill of presentation)
11	pair work 1	exploring further information on basic income, work style, and open borders for eliminating global inequality in pair work
12	pair work 2	continue the research and writing paper in pair work for sharing knowledge amongst all the participants

13	group work	preparation for the presentation based on the research conducted in the previous pair work with purpose of considering solutions for global inequality
14	final presentation	presentation of each group. The general theme is "solutions for global inequality"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】
Rutger Bregman, 2016, Utopia for Realists: The Case for a Universal Basic Income, Open Borders, and a 15-Hour Workweek, Correspondent.

【参考書】
Additional resources will be introduced in the class.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (30%), performance in the group works (20%), and presentations(50%).

【学生の意見等からの気づき】
More organized discussion time for pair work and group work.

OTR200HA

Co-creative Workshop B Ⅱ

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Co-existence in the multiethnic society: Southeast Asia. Southeast Asia has an astounding diversity in ethnic, religious and other factors. The area which has welcomed various immigrants from China, India, Middle East, European countries, Japan and other areas in the world, has developed its own logic which is essential for the sustainable coexistence in diversity, circumventing conflicts. This course consists of reading texts on ethnic and religious coexistence in Southeast Asia and discussion so that we all together understand the problems to be solved in current Southeast Asia and consider possible prescriptions to tackle the problems.

【到達目標】
By the end of the semester, students are expected to able to
a. identify and analyze sustainability problems.
b. interact proactively and collaborate among diverse participants.
c. propose prescriptions based on academic research

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP1"and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】
Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentation will be also given. Methods and schedule will be subject to change based on discussion with participants.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	diversity of Southeast Asia 1	introduction of Southeast Asia
2	diversity of Southeast Asia 2	Islam in Southeast Asia
3	reading papers 1	introduction: Islam and cultural diversity in Southeast Asia
4	reading papers 2	the case study of migration from South Thailand to Malaysia
5	reading papers 3	Islamic basic education in Thailand where Muslims are minority
6	reading papers 4	Muslim face-veiling in the Da'wa movement
7	reading papers 5	controversy of universal human rights versus local perceptions and Muslim gender practices in the Philippines
8	reading papers 6	the re-emergence of Islam in the context of Muslim separatism
9	reading papers 7	the case of the Rohingya refugees in Malaysia
10	reasding papers 8	Islamic financial institutions and CSR activity
11	preparation for the presentation 1	students prepare materials for the presentation
12	preparation for the presentation 2	students prepare materials for the presentation
13	presentation 1	presentation and discussion
14	presentation 2, concluding remarks	presentation and discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

【テキスト（教科書）】
Ikuya Tokoro ed. Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia, Research Institute for Languages and Cultures of Asia Africa (ILCAA),Tokyo University of Foreign Studies, 2015. (copies of papers are distributed as needed.)

【参考書】
Additional resources will be introduced in the class.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (30%), performance in the group works (20%), presentations (50%).

【学生の意見等からの気づき】
new class in 2017-18

OTR400HA

SCOPE Seminar

佐伯　英子

カテゴリ：SCOPE　｜　配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Sociology of Gender
This course explores the meanings of sex and gender, and deepens our understanding of how they affect the experiences of people in society.

【到達目標】
Through gender perspectives, this course aims to critically engage with the ways in which masculinity and femininity have been constructed socially, politically, culturally, and historically. By tracing life course of men and women, we will elucidate the significance of gender in our everyday lives. By examining historical changes, international comparisons, and data and cases from Japan, we will aim to cultivate critical perspectives that challenge typically taken-for-granted perceptions about gender.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3","DP4",and "DP5" is related

【授業の進め方と方法】
Each class consists of a short lecture, students' presentations on assigned readings, and discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of the course
Week 2	Socialization in early childhood	How we learn to "do gender"
Week 3	Education	Hidden curriculum in schools
Week 4	Gender and sexuality	How the gender norms and heteronormativity are linked
Week 5	Popular culture and media	Representation of men and women
Week 6	Work	Paid work and unpaid work; segregation and inequality
Week 7	Family	Gendered division of labor in household; Housework and parenting
Week 8	Mid-term presentations	Student presentations on individual project
Week 9	Reproduction	Reproductive health and rights
Week 10	Globalization	Marginalization of women in the global capitalist economy
Week 11	Violence	Myths and reality about intimate and sexual violence
Week 12	Feminism	Challenges to the status quo and movement for gender equality
Week 13	Presentations	Oral presentations of research projects
Week 14	Conclusion	Reflections and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read assigned articles and complete assignments in a timely manner.

【テキスト（教科書）】
Texts will be assigned during the class.

【参考書】
Kimmel, Michael. 2016. The Gendered Society. Cary, NC: Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Participation 30%; presentations on the reading 20%; individual project 50%

【学生の意見等からの気づき】
n/a (This seminar will be offered for the first time)

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the H'etudes (https://hcms.hosei.ac.jp/portal). All the assignment must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

OTR400HA

SCOPE Seminar

佐伯　英子

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Gender and Society
Through gender perspectives, this course aims to critically engage with the ways in which masculinity and femininity have been constructed socially, politically, culturally, and historically. This course explores the meanings of sex and gender, and deepens our understanding of how they affect the experiences of people in society. By examining historical changes and international comparisons, we aim to cultivate critical perspectives that challenge typically taken-for-granted perceptions about gender.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students will be able to:
1. Learn how to examine society through a gender perspective.
2. Decipher the ways in which social institutions and representations of groups and individuals are drawn from socio-cultural assumptions about gender.
3. Understand how social class, race/ethnicity, and sexuality shape gender.
4. Define terms and concepts critical to the field of gender studies.
5. Apply such concepts to their individual experiences and to the broader society.
6. Communicate effectively about gender issues in both writing and speech, drawing upon reading materials, discussions, and lectures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3","DP4",and "DP5" is related

【授業の進め方と方法】
Each class meeting consists of discussions and activities led by discussion leaders (assigned in the beginning of the semester) as well as short lectures by the instructor. As a preparation for the seminar, all students will read selected reading materials each week and write short reflections on the course website (a paragraph or longer). In addition to full class participation, students are required to complete writing assignments and oral presentations associated with individual research project.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of the course; What is gender?; What is femininity and what is masculinity?
Week 2	Representation of gender in media	Student presentations and lecture about how femininity and masculinity are represented in various media
Week 3	Socialization	How we learn to “do gender”; how children learn their expected gender performance through their toys, clothes, and interactions with others
Week 4	Education	Formal and hidden curriculums; history of home economic classes; treatment of girls and boys in school; representations of gender in textbooks; gender dynamics among educators
Week 5	Gender and sexuality	Compulsory heterosexuality; sexualization and objectification of the young female body; physiological making, gender identity, and sexual orientations; LGBTQ experiences
Week 6	Workshop on body image, gender, and representation	Preparation for body image presentations on the Week 7

Week 7	Body image	Student presentations on the analysis of women's magazines; beauty ideals and market; eating disorder
Week 8	Reproductive health and rights	Contraceptives and abortion rights; pronatalism; eugenics and forced sterilization
Week 9	Work	Regular and irregular employment; M-curve; income inequality; ideals and realities on equal opportunity; harassment at workplace; death by overwork; declining birthrate and issues of work
Week 10	Family	Gendered division of labor; paid and unpaid labor; socialization
Week 11	Violence	Sexual crime and violence; intimate violence; violence in public place; attack on victims; rape myths
Week 12	Feminism	Women's political participation in a historical perspective; history of feminism in Japan and abroad; feminism today
Week 13	Student presentations	Oral presentations of individual research project
Week 14	Conclusion	Reflection and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Understanding of materials through discussions is one of the most important aspects of learning experience in this course. For this reason, it is crucial that students come to class on time, having read the assigned materials (and complete writing assignments when specified), and fully prepared to participate.

【テキスト（教科書）】
Texts will be assigned during the class.

【参考書】
Connell. R. W. 2014. Gender: In World Perspective. New York: Polity.
Fujimura-Fanselow, Kumiko (editor). 2011. Transforming Japan: How Feminism and Diversity Are Making a Difference. The Feminist Press at CUNY.
Kimmel, Michael and Amy Aronson (editor). 2000. The Gendered Society Reader. New York: Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Participation in class30%
Writing assignments 20%
Individual research project 50%
(Proposal 5%; Bibliography assignment 5%; 1st draft 15%; Final presentation 10%; Final draft 15%)

【学生の意見等からの気づき】
n/a (This course will be offered for the first time)

【学生が準備すべき機器他】
n/a

【その他の重要事項】
In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the course website, H'etudes (https://hcms.hosei.ac.jp/portal). All the assignments must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

OTR400HA

SCOPE Seminar

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**水 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We human being are facing serious problems such as environmental degradation, poverty and various forms of inequalities. Governments alone cannot solve those problems anymore, therefore there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles to solve those problems. Under such circumstances, increasing numbers of global companies are tackling those problems as their business, together with their stakeholders to accelerate the transition to a more sustainable world. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of global companies on challenges on earth, how they are creating shared values(CSV) with their stakeholders and enhancing their corporate values. We will also make a comparative study of sustainability strategy of US, European, Asian and Japanese companies.

【到達目標】
This course offers students opportunities to have deeper understanding of global sustainability and the role of business. More specifically, we aim at achieving following goals.
(1) Learn global sustainability challenges and how companies are maximizing their competitive advantage by tackling social and environmental problems.
(2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information
(3) Train skill to form our own opinion and effectively communicate to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3","DP4",and "DP5" is related

【授業の進め方と方法】
The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. During the first half of the seminar, to acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review several sustainability reports issued by major global companies, and related literatures/reports. (The summary of those materials will be reported by students). During the second half of the seminar, students will conduct research on a topic of their interest and are expected to share the research findings with other members of the seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading academic literatures 1	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures 2	Short lectures and discussions
4	Reading academic literatures 3	Short lectures and discussions
5	Reading academic literatures 4	Short lectures and discussions
6	Reading academic literatures 5	Short lectures and discussions
7	Reading academic literatures 6	Short lectures and discussions
8	Reading academic literatures 7	Short lectures and discussions
9	Student presentations 1	Student presentation and discussions
10	Student presentations 2	Student presentation and discussions
11	Student presentations 3	Student presentation and discussions
12	Student presentations 4	Student presentation and discussions
13	Student presentations 5	Student presentation and discussions

14	Student presentations 6	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

【テキスト（教科書）】
Materials will be disseminated in class.

【参考書】
References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance and active participation: 50%
Presentations 50%

【学生の意見等からの気づき】
Unlike lecture, seminar can be more flexible therefore student's positive participation and constructive feedback is important to make the seminar more productive. Based on our learning in 2017 seminar, we will be aiming at being more proficient in using theoretical framework to analyze corporate sustainability topic.

【学生が準備すべき機器他】
As students are required to make presentation in the seminar, laptop computer is necessary.

【その他の重要事項】
In this seminar, all discussions will be conducted in English therefore students who are thinking of taking this seminar need to have advanced English communication skills.

OTR400HA

SCOPE Seminar

竹原　正篤

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**水 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skill to analyze the role of business to contribute to global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable development Goals. As governments alone cannot solve those problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of global companies on challenges on earth, how they are creating shared values(CSV) and enhancing their corporate values.

【到達目標】
We aim at achieving following goals:
(1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values(CSV) and enhancing their corporate values.
(2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information
(3) Understand the importance of theory or theoretical framework and actually utilize them to gain insight.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3","DP4",and "DP5" is related

【授業の進め方と方法】
The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. During the first half of the seminar, to acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review several sustainability reports issued by major global companies, and related literatures/reports. (The summary of those materials will be reported by students). During the second half of the seminar, students will conduct research on a topic of their interest and are expected to share the research findings with other members of the seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
	Reading academic literatures 1	Short lectures and discussions
2	Reading academic literatures 2	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures 3	Short lectures and discussions
4	Reading academic literatures 4	Short lectures and discussions
5	Reading academic literatures 5	Short lectures and discussions
6	Reading academic literatures 6	Short lectures and discussions
7	Reading academic literatures 7	Short lectures and discussions
8	Student presentations 1	Student presentation and discussions
9	Student presentations 2	Student presentation and discussions
10	Student presentations 3	Student presentation and discussions
11	Student presentations 4	Student presentation and discussions
12	Student presentations 5	Student presentation and discussions
13	Student presentations 6	Student presentation and discussions
14	Student presentations 7	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

【テキスト（教科書）】
Materials will be disseminated in class.

【参考書】
References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Active participation: 50% Presentations 50%

【学生の意見等からの気づき】
Based on our learning in 2017 fall seminar, we will be aiming at being more proficient in theoretical framework to analyze corporate sustainability topic.

【学生が準備すべき機器他】
As students are required to make presentation in the seminar, laptop computer is necessary.

【その他の重要事項】
In this seminar, all discussions will be conducted in English therefore students who are thinking of taking this seminar need to have advanced English communication skills.
Unlike lecture, seminar can be more flexible therefore student's positive participation and constructive feedback is important to make the seminar more productive.

OTR400HA

SCOPE Seminar

松村　智雄

カテゴリ：SCOPE ｜ 配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Reading "The Rise of China and the Chinese Overseas: a study of Beijing's changing policy in Southeast Asia and Beyond" by Leo Suryadinata (Singapore: ISEAS Publishing, 2017). China and India, the world's most populous countries, have huge overseas populations. Nevertheless, it is the Chinese overseas who have long been a focus of attention owing to the important role they have played, their links to China, and China's policies towards them. Moreover, Beijing's leaders perceive that the Chinese Overseas are crucial for the realization of the "China dream" by "One Belt One Road" strategy. By reading the text and discussion, we try to trace changing Beijing's policy and reactions of Chinese Overseas mainly in Southeast Asia, and understand current situation as interaction between them, not as created solely by China's "one way" policy.

【到達目標】
Students will acquire the basic skill of reading academic papers in English (from easy ones to more complex ones).
Students will understand Beijing's changing policies towards Chinese Overseas mainly after World War II.
Students will understand the outline of history and current situation of Chinese Overseas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
Among diploma policies, "DP3","DP4",and "DP5" is related

【授業の進め方と方法】
Reading the textbook, presentation on the textbook (each chapter) including discussion points, discussion

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Overview of Southeast Asia	Lecture on basic knowledge on Southeast Asia and allotment of each chapter
2	Introduction of Chinese Overseas studies	Lecture on Chinese Overseas studies
3	Reading together: Chapter 1 (introduction): The rise of China and the Chinese Overseas	Reading together and understanding the concept of the book
4	Reading together: Chapter 1 (introduction): The rise of China and the Chinese Overseas	Continuing discussion on key concepts of the book with reading introduction carefully
5	Presentation: Chapter 2: The Chinese Overseas and "the Overseas Chinese Affairs Office" Part 1	Discussing historical background of relationships between China and Chinese Overseas
6	Presentation: Chapter 2: The Chinese Overseas and "the Overseas Chinese Affairs Office" Part 2	Discussing historical background of relationships between China and Chinese Overseas
7	Presentation: Chapter 3: China's foreign policy vis-a-vis the Chinese Overseas	Understanding current situation between Chinese Overseas and Chinese government
8	Chapter 4 (case study): Non-intervention: the 1998 anti-Chinese violence in Indonesia	Understanding Indonesian local political context and the condition of Chinese Indonesians
9	Chapter 5: (case study) direct protection; examples from South Pacific, Middle East and Africa	Understanding situation of Chinese Overseas in various areas, such as South Pacific (Tonga), Middle East and Africa

10	Chapter 6: Effective protection?: the 2014 anti-China/Chinese riots in Vietnam	Understanding the context of riots occurred in 2014 in Vietnam and situation of Chinese Overseas and Beijing's policy
11	Chapter 7: From non-intervention to intervention?: the "nude squat" episode and Chinese ambassador saga in Malaysia	Understanding current situation of Malaysian Chinese and Beijing's policy
12	Chapter 8: To help or not to help?: the Kokang Chinese problems in Myanmar	Understanding situation of Chinese Overseas in Myanmar
13	Chapter 9: The use of Chinese transnationalism, the Sichuan earthquake and the Beijing Olympic games	Understanding characteristics of Chinese policy seen in examples such as Sichuan earthquake and the Beijing Olympic games
14	Chapter 11: "One Belt One Road" strategy and the Chinese Overseas	Understanding Chinese "One Belt One Road" strategy and its current situation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for the presentation, brief research about assignment in the class

【テキスト（教科書）】
Leo Suryadinata, 2017, The Rise of China and the Chinese Overseas: a study of Beijing's changing policy in Southeast Asia and Beyond, Singapore: ISEAS Publishing. (Detailed instruction will be given in the first class.)

【参考書】
Additional resources will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Presentation in class (50%)(each participant will have one or more opportunities to present about one or more chapters of the textbook)
Participation in discussion (50%)

【学生の意見等からの気づき】
More detailed explanation of each topic by the lecturer

SOC200MA

開発教育

福田　紀子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 5**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人権に基づいた社会のより良い変化 (開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観＝大切にしているもの”に近づきたいと思います。今年度は基本的な教育、人権、人道に関する国際文書や、アジアの成人教育の文脈で書かれた『Citizen's Sducation for Good Governace』の内容とアクティビティを取り上げ、Govenrnance と Accountability の２つのキーワードを読み解いていきましょう。市民社会のどんな組織も必要な自分たちのコミュニティへの関与や公正な運営のありかたについて考えることになります。
また、成人教育のファシリテーター向けガイドブックのアクティビティ進行を通して、アクションラーニングや参加型ワークショップと言われる学習手法についての意義や進行者の態度• 留意点を学んでいきます。

【到達目標】
１）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワーメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
２）人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governace と Accountability) に必要な思考と行動のスキルを 自分の生き方くらし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
３）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
キャリアデザイン学部ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連。人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会と、３名程度のチームで参加型学習のファシリテーターを実践する機会もあります。
授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）で進めていきます。その中でのディスカッションは日本語で行います。アクティビティやテキスト他の情報から何を学んだのかを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights ~Declaration of the Conference -selfesteem — The role of the facilitator	〈この授業の進め方〉 教育• 学習• 人権に関わる文書や文言を通してこの授業で捉えたい概念を概観します. 参加型学習のファシリテーターとしてのポイント①
2	-Governance Theme ① Power & Governance -Conflict Resolution “Peace”&“Violence”	人権を考える上で、“マイノリティ”に対する配慮がなぜ必要なのかを考えます。 また、課題解決過程に必ずおこる「対立」に対応する力をつけるため、対立の分析の視点、“平和”と“暴力”枠組を知ります。
3	-Governance Theme ② Gender Equity	ジェンダーの認識と実態の基ジェンダーについての自分の認識と日本のデータにあたり、変化の要因を探ります。 ＊翻訳• 進行の担当分担

4	Humanitarian Response & Rights base approach with the diversity -The Code of Conduct for the International Red Cross & Red Crescent Movement & Non-Governmental Organization(NGOs) in Disaster Relief - If you would be a member of the evacuation center	人道支援の国際基準で求められる行動綱領と避難所シミュレーションから、人間の尊厳を大切し、公正に行うとは何かを理解します。
5	-Sphere Standard & Core Humanitarian Standard（CHS）	人道支援の国際基準として世界で活用されているスフィア基準と特に組織のアカウンタビリティをしめした CHS を概観し、公正さについて考えます。
6	Citizen's Education for Good Governance ① Basic Concepts~Governance	日本語になりにくい Governace の意味を考えていきます。
7	Citizen's Education for Good Governance ② Basic Concepts ~What dose Civil Society	"市民社会" とは何か、意義と役割に着いて考えます。
8	Citizen's Education for Good Governance ③ Basic Concepts~Learning about Democracu	民主主義、あるいはその過程について
9	Citizen's Education for Good Governance ③−２ Basic Concepts ~Learning about Democracy	民主主義の基本的な柱を理解します。参加型学習のファシリテーターとしてのポイント②
10	Citizen's Education for Good Governance ④ Basic Concepts ~Citizenship	"住民" というだけでは表現出来ない "市民""市民性" について考えます。
11	Citizen's Education for Good Governance ⑤ Basic Concepts ~ Rights Based Approach	国際協力の分野では標準化している "権利に基づくアプローチ" について知ります。
12	Citizen's Education for Good Governance ⑥ Basic Concepts ~ Local Governments and Governace	社会と個人の暮らしとを繋ぐもっとも近い自治体行政とガバナンスについて考えます
13	Citizen's Education for Good Governance ⑦ Basic Concepts ~ Traditional and Modern Form of Governace	"ガバナンス" の変化を捉え、なぜこれを考える事が必要なのかをふりかえります。
14	Governace & Accountability	人道支援団体の国際基準が示す "アカウンタビリティ" を知り、ガバナンスを考えた意味を再考します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳• 整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。

【テキスト（教科書）】
特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】
The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response
http://www.spherehandbook.org
Core Humanitarian Standard/ Guidance Notes and Indicators
http://www.corehumanitarianstandard.org/files/files/CHS-Guidance-Notes-and-Indicators.pdf
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
『ワールドスタディーズー教え方学び方ハンドブック』『人権教育ファシリテーターハンドブック（基礎編• 発展編• 実践編）』『参加型で考える１２のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート• チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】
平常点と各回授業のふりかえりシート３５％
個人／グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）３５％、レポート３０％

【学生の意見等からの気づき】
参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行• 手法• 思考の枠組• 問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。
ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】
国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準をはじめ、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。ガバナンス、市民社会等、慣れないコンセプトかもしれませんが、国際的な合意の文脈を理解する為の一つのステップとして学んでいきましょう。
また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担したアクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【授業中に求められる学習活動について】
A,B,C,D,E,F,G

EDU200MA

文化経営論

荒川　裕子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 4**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21 世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常の生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】
文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のＮＰＯなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
キャリアデザイン学部ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連。人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの文化政策の歩みをたどる。
第 3 回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第 4 回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探る。
第 5 回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第 6 回	文化と法	「文化芸術振興基本法」をはじめ、文化を支える法的基盤について学ぶ。
第 7 回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第 8 回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第 9 回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第 10 回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第 11 回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第 12 回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 13 回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】
授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）： 50 %
期末試験（論述式）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
知的発見が非常に多い授業との評価をいただいていますが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思います。

【その他の重要事項】
春学期開講の「アート・マネジメント論（社会とアートⅠ）」も併せて履修することが望ましい。

【授業中に求められる学習活動】
A, B, C, D, E, F, G, H,